

圖書
F131.3
x x k

日本政治經濟研究

許興凱著

1244893

百城書局印行

新刊

滿蒙と

許興凱著 (松浦珪三譯)

四六版
五〇〇頁

定價金壹圓五拾錢

(送料)

日本の滿蒙

本書は中華民國人が、滿蒙の日本の支那労働者を使役し、學校的勢力を占める。而して支那及結果を捲き起すか、本書は一目

日本資本主義は今明かに行詰り出来るものであつて、それは本書に就て見たなら数字的によく説明される處である。その外、その國は如何に競はんとするか、彼の大衆は如何に日本大衆と提携せんとするか、本書は其の意味に於て滿蒙の分析であると同時に、日本への抗議書でもある。

日本帝國主義の消長を占する根本的研究

天津市立圖書館



04587

552.31/0872

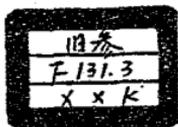
登記總號
書碼
捐贈者
寄存者
登記民國

22年3月31日

M. 20 2140

白揚社

東京總店
市本町
區神田
美田二
土五(25)
代四二
二〇〇
番八二
一〇番



118
又

日本政治經濟研究

| |
|-------|
| 天津圖書館 |
| 藏書圖記 |

日本政治經濟研究目錄

第一章 日本資本主義之史的發展

第一節 日本資本主義的三大階段

(一) 封建制度的崩潰及商業資本發生

(二) 產業革命及輕工業發生

(三) 重工業發生與工業資本完成

(四) 大集中傾向與金融資本的發生

第二節 日本資本主義的發展過程

(一) 生產的增進

(二) 交通的發達

(A) 鐵路

(B) 海運

(三) 外國貿易的發達



| | |
|--------------------------------|----|
| (四)公司企業的發展..... | 三九 |
| (五)金融資本的發展..... | 四三 |
| (A)銀行..... | 四三 |
| (B)貨幣制度的發展..... | 四五 |
| 第一表—明治維新以後日本銀行公司鐵路輪船發達表..... | 四 |
| 第二表—明治維新以後日本農工商及水陸運輸公司發達表..... | 六 |
| 第三表—中日戰爭前後日本製絲業使用動力類別表..... | 七 |
| 第四表—中日戰爭前後日本全部產業情形比較表..... | 八 |
| 第五表—中日戰爭前後日本紡織業發達比重表..... | 八 |
| 第六表—中日戰後日本棉物輸出入比較表..... | 九 |
| 第七表—歐戰前日本工業使用能力指數表..... | 一〇 |
| 第八表—中日和日俄兩戰爭前後日本經濟發達表..... | 一一 |
| 第九表—歐戰以前日本貿易額表..... | 一二 |
| 第十表—中日日俄輸出品數別表..... | 一四 |

| | |
|--------------------------------|----|
| 第十一表—歐戰期間日本對外貿易發達表..... | 一六 |
| 第十二表—歐戰期間日本公司數目及資本額發達表..... | 一六 |
| 第十三表—歐戰期間日本工廠及工人發達表..... | 一七 |
| 第十四表—歐戰期間日本礦夫人數發達表..... | 一七 |
| 第十五表—歐戰前後日本百萬以上大企業變化表..... | 一九 |
| 第十六表—以資本金爲標準歐戰前後日本銀行數目比率表..... | 二〇 |
| 第十七表—民國十五年日本五大銀行存款比較表..... | 二二 |
| 第十八表—日本五大銀行存款與全國存款比較表..... | 二二 |
| 第十九表—日本代表的商品生產增加額表..... | 二四 |
| 第二十表—日本每一段的米收穫量增加表..... | 二七 |
| 第二十表—棉絲工人一人生產量增加表..... | 二八 |
| 第二十一表—鐵路開通哩數增加表..... | 三〇 |
| 第二十二表—日本各種船舶增長數量表..... | 三一 |
| 第二十三表—日本船隻及外國船運載日本貿易貨物額表..... | 三三 |

| | |
|--------------------------|----|
| 第廿四表——日本對外貿易發達表 | 三五 |
| 第廿五表——日本各種產業的公司數及實收資本金數表 | 三九 |
| 第廿六表——日本股份公司表 | 四一 |
| 第廿七表——日本銀行數及其資力表 | 四四 |
| 第廿八表——日本紙幣銀行券流通額表 | 四五 |
| 第廿九表——日本正貨額表 | 五一 |
| 第二章 日本經濟的橫截面 | 五三 |
| 第一節 日本的產業狀況 | 五三 |
| (一) 日本產業的總觀 | 五三 |
| (二) 礦業的生產和投資 | 五七 |
| (A) 生產 | 五七 |
| (B) 投資 | 五八 |
| (三) 工業的生產及投資 | 五九 |
| (A) 生產 | 五九 |

| | |
|----------------------|----|
| 第二節 日本的貿易 | 六三 |
| (一)日本內地的貿易 | 六三 |
| (A)貿易總額 | 六三 |
| (B)買出品及輸入品 | 六七 |
| (C)輸出入的對手國 | 六八 |
| (二)日本殖民地的貿易 | 八二 |
| (A)朝鮮的貿易 | 八二 |
| (B)台灣的貿易 | 八五 |
| 第三十表—日本各種產業生產額表 | 五三 |
| 第卅一表—日本各種產業的公司投資額表 | 五四 |
| 第卅二表—日本鐵產額表 | 五七 |
| 第卅三表—日本礦業各部門投資額及工人數表 | 五八 |
| 第卅四表—日本工場生產額表 | 五九 |

| | |
|---------------------------------|----|
| 第卅五表——日本各種工礦業公司實收資本金表..... | 六一 |
| 第卅六表——日本各種工礦業公司實收資本金百分比變化表..... | 六三 |
| 第卅七表——日本對外貿易額實質增加表..... | 六四 |
| 第卅八表——日本內地貿易額表..... | 六五 |
| 第卅九表——日本輸出入品大分類表..... | 六八 |
| 第四十表——日本重要輸出品對手國別表..... | 六九 |
| 第四一表——日本重要輸入品對手國別表..... | 七一 |
| 第四二表——日本貿易對手國重要輸出品表..... | 七四 |
| 第四三表——日本貿易對手國重要輸入品表..... | 七六 |
| 第四三表——各國對日本內地貿易額增長表..... | 七九 |
| 第四四表——朝鮮貿易額表..... | 八一 |
| 第四五表——朝鮮貿易內容表..... | 八四 |
| 第四六表——台灣貿易額表..... | 八六 |
| 第四七表——台灣貿易內容表..... | 八七 |

第三章 日本的金融資本與國家財政.....八九

第一節 日本金融資本的各方面.....八九

(一) 日本金融資本的縱橫觀.....八九

(二) 公債及外國資本流入.....九四

第二節 日本財政的各方面.....九九

(一) 日本財政之史的觀察.....九九

(二) 日本的中央歲出.....一〇六

(三) 日本的中央歲入.....一一二

(四) 日本的特別會計.....一一七

(五) 國債的內容.....一二三

第四八表 日本各種金融機關資金表.....九〇

第四九表 日本各金融機關存貯資本增加表.....九一

第五十表 日本公債償額表.....九四

第五一表 日本外國資本流入額表.....九六

| | |
|----------------------------|-----|
| 第五二表—日本外資輸入公司社債表..... | 九七 |
| 第五三表—日本中央及地方財政膨脹表..... | 一〇一 |
| 第五四表—日本昭和二年度預算單純計算表..... | 一〇六 |
| 第五五表—日本普通會計各省歲出額表..... | 一〇七 |
| 第五六表—日本普通會計主要歲入來源金額表..... | 一一三 |
| 第五七表—日本特別會計歲入歲出表..... | 一一八 |
| 第五九表—日本預算單純計算表..... | 一二一 |
| 第六十表—按起債目的區分日本國債額表..... | 一二四 |
| 第六一表—按起債目的區分日本國債額百分比表..... | 一二五 |
| 第四章 大集中傾向及財閥的形成..... | 一二七 |
| 第一節 歐戰後日本產業的大集中..... | 一二七 |
| (一)企業集中的一般觀察..... | 一二七 |

| | |
|------------------------|-----|
| (一)礦業的集中 | 一三六 |
| (二)工業及運輸業的集中 | 一三九 |
| 第二節 金融業的集中 | 一四四 |
| (一)戰後日本銀行的合併運動 | 一四四 |
| (二)資本的集中 | 一四六 |
| (三)存款的集中 | 一五〇 |
| (四)信託保險業的集中 | 一五三 |
| 第三節 財閥的形成及其內容 | 一五五 |
| (一)金融業的支配產業 | 一五五 |
| (二)日本財閥的內容 | 一五七 |
| (三)日本財閥的實力 | 一六三 |
| 第六二表——按規模大小分別日本工場數目表 | 一二七 |
| 第六三表——按照工場規模以分別日本工人數目表 | 一二九 |
| 第六四表——按照資本金額分別日本公司數目表 | 一三〇 |

| | |
|---------------------------|-----|
| 第六五表—按照公司規模分別日本實收資本金出資額表 | 一三三 |
| 第六六表—日本煤油生產集中額表 | 一三六 |
| 第六七表—日本煤生產額集中表 | 一三七 |
| 第六八表—日本內地銅生產額集中表 | 一三八 |
| 第六九表—日本棉紗紡織業集中表 | 一三九 |
| 第七〇表—日本電氣事業集中表 | 一四〇 |
| 第七一表—日本強流電機製造集中表 | 一四一 |
| 第七二表—日本製糖事業集中表 | 一四二 |
| 第七三表—日本萍灰生產集中表 | 一四三 |
| 第七四表—日本過磷酸肥料生產集中表 | 一四三 |
| 第七五表—日本造紙業集中表 | 一四三 |
| 第七六表—日本海軍業集中表 | 一四四 |
| 第七七表—歐戰以來日本銀行合同及合併及其減少行數表 | 一四五 |
| 第七八表—日本普通銀行各種資本金別行數表 | 一四七 |

| | |
|------------------------------|------------|
| 第七九表—日本普通銀行資本金大小別資本金額表..... | 一四九 |
| 第八十表—日本十二大銀行存款集中表..... | 一五〇 |
| 第八一表—日本五大銀行存款及貸出集中表..... | 一五二 |
| 第八二表—日本信託事業的大公司集中表..... | 一五四 |
| 第八三表—日本生命保險事業的大公司集中表..... | 一五六 |
| 第八四表—日本金融資本家所有的有價證券表..... | 一五七 |
| 第八五表—支配重工業的日本財閥表..... | 一五九 |
| 第八六表—日本的二等財閥分析表..... | 一六四 |
| 第八七表—日本財閥支配資本額表..... | 一六四 |
| 第八八表—日本大財閥資本力對全國資本百分比表..... | 一六四 |
| 第五章 日本的政治制度 | 一六五 |
| 第一節 日本政治制度之史的發展 | 一六五 |
| (一)從族長政治到封建政治..... | 一六五 |
| (二)明治維新以後..... | 一六九 |

第二節 日本現行的政治制度.....一七四

(一)天皇及其詢證輔弼機關.....一七四

(二)內閣以外的獨立的「軍務政府」.....一七八

(三)所謂憲法政中心帝國議會.....一八〇

(四)最高國務執行機關的「內閣」.....一八五

(五)名爲獨立的司法機關.....一八一

第八九表——日本歷代內閣表.....一七一

第六章 日本的政黨.....一八七

第一節 日本資產階級政黨之史的發展.....一八七

(一)政黨的萌芽及政友會前身.....一八七

(二)伊藤博文組黨及政友會成立.....一八九

(三)桂太郎組黨及民政黨的前身.....一九四

(四)政友會的衰落與田中義一組黨.....一九六

(五)立憲民政黨的成立和政友本黨的消滅.....一九八

| | |
|---------------------------|-----|
| (六) 田中死後的政友會..... | 二〇〇 |
| (七) 參政黨分合變化圖解..... | 二〇三 |
| 第二節 日本資產階級政黨的財閥背景..... | 二〇五 |
| (一) 三井三菱的對立和衝突..... | 二〇五 |
| (二) 日本兩大政黨的財閥背景..... | 二〇九 |
| (三) 日本政治的司令台..... | 二一九 |
| 第三節 日本兩大資產階級政黨的組織和主張..... | 二一九 |
| (一) 立憲政友會的組織政綱與政策..... | 二一九 |
| (二) 立憲民政兩黨的政綱和政策..... | 二二五 |
| 第四節 日本資產階級兩大政黨的對華政策..... | 二二九 |
| (一) 民政黨的對華自由主義論..... | 二二九 |
| (二) 政友會的對華強硬論..... | 二三四 |
| 第五節 日本資產階級的小政黨..... | 二三九 |
| (一) 國民同志會的內容..... | 二三九 |

| | |
|--------------------|-----|
| (二)革新黨的內容 | 二四三 |
| 第六節 日本無產政黨的發生和變化 | 二四五 |
| (一)普通與無產階級政治鬥爭 | 二四五 |
| (二)日本無產階級的民衆背景 | 二四八 |
| (三)日本無產階級職線的分野 | 二五六 |
| (四)日本無產政黨的發生及早年變化 | 二六〇 |
| (五)九一八以前的日本無產政黨 | 二六三 |
| 第七節 日本無產政黨的組織和政綱政策 | 二六九 |
| (一)日本無產政黨的組織大槪 | 二六九 |
| (二)社會民衆黨的黨綱及政策 | 二七一 |
| 第八節 日本各政黨的政實力 | 二七一 |
| (一)從選舉方面看各黨消長 | 二七七 |
| (二)無產政黨的選舉戰 | 二八三 |
| (三)從握政權上看各黨消長 | 二八七 |

| | |
|-----------------------------|-----|
| 第九十表——日本三井三菱兩大財閥的事業對立表····· | 二〇五 |
| 第九一表——日本兩大政黨の黨員職業表····· | 二一一 |
| 第九二表——日本兩大政黨の財閥背景比較表····· | 二一二 |
| 第九三表——日本財閥的主要人物表····· | 二二四 |
| 第九四表——日本三井三菱兩大財閥主要人物表····· | 二二六 |
| 第九五表——日本政友會組織表····· | 二二九 |
| 第九六表——近年來日本國債發行償還額表····· | 二二九 |
| 第九七表——日本各種產業別人口分配表····· | 二四九 |
| 第九八表——日本近代產業勞動者數目表····· | 二五〇 |
| 第九九表——日本各種產業中有組織工人數目表····· | 二五二 |
| 第一〇〇表——近年來日本勞動組合發達表····· | 二五三 |
| 第一〇一表——近年來日本各種產業的組織工人表····· | 二五四 |
| 第一〇二表——近年來日本參加農民組合人數表····· | 二五五 |
| 第一〇三表——日本各派工會表····· | 二五七 |

| | |
|-----------------------|-----|
| 第一〇四表—日本各派議會表 | 二六〇 |
| 第一〇五表—日本每次選舉各政黨勢力表 | 二七八 |
| 第一〇六表—日本各次選舉各黨詳情表 | 二八〇 |
| 第一〇七表—日本無產政黨第一次選舉成績表 | 二八三 |
| 第一〇八表—日本第十六次選舉無產政黨勢力表 | 二八四 |
| 第一〇九表—日本第十七次選舉無產政黨勢力表 | 二八六 |
| 第一一〇表—日本政黨與政府關係表 | 二八七 |
| 第七章 日本帝國主義 | 三〇七 |
| 第一節 日本資本主義的特徵 | 三〇七 |
| (一)資本主義發生的物質條件 | 三〇七 |
| (二)日本原料品的極度貧乏 | 三一六 |
| (三)日本農村經濟的衰落與食糧問題 | 三三一 |
| 第二節 所謂溫室資本主義與帝國主義 | 三三六 |
| (一)帝國主義的本質 | 三三六 |

| | |
|----------------------------|-----|
| (二)所謂溫室資本主義..... | 三三九 |
| (A)官營保護政策..... | 三四〇 |
| (B)關稅保護政策..... | 三四九 |
| (三)日本帝國主義的特色..... | 三五四 |
| (A)南進及北進政策..... | 三五七 |
| (B)發展的三大時期..... | 三〇八 |
| 第一一表——產業革命後英國煤產額表..... | 三〇九 |
| 第一二表——一八八七年英國煤消費分配比率表..... | 三一〇 |
| 第一三表——一九〇〇年英國煤消費分配比率表..... | 三一〇 |
| 第一四表——產業革命前後英國鐵生產額表..... | 三一〇 |
| 第一五表——產業革命前後英國鐵生產量表..... | 三一〇 |
| 第一六表——世界各國鐵的埋藏量表..... | 三一六 |
| 第一七表——世界各國煤的埋藏量表..... | 三一七 |
| 第一八表——日本煤的需給表..... | 三一九 |

| | |
|--------------------------|-----|
| 第一一九表—日本鐵鑛需給表..... | 三二〇 |
| 第一二〇表—日本的銑鐵需給表..... | 三二〇 |
| 第一二二表—日本鋼的需給表..... | 三二一 |
| 第一二二表—日本鐵鋼輸入額表..... | 三二二 |
| 第一二三表—各國煤油埋藏量表..... | 三二三 |
| 第一二四表—日本原油需給表..... | 三二四 |
| 第一二五表—日本精油需給表..... | 三二五 |
| 第一二六表—日本煤油用途表..... | 三二五 |
| 第一二七表—日本棉花消費額表..... | 三二六 |
| 第一二八表—日本木材的需給表..... | 三二七 |
| 第一二九表—日本銅及其他卑金屬輸出入表..... | 三二八 |
| 第一三〇表—日本銅及其他卑金屬生產量表..... | 三二九 |
| 第一三一表—日本內地耕地面積表..... | 三三一 |
| 第一三二表—日本內地各種旱田分類表..... | 三三一 |

| | |
|--------------------------------|-----|
| 第一三三表——日本內地農業生產額表..... | 三三三 |
| 第一三四表——日本工農兩大生產部門生產額比較表..... | 三三三 |
| 第一三五表——日本各種職業本業人口變化表..... | 三三四 |
| 第一三六表——日本工廠及鑛山勞働者增加表..... | 三三五 |
| 第一三七表——日本農戶消長表..... | 三三五 |
| 第一三八表——日本的官業及其資本額表..... | 三四六 |
| 第一三九表——日本各種事業投資中官業資本的百分比表..... | 三四七 |
| 第一四〇表——日本內地輸入品內容變化表..... | 三五一 |
| 第一四一表——日本內地輸出內容變化表..... | 三五三 |
| 第八章 日本資本主義經濟的沒落..... | 三五九 |
| 第一節 日本資本主義的先天病及戰後的不景氣..... | 三五九 |
| (一) 恐慌而又恐慌的原因..... | 三五九 |
| (二) 戰後三大打擊..... | 三六一 |
| (A) 一般的觀察..... | 三六一 |

| | |
|-------------------------|------|
| (B) 數目字上表現..... | 三六三 |
| 第二節 世界經濟恐慌下的日本經濟恐慌..... | 三六七 |
| (一) 恐慌的一般形勢..... | 三六七 |
| (A) 物價迷落..... | 三六九 |
| (B) 股票慘落..... | 三六九 |
| (C) 投資不振..... | 三七一 |
| (D) 貿易減退..... | 三七一 |
| (E) 匯兌起伏不定..... | 三七一 |
| (F) 正貨減少..... | 四七四 |
| (C) 工人失業..... | 三二七五 |
| (二) 恐慌的現階段..... | 三二七五 |
| (A) 觀察的幾種指標..... | 三二七六 |
| (B) 物價騰後又落..... | 三二八〇 |
| (C) 產業的假興盛..... | 三二八一 |

| | |
|--------------------------|-----|
| (D) 空前的匯兌慘落..... | 三八一 |
| (E) 失業仍有加無已..... | 三八三 |
| 第三節 日本的農業恐慌..... | 三八四 |
| (一) 農業生產力的萎縮..... | 三八五 |
| (二) 農產物大跌價..... | 三八七 |
| (三) 農家收入減少..... | 三八八 |
| (四) 農民負擔加重及其貧困..... | 三九一 |
| (五) 佃戶風潮的激烈化..... | 三九二 |
| 第四節 九一八事變以後日本財政的艱難..... | 三九三 |
| (一) 因恐慌而歲入激減..... | 三九六 |
| (二) 因出兵而歲出大增..... | 四〇一 |
| (三) 大藏公債以濟燃眉..... | 四〇一 |
| 第一四二表——戰後日本工業生產額指數表..... | 三六三 |
| 第一四三表——戰後日本貿易趨勢表..... | 三六四 |

| | |
|--------------------------------|-----|
| 第一四四表—東京批發物價指數表..... | 三六五 |
| 第一四五表—最近日本物價推移表..... | 三六八 |
| 第一四六表—最近日本股票價格推移表..... | 三六九 |
| 第一四七表—最近日本實收及計畫資本額推移表..... | 三七二 |
| 第一四八表—最近日本對外貿易額表..... | 三七二 |
| 第一四九表—最近日金對外匯兌行市推移表..... | 三七三 |
| 第一五〇表—最近日本銀行兌換券發行額及正貨準備額表..... | 三七四 |
| 第一五一表—最近日本工場勞働者雇傭指數推移表..... | 三七五 |
| 第一五二表—本年日本的生產及交易量指數表..... | 三七七 |
| 第一五三表—本年日本的生產及交易量指數表..... | 三八〇 |
| 第一五四表—日本重要產業公司重要成績表..... | 三八一 |
| 第一五五表—自日本採用金本位以來日米滙兌表..... | 三八二 |
| 第一五六表—昭和四年五月以前日本失業者比較表..... | 三八四 |
| 第一五七表—近三年來日本耕地面積表..... | 三八五 |

| | | | |
|-------------------|---|-------------------|-----|
| 第一五八表 | ↓ | 近四年來日本米價跌落表 | 三八六 |
| 第一五九表 | ↓ | 最近二十年來日本商價比較表 | 三八七 |
| 第一六〇表 | ↓ | 最近六年日本農產物總價額表 | 三八八 |
| 第一六一表 | ↓ | 日本農民收入及負擔表 | 三八九 |
| 第一六二表 | ↓ | 日本農民負擔內容分析表 | 三九〇 |
| 第一六三表 | ↓ | 日本國稅及地方稅變化表 | 三九二 |
| 第一六四表 | ↓ | 最近兩年六月日本佃戶風潮概況表 | 三九三 |
| 第一六五表 | ↓ | 昭和七年度日本歲入預算表 | 三九三 |
| 第一六六表 | ↓ | 東北及上海事變表日本軍費表 | 三九七 |
| 第一六七表 | ↓ | 按昭用途區分日本最近三年歲出表 | 三九八 |
| 第一六八表 | ↓ | 昭和七年度日本實行預算省別歲出額表 | 三九九 |
| 第一六九表 | ↓ | 昭和七年度日本預定發行公債額表 | 四〇一 |
| 第九章 日本法西斯運動及最近政變 | | | 四〇二 |
| 第一節 日本資本主義政治的沒落過程 | | | 四〇四 |

| | |
|----------------------|-----|
| (一) 日本法西斯之一般的輪廓····· | 四〇四 |
| (二) 既成政黨的分裂····· | 四〇七 |
| (A) 安達脫離民政黨····· | 四〇七 |
| (B) 政友會亂七八糟····· | 四〇九 |
| (三) 無產政黨陣容破壞····· | 四一一 |
| (A) 社會民衆黨分裂····· | 四一一 |
| (B) 勞農大衆黨亦波及····· | 四一二 |
| (四) 無產政黨的會同····· | 四二二 |
| (五) 革新黨解散····· | 四二五 |
| 第二節 法西斯政黨及團體····· | 四二六 |
| (一) 大日本生產黨····· | 四二六 |
| (A) 先行的日本國民黨等····· | 四二六 |
| (B) 歷史及內容一般····· | 四二六 |
| (二) 日本國民社會黨準備會····· | 四二〇 |

| | |
|-----------------------|-----|
| (A) 先行的愛國勤勞黨 | 四二〇 |
| (B) 歷史及內容一般 | 四二一 |
| (三) 日本國家社會黨 | 四二三 |
| (四) 在鄉軍人會 | 四二三 |
| (五) 法西斯的地盤 | 四二八 |
| 第三節 大白色恐怖及其政變 | 四四〇 |
| (一) 恐怖團的橫行 | 四四〇 |
| (二) 恐怖中大選舉 | 四四二 |
| (三) 齋藤舉國一致的內閣 | 四四四 |
| (四) 恐怖的一年 | 四四六 |
| 第一七〇表—日本第三次普選各黨派成績表 | 四四二 |
| 第一七一表—日本第三次普選無產階級黨戰績表 | 四四三 |
| 第一七二表—齋藤內閣分析表 | 四四四 |
| 附錄一 日本度量衡 | 一 |

| | | |
|-----|--------------|---|
| 附錄二 | 西洋度量衡 | 五 |
| 附錄三 | 近百年來中西日年代對照表 | 九 |

日本政治經濟研究

許興凱著

第一章 日本資本主義之史的發展

第一節 日本資本主義的三大階級

(一) 封建制度的崩潰及商業資本發生

——自明治維新到中日戰爭——

西方資本帝國主義勢力的侵入，崩潰了中國的封建制度，同時崩潰了日本的封建制度。日本在明治維新以前所處的地位和中國差不許多。我們祇要看在 一八五八年時日本幕府與美國在波利所率 (Perry) 軍艦壓迫之下，所訂四十一條商約的內容就可知道了。該商約的大要如下：

一，美國得派總領事駐江戶，領事駐各通商口岸，均存旅行日本國任何地方之自由。

二，美商在通商口岸貿易者不受日本官吏之干涉。

三，日本遇有與歐洲列強交涉困難時，得請美總統出而調停。

四，日本政府需用火器軍艦時，可向美國購買。

五，開六處港灣為通商口岸；美國人民居留此口岸內者，有信教之自由，並得建設

教堂。

六，關稅協定，除酒類等以外，出入口貨，一概值百抽五。

七，領事裁判權。

八，最惠國條款。

同樣的西方資本帝國主義的刺激和壓迫，在中國造成綿延不絕的內亂和革命，在日本促進其本國資本主義的發展。這是為何？

第一，因為日本國家封建勢力不似中國的封建勢力，歷史常久，根基穩固，而藩閥與幕府間的爭鬪，促成國家的統一。

第二，日本國土面積較小，經過一兩次內戰之後，很容易的成為統一國家，所以勤王倒幕之後，不久國內便可以大定。

第三，日本國內太貧乏，可以使西方資本帝國主義垂涎的野心也較小，所以帝國主義束縛並擾亂日本的努力也較少，因而日本資本主義得以完成。

第四，因為日本的維新運動較早。明治立憲遠在中國戊戌政變前十四年之久，那時西方資本帝國主義到達東方的力量尚不太大，而西方資本主義發展的階段，也還不太高，所以日本容易兼程追及。

第五，因為日本的福小貧乏，人人皆有危亡之懼，實際生活的逼迫和需要，尤其維新以後的武士等，促進物質的進展，開拓資本主義的大道。

第六，因為日本沒有固有的文明，很容易吸收，學習，并採用西洋的科學和工業技術，不似中國已有文化深豐富，不容易完全拋棄了，去學他人。

日本因為「較弱」，「較小」，「較窮」，「較早」，「較急」的緣故，所以能比中國走快一步，粉碎了封建制度，而踏上資本主義的途徑。明治維新以後，政權由幕府還給天皇，天皇同時宣布立憲招集國會（西歷一八八一年，明治十四年光緒七年），封建制度終止，統一的自由王國成立，資本主義發生一切障礙完全掃除，因而資本主義遂開始邁進。不過在這時候，日本資本主義僅僅是些須商業資本而已。

日本商業資本的萌芽遠在明治元年（西歷一八六八年同治七年），兵革擾亂之際，即設立商法司。明治二年改爲通商司。在司之下組織通商會社和滙兌會社，同時設立運輸會社及開商會社。明治五年十一月制定國立銀行條例。明治十三年（西歷一八八〇年光緒六年）橫濱正金銀行成立。明治十五年日本銀行成立。至於鐵路則自明治五年（西歷一八七二年，同治十一年）已築東京橫濱間的十八英里鐵路。到了明治二十六年（西歷一八九三年，光緒十九年）已延長到二千餘英里。輪船海運方面開始于明治四年，即有日本國郵便蒸汽船會社的成立。到了明治十八年，日本郵船會社已有資本一千一百萬日元。這一切種種都是商業資本發達的先行和指針。現在我們看看明治維新以後日本交換部門的發達情形如何：

第一表——明治維新以後日本銀行，公司，鐵路，輪船發達表

| 年次 | 銀行的發達 | 公司的發達 | 以外鐵道的發達 | 輪船的發達 |
|----|-------|-------|---------|-------|
| 明治 | 實收資本 | 人民存款 | 公司數 | 資本總額 |
| 10 | 千圓 | 千圓 | 社 | 千圓 |
| | 三・六六 | | | |
| | | | 官設 | 私設 |
| | | | 噸數 | 噸數 |
| | | | | |
| | | | 四・〇九 | |

日本政報 經費研究

| 年份 | 總額 | 普通銀行 | 貯蓄銀行 | 合計 |
|-----|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 一三年 | 2,063,000,000 | 1,120,000,000 | 1,600,000,000 | 3,320,000,000 |
| 一四年 | 2,580,000,000 | 1,260,000,000 | 1,750,000,000 | 3,410,000,000 |
| 一五年 | 2,680,000,000 | 1,290,000,000 | 1,800,000,000 | 3,490,000,000 |
| 一六年 | 2,830,000,000 | 1,340,000,000 | 1,900,000,000 | 3,640,000,000 |
| 一七年 | 3,030,000,000 | 1,420,000,000 | 2,000,000,000 | 3,820,000,000 |
| 一八年 | 3,210,000,000 | 1,500,000,000 | 2,100,000,000 | 4,000,000,000 |
| 一九年 | 3,380,000,000 | 1,580,000,000 | 2,200,000,000 | 4,180,000,000 |
| 二〇年 | 3,640,000,000 | 1,680,000,000 | 2,300,000,000 | 4,380,000,000 |
| 二一年 | 3,850,000,000 | 1,780,000,000 | 2,400,000,000 | 4,580,000,000 |
| 二二年 | 4,150,000,000 | 1,900,000,000 | 2,500,000,000 | 4,800,000,000 |
| 二三年 | 4,450,000,000 | 2,050,000,000 | 2,600,000,000 | 5,050,000,000 |
| 二四年 | 4,750,000,000 | 2,200,000,000 | 2,700,000,000 | 5,300,000,000 |
| 二五年 | 5,050,000,000 | 2,350,000,000 | 2,800,000,000 | 5,550,000,000 |
| 二六年 | 5,350,000,000 | 2,500,000,000 | 2,900,000,000 | 5,800,000,000 |

(備考) 銀行係國立銀行，私立銀行，普通銀行，貯蓄銀行的合計。

至於工業方面已經萌芽，不過仍甚貧弱，不過是一些家內工業，這家內工業是由封建

的手工業轉化而來，尙沒能達到機器化的工場制工業程度，在目前中國的狀況差不多。直到中日甲午戰爭為止。我們再看看明治維新以後，日本農工商及水陸運輸事全部發達情形如何：

第二表—明治維新以後日本農工商及水陸運輸公司發達表

| 年次 | 農業 | | 工業 | | 商業 | | 水陸運輸 | |
|-------|-----|-------|------|-------|-----|-------|------|-------|
| | 公司數 | 資本金總額 | 公司數 | 資本金總額 | 公司數 | 資本金總額 | 公司數 | 資本金總額 |
| 明治十七年 | 三社 | 一・三萬 | 三社 | 五・〇萬 | 三社 | 八・九萬 | 二〇四社 | 六・九萬 |
| 十八年 | 七八 | 一・〇萬 | 四六 | 廿・七萬 | 六五 | 一五・六萬 | 二〇 | 三・五萬 |
| 二十年 | 一四 | 二・九萬 | 一三一 | 三〇・〇萬 | 三四 | 一九・三萬 | 一五 | 三・六萬 |
| 二十一年 | 二〇四 | 五・五萬 | 一・四四 | 五・〇萬 | 五五 | 三・四萬 | 一五〇 | 五・三萬 |
| 二十二年 | 三〇〇 | 八・一六 | 三・三三 | 七・〇一萬 | 一〇九 | 五・〇萬 | 二九 | 六・六萬 |
| 二十三年 | 四三 | 八・三萬 | 三・二四 | 七・五五萬 | 一〇一 | 五・〇萬 | 三三 | 七・〇萬 |
| 二十四年 | 五九 | 六・三萬 | 二・四〇 | 七・五三 | 一〇五 | 五・二萬 | 三三 | 七・〇萬 |

| | | | | | | | |
|------|------|------|-------|------|-------|------|------|
| 二十五年 | 三、零一 | 四、四七 | 二、七〇六 | 一〇、六 | 一〇、三三 | 三、九 | 四、四〇 |
| 二十六年 | 一、七 | 二、四三 | 二、五八 | 六、二 | 八、八 | 三、七四 | 一、五 |

(一) 產業革命及輕工業發生

— 自中日戰爭到日俄戰爭 —

日本資本主義的發展永遠立腳在中國的犧牲上，自開始便是如此。中日甲午之戰後，日本得了三億七千餘萬元的巨額賠款，作為資本；同時，因為國際地位提高，又從歐美各國借得資本，遂使用機器，開設工場，完成了產業革命。下表是製絲業在中日戰爭前後使用機器數目的比較：

第三表—中日戰爭前後日本製絲業使用動力類別表

| 動 力 別 | 明 治 二 十 六 年 | 明 治 二 十 九 年 |
|---------------|-------------|-------------|
| 人 力 使 用 工 場 | 一、五三九 | 九九四 |
| 水 力 使 用 工 場 | 一、一五一 | 一、〇七七 |
| 蒸 汽 力 使 用 工 場 | 五二三 | 八二九 |
| 合 計 | 三、二〇三 | 二、九〇〇 |

就全部產業來看，中日戰後，日本也都有長足的進步，看下表：

第四表—中日戰爭前後日本全部產業情形比較表

明治二十六年六月

明治二十九年六月

股分公司

一・三三案

一・四七二案

同資本

二〇六・二五・七五九日金元

一六六・六三・〇五二日金元

銀行

一三三案

一・二七二案

同資本

三三・五五・一〇〇日金元

三三・四三・〇四二日金元

私設鐵路

三六案

四三案

同資本

三三・三三・〇〇〇日金元

三三・二六・〇〇〇日金元

日本資本主義之發展

不過截至日俄戰爭為止，日本的工業仍在輕工業的階段，以棉紗紡織為主。日本的紡織業，自明治十三年輸入紡織機器，設立官營模範工場起始，明治十五年以後次第發展，明治十八年以後大大進步，中日戰爭大為飛躍，直到日俄戰前，發達極盛。看下表：

第五表—中日戰爭前後日本紡織業發達比重表

年

次

工場數

職工數

平均一日

運輸

棉紗生產額

明治十五年

一三

——

二六・〇〇四

——

二十年

一五

一一・〇〇〇

四〇・三〇〇

一・一五八・〇〇〇

二十五年

一五

三三・三三三

三六・三三四

九・五七・〇〇〇

三十年

一五

四一・六三三

五六・三六六

三・三三・三〇〇

三十五年

一〇

七二・六六六

一・三〇一・二二六

三・〇八六・九〇〇

(註)日本一貫約當中國百兩

因之，日本棉紗棉布成爲輸出大宗，輸入日減，貿易遂順調。看下表

第六表——中日戰後日本棉物輸出入比較表

| 年 | 次 | 棉紗輸出額 | 同輸入額 | 棉布輸出額 | 同輸入額 |
|--------|---|--------|-------|-------|-------|
| 明治二十七年 | | 五五五 | 七・五七五 | 一・六三一 | 六・五五九 |
| 三十二年 | | 二六・五三二 | 四・五三三 | 三・五九〇 | 八・五九六 |
| 三十六年 | | 三三・四三九 | 五・六 | 一・七一一 | 七・四三三 |

(註)上表單位日金千元。

日本在這期間(自中日戰爭至日俄戰爭)除了半製品的生絲外，棉物成爲重要輸出品。

輕工業基礎的紡織業是這期間日本資本主義的代表生產業。

(三)重工業發生與工業資本完成

——自日俄戰爭到歐洲大戰——

日本的產業革命可以分為兩段：第一段，我們可以稱之為曼徹斯特（Manchester）式的，乃是以輕工業作中心的蒸汽力產業革命。第二段，我們可以稱之為伯明罕（Birmingham）式的，乃是以重工業作中心的電力產業革命。

日本資本主義之史的發展

在明治三十七年（西曆一九〇四年，清光緒三十年）日俄戰爭以後，日本得東三省南部的富源，南滿州鐵路株式會社成立，同時重工業基礎的煤鐵都有了供給。雖然日本從帝俄不曾得到一文錢的賠款，但在原料方面的收穫不少。因此，日本資本主義便作一大躍進——中日戰爭以後的第二次躍進——進到重工業階段，而工業資本遂完成。我們看看日本在這期間使用原動力及煤的消費量猛烈增加可以知道日本工業是什麼情況：

第七表——歐戰前日本工業使用能力指數表

| | | | | |
|---------|------|-----|------|------|
| 明治十九年 | 二十二年 | 三十年 | 三十五年 | 大正元年 |
| 三 | 五 | 100 | 114 | 126 |
| 人力（職工數） | | | | |

原動力
煤的消費量

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|

自明治三十五年到大正元年一段，原動力增進額遠過煤的消費量增進額，這是因為電力運用日多的緣故。其中水力電的動力化尤有影響至於人力使用的減少，表示出需要勞動力較多的輕工業發展時期已經過去，而資本之有機的構成漸漸高度化了。

從明治二十七年到明治四十五年也就是中日和日俄兩大戰爭以後，日本的資本主義，無論在任何方面都有猛烈的發達。日本資本主義的基礎遂完成。我們現在可以看看在這期間，日本經濟的全部情形：

第八表——中日和日俄兩戰爭前後日本經濟發達表

| | 明治一〇年 | 明治二〇年 | 明治二五年 | 明治三〇年 | 明治四〇年 | 明治四五年 |
|----------|---------|-------|---------|-------|-------|--------|
| 銅生產額 | 千噸 六·五三 | 一六·四〇 | 三三·四五 | 三三·六二 | 四〇·〇四 | 一〇四·〇〇 |
| 煤生產額 | 千噸 五·九 | 一·七四六 | 三·七六 | 五·六六 | 二二·九六 | 一九·六〇 |
| 使用原動力的工場 | — | — | × 一·〇九 | 二·九〇 | 五·〇〇 | 六·七〇 |
| 工人數(男女計) | — | — | × 三六·三〇 | 四六·〇九 | 六三·五三 | 六三·四四 |

日本資本主義之發展

| | | | | | | | |
|--------------|----|------|------|-------|-------|--------|---------|
| 普通銀行實收資本及公積金 | 千圓 | 三・二五 | 六・四三 | 六・三三 | 一七・三三 | 三〇・四九 | 四一・二四 |
| 民間存款 | 千圓 | — | 三・〇六 | 四・二五 | 三〇・三〇 | 三〇・〇〇 | 一・三六・四四 |
| 公司實收資本 | 千圓 | — | — | — | 三三・三三 | 三三・三三 | 一・七六・六〇 |
| 公司數 | 社 | — | — | — | 六・〇七 | 一〇・六七 | 三・六七 |
| 鐵道開辦哩數 | 哩 | 室 | 四三 | 一・六〇 | 二・五〇 | 四・九六 | 五・九六 |
| 輪船噸數 | 噸 | 〇・三〇 | 三・三三 | 一〇・〇〇 | 四六・五九 | 一〇二・六六 | 一四〇・三九 |

(備考)明治二十五年國內帶×的係二十七年的數目。

在這期間內，顯著的進步，就是貿易。看下表：

| | | | | |
|------|-------|-------|-------|--------------|
| 年次 | 輸出 | 輸入 | 合計 | 出入超過(△)表示出超) |
| 明治元年 | 一五・五三 | 一〇・五三 | 二六・〇七 | △四・六〇 |
| 同四年 | 一七・五九 | 三・五九 | 二一・一八 | 三・九九 |
| 同九年 | 三三・七一 | 三・三四 | 三六・〇五 | △三・七四 |
| 同十二年 | 三六・三五 | 三・三五 | 四〇・七〇 | △三・三五 |

日本政治經濟研究

| | | | | | |
|----|------|------|------|--------|--------|
| 同 | 十四年 | 三〇・五 | 三三・五 | 三三・一〇五 | 三三 |
| 同 | 十八年 | 三〇・二 | 三三・五 | 三三・〇 | △三・〇〇〇 |
| 同 | 二十四年 | 三〇・三 | 三三・五 | 三三・〇 | △二・〇〇〇 |
| 同 | 二十六年 | 三〇・七 | 三三・五 | 三三・〇 | △一・〇〇〇 |
| 同 | 三十一年 | 三〇・三 | 三三・五 | 三三・〇 | 三・〇〇〇 |
| 同 | 三十六年 | 三〇・〇 | 三三・五 | 三三・〇 | 三・〇〇〇 |
| 同 | 三十八年 | 三〇・三 | 三三・五 | 三三・〇 | 三・〇〇〇 |
| 同 | 四十三年 | 三〇・三 | 三三・五 | 三三・〇 | 三・〇〇〇 |
| 大正 | 三年 | 三〇・一 | 三三・五 | 三三・〇 | 四・〇〇〇 |

除了明治二十六年到三十一年中日戰爭前後的貿易額，大躍進以外，明治三十八年到四十年日俄戰爭以後的貿易額躍進力很大。不過，截至歐戰以前，日本的貿易始終是入超，這可以證明日本資本主義還不曾發達到頂點。

我們再一檢查日本，在這期間內輸出品之性質，更可以明白知道日本經濟之情形。由明治二十二年到大正二年，穀物等農產品的輸出由百分之二十二有奇減到百分之十有奇，

日本資本主義之發展史

減了一倍以上，而工業品消費品由百分之十一有奇增增到百分之二十有奇，幾增到一倍主要輸出的仍然是生絲等物，由百分之三十有奇增到百分之四十一有奇，幾佔全輸出額之半。這是製絲機械化的結果。今將這期間內日本輸出品列表如次：

第十表——中日俄輸出品類別表

| | 明治三二—二六平均 | | 明治三三—三六平均 | | 明治四二—大正二平均 | |
|-------------|-----------|-------|-----------|-------|------------|-------|
| | 金額 | 百分比 | 金額 | 百分比 | 金額 | 百分比 |
| 穀物，穀，澱粉等 | 千圓 五·三七 | 六·七% | 千圓 七·四三 | 九·九% | 千圓 七·三三 | 一·四% |
| 飲食物及烟草 | 二·五二 | 二·五% | 三·〇三 | 三·三% | 八·〇〇 | 六·三% |
| 食料 小計 | 一七·〇六 | 三三·一% | 一九·一五 | 三三·一% | 二五·二四 | 一〇·七% |
| 絲，繩，線，索及其材料 | 五·九五 | 九·一% | 五·九〇 | 一〇·一% | 一〇·六一 | 四·九% |
| 其他原料 | 一〇·七六 | 二〇·三% | 三·九一 | 六·八% | 四·三三 | 一·九% |
| 原料 小計 | 四·六三 | 五·四% | 一三·五三 | 二四·〇% | 一五·三〇 | 五·五% |
| 布帛及其製品 | 六·五八 | 八·五% | 三·七五 | 六·八% | 六·三四 | 二·四% |
| 衣類及其附屬品 | — | — | 二·四四 | 四·〇% | 一七·九〇 | 三·六% |

| | | | | | | |
|---------|--------|-------|---------|-------|---------|-------|
| 其他消費品 | 11.333 | 3.0 | 5.045 | 5.11 | 11.091 | 5.4 |
| 消費品小計 | 12.622 | 11.5 | 13.431 | 12.1 | 100.333 | 110.4 |
| 鐵金屬及其製品 | 5.045 | 4.1 | 14.21 | 6.11 | 19.326 | 5.9 |
| 鐘表學術器械等 | 4.5 | 0.1 | 1.024 | 0.4 | 4.333 | 0.9 |
| 生產用品小計 | 5.546 | 4.3 | 15.235 | 6.6 | 23.661 | 6.8 |
| 雜品 | 5.333 | 6.6 | 12.633 | 6.11 | 13.555 | 9.0 |
| 總計 | 16.868 | 100.0 | 100.668 | 100.0 | 100.000 | 100.0 |

(四)大集中傾向與金融資本的發生

——自歐戰發生直到現在——

歐戰發生以後，歐洲的商品不能到東方，日本遂獨佔中國邊境市場。同時，日本對於交戰國還可以作一部份軍需品的生產（大部份的生產在美國手裏），並且進一步進佔南洋和南美各地的市場，因此，日本資本家大獲其戰時利潤，而日本資本主義遂達於全盛，所以自大正三年到大正八年的五年間是日本資本主義黃金時代。這時代的情況可以由下面幾個統計表看出來：

日本資本主義之發展史

| 年次 | 輸 出 | 入 入 | 入 超 | 出 超 |
|------|-----------|-----------|---------|-----------|
| 大正三年 | 55,101 | 55,336 | 23,535 | 31,566 |
| 同 四年 | 56,336 | 55,286 | 1,050 | 1,050 |
| 同 五年 | 113,896 | 75,846 | 38,050 | 38,050 |
| 同 六年 | 140,005 | 1,056,611 | 916,606 | 916,606 |
| 同 七年 | 1,862,108 | 1,666,183 | 195,925 | 195,925 |
| 同 八年 | 2,066,633 | 2,366,866 | 300,233 | 300,233 |
| 大正 | 次 | 公 司 | 額 | 資本額(單位千元) |
| 同 三年 | | | 56,666 | 2,066,666 |
| 同 四年 | | | 57,106 | 2,156,666 |
| 同 五年 | | | 62,336 | 2,246,006 |
| 同 六年 | | | 74,666 | 2,336,000 |

第十二表—歐戰期間日本對外國貿易發達表(單位千元)

第十一表—歐戰期間日本對外國貿易發達表(單位千元)

同 同

七年
八年

三・三六
三・二六〇

四・七七・〇六七
五・九七・〇九七

(備考)右表不包括設在殖民地之公司及外國設立之公司。

第十三表—歐戰期間日本工廠及工人發達表

次

工廠數

工人數

三年

一七・〇三

五二・〇三三

四年

一六・八〇九

五三・〇七〇

五年

一九・三九九

一・二七・〇四〇

六年

二〇・九三三

一・三三・〇六一

七年

三・五六一

一・五〇・七六四

八年

三・八三

一・四七・〇六一

第十四表—歐戰期間日本礦夫人數發達表

年

次

礦夫人數

大正

三年

二七〇・五八〇

| | | |
|---|----|---------|
| 同 | 四年 | 二九〇・〇八四 |
| 同 | 五年 | 三五二・五二一 |
| 同 | 六年 | 四三三・八四三 |
| 同 | 七年 | 四六四・七二七 |
| 同 | 八年 | 四六五・一五八 |

貿易的由入超到出超，以及其他各項數目字上的進步都可以表示出來日本資本主義的空前猛進來。礦夫人數的增加尤其是重工業發展的指針。

日本資本主義達於全盛之後，便有兩種現象發生，一個是集形勢，一個銀行勢力膨漲。這兩種現象使日本資本主義進到金融資本的又一階段。分述如下：

(一)集中形勢 自歐戰以來，日本經濟最顯著的現象便是「集中」。一切工商業都由小規模的生產機關集聚為大規模生產機關，因之托辣斯(Trust)及卡特爾(Cartel)勃興。在日本全國，擁有百萬元以上資本的大公司數目，歐戰前的民國三年不過佔百分之二有奇，到歐戰後的民國三年增到百分之八，資本金由百分之六十二有奇增到百分之八十一有奇。又如經營紡織業的公司，全日本共有一百九十七個，每年產額達六萬萬四千萬元，其

中十個大公司的產額佔了一半。茲將日本百萬元以上的大公司全部數目，資本金，工場數，及所用工人與全國總數相比較，所佔百分比列表如次：

第十五表——歐戰前後日本百萬元以上大企業變化表。

| | 大正三年 | 大正十三年 |
|-----|-------|-------|
| 公司數 | 二·一% | 八·〇% |
| 資本金 | 六二·七% | 八一·一% |
| 工場數 | 四·三% | 五·〇% |
| 勞動者 | 四九·一% | 五六·〇% |

同時，各種相同企業又組織托拉斯，或卡特爾，互相作成價格協定，銷量協定以及生產協定等，集中的範圍愈廣而勢力愈見浩大。日本最大的卡特爾為「石炭鐵業聯合會」，包括有四十個煤礦公司。此外尚有「電氣銅共販所」，「製銅總聯合會」，「統銀共同聯合會」，「日本水泥聯合會」，「糖業聯合會」，「製紙卡特爾」，「羊毛工業會」，「大日本紡織聯合會」等等。

所以日本資本主義的經濟最近呈大規模的集中形態，而全國經濟遂完全操縱於幾個大

財閥手裏。不僅是小資產階級日見沒落。墮入到無產階級的隊伍裏，就是中等以下的大資產階級，也因為競爭不過，而破產，而消滅。全國只見少數——大財閥，把全國經濟命脈，握在手裏。日本已經步美國の後塵。日本沒有什麼煤油大王，汽車大王，或鋼鐵大王。但是日本有同類的「三菱王」及「三井王」他們的勢力不下於煤油大王，汽車大王，或鋼鐵大王。

(2) 銀行勢力澎漲

日本在歐戰以來銀行業大為發達而握有經濟界實力。同時各主要的銀行也集中起來，數目日少而勢力日見增大日本全國的銀行數，在民國三年有二千一百五十五所，到民國十五年減到一千六百七十六所，到民國十六年僅僅剩了一千四百九十九所，可是各銀行的資本金便增加太多了。民國元年，資本金在百萬元以上的銀行數目不過作日本全國銀行總數的百分之六，民國十四年，增加到百分之三十二。又一個銀行的平均資本金，在民國元年僅僅是三十七萬元略強而已，民國十五年達二百萬元之多。茲將民國元年及民國十六年資本金在一百萬元以上，及五十萬元以下的日本銀行在日本全國銀行數目中所佔的百分比列表如次：

第十六表——以資本金為標準歐戰前後日本銀行數目比率表

資本金(萬元)

| | 大正元年 | 大正十四年 |
|-------|------|-------|
| 五〇以下 | 八三% | 四〇% |
| 一〇〇以下 | 一〇% | 二七% |
| 一〇〇以上 | 六% | 三二% |

由上表很清楚的可以看出來，日本的小銀行日見減少而大銀行日見增加。這是民國十四年以前的事。

民國十六年日本發生大經濟恐慌。恐慌後，日本的中等以下銀行急沒有勢力，而全國的存款都聚積到五個大銀行裏。這五個大銀行中尤以三菱三井爲佔多數。民國十六年末，三井銀行的存款到五萬萬七千一百餘萬元，比同年的上期增加三千一百餘萬元，比民國十五年增加一萬萬一千五百餘萬元。三菱銀行，民國十六年末的存款到四萬萬七千餘萬元比同年的上期增加一千四百餘萬元，比民國十五年增加一萬萬四千一百餘萬元。三井，三菱。第一，步田，住友五個大銀行在民國十六年的存款總額到二十八萬萬二千七百餘萬元，比同年的上期增加一萬萬一千一百餘萬元，比民國十五年增加六萬萬零四百餘萬元之多。茲將民國十五年日本五大銀行存款額及增加情形列表如次：

第十七表—民國十五年日本五大銀行存款比較表(單位千元)

| 銀行名 | 昭和二年末 | 比同年上期增 | 比前年上期增 |
|-----|-----------|--------|--------|
| 三井 | 五〇一・六三六 | 三三・〇〇六 | 二五・六六三 |
| 三菱 | 四〇〇・六六六 | 一四・一三三 | 一四・七三三 |
| 第一 | 五〇〇・六六六 | 一〇・〇六六 | 三〇・〇三三 |
| 安田 | 七三三・〇〇六 | 一七・一三三 | 五・五〇〇 |
| 住友 | 五〇〇・六六六 | 三六・六六六 | 一七・一三三 |
| 合計 | 二、六六六・六六六 | 一一・三三七 | 六〇・七三三 |

日本這五大銀行的存款，在全國存款中佔有多少比率呢？在民國十五年，五大銀行的存款額佔日本全國存款的百分之三十五以上，超過三分之一，民國十六年一躍而至百分之四十一以上，幾乎到了一半。茲將民國十五年日本五大銀行存款額與全國存款的額比較列表如次：

第十八表—日本五大銀行存款與全國存款比較表(單位百萬元)

存款總額 五大銀行存款額 百分比

| | | | |
|------|------|------|-------|
| 昭和元年 | 六·三六 | 二·四〇 | 三三·六% |
| 昭和二年 | 六·五三 | 二·七六 | 四·二六% |

由此可見，日本金融勢力完全操在五大金融資本家的手中，而以三菱三井為魁首。這是要想明瞭日本政治經濟的最要之點。

日本政治經濟研究

日本的銀行，發展到了現在，已經由銀行部門侵入到產業部門。據民國十五年十月的調查，日本全國銀行借出的金額共計六十一萬萬元，所收買的有價證券達二十萬萬元。在有價證券之中，公司的社債，股票約有八萬萬元，對於日本全國公司社債總額二十八萬萬元中，佔百分之二六·七。日本現在一切產業的經理部都有金融資本家的代表支配和監督着。這銀行的金融資本家兼理工商業，因而擁有經濟全部利權的便成爲「財閥」。

日本到了財閥支配下的金融資本的階段，日本資本主義便達于頂點。這是歐戰期間的事情。

第二節 日本資本主義的發展過程

(一) 生產的增進

「五種代表商品的生產量」

現在再從橫的區分上，就各種事業。看看日本資本主義的發展過程如何。首先從生產方面看起。

日本的生產最重要的有五種，所謂代表的商品，即米，生絲，棉紗，煤，金，是也。自日本資本主義發生以來直到現在，以明治二十年作為一百，米的增加，約為一半，和明治十年相比，約在二倍以上。生絲的增加在十倍以上，煤和金的增加幾乎到了二十倍。棉紗的增加到了四百倍。日本資本主義發展的快法，於此可見。但是，除了生絲以外，自大正五六年（民國五六年）以來已停滯不進。日本資本主義似乎已入老境了。茲將日本代表的商品生產增加額列表如次：

第十九表 日本代表的商品生產增加額表（上）

| 年次 | 米 | | 生絲 | | 棉 | | 紗 | |
|------|---------|-------|---------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 收穫量(千石) | 指數 | 生產量(千貫) | 指數 | 出來量(捆) | 指數 | 數 | 指數 |
| 明治一〇 | 三・五五 | 一〇〇 | | | | | | |
| 一五 | 四〇・六三 | 一〇〇・〇 | 四・九 | 一〇〇・〇 | | | | |
| 二〇 | 五五・五五 | 一〇〇・〇 | 四・四 | 一〇〇・〇 | 六・一 | 一〇〇・〇 | | |

日本資本主義之發展史

日 本 政 治 經 濟 研 究

| 年 代 | 總 額 | 食 料 | 衣 服 | 住 居 | 醫 藥 | 其 他 |
|------|-------|-------|------|------|-----|-------|
| 大正 一 | 103.5 | 33.3 | 15.5 | 3.6 | 1.1 | 48.0 |
| 三 | 142.5 | 42.1 | 19.5 | 4.2 | 1.4 | 55.3 |
| 五 | 186.1 | 51.7 | 24.8 | 5.1 | 1.7 | 63.8 |
| 七 | 230.3 | 61.7 | 29.9 | 6.1 | 2.0 | 70.6 |
| 九 | 276.0 | 71.0 | 35.0 | 7.1 | 2.3 | 78.6 |
| 一 | 323.3 | 80.3 | 40.3 | 8.1 | 2.6 | 86.0 |
| 一 | 370.3 | 89.7 | 45.7 | 9.1 | 2.9 | 93.3 |
| 三 | 417.0 | 99.0 | 51.0 | 10.1 | 3.2 | 100.7 |
| 昭和一 | 464.0 | 108.0 | 56.0 | 11.1 | 3.5 | 108.4 |
| 三 | 511.0 | 117.0 | 61.0 | 12.1 | 3.8 | 116.1 |

第十九表 日本代表的商品生産増加額表(下)

日本資本主義の發展

| 年次 | 煤 | 金 | 煤 | 金 |
|------|--------|--------|-------|--------|
| | 産額(公斤) | 指 | 産額(貫) | 指 |
| 明治一〇 | 見左 | 三六・五 | 三 | 六九 |
| 一五 | 五五 | 三三・二 | 五 | 五七・七 |
| 二〇 | 一・四五 | 100・0 | 三三 | 100・0 |
| 二五 | 三・二五 | 六二・五 | 一七 | 116・五 |
| 三〇 | 五・二六 | 三六・一 | 三六 | 177・三 |
| 三五 | 九・〇三 | 五五・六 | 五五 | 三三二・二 |
| 四〇 | 三三・〇四 | 九〇・六 | 七四 | 五五七・八 |
| 大正 | | | | |
| 一 | 15・〇五 | 1・二四・七 | 1・三三 | 九七・七 |
| 三 | 33・二五 | 1・五三・八 | 1・六二 | 1・三三・六 |
| 五 | 31・九三 | 1・三三・六 | 1・〇九 | 1・五〇・〇 |
| 七 | 16・〇四 | 1・五〇・三 | 二・〇四 | 1・四九・六 |
| 九 | 15・16 | 1・六四・六 | 三・〇四 | 1・四九・六 |

我們再看看日本生產能率的發展過程如何。在農業方面，一段的收穫量現在比明治三十五年到三十九年，約增加四分之一。在工業方面，一個紡織勞動者的生產量現在比明治三十五年到三十九年，約增三分之一以上。茲將日本農工業生產能率的發展列表如次：

(註)每段合中國一·六一四一畝

第二十表—日本每一段的米收穫量增加表

| 年 次 | 一年平均 | | 同上指數 |
|---------|----------|-----------|-------|
| | 米收穫量(石) | 耕種面積(段) | |
| 明治二五—一九 | 三·四四·〇〇〇 | 二·〇三·五五·六 | 一·三三四 |
| 二〇—二四 | 三·五五·五〇〇 | 二·三三·六六·六 | 一·四三三 |
| 二五—二九 | 三·三三·三五六 | 二·五五·五五·〇 | 一·四三〇 |

| | | | | |
|---|-------|--------|-------|--------|
| 一 | 三·四〇一 | 一·五六·五 | 二·〇〇一 | 一·四九·五 |
| 二 | 四·〇一一 | 一·五〇·五 | 二·〇一一 | 一·四〇·五 |
| 三 | 三·〇三一 | 一·五〇·四 | 二·四〇三 | 一·五五·三 |
| 四 | 三·六〇〇 | 一·五五·二 | 二·三一一 | 一·五五·五 |

日本資本主義の歴史

| 營業年 期 | 第二十表 棉絲工人一人生産量増加表 | | | |
|----------|-------------------|-----------------|----------------------|--------|
| | 一營業期平均 出產量(千貫) | 一日平均 從業工人(人) | 一營業期平均 出工人一名產量(貫) | 同上指數 |
| 明治一五—一九 | | | | |
| 二〇—二四 | | | | |
| 二五—二九 | | | | |
| 三〇—三四 | | | | |
| 昭和 二—一三 | 三, 533. 26 | 三, 125. 20 | 1. 133 | 136. 0 |
| 大正 一—一五 | 四, 111. 15 | 三, 846. 40 | 1. 181 | 130. 1 |
| 六—一〇 | 四, 549. 25 | 三, 618. 46 | 1. 235 | 131. 7 |
| 四〇—四四 | 五, 853. 65 | 三, 024. 26 | 1. 639 | 127. 3 |
| 三五—三九 | 五, 616. 23 | 二, 848. 66 | 1. 773 | 123. 3 |
| 三〇—三四 | 四, 651. 35 | 二, 648. 41 | 1. 746 | 120. 0 |

| | | | | |
|----------|---------|--------|------|-------|
| 三五—三九 | 三〇·三五·六 | 五·五·六 | 三〇·三 | 100·0 |
| 四〇—四四 | 三三·一五·〇 | 六五·七·六 | 三〇·三 | 100·六 |
| 大正 一一—一五 | 四〇·八〇·二 | 一一·三·〇 | 三〇·三 | 111·1 |
| 六一—〇 | 五〇·六〇·七 | 一一·三·一 | 三〇·三 | 111·0 |
| 一一—一五 | 五〇·五三·六 | 一六·五·三 | 三〇·三 | 116·五 |
| 昭和 二一—三 | 五三·一四·四 | 1六·〇〇六 | 三〇·三 | 116·1 |

(二)交通的發達

—海陸兩方均有進步—

(A)鐵路

交通發達是經濟發達的先行。交通可以分鐵路和海運兩種。

就鐵路而論，日本自明治五年起到現在，由不足十八哩發達到一萬一千七百二十三哩有奇。日本鐵路分國有私有兩種。私有鐵路最初很發達。明治十六年僅僅有六十三哩，明治二十年發達到三百哩以上。到明治二十五年私有鐵路發達到一千三百二十餘哩，和國有的五百五十餘哩相比，多到二倍以上。明治三十八年，私有鐵路發達到三千二百八十餘哩

。不料想明治三十九年，日本政府勵行鐵路政策，對於私有鐵路大事收買，私有鐵路事業遂大跌停而國有鐵路激增。直到現在，國有鐵路約等於私有鐵路的二倍以上。日本鐵路的發展過程如下表：

第二十一表——鐵路開通哩數增加表(單位哩)

| 年 度 | 總 哩 數 | 國 有 | 私 有 | 每百方里所有鐵路 |
|------|--------|--------|---------|----------|
| 明治 五 | 一七·九 | 一七·九 | — | 0·08 |
| 一〇 | 六四·六 | 六四·六 | — | 0·11 |
| 一五 | 一三三·三 | 一三三·三 | — | 0·24 |
| 二〇 | 二四三·三 | 三四·五 | 三三·六 | 三·四 |
| 二五 | 一、六九·九 | 五五·九 | 一、三三·〇 | 七·六 |
| 三〇 | 二、五〇·〇 | 六六·五 | 二、一六·六 | 一·六 |
| 三五 | 四、三三·六 | 一三三·六 | 三、〇一〇·〇 | 一三·六 |
| 三八 | 四、九三·〇 | 一、〇九·九 | 三、八三三·三 | 一七·〇 |
| 三九 | 四、〇三·九 | 三、〇三·四 | 一、三三·五 | 一七·〇 |

日本資本主義之發展

日本郵船經濟研究

| 大正 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 |
|------|--------|--------|--------|------|
| 一 | 五・六六・七 | 五・三三・七 | 五・〇〇・七 | 三・〇〇 |
| 三 | 五・〇五・七 | 五・六六・七 | 一・六六・七 | 六・一〇 |
| 五 | 五・三二・〇 | 五・六六・七 | 一・六六・七 | 三・〇〇 |
| 七 | 六・〇四・七 | 六・〇三・七 | 一・九〇・七 | 三・〇〇 |
| 九 | 六・四三・七 | 六・〇三・七 | 一・九〇・七 | 三・〇〇 |
| 一一 | 六・三三・七 | 六・〇三・七 | 三・〇〇・七 | 三・〇〇 |
| 一三 | 七・〇四・七 | 六・五九・七 | 二・六六・七 | 四・一〇 |
| 昭和 一 | 七・〇〇・七 | 六・五九・七 | 三・〇〇・七 | 四・一〇 |
| 二 | 七・三三・七 | 六・三三・七 | 三・〇〇・七 | 四・一〇 |

(B)海運

因爲日本政府的極力獎勵和補助，日本海運業發達的很快。自明治七年台灣征討及西
南戰役以來，接着中日和日俄兩大戰爭以及歐戰期間，日本的海運業都有狂烈的發達。歐
戰以後停滯不進且有日見衰頹之勢。茲將日本各種船舶發達情形列表如次：

第三十二表—日本各種船舶消長數量表

| 年 | 輪船數 | 噸數 | 帆船數 | 噸數 | 船石數 | 船石數 | 船數 |
|----|------|-----------|-----------|----|---------|--------|-----------|
| 明治 | | | | | | | |
| 三 | 壹 | 三・五九六 | 一 | 一 | 三・五〇〇 | | |
| 五 | 柒 | 三三・三〇〇 | | 三 | 八・三三〇 | | |
| 一〇 | 二六三 | 四一・一〇四 | | 三 | 一三・六六六 | 一六・九六四 | 三・三三三・四三三 |
| 一五 | 一〇〇 | 四一・一〇九 | | 四 | 一三・〇〇〇 | 一七・一〇九 | 三・三九六・六六一 |
| 二〇 | 四九六 | 三三・三三三 | | 六 | 一〇・六三三 | 一七・一〇九 | 三・三三一・四三三 |
| 二五 | 一〇〇 | 一〇一・一〇一 | | 六 | 一三・〇〇〇 | 一七・一〇九 | 三・三〇六・六六六 |
| 三〇 | 一・〇〇 | 四一・三三三 | | 三 | 一三・一〇〇 | 一七・一〇九 | 三・三三〇・三三三 |
| 三五 | 一・〇〇 | 三〇・三三三 | | 三 | 一三・一〇〇 | 一七・一〇九 | 三・三三一・四三三 |
| 四〇 | 三・三三 | 一三・三三三 | | 四 | 一三・一〇〇 | 一七・一〇九 | 三・三三三・四三三 |
| 大正 | | | | | | | |
| 一 | 三・〇〇 | 一・四〇一・六六六 | 一〇・六〇一 | | 三〇〇・〇〇一 | 一七・一〇九 | 三・三三三・四三三 |
| 三 | 三・六六 | 一・三三三・四〇〇 | 一・四三三・三三三 | | 三〇六・一三〇 | 一七・一〇九 | 三・三三三・四三三 |

日本資本主義之發展史

| 年 次 | 總 實 數 (千元) | 百 分 比 | 總 額 日 本 船 | 總 額 外 國 船 | 日 本 船 外 國 船 不 詳 |
|-------|------------|----------|-----------|-----------|-----------------|
| 五 | 三,八六一 | 一,七二七・七四 | 二,〇六〇 | 一,七五〇 | 一,〇五五・五九 |
| 七 | 四,七五五 | 二,三三三・六九 | 二,六〇一 | 一,〇五七・四七 | 一,〇三九・六九 |
| 九 | 五,八一〇 | 三,〇四三・〇六 | 二,六三三 | 一,一三三・九三 | 一,四〇七・〇九 |
| 一 一 | 六,三三三 | 三,二五三・六三 | 二,六六九 | 一,一五九・九三 | 一,五八四・七〇 |
| 一 三 | 六,七六六 | 三,三三四・六六 | 二,八六六 | 一,二二二・五五 | 一,六七五・五五 |
| 昭 和 一 | 七,七九九 | 三,六三二・四七 | 三,一三二 | 一,三三六・〇一 | 一,五五五 |
| 二 | 八,〇五二 | 三,七三三・七〇 | 三,二四三 | 一,三三三・〇四 | 一,五七七 |

就運貨方面也可以看出日本海運業的消長來。在明治二十一年外國船所運日本貨到百分之九十二以上，現在祇佔百分之二十九，百分之六十七以上的日本貨都歸日本船運載了。不過，在大正七年，歐戰期間，百分之八十七以上都歸日本船運載。歐戰以後，日本的海運業已陷於悲運之中了。看下表：

第二十三表—日本船及外國船運載日本貿易貨物額表

日本資本主義の歴史的發展

| 年次 | 元資 | 元積 | 元債 | 元庫 | 元特 | 元公 | 元私 |
|------|------------|-----------|------------|---------|-------|------------|-------|
| 明治二二 | 11,417,337 | 1,111,575 | 11,306,762 | 100,000 | 3,000 | 10,303,762 | 0,000 |
| 二五 | 13,012,337 | 1,111,575 | 11,900,762 | 100,000 | 3,000 | 11,600,762 | 0,000 |
| 三〇 | 15,012,337 | 1,111,575 | 13,900,762 | 100,000 | 3,000 | 13,600,762 | 0,000 |
| 三五 | 17,012,337 | 1,111,575 | 15,900,762 | 100,000 | 3,000 | 15,600,762 | 0,000 |
| 四〇 | 19,012,337 | 1,111,575 | 17,900,762 | 100,000 | 3,000 | 17,600,762 | 0,000 |
| 大正 一 | 21,012,337 | 1,111,575 | 19,900,762 | 100,000 | 3,000 | 19,600,762 | 0,000 |
| 三 | 23,012,337 | 1,111,575 | 21,900,762 | 100,000 | 3,000 | 21,600,762 | 0,000 |
| 五 | 25,012,337 | 1,111,575 | 23,900,762 | 100,000 | 3,000 | 23,600,762 | 0,000 |
| 七 | 27,012,337 | 1,111,575 | 25,900,762 | 100,000 | 3,000 | 25,600,762 | 0,000 |
| 九 | 29,012,337 | 1,111,575 | 27,900,762 | 100,000 | 3,000 | 27,600,762 | 0,000 |
| 一〇 | 31,012,337 | 1,111,575 | 29,900,762 | 100,000 | 3,000 | 29,600,762 | 0,000 |
| 一三 | 34,012,337 | 1,111,575 | 32,900,762 | 100,000 | 3,000 | 32,600,762 | 0,000 |
| 昭和 一 | 37,012,337 | 1,111,575 | 35,900,762 | 100,000 | 3,000 | 35,600,762 | 0,000 |
| 三 | 40,012,337 | 1,111,575 | 38,900,762 | 100,000 | 3,000 | 38,600,762 | 0,000 |

(三)外國貿易的發達

—歐戰中達于頂點—

日本自明治維新決定「開國進取」的政策，對外貿易大為發展。中日戰爭以後，因為關稅不自主的不平等條約的廢止，從中國割去台灣，航路擴充，金本位制實行等等，對外貿易大為發達。日俄戰爭，因為工業品的發達，對外貿易益為發達。歐戰期間，因為獨佔中國市場，對外貿易發達到了頂點。自大正三年到大正七年出超總額到十五萬萬元，日本對外貿易遂異常顯調。但是，歐戰以後，因為大正九年大地震的打擊，以及各國的關稅障壁，市場死力爭奪，日本對外貿易遂停滯不止而且由出超轉為入超，異常逆調。大正十四年雖然因為日金滙兌行市跌落，對外貿易又似乎有復興氣象，不久滙兌恢復之後，又入于不景之中了。日本的對外貿易，尤之乎日本資本主義的全部，已經入于沒落的途徑中了。下面是日本對外貿易總表：

第二十四表—日本對外貿易發達表(單位千元)(上)

| 年 | 次 | 總 | 額 | 內 | 地 | 及 | 庫 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 出 | 入 | 出 | 入 | 出 | 入 | 入 |

日本資本主義之發展史

| 明治 | 大正 |
|----|----|
| 一 | 一 |
| 二 | 二 |
| 三 | 三 |
| 四 | 四 |
| 五 | 五 |
| 六 | 六 |
| 七 | 七 |
| 八 | 八 |
| 九 | 九 |

日 本 政 治 經 濟 研 究

| 年 | 明 治 | | 昭 和 | | | |
|-----|-----|---|-----|---|---|---|
| | 一 | 五 | 一 | 三 | 四 | 五 |
| 次 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 輸 出 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 輸 入 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 輸 出 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 輸 入 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 輸 出 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 輸 入 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

第二十四表 日本對外貿易發達表(單位千元)(下)

日本資本主義之發展史

昭和三年四年總額中內地特別區(帶室御用品, 在外公館用品, 軍器, 外國艦船用品)

| 昭和 | 大正 | | | | | |
|----|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 三〇 | 一・九六一 | 四・三三〇 | — | — | — | — |
| 三五 | 三・六四四 | 一六・七〇六 | — | — | — | — |
| 四〇 | 三・三〇八 | 九・零六九 | 九・七五四 | — | — | — |
| 一 | 三・三〇〇 | 三三・〇〇〇 | 一四・九八〇 | 一七・三〇九 | 一七・三〇九 | 三三・〇〇〇 |
| 三 | 三・〇一六 | 四・六六六 | 三三・六六一 | 三三・〇一四 | 三三・〇一四 | 四・六六六 |
| 五 | 三・六七一 | 一四・一〇九 | 三三・六六一 | 一七・三〇〇 | 三三・〇一六 | 三三・〇一六 |
| 七 | 三・六〇四 | 三三・三〇〇 | 三三・三〇〇 | 三三・三〇〇 | 三三・三〇〇 | 三三・三〇〇 |
| 九 | 三・七六九 | 四一・八六七 | 三三・一五三 | 三三・一五三 | 三三・一五三 | 三三・一五三 |
| 一一 | 三・三〇〇 | 四一・二七 | 三三・三〇〇 | 三三・三〇〇 | 三三・三〇〇 | 三三・三〇〇 |
| 一三 | 三・三三三 | 三三・三三三 | 四一・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 |
| 一 | 三・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 |
| 三 | | | 三三・六六六 | 三三・六六六 | 三三・六六六 | 三三・六六六 |
| 四 | | | 三三・六六六 | 三三・六六六 | 三三・六六六 | 三三・六六六 |

，其他)不在內

(四)公司企業的發達

—農工商三足鼎立—

所謂近代產業組織的公司制度發達情形如何當然是資本主義前進的具體表現。日本公司企業的發達是在中日戰爭之後。直到現在，發達最快的是農業公司(林業包括在內)，增加到十一倍以上。其次是水產業增加到九倍。在實收資本金的數目上看，自來都是商業公司佔第一位，不過，近年來工業公司猛烈的增加，大有壓倒商業公司之勢，運輸業公司因為鐵路國有政策的實行，中途受一大打擊，因而勢力亦中落。茲將各種產業的公司數及實收資本金數列表如次：

究 研 經 治 政 本 日

第二十五表

日本各種產業的公司數及實收資本金數表

| | 明治二九 | 三二 | 三七 | 四二 | 大正三 | 八 | 一三 | 昭和三 |
|-----|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 總 數 | 四,五六一 | 七,三三一 | 一六,三三三 | 二一,四九九 | 一六,六六六 | 二六,二六〇 | 三三,三三三 | 四一,四〇一 |
| 農 業 | 五 | 三三 | 一四〇 | 一,三三三 | 三三三 | 六,一一一 | 九,〇九五 | 九,九一 |

| 本 日 實 收 資 本 | 主 資 本 | 之 發 展 | 之 發 展 | 之 發 展 | 之 發 展 | 之 發 展 | 之 發 展 | 本日實收資本 | |
|----------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|-------|
| | | | | | | | | 實收資本 | (百萬圓) |
| 水產業 | 銀 | 銀 | 銀 | 銀 | 銀 | 銀 | 銀 | 銀 | 銀 |
| 鑛業 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 工業 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 商業 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 運輸業 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 總數 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 實收資本 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

實收資本指數 (%)

日本經濟研究

| | | | | | | | | |
|-----|-----|------|------|------|------|------|------|-------|
| 總數 | 100 | 1.91 | 2.84 | 3.80 | 4.70 | 5.60 | 6.50 | 7.40 |
| 農業 | 100 | 1.34 | 3.11 | 4.76 | 6.41 | 8.06 | 9.71 | 11.36 |
| 水產業 | 100 | 1.34 | 1.01 | 1.67 | 2.33 | 3.00 | 3.66 | 4.32 |
| 鑛業 | 100 | 1.34 | 3.11 | 4.76 | 6.41 | 8.06 | 9.71 | 11.36 |
| 工業 | 100 | 1.34 | 1.67 | 2.33 | 3.00 | 3.66 | 4.32 | 4.98 |
| 商業 | 100 | 1.34 | 2.33 | 3.32 | 4.31 | 5.30 | 6.29 | 7.28 |
| 運輸業 | 100 | 1.34 | 2.33 | 3.32 | 4.31 | 5.30 | 6.29 | 7.28 |

至于公司中最重要股份公司(日本所謂株式會社)佔全體公司的半數，但是實收資本金佔百分之八十以上。股份公司的發達也很快，尤以工業股份公司為最。就實收資本金說，現在以工業股份公司為最多。不過，就公司數目而論，直到現在，仍是商業股份公司佔第一位。茲將日本各產業的股份公司列表如次：

第二十六表——日本股份公司表

| | | | |
|-----|-----|-------|---------------|
| 年次 | 公司數 | 股份公司數 | 股份公司對全體公司的百分比 |
| 農業 | 100 | 100 | 100 |
| 水產業 | 100 | 100 | 100 |
| 鑛業 | 100 | 100 | 100 |
| 工業 | 100 | 100 | 100 |
| 商業 | 100 | 100 | 100 |
| 運輸業 | 100 | 100 | 100 |

本日資本主義之發展

| 年次 | 實收資本 | 總額 | 單位(百圓) | 增減 | 增減率 |
|-------|------|--------|--------|----|-----|
| 明治二九年 | 一 | 一〇・一六三 | 一〇・一六三 | — | — |
| 三二年 | 一 | 一〇・二八八 | 一〇・二八八 | — | — |
| 三七年 | 一 | 一〇・三六一 | 一〇・三六一 | — | — |
| 四二年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 大正三年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 八年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 十三年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 昭和三年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 實收資本 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 明治一九年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 三二年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 三七年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 四二年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 大正三年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 八年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 十三年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 昭和三年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 實收資本 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 明治一九年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 三二年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 三七年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 四二年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 大正三年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 八年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 十三年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 昭和三年 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |
| 實收資本 | 一 | 一〇・三六六 | 一〇・三六六 | — | — |

| | | | | | | | | | |
|------|----|----|-----|----|---|----|----|----|----|
| 八年 | 五 | 四三 | 二一七 | 六 | 五 | 四六 | 五 | 五五 | 五% |
| 十三年 | 三 | 四〇 | 三六 | 三六 | 六 | 五三 | 一〇 | 六 | 五% |
| 昭和三年 | 一六 | 四六 | 四〇 | 一 | 三 | 一〇 | 三 | 一 | 五% |

(五)金資本的發展

——最近始到最高階段——

(A)銀行

在金融機關佔最重要位置的銀行，自明治二十六年銀行條件制定，對於銀行的組織，業務，監督均明白規定後，日本的銀行業遂開始發展。明治二十三年日本政府又發布貯蓄銀行條例，成立貯蓄銀行基礎。中日戰爭後，由明治二十九年到三十四五年間，日本勸業銀行，府縣農工銀行，北海道拓殖銀行，台灣銀行，日本興業銀行次第成立。明治四十三年日本吞併朝鮮就舊韓國銀行改組為朝鮮銀行，這是日本經營，朝鮮殖民地及東三省半殖民地的金融本營。

就銀行數目來說，以明治三十四年的二千三百五十九行為最多。以後漸漸減少，直到現在祇有一千四十五行。這是集中結果，大銀行日盛小銀行倒閉的緣故。歐戰後，日本經

日本資本主義之發展

過大經濟恐慌，不僅銀行數目減少，資本金也有減退之勢。昭和二年（總數為十九萬萬五千六百餘萬元）不如昭和元年（總數為十九萬萬九千九百餘萬元）；昭和元年又不如大正十三年，總數為二十萬萬二千七百餘萬元。其餘如兌換券，銀行券，債券，以及公積金，存款等均是與年俱增。茲將日本銀行及其資方列表如次：

第二十七表—日本銀行數及其資方表

| 年 末 本 店 數 | 支 店 數 | 實 收 資 本 (千圓) | 公 積 金 (千圓) | 存 款 (千圓) | 兌 換 券 債 券 (千圓) |
|-----------|-------|-----------------|---------------|-------------|----------------------|
| 明治三 | 三〇 | 三〇,〇〇〇 | 三〇,〇〇〇 | 一七,〇二九 | — |
| 〇 | 一,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 三〇,〇〇〇 | 三三,〇〇〇 | — |
| 三 | 三,〇〇〇 | 三〇〇,〇〇〇 | 七〇,〇〇〇 | 三六,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 |
| 四 | 四,〇〇〇 | 四〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 四〇,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 |
| 大正一 | 二,〇〇〇 | 二〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 四〇,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 |
| 二 | 二,〇〇〇 | 二〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 四〇,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 |
| 三 | 二,〇〇〇 | 二〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 四〇,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 |
| 四 | 二,〇〇〇 | 二〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 四〇,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 |
| 五 | 二,〇〇〇 | 二〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 四〇,〇〇〇 | 一〇,〇〇〇 |

| | | | | | | | | | |
|----|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 昭和 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |
| 明治 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |
| 明治 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |
| 明治 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |
| 明治 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |
| 明治 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |
| 明治 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |
| 明治 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |
| 明治 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |
| 明治 | 11.00圓 | 10.00圓 | 5.00圓 | 2.00圓 | 1.00圓 | 0.50圓 | 0.20圓 | 0.10圓 | 0.05圓 |

(B) 貨幣制度的發達

明治四年日本發布新貨條件，名義上開始實行金本位制。其實，日本的金本位制實于中日戰爭獲得中國巨額賠款之後。日本的貨幣分紙幣和正貨兩種。紙幣最初以政府紙幣為最多，明治十四年松方正義當藏相，實行緊縮政策，逐漸收回，便一年年減少了。以後的紙幣，大部份都由日本，台灣，朝鮮三銀行發行。大正九年經濟恐慌以後，紙幣膨脹最力，總數達十九萬萬一千四百餘萬元（大正十年）。昭和元二年以後漸漸減少。最近又膨脹起來了。茲將日本紙幣流通，量列表如次：

第二十八表—日本紙幣銀行券流通額表（單位千圓）

日本資本主義之發展

| 明治 | 政府紙幣 | 國立銀行券 | 發行額 | 銀行券準備金額 | 兌換券 | 異額 | 台灣銀行券 | 朝鮮銀行券 | 合計 |
|----|----------------|-------|-----|---------|-----|----|-------|-------|----------------|
| 一 | 100,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 100,000,000 |
| 二 | 300,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 300,000,000 |
| 三 | 500,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 500,000,000 |
| 四 | 1,000,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 1,000,000,000 |
| 五 | 2,000,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 2,000,000,000 |
| 六 | 3,000,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 3,000,000,000 |
| 七 | 4,000,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 4,000,000,000 |
| 八 | 5,000,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 5,000,000,000 |
| 九 | 10,000,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 10,000,000,000 |
| 十 | 10,000,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 10,000,000,000 |
| 十一 | 15,000,000,000 | — | — | — | — | — | — | — | 15,000,000,000 |

日本實業史之發展

| | | | | | | | | | | |
|----|--------|--------|--------|----|---------|----|----|----|----|--------|
| 五 | 一六·四〇三 | 三三·三六六 | 一六·六三三 | —— | 一〇九·六三三 | —— | —— | —— | —— | 一六·六三三 |
| 四 | 一三·〇〇〇 | 三三·六三三 | 一四·六三四 | —— | 一〇九·六三四 | —— | —— | —— | —— | 一六·六三三 |
| 三 | 一一·二五〇 | 三〇·五〇〇 | 一〇·三〇〇 | —— | 一〇〇·三〇〇 | —— | —— | —— | —— | 一六·六三三 |
| 二 | 九·三三三 | 二六·九九九 | 一五·三三四 | —— | 一〇〇·三三四 | —— | —— | —— | —— | 一六·六三三 |
| 一〇 | 七·〇〇〇 | 二一·〇〇〇 | 一〇·〇〇〇 | —— | 一〇〇·三三三 | —— | —— | —— | —— | 一六·六三三 |
| 九 | 五·〇〇〇 | 一七·〇〇〇 | 一〇·〇〇〇 | —— | 一〇〇·三三三 | —— | —— | —— | —— | 一六·六三三 |
| 八 | 三·〇〇〇 | 一三·〇〇〇 | 一〇·〇〇〇 | —— | 一〇〇·三三三 | —— | —— | —— | —— | 一六·六三三 |
| 七 | 二·〇〇〇 | 一〇·〇〇〇 | 一〇·〇〇〇 | —— | 一〇〇·三三三 | —— | —— | —— | —— | 一六·六三三 |
| 六 | 一·〇〇〇 | 五·〇〇〇 | 五·〇〇〇 | —— | 一〇〇·三三三 | —— | —— | —— | —— | 一六·六三三 |
| 五 | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| 四 | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| 三 | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| 二 | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| 一 | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |

日 本 政 治 經 相 研 究

| 頁 | 目 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 | 三十一 | 三十二 | 三十三 | 三十四 | 三十五 | 三十六 | 三十七 | 三十八 | 三十九 | 四十 | 四十一 | 四十二 | 四十三 | 四十四 | 四十五 | 四十六 | 四十七 | 四十八 | 四十九 | 五十 | 五十一 | 五十二 | 五十三 | 五十四 | 五十五 | 五十六 | 五十七 | 五十八 | 五十九 | 六十 | 六十一 | 六十二 | 六十三 | 六十四 | 六十五 | 六十六 | 六十七 | 六十八 | 六十九 | 七十 | 七十一 | 七十二 | 七十三 | 七十四 | 七十五 | 七十六 | 七十七 | 七十八 | 七十九 | 八十 | 八十一 | 八十二 | 八十三 | 八十四 | 八十五 | 八十六 | 八十七 | 八十八 | 八十九 | 九十 | 九十一 | 九十二 | 九十三 | 九十四 | 九十五 | 九十六 | 九十七 | 九十八 | 九十九 | 一百 |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 100.000 | 大正 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 |

| | | | | | | |
|----|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 昭和 | 一 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 二 | — | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 三 | — | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 四 | — | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 五 | — | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 六 | — | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 七 | — | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 八 | — | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 九 | — | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 十 | — | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |

說到日本的正貨，除了日俄戰爭之際（明治三十七年）減少之外，其餘各年都在增加。直到歐戰後的大正九年達到最高額的二十一萬萬七千八百萬元。大正九年經濟恐慌以後，

因為貿易的入超逆轉及大地震的破壞，正貨額一年減似一年，直到昭和三年，減到十一萬萬九千九百萬日元。同時在海外的日本正貨（所謂在外正貨）也是如此：大正八年有十三萬萬元之多，昭和三年僅有一萬萬一千四百萬元了！日本的正貨額如次：

日本政治經濟研究

第二十九表 日本正貨額表(單位百萬元)

| 年 末 | 總 額 | 所 有 別 | 所 在 地 別 | |
|------|-----|-------|---------|---|
| | | 政 府 | 日 本 銀 行 | |
| | | | 內 地 | |
| | | | 海 外 | |
| 明治三六 | 三三 | 六 | 二七 | 七 |
| 三七 | 三六 | 一 | 三五 | 一 |
| 三八 | 四〇 | 一 | 三九 | 一 |
| 三九 | 四三 | 一 | 四二 | 一 |
| 四〇 | 四六 | 一 | 四五 | 一 |
| 四一 | 四九 | 一 | 四八 | 一 |
| 四二 | 五二 | 一 | 五一 | 一 |
| 四三 | 五五 | 一 | 五四 | 一 |
| 四四 | 五八 | 一 | 五七 | 一 |
| 大正 一 | 六一 | 一 | 六〇 | 一 |
| 二 | 六四 | 一 | 六三 | 一 |

本日經濟的概觀

| | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|
| 三 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 四 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 五 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 六 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 七 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 八 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 九 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 一〇 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 一一 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 一二 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 一三 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 一四 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 昭和 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 一 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |
| 二 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 | 鹽 |

第二章 日本經濟的橫截面

第一節 日本的產業狀況

(一)日本產業的總觀

——工業首屈一指——

從歷史上看罷日本資本主義的發展過程以後，現在可以看看日本經濟的橫截面，以知道目前的情況何如。先從產業方面看起。

日本的產業可以分爲農業，畜產，林產，水產，鑛產，工產六大部門。這六部門的生產額以工產爲第一位，佔全部生產的百分之六十一以上，年產額價值在七十萬萬元左右。

其次是農產，佔全部生產的百分之二十六以上，年產額價值在三十萬萬元左右。茲將日本各種產業的生產額列表如次：

第三十表——日本各種產業生產額表

日本經濟的概況

| 種別 | 實數 (千圓) | | | | 百分比 | | | |
|-----|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|--|--|
| | 大正八 | 大正十三 | 昭和三 | 大正八 | 大正十三 | 昭和三 | | |
| 總額 | 一、四八五、三二一 | 三、〇〇一、三三〇 | 三、〇〇三、〇五〇 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | | |
| 農產物 | 五、二六六、〇〇〇 | 三、九二一、〇〇〇 | 三、三三三、〇〇〇 | 五元・五 | 三三・五 | 二九・九 | | |
| 畜產物 | 一四、〇七五 | 一六、〇七九 | 一六、六三三 | 一・〇 | 一・五 | 一・六 | | |
| 林產物 | 三三、〇三三 | 三三、〇三六 | 三三、〇三三 | 一・八 | 二・六 | 三・三 | | |
| 水產物 | 五〇、〇三三 | 六〇、〇三三 | 五六、〇〇六 | 三・九 | 五・五 | 四・九 | | |
| 鑛產物 | 四、二六三 | 三三、二一九 | 三六、四七七 | 四・九 | 二・八 | 三・一 | | |
| 工產物 | 六、三三三、六三三 | 六、六六六、三三三 | 七、三三七、〇三三 | 五〇・〇 | 五三・一 | 六三・三 | | |

至於各種產業投資的總額，昭和三年為一百五十九萬萬元，其中以商業最多，昭和三年為七十三萬萬元，佔全產業投資的百分之四十五以上，其次是工業，昭和三年為五十九萬萬元，佔全產業投資的百分之三十七以上。其餘四種之和不適佔百分之十六有奇而已。

日本各種產業的投資如下表：

第三十一表 日本各種產業的公司投資額表(上)

| 日 本 政 治 經 濟 研 究 | 總 數 | 實收資本金 | | 公積金 | | 合計 | | 百分比 |
|--------------------------------------|-------------|----------|---------|-----------|-----------|-------|--|-----|
| | | (千元) | (千圓) | (千元) | (千圓) | (%) | | |
| 農 業 | 總 數 | 二〇〇八・九六六 | 六〇五・五五五 | 二・六六・三六一 | 三三・七四・六三三 | 100.0 | | |
| 水 產 業 | 農 業 | 一四・六四四 | 八一五 | 一五・四四三 | 二九・六四四 | 〇・六 | | |
| | 水 產 業 | 二・三五二 | 五七〇 | 三・三五六 | 六・二二六 | 〇・三 | | |
| | 工 業 | 一五・四六六 | 三三・三三九 | 一七〇・六八五 | 三〇六・〇三〇 | 七・一 | | |
| | 商 業 | 三六九・〇三三 | 八五・三三〇 | 七五三・三三〇 | 一一〇九・九六三 | 三六・一 | | |
| | 運 輸 業 | 三三三・五六六 | 三〇・二六六 | 一・四〇六・九六三 | 六四四・一四九 | 一一・〇 | | |
| | 大 正 | | | | | | | |
| | 三 | | | | | | | |

鐵業

七四・五〇

一〇六・七九

六二・三〇

六四

第三十一表 日本各種產業的公司投資額表(下)

| 日本經濟的 鐵業 工業 商業 運輸業 總數 | 實收資本金 | | 公積金 | | 合計 | | 百分比 |
|--------------------------------------|----------|----------|----------|-------|------|-----|-----|
| | (千元) | (千圓) | (千元) | (千圓) | (千元) | (%) | |
| 總數 | 五・五五・〇九七 | 一・六九・七三三 | 七・二五・三三〇 | 一〇〇・〇 | | | |
| 農 業 | 五・九三 | 五・〇九 | 五・〇四 | 〇・七 | | | |
| 水產業 | 三・五九 | 二・七六 | 三・六六 | 〇・四 | | | |
| 鐵 業 | 四三・七三 | 一〇六・九〇 | 五九・七四 | 七・六 | | | |
| 工 業 | 二・四九・八六 | 四三・五三 | 二・九四・三九 | 三五・二 | | | |
| 商 業 | 二・四〇・三三 | 一・〇一・三三 | 三・四一・六六 | 四一・五 | | | |
| 運輸業 | 七六・四三 | 六・三〇 | 八二・七三 | 一〇・六 | | | |
| 總 數 | 三・六一・四三 | 二・五九・四三 | 五・二〇・九六 | 一〇〇・〇 | | | |

大 正 八

昭 和 三

| | | | | |
|-----|-------|------|-------|-----|
| 農業 | 126.6 | 10.1 | 11.0 | 0.6 |
| 水產業 | 50.3 | 11.0 | 101.3 | 0.6 |
| 礦業 | 71.5 | 13.3 | 83.6 | 3.3 |

(二) 礦業的生產和投資

——重工業基礎以煤為最——

(A) 生產

在日本各種產業之中，工礦兩業是資本主義的基礎，其中礦業是重工業的基礎。日本礦業的生產，以煤為第一，昭和三年的產額價值二萬萬五千四百餘萬元，其次是銅，昭和三年的產額價值五千五百餘萬元。日本內地的礦產額如下表：

第三十二表——日本礦產額表(內地) 單位千圓

| 年次 | 總額 | 金 | 銀 | 銅 | 鐵 | 煤 | 煤油 | 其他 |
|-----|--------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|----|
| 大正三 | 15,030 | 9,590 | 5,550 | 5,900 | 3,690 | 9,630 | 7,550 | |
| 八 | 16,260 | 9,690 | 2,230 | 2,690 | 1,850 | 10,540 | 3,860 | |
| 一三 | 16,110 | 10,500 | 5,000 | 8,500 | 6,730 | 14,640 | 2,890 | |

昭和 三 三六、四七 一四、六五五 六、五五六 五、三三三 九、九〇三 二番、五五六 三、四四六 三、三三三 58

(B) 投資

至於鑛業各部門的投資額則以金屬鑛業佔第一位，昭和三年為三萬五千九百萬元，佔全部鑛業投資的百分之四十二以上。使用工人數目以煤業為第一，昭和三年共用工人二十三萬七千餘人，佔全部鑛工的百分之八十一以上。金屬及煤業是日本鑛業中最主要的兩種。茲將日本鑛業各部門的投資額及工人數目列表如次：

第三十三表 日本鑛業各部門投資額及工人數表(昭和三年)

| 面 積 的 經 本 日 | 投 資 | | 額 (千圓) | | 勞 働 者 數 | | |
|-------------|-----|-------|--------|--------|---------|--------|-------|
| | 公司數 | 實收資本金 | 公積金 | 合計 | 百分比 | 實數 | 百分比 |
| 總 數 | 三三 | 七二、四三 | 三三、三五 | 一〇五、七八 | 100.0 | 二、三、一三 | 100.0 |
| 金屬鑛業 | 一 | 三三、〇二 | 五、八七 | 三九、八九 | 37.4 | 四、六四 | 15.1 |
| 煤 鑛 業 | 一〇五 | 三六、八二 | 三、六六 | 四〇、四八 | 38.0 | 一、七、八五 | 76.1 |
| 煤油鑛業 | 一 | 一〇、三六 | 三、三三 | 一三、六九 | 12.8 | 五、八五 | 20.0 |
| 其他鑛業 | 一五 | 三、〇四 | 三、〇六 | 六、一〇 | 5.8 | 四、六〇 | 1.6 |

(三)工業的生產及投資

——始終以紡織業爲主——

(A)生產

日本工業的生產額，自始至終，都是以紡織業爲第一位，昭和三年生產價值爲二十八萬萬元，所以有人說，日本資本主義現仍在輕工業的階段上。歐戰期間日本的機械業大發展，大正八年比大正三年增加到六倍以上，但是大正八年以後又減退了，幾乎減了三分之一。日本的重工業因爲基礎薄弱似乎是難以前進的樣子。不過，金屬工業發展很猛，昭和三年比大正三年增加了十一倍以上。食品工業自始至終都佔第二位，昭和三年生產價值爲十一萬萬元。全部工業生產，昭和三年比大正三年增加五倍以上。日本工業生產額如下表：

第三十四表——日本工場生產額表(內地)

| 業種別 | 大正三年 | 大正八年 | 大正十三年 | 昭和三年 |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 生產額 | (千圓) | (千圓) | (千圓) | (千圓) |
| 指數 | 100 | 235.3 | 315.3 | 377.9 |
| 總額 | 1,515,626 | 3,563,333 | 4,952,326 | 5,927,233 |

日 本 經 濟 的 概 貌

| | | | | | | |
|----------|-----|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
| 紡織工業 | 100 | 3,355,000 | 2,350,000 | 40,600,000 | 2,690,000 | 1,850,000 |
| 金屬工業 | 100 | 8,610,000 | 7,500,000 | 3,700,000 | 7,900,000 | 5,600,000 |
| 機械器具工業 | 100 | 1,000,000 | 1,000,000 | 4,000,000 | 4,000,000 | 3,900,000 |
| 窯業 | 100 | 3,000,000 | 1,500,000 | 1,000,000 | 3,000,000 | 2,000,000 |
| 化學工業 | 100 | 1,500,000 | 1,500,000 | 1,000,000 | 1,500,000 | 1,500,000 |
| 製材及木製品工業 | 100 | 3,000,000 | 1,500,000 | 1,000,000 | 1,500,000 | 1,500,000 |
| 印刷製本業 | 100 | 3,000,000 | 1,500,000 | 1,000,000 | 1,500,000 | 1,500,000 |
| 食品工業 | 100 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 煤氣及電業 | 100 | 3,000,000 | 1,500,000 | 1,000,000 | 1,500,000 | 1,500,000 |
| 其他工業 | 100 | 8,610,000 | 7,500,000 | 3,700,000 | 7,900,000 | 5,600,000 |
| 加工精製工業 | 100 | 3,000,000 | 1,500,000 | 1,000,000 | 1,500,000 | 1,500,000 |

(B) 投資額

日本投在工業的資本，以煤氣及電業為第一位，昭和三年為十九萬三千一百餘萬元，約佔全部工業投資的三分之一，其次是紡織及礦業。這兩種都有減退的趨勢。其餘

各種工業，投資額雖少，但都在增進的趨勢力中。茲將日本工鑛業的資本金及其百分比的變化列兩表如次：

第三十五表—日本各種工鑛業公司實收資本金表(單位千圓)(上)

| 年次 | 鑛業 | | 紡織工業 | | 金屬工業 | |
|-----|---------|-----------|--------|---------|-------|----------|
| | 公司數 | 實收資本及出資 | 公司數 | 實收資本及出資 | 公司數 | 實收資本及出資 |
| 大正三 | 五,三三六 | 六三三,五九九 | 一〇,〇〇〇 | 一三三,〇三三 | 一六 | 九,八九三 |
| 大正八 | 一〇,四三三 | 二,九一一,〇六一 | 二〇,〇九一 | 四四四,〇〇〇 | | |
| 昭和三 | 一三,六六七 | 四,六〇〇,〇六一 | 二,六六六 | 六五,一一五 | 三三 | 一,六八,九九六 |
| 昭和八 | 一五,六四三 | 五,九四三,二四九 | 二,六四三 | 六六,二五一 | 三六 | 三,三六,一三三 |
| 昭和十 | 製材木製品工業 | 印刷製本業 | 食料品工業 | | | |
| 大正三 | 公司數 | 實收資本及出資 | 公司數 | 實收資本及出資 | 公司數 | 實收資本及出資 |
| 大正八 | 二二〇 | 七,六三三 | 一,三三 | 四,七六六 | 一,三三〇 | 一,〇四,〇三一 |
| 大正十 | 三一 | 二五,五九九 | 三三 | 一一,〇二 | 二,一一〇 | 一,五〇,三三三 |
| 昭和三 | 一,一六 | 七,三三三 | 三三 | 三六,六六 | 三,四〇〇 | 三,五七,六六 |

昭和 三 一・二〇七 五・七四七 六三三 三・六五五 三・七四五 五〇・〇三三
 第三十五表 日本各種工業業公司實收資本金表(單位千圓)(下)

| 年次 | 機械器具工業 | | 業 | | 化學工業 | |
|------|--------|------------------|---------|----------------|-------|----------------|
| | 公司數 | 實收資本及出資 | 公司數 | 實收資本及出資 | 公司數 | 實收資本及出資 |
| 大正 三 | 三三 | 四三・八四〇 | 一〇〇 | 二一・〇三六 | 五五 | 七〇・六九九 |
| 和 三 | 一・〇七 | 三九二・八三三 | 四六 | 八七・五五五 | 一・三三 | 三九〇・〇三〇 |
| 大正 三 | 一・二四 | 四六・九六六 | 四三 | 一三三・六四一 | 一・四三 | 四三・七三六 |
| 和 三 | 一・四五 | 五五・三三一 | 四五 | 一七・五六六 | 一・五 | 五三・三九九 |
| 年次 | 煤氣 電業 | 其他 工業 | 鑛業 | | | |
| 大正 三 | 公司數 四七 | 實收資本及出資 二四・七三三 | 公司數 四六 | 實收資本及出資 二五・四三三 | 公司數 一 | 實收資本及出資 一五・五五五 |
| 和 三 | 公司數 六四 | 實收資本及出資 五三・三九五 | 公司數 九七 | 實收資本及出資 八五・八六六 | | |
| 大正 三 | 公司數 五八 | 實收資本及出資 一・三〇・〇三六 | 公司數 一・五 | 實收資本及出資 三三・三九一 | 公司數 三 | 實收資本及出資 七四・五五五 |
| 和 三 | 公司數 五九 | 實收資本及出資 一・三三・三六〇 | 公司數 二・五 | 實收資本及出資 三六・六五四 | 公司數 三 | 實收資本及出資 七二・四四四 |

第三十六表——日本各種工業業公司實收資本金百分比變化表

| 年 次 | 總數 | 紡織工業 | 金屬工業 | 機械器具工業 | 窯業 | 化學工業 | 製材業 | 印刷業 | 食品工業 | 煤氣電 | 其他工業 | 鑛業 |
|-----|---------|------|------|--------|-------|------|-----|-----|------|-----|------|------|
| 大正 | 三 一〇〇・〇 | 一六・三 | 一・〇 | 五三・二 | 二・五 | 八・五 | 〇・九 | 〇・六 | 八・九 | 三・九 | 三・〇 | 一九・九 |
| 昭和 | 三 一〇〇・〇 | 一四・五 | 四・〇 | 八七・二 | 克 九・九 | 一・三 | 〇・六 | 九・〇 | 三・七 | 四・四 | 三・〇 | |

第二節 日本的貿易

(一) 日本內地的貿易

——輸出入均多輕工業品——

(A) 貿易總額

對外貿易的順勢和逆勢不僅是一國經濟盛衰的指針，而且是國際關係變化的根本原因，所以日本的貿易值得我們研究。

日本的貿易大陸可以分歐戰前，歐戰中，歐戰後的三大時期。歐戰前是萌芽時期，雖然發展前進也很遲緩。歐戰中是全盛時期，出超數目很大。歐戰後是凋零時期很雜的復振。不過，我們觀察一國的貿易不能就表面上數目字簡單的來看。因為貨幣計算貿易額。要注意貨幣的價值和物價的上下。這當然是一件很難準確的事情。茲將最近十八年的日本對

日本經濟的概貌

| 年次 | 輸出入額 | | 物價指數 |
|------|------------|------------|-------|
| | 輸出額 百萬圓 | 輸入額 百萬圓 | |
| 大正元年 | 533.3 | 633.3 | 100.0 |
| 二年 | 533.7 | 531.1 | 102.1 |
| 三年 | 510.7 | 506.0 | 100.8 |
| 四年 | 526.0 | 556.7 | 101.6 |
| 五年 | 536.3 | 596.6 | 113.6 |
| 六年 | 1,056.6 | 622.0 | 150.7 |
| 七年 | 556.0 | 656.6 | 103.6 |
| 八年 | 656.5 | 656.6 | 106.1 |
| 九年 | 556.2 | 531.1 | 113.6 |
| 十年 | 556.0 | 556.6 | 110.6 |

外貿易額按照大正三年大戰勃發時的貨幣價值計算。及物價指數列表如次：
第三十七表—日本對外貿易額實質增加表（按大正三年的貨幣價值計算）

| 年 次 | 輸 出 | 輸 入 | 超 過 | 移 出 | 移 入 | 超 過 |
|------|---------|---------|-------|-----|-----|-----|
| 十一年 | 八二九・四 | 六二六・六 | 二〇二・〇 | | | |
| 十二年 | 七三二・四 | 五三三・一 | 二〇九・三 | | | |
| 十三年 | 八五五・一 | 一・二五五・六 | 三三三・三 | | | |
| 十四年 | 一・〇五九・四 | 一・三三九・四 | 三三三・一 | | | |
| 昭和元年 | 一・二一四・九 | 一・二六九・九 | 二六六・三 | | | |
| 二年 | 一・二四一・五 | 一・二四九・九 | 二六六・六 | | | |
| 三年 | 一・三三〇・〇 | 一・二四〇・九 | 二九一・九 | | | |
| 四年 | 一・三三九・二 | 一・三三六・九 | 二七二・九 | | | |

至於日本內地及庫頁對各殖民地及外國的貿易狀況，除去歐戰的短期間外，一向都是入超，（在歐戰期間對殖民地也是入超，因為大批食糧及原料移入的緣故）。輸入超額最大為大正十三年，價值六萬萬五千餘元。移入超額最大也是大正十三年，價值二萬萬一千九百餘萬元。日本貿易的黃金時代已經過去了。日本內地貿易額如下表：

第三十八表—日本內地貿易額表（內地及庫頁單位千圓）

大 正

| | | | | | | | |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 一 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 二 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 三 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 四 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 五 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 六 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 七 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 八 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 九 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 一〇 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 一一 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 一二 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 一三 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |
| 一四 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 | 廣 興 茶 業 |

昭和

| | | | | | |
|-----------|---------|--------|-------|-------|---------|
| 一・二〇六・三六 | 二・四四・五〇 | △三三・三三 | 三九・六四 | 五〇・元五 | △一〇五・四三 |
| 一一・〇〇〇・三六 | 二・三三・八四 | △一五・七三 | 三〇・五二 | 三三・六〇 | △一四・元六 |
| 三・二〇三・五四 | 二・三三・〇九 | △一七・五〇 | 四六・二九 | 五九・三三 | △一三〇・九三 |
| 四二・一〇六・六九 | 三・二六・四〇 | △一六・六二 | 四三・六六 | 五九・五六 | △一三〇・〇〇 |

(註)△爲入超

(B) 輸出品及輸入品

日本貿易之中主要的都是那些物品呢？就輸出而論，以生絲爲第一，出口每年約七萬五千一百餘萬元，佔輸出總額約三分之一以上。其次是棉織物，出口每年約四萬四千九百餘萬元，佔輸出總額的五分之一以上。不過日本棉織物出口歐戰後不似從前，因爲中國的輕工業已經萌芽的緣故。這是日本資本主義的一個大打擊。

輸入方面，以紡織工業原料的棉花爲第一，入口每年約值五萬萬八千二百餘萬元，佔輸入總額的四分之一以上。其次是食料品，主要的爲米，入口每年約值二萬萬九千七百餘萬元，佔輸入總額的八分之一以上。明治末年以來，鐵的輸入增加，現在佔第三位。

日本的輸出入品，主要的仍是輕工業品。日本資本主義因爲物質資源的貧乏，超越輕

工業而上之，似乎是很難的事，除非是出於掠奪之一途。

日本輸出入品大分類如下表：

第三十九表 日本輸出入品大分類表(單位百萬元)(昭和一一三平均)

| 輸出品 | 價額 | 百分比 | 輸入品 | 價額 | 百分比 |
|------------------|-------|--------|------------|-------|-------|
| 生絲..... | 五五·七 | 三三·九% | 棉花..... | 五六·五 | 三六·五% |
| 棉製品..... | 四九·〇 | 三〇·〇% | 食料品..... | 三九·七 | 二五·五% |
| 食料品..... | 一五·〇 | 七·四% | 鐵及鐵礦..... | 一四·〇 | 七·四% |
| 絲織物..... | 一四·三 | 六·九% | 肥料..... | 一三·三 | 七·三% |
| 其他共合計..... | 二〇五·六 | 一〇〇·〇% | 羊毛及毛織品 | 一五五·二 | 七·一% |
| 棉織品係棉織物棉紗製毛絲綸的合計 | | | 機械及車輛... | 一三三·三 | 五·七% |
| | | | 木材..... | 一〇一·二 | 四·六% |
| | | | 其他共合計..... | 二一七·二 | 〇〇·〇% |

(C) 輸出入的對手國

美國，中國，和印度，是日本的三大顧客，同時是三大原料品供給者。在日本輸出品

佔第一位的生絲，輸出對手國就是美國。在日本輸入品佔第一位的棉花，輸入對手國也以美國為第一，印度次之，中國又次之。鐵，木材，機械的輸入對手國也是以美國佔第一位。所以日美經濟關係甚為重要。美國如抵制日貨，日本的生絲即沒有銷路，而棉花，鐵，木材等原料品不能不取給於中國的東三省。此東三省在日本資本主義上之所以重而且要也。中國是日本的市場，日本輸出品第二位的棉織物以中國為第一，印度次之。自上海中國紗廠成立以來，日本所受打擊年不下一千萬元。此所以日本軍隊一定要炸毀上海也。中國對日輸出最多是豆類和油類都是東三省的產物。印度除供給日本棉花外還供給米及豆類。日本輸入印度的貨物都是棉紗，棉織物，絹織物，陶磁器等。至於鐵及機械多由英德等西歐國家輸入。日本得東三省後，鐵也不必仰給於西歐了。

日本輸出入品對手國別以貨物為中心和以國別為中心可以製成下列四表：

第四十表——日本重要輸出品對手國別表（昭和二、三、四、平均單位百萬日元）

| | | | | | | |
|-----|-----|-------|------|------|------|----|
| 生絲 | 美國 | 七三·七 | 法西 | 三六 | 英國 | 三三 |
| | 加拿大 | 三一 | 其他共計 | 三五·七 | | |
| 棉織物 | 中國 | 一四〇·〇 | 英領印度 | 六六 | 荷領印度 | 三六 |

日 本 經 濟 的 橫 役 面

| 品 名 | 香 港 | 菲 律 賓 | 澳 洲 | 其 他 共 計 | 澳 洲 | 加 拿 大 | 南 非 洲 | 海 峽 殖 民 地 | 其 他 共 計 | 美 國 | 中 國 | 英 領 印 度 | 其 他 共 計 | 毛 絲 綉 製 品 |
|-------|------------|---------------|-----------|--------------|---------|-------------|-----------|-------------|--------------|--------------|---------|--------------|--------------|-------------|
| 絲 織 物 | 三·六 | 七·八 | 三·四 | 三六·三 | 二九·一 | 二·四 | 六·一 | 三·六 | 一四·二 | 二二·五 | 二·〇 | 一四·二 | 三三·六 | 英 領 印 度 九·七 |
| 陶 磁 器 | 埃 及 二·九 | 海 峽 殖 民 地 六·四 | 暹 羅 三·一 | 英 領 印 度 一五·二 | 英 國 二·三 | 非 律 賓 四·三 | 烏 拉 圭 三·二 | 中 國 三·〇 | 荷 領 印 度 四·七 | 其 他 共 計 三三·〇 | 中 國 八·〇 | 英 領 印 度 二·五 | 其 他 共 計 三三·六 | 英 國 六·一 |
| 棉 紗 | 關 東 洲 一四·五 | 阿 根 廷 三·七 | 南 非 洲 二·六 | 美 國 一六·一 | 法 國 九·七 | 荷 領 印 度 四·一 | 中 國 三·一 | 英 領 印 度 二·五 | 其 他 共 計 三三·六 | 荷 領 印 度 二·五 | 香 港 三·三 | 其 他 共 計 三三·六 | 其 他 共 計 三三·六 | 菲 律 賓 三·六 |

日本政治經濟研究

| | | | | | | |
|------|-------|------|------|------|-------|-----|
| 精糖 | 荷領印度 | 二・三 | 埃及 | 二・〇 | 中國 | 一・五 |
| | 南アフリカ | 一・三 | 其他共計 | 三・〇 | | |
| | 中國 | 三・三 | 關東洲 | 三・七 | 俄領亞洲 | 一・六 |
| | 其他共計 | 三・四 | | | | |
| 煤 | 中國 | 一四・一 | 香港 | 四・三 | 海峽殖民地 | 三・七 |
| | 菲律賓 | 二・二 | 其他共計 | 一八・七 | | |
| 紙類 | 中國 | 一四・三 | 關東洲 | 三・九 | 香港 | 一・六 |
| | 其他共計 | 二四・一 | | | | |
| 罐頭食品 | 美國 | 一六・五 | 英國 | 六・一 | 其他共計 | 三・七 |
| 小麥粉 | 中國 | 一三・〇 | 關東洲 | 五・七 | 其他共計 | 二・九 |
| 水產物 | 中國 | 七・一 | 香港 | 五・九 | 關東洲 | 二・〇 |
| | 其他共計 | 二〇・〇 | | | | |
| 木材 | 中國 | 四・三 | 英領印度 | 三・一 | 瀛州 | 二・〇 |
| | 關東洲 | 二・〇 | 英國 | 一・六 | 其他共計 | 二・三 |

日本經濟的概觀

| 品名 | 來源地 | 數量 | 來源地 | 數量 |
|-----|------|------|-------|-------|
| 棉花 | 美國 | 三六·六 | 英領印度 | 三三·九 |
| | 埃及 | 三〇·三 | 其他共計 | 五二·五 |
| 鐵 | 美國 | 三六·六 | 德國 | 三三·三 |
| | 英領印度 | 二一·六 | 比利時 | 八·七 |
| 羊毛 | 其他共計 | 一四·一 | 其他共計 | 一〇二·一 |
| | 澳洲 | 九六·六 | 俄領亞細亞 | 二二·七 |
| 木材 | 美國 | 七四·三 | 加拿大 | 八·〇 |
| | 暹羅 | 二〇·〇 | 其他共計 | 一〇一·二 |
| 機榨類 | 美國 | 三三·九 | 英國 | 三三·一 |
| | 瑞士 | 四·三 | 法國 | 二·六 |
| 豆餅 | 中國 | 四·四 | 關東洲 | 四·三 |
| | 其他共計 | 六六·二 | 英領印度 | 二·六 |
| 豆類 | 關東洲 | 四·四 | 中國 | 一五·四 |
| | 其他共計 | 六六·二 | 英領印度 | 二·六 |

第四十一表 日本重要輸入品對手國別表(昭和二、三、四、平均單位千圓)

日 本 政 治 經 濟 研 究

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|----|
| 小麥 | 其他共計 | 加拿大 | 中國 | 荷領印度 | 暹羅 | 美國 | 德國 | 其他共計 | 關東洲 | 其他共計 | 煤 | 煤油揮發油 | 生橡皮 | 毛線 |
| 六〇・三 | 三六・六 | 三〇・〇 | 五・五 | 一六・四 | 五・四 | 二〇・〇 | 三九・〇 | 二四・一 | 三六・五 | 一八・一 | 三・四 | 一〇・九 | 五・二 | |
| 美國 | 關東洲 | 古巴 | 法領支那 | 其他共計 | 英國 | 中國 | 美國 | 英國 | 美國 | 波蘭 | 其他共計 | 法國 | 其他共計 | |
| 二六・四 | 二六・六 | 四・〇 | 三・三 | 三九・〇 | 三・九 | 七・〇 | 一五・六 | 九・〇 | 七・一 | 三・五 | 三・五 | 三・五 | 三・五 | |
| 澳洲 | 其他共計 | 其他共計 | 英領印度 | 美國 | 法領支那 | 其他共計 | 英國 | 其他共計 | 其他共計 | 英國 | 其他共計 | 英國 | 其他共計 | |
| 三三・〇 | 六〇・三 | 五七・三 | 七・五 | 五・〇 | 六・〇 | 三・一 | 三・一 | 三・〇 | 三・〇 | 三・〇 | 三・〇 | 三・〇 | 三・〇 | |

西 裁 橫 的 濟 經 本 日

| 毛織物 | | 汽車 | | 麻類 | | 採油原料 | | 鐵鑛其他鑛 | |
|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|-------|------|
| 英國 | 三・七 | 美國 | 三・六 | 菲律賓 | 一・四・七 | 中國 | 一・五・八 | 中國 | 九・一 |
| 德國 | 四・七 | 加拿大 | 一・三 | 中國 | 八・四 | 關東洲 | 三・九 | 海峽殖民地 | 八・九 |
| 其他共計 | 三六・六 | 其他共計 | 二六・〇 | 英領印度 | 四・〇 | 英領印度 | 二・四 | 其他共計 | 一五・九 |
| 美國 | 七・三・七 | 生絲 | 一〇・五 | 繭食品 | 一四・〇 | 紙 | 一四・三 | 水產物 | 七・一 |
| 中國 | 一四・〇 | 棉織物 | 一四・〇 | 茶 | 八・七 | 砂糖 | 三・三 | 煤 | 一四・一 |
| 其他共計 | 三三・三 | 其他共計 | 八・六 | 其他共計 | 一五・〇 | 機核 | 四・八 | 木材 | 四・一 |
| 美國 | 七・三・七 | 絲織物 | 一六・一 | 陶磁器 | 三・五 | 其他共計 | 八・六 | 其他共計 | 三三・三 |
| 中國 | 一四・〇 | 茶 | 八・七 | 其他共計 | 一五・〇 | 機核 | 四・八 | 其他共計 | 三三・三 |
| 其他共計 | 三三・三 | 其他共計 | 八・六 | 其他共計 | 一五・〇 | 機核 | 四・八 | 其他共計 | 三三・三 |

第四十二表—日本貿易對手國重要輸出品表(昭和二三、四、平均單位百萬元)

日 本 政 治 經 濟 研 究

| 英領印度 | 關東洲 | 荷領印度 | 英國 | 香港 | 法國 | 澳洲 |
|-------|------|-------|------|------|-------|------|
| 棉織物 | 棉織物 | 棉織物 | 豆類 | 棉織物 | 生絲 | 絲織物 |
| 六〇・四 | 一四・五 | 三三・六 | 五・六 | 三三・六 | 二七・六 | 二九・一 |
| 毛絲綸類 | 棧板 | 其他共計 | 絲織物 | 火柴 | 其他共計 | |
| 九・七 | 三・〇 | 一〇六・六 | | 三一・一 | 三〇・〇 | |
| 絲織物 | 紙 | 陶磁器 | 生絲 | 水產物 | 棉織物 | 棉織物 |
| 一九・二 | 三・九 | 四・七 | 三・七 | 五・九 | 二・三 | 三・四 |
| 其他共計 | 砂糖 | 毛絲綸 | 罐頭食品 | 絲織物 | 絲織物 | 其他共計 |
| 一七〇・五 | 三・七 | 二・二 | 六・一 | 九・七 | 九・七 | 三〇・九 |
| 棉絲 | 小麥粉 | 絲織物 | 其他共計 | 煤 | 其他共計 | |
| 一四・二 | 五・七 | 四・一 | 六・〇 | 四・三 | 六・三 | |
| | 鐵製品 | 毛絲綸 | 其他共計 | 其他共計 | 真棉及層絲 | |
| | 三・一 | 六・一 | 六・三 | 三・三 | 三・三 | |

日 本 經 濟 的 對 象

| 國 別 | 品 名 | 數 額 | 品 名 | 數 額 | 品 名 | 數 額 |
|-------|-------|------|------|------|------|------|
| 非 律 濱 | 棉織物 | 七·六 | 絲織物 | 四·三 | 毛絲綸 | 三·六 |
| | 其他共計 | 三·六 | | | | |
| 海峽殖民地 | 棉織物 | 六·四 | 絲織物 | 三·六 | 煤 | 二·七 |
| | 其他共計 | 二·三 | | | | |
| 接 及 | 棉織物 | 三·六 | 人造絲 | 二·〇 | 其他共計 | 二·〇 |
| | 絲織物 | 二·三 | 生絲 | 三·七 | 其他共計 | 二·三 |
| 加 拿 大 | 絲織物 | 三·一 | 其他共計 | 九·三 | | |
| | 暹羅 | | | | | |
| 美 國 | 棉花 | 二六·六 | 木材 | 五·五 | 鐵 | 二六·六 |
| | 機械 | 三·九 | 汽車 | 二五·八 | 小麥 | 一六·四 |
| | 煤油揮發油 | 一五·八 | 其他共計 | 五五·一 | | |
| | 棉花 | 三三·九 | 鐵鋼 | 三三·六 | 生橡皮 | 九·〇 |
| | 米及雜米 | 七·五 | 黃麻等 | 四·〇 | 其他共計 | 二六·四 |
| | 棉花 | 四·一 | 豆餅 | 四·四 | 採油原料 | 一五·八 |
| | 中國 | | | | | |

第四十三表—日本貿易對手國重要輸入品表(昭和二、三、四、平均單位百萬圓)

日本政治經濟研究

| 英國 | 關東洲 | 德國 | 澳洲 |
|------|--------|------|------|
| 豆類 | 豆類 | 鐵 | 羊毛 |
| 15.4 | 15.7 | 33.3 | 26.6 |
| 苧蔴等 | 蘇達及曹達灰 | 毛織物 | 其他共計 |
| 8.4 | 25.5 | 14.1 | 14.7 |
| 牛肉 | 鐵 | 其他共計 | 其他共計 |
| 6.0 | 27.4 | 19.7 | 26.6 |
| 硫磺尼錳 | 硫磺尼錳 | 鐵 | |
| 2.9 | 22.9 | 33.3 | |
| 煤 | 蘇達及曹達灰 | 毛織物 | |
| 7.0 | 25.5 | 14.1 | |
| 皮革 | 鐵 | 其他共計 | |
| 5.9 | 27.4 | 19.7 | |
| 棉織物 | 蘇達及曹達灰 | 鐵 | |
| 6.1 | 25.5 | 33.3 | |
| 其他共計 | 鐵 | 毛織物 | |
| 15.3 | 27.4 | 14.1 | |
| 豆餅 | 蘇達及曹達灰 | 其他共計 | |
| 4.3 | 25.5 | 19.7 | |
| 採油原料 | 鐵 | 毛織物 | |
| 3.9 | 27.4 | 14.1 | |
| 鏡 | 蘇達及曹達灰 | 其他共計 | |
| 3.7 | 25.5 | 19.7 | |
| 煤 | 鐵 | 毛織物 | |
| 10.1 | 27.4 | 14.1 | |
| 鏡 | 蘇達及曹達灰 | 其他共計 | |
| 3.7 | 25.5 | 19.7 | |
| 鳥卵 | 鐵 | 毛織物 | |
| 7.0 | 27.4 | 14.1 | |
| 其他共計 | 蘇達及曹達灰 | 其他共計 | |
| 33.5 | 25.5 | 19.7 | |
| 毛線 | 鐵 | 毛織物 | |
| 6.0 | 27.4 | 14.1 | |
| 牛油 | 蘇達及曹達灰 | 其他共計 | |
| 4.6 | 25.5 | 19.7 | |
| 小麥 | 鐵 | 毛織物 | |
| 3.0 | 27.4 | 14.1 | |
| 機械 | 蘇達及曹達灰 | 其他共計 | |
| 17.6 | 25.5 | 19.7 | |
| 染料 | 鐵 | 毛織物 | |
| 5.4 | 27.4 | 14.1 | |

日本經濟的橫截面

| | | | | | | |
|--------|--------|------|-------|------|------|------|
| 荷蘭印度 | 砂糖 | 三〇.五 | 煤油揮發油 | 一六.一 | 其他共計 | 六.〇 |
| 加拿大 | 小麥 | 二六.八 | 木材 | 八.〇 | 鉛 | 七.六 |
| | 巴拉非 | 五.七 | 其他共計 | 三三.六 | | |
| 海峽殖民地 | 生橡皮 | 二.四 | 鐵鑛 | 八.八 | 錫 | 四.八 |
| | 其他共計 | 六.〇 | | | | |
| 法蘭西 | 毛絲毛織物 | 五.四 | 機械 | 二.八 | 其他共計 | 三三.八 |
| 埃及 | 棉花 | 二〇.五 | 其他共計 | 三三.六 | | |
| 俄領亞細亞 | 木材 | 二.七 | 其他共計 | 三三.一 | | |
| 法領印度支那 | 米 | 二.三 | 煤 | 六.一 | 其他共計 | 二.〇 |
| 暹羅 | 米 | 一六.四 | 木材 | 二.〇 | 其他共計 | 二〇.七 |
| 瑞士 | 表 | 六.四 | 機械 | 四.三 | 其他共計 | 一八.四 |
| 菲律賓 | 朥拉蔴等 | 一四.七 | 其他共計 | 一七.四 | | |
| 比利時 | 鐵 | 八.七 | 其他共計 | 二五.二 | | |
| 東非洲 | 蘇達及曹達灰 | 二五 | 其他共計 | 八.八 | | |

至于各國對日貿易額的消長情形，從中國說起，在歐戰末尾大正八九年間是好況時代，歐戰以後漸漸減退，減退而又恢復，到北伐前大正十四年昭和元年又入好況之中，北伐成功以後一年不如一年。這很顯然是因為美國資本主義在中國的發展。不過，日本政治勢力下的關東州近年來頗有進步。這自然很可以啟發日本資產階級進佔東三省野心。日本對西洋各國的貿易都是以歐戰期間為黃金時代，歐戰以後一蹶不振，但近年來英德兩國對日貿易年有進步。這也是很得注意之點。自民國以來各國對日貿易消長有如下表所示：

第四十三表——各國對日本內地貿易額消長表（單位百英圓）（上）

| 大正 | 中國 | | 關東洲 | | 英領印度 | | 荷領印度 | |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 |
| 一 | 一四·六 | 五·八 | 二七·五 | 三五·七 | 三三·七 | 一四·七 | 一四·三 | 一九·一 |
| 二 | 一四·七 | 六·三 | 二九·五 | 三三·七 | 三九·九 | 一三·三 | 五·一 | 三三·四 |
| 三 | 一三·四 | 五·三 | 三三·三 | 三三·三 | 三六·〇 | 一六·三 | 五·五 | 三三·〇 |
| 四 | 一四·一 | 八·六 | 三三·三 | 三六·八 | 四〇·三 | 一四·六 | 六·四 | 三六·三 |
| 五 | 一五·七 | 一〇·六 | 三三·一 | 三三·〇 | 三六·六 | 一七·五 | 一六·四 | 三三·一 |

日本經濟時表

| 面 | 載 | 積 | 時 | 濟 | 經 | 本 | 日 |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 六 | 三九・四 | 一三三・三 | 五七・五 | 三三・二 | 一〇一・四 | 三三三・九 | 三三・二 |
| 七 | 三五・二 | 一六二・七 | 一六六・四 | 一〇〇・五 | 一〇一・五 | 三六九・三 | 三二・五 |
| 八 | 四七・〇 | 三三三・一 | 一八〇・一 | 一六二・四 | 一六六・六 | 三九七・五 | 三〇・四 |
| 九 | 四〇・三 | 三二六・一 | 一三三・〇 | 一六九・九 | 一五二・二 | 三九四・九 | 一〇六・三 |
| 一〇 | 三九・三 | 一五二・七 | 一五二・六 | 一三二・九 | 一四〇・五 | 三三〇・四 | 四〇・三 |
| 一一 | 三三・五 | 一六六・三 | 一七一・九 | 一三〇・六 | 一五九・二 | 三三四・一 | 四四・四 |
| 一二 | 三三・三 | 一四四・七 | 一四九・九 | 一四九・六 | 一五九・六 | 三三〇・七 | 四〇・六 |
| 一三 | 三六・四 | 一三七・五 | 一五二・六 | 一五二・四 | 一五九・四 | 三六八・八 | 五九・三 |
| 一四 | 四八・四 | 一四四・七 | 一〇一・六 | 一三六・六 | 一五三・四 | 三三三・六 | 五九・六 |
| 昭和一 | 四三・九 | 一五九・四 | 一五九・六 | 一三三・〇 | 一五九・〇 | 三九一・一 | 五九・六 |
| 二 | 四三・九 | 一五九・四 | 一五九・六 | 一三三・〇 | 一五九・〇 | 三九一・一 | 五九・六 |
| 三 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 四 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 五 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 六 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 七 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 八 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 九 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 一〇 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 一一 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 一二 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 一三 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |
| 一四 | 三三・一 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 一三三・〇 | 三九〇・六 | 五九・六 |

第四十三表 各國對日本內地貿易額消長表(單位百萬圓)(下)

日 本 紙 漿 研 究

| 大正 | 美 國 | | 澳 洲 | | 英 國 | | 德 國 | |
|----|-------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|
| | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 |
| 一 | 二六・七 | 二五・〇 | 六・六 | 二二・九 | 五五・二 | 二六・二 | 一三・五 | 六・一 |
| 二 | 一四・五 | 一三・四 | 八・六 | 一四・九 | 三三・六 | 二二・七 | 三・一 | 六・四 |
| 三 | 一六・五 | 一六・八 | 一〇・九 | 一四・六 | 三三・一 | 二二・三 | 一〇・〇 | 四・九 |
| 四 | 一〇四・一 | 一〇三・五 | 一八・一 | 一六・六 | 六六・五 | 六六・一 | 一 | 五・九 |
| 五 | 一四〇・二 | 一四〇・〇 | 二七・六 | 三三・三 | 一〇三・六 | 八二・七 | 一 | 四・一 |
| 六 | 四九・五 | 三〇・〇 | 三三・三 | 三三・九 | 一〇三・六 | 三三・三 | 一 | 二・五 |
| 七 | 五〇・一 | 三六・〇 | 四六・九 | 四九・九 | 一四九・九 | 六六・一 | 一 | 三・四 |
| 八 | 八六・一 | 七六・四 | 三〇・九 | 四六・六 | 一一五・五 | 一七・五 | 〇 | 〇・三 |
| 九 | 五〇五・〇 | 八三三・二 | 五八・一 | 三三・五 | 五七・八 | 三三・四 | 一・〇 | 三三・〇 |
| 一〇 | 四九三・三 | 五四四・四 | 三三・六 | 四三・四 | 三三・八 | 一六三・三 | 二・四 | 四七・九 |
| 一一 | 三三三・四 | 五五五・二 | 四六・七 | 五二・一 | 四四・四 | 三三三・三 | 三・七 | 一四〇・六 |
| 一二 | 六五五・六 | 五三〇・〇 | 三三・六 | 四六・六 | 四〇・四 | 三三三・一 | 三・四 | 一四〇・一 |

日本經濟的概觀

| | | | | | | | | |
|------|------|------|-----|-----|-----|------|-----|------|
| 一三 | 七〇九 | 七七一〇 | 四七九 | 一九九 | 六〇 | 三三九 | 八六 | 一四〇六 |
| 一四 | 一〇〇六 | 六六五〇 | 四三三 | 一五〇 | 五九七 | 三三三 | 一六 | 一三六六 |
| 昭和 一 | 八〇九 | 六〇〇一 | 五三六 | 三六四 | 五九五 | 一〇〇一 | 八一 | 一四〇一 |
| 二 | 八三六 | 六三三七 | 五四六 | 三三九 | 六四九 | 一五三三 | 一〇六 | 一三〇四 |
| 三 | 八六一 | 六五五五 | 四〇〇 | 一三〇 | 五九九 | 一六四六 | 三六 | 一三三三 |
| 四 | 九四一 | 六四〇一 | 四七一 | 一三三 | 九三二 | 一五二一 | 三四 | 一五七一 |

(二)日本殖民地的貿易

——米糖大原料供給場——

(A)朝鮮的貿易

朝鮮以對日本的移出入為最多，年額均在三萬萬元，且與年俱進。這可以表現出來朝鮮是日本的好原料場，同時是好市場。至于朝鮮的輸出入都是對東三省輸入每年總額在一萬萬元左右。這是東三省的原料經由朝鮮以入日本的緣故。輸出每年不過三千萬元左右。輸入超過輸出每年有七八千萬元。但是，近年來輸出日多，輸入日少，入超數也減退了！朝鮮貿易的一般情況有如下表：

第四十四表 朝鮮貿易額表(單位千圓)

| 年次 | 移出 | 移入 | 超過 | 輸出 | 輸入 | 超過 |
|-----|--------|--------|---------|--------|--------|---------|
| 大正一 | 一五・三三七 | 四〇・七五七 | △二五・三九九 | 五・三六八 | 三三・三九九 | △二八・〇三〇 |
| 二 | 一三・三三四 | 四〇・四九三 | △二五・一五九 | 五・五五三 | 三三・五五 | △二五・三九九 |
| 三 | 一三・六六七 | 三九・〇四三 | △二五・三七六 | 五・八〇三 | 三三・二六四 | △二八・四六一 |
| 四 | 四〇・〇七一 | 四二・五五五 | △二・四八四 | 八・五九一 | 一七・六六四 | △九・〇七三 |
| 五 | 四三・三三四 | 五二・五五九 | △九・二二五 | 一三・八六一 | 二二・九七 | △八・一六五 |
| 六 | 四三・三三三 | 五二・六六六 | △九・三三三 | 一三・〇三〇 | 三〇・一九一 | △一七・一六一 |
| 七 | 四三・三三三 | 五二・六六六 | △九・三三三 | 一六・九四四 | 四一・〇三六 | △二四・〇九二 |
| 八 | 一五・六九三 | 一八・六六六 | △二・九七三 | 一九・六七 | 五五・六九九 | △三六・〇二二 |
| 九 | 一五・六六一 | 一四・二二三 | △三・三三三 | 三三・五九九 | 五五・八九九 | △二二・三〇四 |
| 一〇 | 一五・六九九 | 一五・九九三 | △〇・九〇四 | 三〇・八九九 | 五五・九九 | △二五・〇〇四 |
| 一一 | 一五・六九五 | 一五・二四四 | △〇・四五一 | 一七・五九九 | 五五・九九 | △三八・三九九 |
| 一二 | 一四・三三三 | 一五・五五五 | △一・二二二 | 一〇・五九九 | 五五・九九 | △四五・九九 |

日 本 經 濟 的 概 概

| | | | | | | |
|------|---------|---------|-------|-------|---------|----------|
| 一三 | 三〇六・六〇六 | 三二一・六二七 | 海・六四四 | 三・三三九 | 海・三三九 | △ 三三・三三九 |
| 一四 | 三二七・六二九 | 三三〇・六四〇 | 三・三三九 | 三・三三九 | 一〇五・三三九 | △ 二〇・三三九 |
| 昭和 一 | 三三六・二二六 | 三三九・三三六 | 三・三三九 | 三・三三九 | 三三・三三九 | △ 三三・三三九 |
| 二 | 三三〇・七九一 | 三三九・三三六 | 三・三三九 | 三・三三九 | 三三・三三九 | △ 三三・三三九 |
| 三 | 三三三・六九一 | 三三九・三三六 | 三・三三九 | 三・三三九 | 三三・三三九 | △ 三三・三三九 |
| 四 | 三三九・六九一 | 三三九・三三六 | 三・三三九 | 三・三三九 | 三三・三三九 | △ 三三・三三九 |

△係入超

朝鮮向日本的移出品，一半以上是米，朝鮮的輸入，四分之一以上是米，所以朝鮮是日本的食糧供給地。朝鮮一天一天的農業化。至于日本移入品以布疋等消費品為主，約佔移入總額的四分之一，所以朝鮮是日本的市場。朝鮮的貿易品類有如下表：

第四十五表—朝鮮貿易內容表(單位千圓)

| | | | | | | |
|-----|-----------|---------|---------|------|---------|--------|
| | 昭和 一 | 昭和 二 | 昭和 三 | 昭和 一 | 昭和 二 | 昭和 三 |
| 移 出 | 額 三三九・二二六 | 三三〇・七九一 | 三三九・三三六 | 總 額 | 三三九・三三九 | 三三・三三九 |
| 移 入 | 額 三三九・三三九 | 三三九・三三九 | 三三九・三三九 | 總 額 | 三三九・三三九 | 三三・三三九 |

| | | | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 米 | 一五二・三三 | 一五二・四二 | 一八三・五二 | 木材及紅蔘 | 三三六〇 | 三・七五 | 五・三〇 |
| 總額中米(%) | 五九 | 五七 | 五七 | 總額中木材 | 三三二 | 一四・一 | 一六六 |
| | | | | 紅蔘(%) | | | |
| 移 | | | | 輸 | | | |
| 入 | | | | 入 | | | |
| 總額 | 二〇九・三六 | 二〇九・三三 | 二五五・六九 | 總額 | 二三三・九四 | 二二二・四四 | 二二六・五三 |
| 布棉及同製 | 五七・六〇 | 五七・五九 | 六七・六一 | 粟 | 三・八〇 | 三六・四八 | 三五・四六 |
| 品 | | | | | | | |
| 總額中布帛 | 三三・三 | 三〇・八 | 三三・七 | 總額中粟(%) | 三三・七 | 三二・九 | 三二・六 |
| 及同製品(%) | | | | | | | |

(B) 台灣的貿易

台灣的貿易，自然仍是以對日本的移出入為主，而且移出之額超過移入，可以證明台灣是日本的物質資源地。每年日本貨移出台灣價值總在二萬萬元左右。每年台灣原料移入日本價值總在一萬二三千萬元左右。每年出超價值總在八九千萬元左右。至于台灣對外國的輸出則為數甚微。輸出每年在三四千萬元左右，輸入每年在六千萬元左右。入超每年在二三千萬元左右。并且台灣與日本的移出入額與年俱增。而台灣與外國的輸出入額近年漸有減退之勢。台灣名其實的完全成為日本的殖民地了。民國以來台灣貿易情形有如下表：

日 本 經 濟 的 橫 截 面

第四十六表—台灣貿易額表(單位千圓)

| 年 次 | 移 出 | 移 入 | 超 過 | 輸 出 | 輸 入 | 超 過 |
|------|-------|-------|--------|-------|-------|---------|
| 大正 一 | 四・六三 | 四・三五 | 四・五九 | 一四・九六 | 一五・三六 | △ 四・三九 |
| 二 | 四・四四 | 四・六六 | △ 二・二九 | 二・九四 | 一八・〇四 | △ 五・〇一 |
| 三 | 四・七九 | 四・九六 | 五・六四 | 二・九二 | 一三・〇四 | △ 三 |
| 四 | 四・二五 | 四・六六 | 一五・五五 | 一五・四〇 | 一三・六一 | 二・八四 |
| 五 | 四・六五 | 四・五三 | 三・一四 | 三・六四 | 一五・四〇 | 一六・三三 |
| 六 | 一四・五六 | 六・六六 | 三・六〇 | 四・二六 | 三・〇六 | 一六・一六 |
| 七 | 一四・五二 | 六・六五 | 三・二九 | 三・九四 | 三・五五 | △ 一 |
| 八 | 一四・〇六 | 六・三三 | 三・三三 | 三・六三 | 四・一三 | △ 二六・五〇 |
| 九 | 一八・〇一 | 一三・〇〇 | 六・〇一 | 三・一三 | 六・三六 | △ 三・二三 |
| 一〇 | 一八・六六 | 七・三二 | 三・五九 | 三・五四 | 四・四三 | △ 一六・八八 |
| 一一 | 一七・〇一 | 八・二五 | 四・三八 | 三・五三 | 六・九三 | △ 六・三六 |
| 一二 | 一四・四四 | 七・〇七 | 六・三六 | 三・二二 | 六・二二 | △ 九・九六 |

| | | | | | | | |
|----|----------|--------|--------|-------|-------|---|--------|
| 一三 | 三二・〇六 | 六・六〇一 | 二四・〇四 | 四・五七六 | 四・四四〇 | △ | 三・八〇九 |
| 一四 | 三五・二〇九 | 二九・九〇九 | 八・三〇三 | 四・六六六 | 五・四九九 | △ | 六・五三三 |
| 和 | 一・一〇一・一〇 | 一三・四四九 | 八〇・〇七五 | 四九・三四 | 六・〇〇九 | △ | 三・六三三 |
| 一 | 一〇一・〇九 | 一三・一〇九 | 八〇・五七 | 四・五九六 | 六・六四〇 | △ | 三・三三三 |
| 三 | 三三・五三三 | 一三・三六 | 八・〇三三 | 三・八六 | 五・三三四 | △ | 二四・〇九六 |
| 四 | 三六・七〇五 | 一四・三三〇 | 六・三三 | 三・一六 | 四・三六一 | △ | 三・三三三 |

台灣是個糖罐子，並且是個食糧園，所以台灣移入日本的以米為第一，年額在二萬萬元左右，其次是砂糖，年額在六萬元左右。日本移入台灣的是布疋等消費品，年額在二千萬元左右，其次是機械肥料等。台灣對外國輸出則以茶，煤，樟腦，酒精四種特產品為多；四種總計佔輸入總額的半數以上。輸入則肥料為最多，年額在二千萬元左右，其次是米，豆類，及木材。茲將台灣貿易品的內容列表如次：

第四十七表—台灣貿易內容表（單位千元）

| 移出 | 移入 | 移 | 輸 | 輸 |
|------|-----|-----|-----|------|
| 移出入品 | 昭和一 | 昭和二 | 昭和三 | 輸出 |
| 移 | 昭和一 | 昭和二 | 昭和三 | 輸出入品 |
| 輸 | 昭和一 | 昭和二 | 昭和三 | 輸出入品 |
| 輸 | 昭和一 | 昭和二 | 昭和三 | 輸出入品 |

日 本 經 濟 的 裁 減 面

| | | | | | | | |
|--------|---------|---------|---------|-------|---------|---------|---------|
| 總額 | 301.110 | 330.057 | 334.333 | 總額 | 313.335 | 320.596 | 330.656 |
| 米 | 33.054 | 36.633 | 35.337 | 茶 | 11.333 | 11.333 | 9.911 |
| 砂糖 | 26.120 | 26.333 | 23.110 | 煤 | 8.434 | 1.274 | 3.233 |
| 芭蕉實 | 10.000 | 8.236 | 8.236 | 樟腦 | 1.994 | 1.994 | 3.236 |
| 酒精 | 4.061 | 3.236 | 3.033 | 酒精 | 2.001 | 1.994 | 2.010 |
| 四品合計 | 176.233 | 164.434 | 166.836 | 四品合計 | 24.333 | 23.333 | 19.233 |
| 總額中四品 | 58.2% | 50.7% | 50.1% | 總額中四品 | 7.7% | 7.3% | 5.8% |
| 移 | | | | 輸 | | | |
| 入 | | | | 入 | | | |
| 總額 | 33.054 | 33.106 | 33.336 | 總額 | 26.006 | 26.650 | 26.334 |
| 布帛及同製品 | 24.822 | 24.236 | 24.236 | 肥料 | 10.236 | 11.331 | 14.234 |
| 機械類 | 7.236 | 8.866 | 11.096 | 米類 | 9.234 | 11.331 | 11.000 |
| 鑛及金屬 | 27.331 | 29.333 | 10.096 | 豆類 | 3.236 | 3.004 | 4.131 |
| 金屬製品 | 25.236 | 26.110 | 27.236 | 木材 | 2.236 | 2.236 | 2.236 |
| 肥料 | 4.919 | 4.130 | 4.233 | 方木 | 2.236 | 2.236 | 2.001 |

| | | | | | | |
|-------|------|------|-------|------|------|------|
| 五品合計 | 學・七三 | 學・七四 | 五品合計 | 元・〇三 | 學・三六 | 元・〇三 |
| 總額中五品 | 四・〇% | 三・六% | 總額中五品 | 三・〇% | 六・四% | 六・三% |

第三章 日本的金融資本與國家財政

第一節 日本金融資本的各方面

(一) 日本金融資力的縱橫觀

——可以活動的資力究有多少！——

在研究日本經濟上，我們似乎都願意知道日本的貧富情形如何。這當然是很難說明的
一件事。對於這問題最普遍的回答當然是「國富」或「國民所得」。但這是世界上最不可
靠的一種欺騙而誇張的估計（絕對不是統計）。而且，在大正十四年以後，日本連這種估
計也沒有了！大概是情形一天不如一天的緣故。我們當然沒有富餘筆墨來敘說這一層鬼話
。補救的辦法祇有從側面說明日本金融資本及國家財政情形，或者可以窺測出來全國貧富
的情況。

金融資本是唯一可以運用流通的資本，他的勢力大小，便是資本主義全部勢力大小，這話萬不為過。我們現在看看日本各種金融機關的資金到底有多少：

第四十八表——日本各種金融機關資金表(單位千圓昭和三年末)

| 日本各種金融機關 | 實收資本金 | 公積金 | 存款 | 兌換券 | 銀行券 | 債 | 債券 |
|----------|-----------|--------|-----------|-----|----------|---|----------|
| 特殊銀行 | 四〇,〇六九 | 三九,〇六三 | 一,五五,二四三 | — | 一,九四,〇三六 | — | 一,〇五,〇八六 |
| 普通銀行 | 一,〇三九,〇六一 | 五九,〇七一 | 九,三三〇,七六六 | — | — | — | — |
| 貯蓄銀行 | 四〇,七三三 | 三三,七三三 | 一,〇六九,九四四 | — | — | — | — |
| 信用組合 | 一,六〇,五三五 | 八六,七九九 | 一,〇二一,〇六七 | — | — | — | — |
| 郵政貯金 | — | — | 一,〇七九,三三四 | — | — | — | — |
| 信託公司 | 五九,〇四〇 | 一五,一五九 | 一,〇〇九,〇四四 | — | — | — | — |
| 保險公司 | 三三,〇三六 | 六六,四三六 | 一,〇〇一,〇五五 | — | — | — | — |
| 簡易生命保險 | — | — | 三三六,〇五〇 | — | — | — | — |

* 金錢信託 ** 責任準備金及支付準備金 *** 公積金

由上表看來，日本所有金融機關的資本金及公積金不過三十萬萬元左右，銀行及貯蓄

銀行的存款不過一百一十餘萬萬元，即或連信用組合及郵政貯金合計在內，也不過一百三十萬萬元，日本金融資本的數目多們可憐呀！在各金融機關之中，我們更清楚的可以看出來，自己資本所佔的成數都是很小很小，而在超過若干倍以上。

如若我們從歷史上觀察日本金融機關的存貯資本增加情形：歐戰中的大正七年有顯著發展，但在大正十三年以後便不是全部增加而且也不是一條直線的年年都增加不已。祇有郵政貯金增加的特別快，沒有一年不增加，昭和三年的十一萬萬元和大正十三年的一十一萬萬元相比，幾乎是一倍，和大正九年的八萬萬元相比，幾乎是三倍。這是因為幾次經濟恐慌，銀行倒閉，人民對於銀行失其信仰的緣故。大正十年以後，因為日本政府改正貯蓄法，對於貯蓄銀行嚴重取締，因而貯蓄銀行數目減少，貯蓄銀行的存款也減少。最近幾年，日本的特殊銀行，普通銀行，貯蓄銀行的存款均不十分興旺，漲落情形也不定。看下表

第四十九表—日本各金融機關存貯資本增加表(單位千兀)(上)

| 年次 | 特殊銀行存款 | 普通銀行存款 | 存貯銀行存款 | 郵政貯金 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 明治二六 | 11,000 | 1,000 | 6,000 | 10,900 |
| 三〇 | 11,500 | 10,000 | 10,000 | 13,000 |

政財家國與本資融金的本日

| | | | | |
|------|----------|-----------|----------|-----------|
| 三五 | 五・〇〇〇 | 五・〇〇〇 | 六四・〇〇〇 | 五・〇〇〇 |
| 四〇 | 六・〇〇〇 | 六四・〇〇〇 | 三六・〇〇〇 | 六・〇〇〇 |
| 大正 一 | 四四・〇〇〇 | 一・〇〇七・〇〇〇 | 四〇・〇〇〇 | 四〇・〇〇〇 |
| 三 | 四四・〇〇〇 | 一・〇〇九・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 四〇・〇〇〇 |
| 五 | 八六・〇〇〇 | 二・五五・〇〇〇 | 六六・〇〇〇 | 三四・〇〇〇 |
| 七 | 二・三三・〇〇〇 | 四・六九・〇〇〇 | 一・二六・〇〇〇 | 五九九・〇〇〇 |
| 九 | 二・二九・〇〇〇 | 五・八六・〇〇〇 | 一・二六・〇〇〇 | 八六三・〇〇〇 |
| 一一 | 一・六四・〇〇〇 | 七・八〇・〇〇〇 | 四三・〇〇〇 | 一・〇三三・〇〇〇 |
| 一三 | 二・二九・〇〇〇 | 八・〇三・〇〇〇 | 七五・〇〇〇 | 一・一四〇・〇〇〇 |
| 昭和 一 | 一・〇六・〇〇〇 | 九・二九・〇〇〇 | 一・〇六・〇〇〇 | 一・一四三・〇〇〇 |
| 二 | 一・七三・〇〇〇 | 九・〇三・〇〇〇 | 一・〇一・〇〇〇 | 一・一五三・〇〇〇 |
| 三 | 一・五五・〇〇〇 | 九・三〇・〇〇〇 | 一・二九・〇〇〇 | 一・一七三・〇〇〇 |
| 四 | 一・七〇・〇〇〇 | 九・三三・〇〇〇 | 一・四三・〇〇〇 | 一・一八三・〇〇〇 |

第四十九表—日本各金融機關存貯資本增加表(單位千元)(下)

本日政治經濟研究

| 年次 | 保險公司責任 及支付準備金 | 信託公司 金錢信託 | 信用組合貯金 |
|------|------------------|--------------|--------|
| 明治二六 | | | |
| 三〇 | | | |
| 三五 | 三〇・三五 | | 四三 |
| 四〇 | 四一・三三 | | 三三 |
| 大正一 | 一〇六・四九 | | 二九・五九 |
| 三 | 一四〇・三〇 | | |
| 五 | 一〇七・七〇 | | |
| 七 | 三三三・三〇 | | |
| 九 | 四〇九・九四〇 | | 三四・三二 |
| 一一 | 五五五・〇五 | | |
| 一三 | 六三三・六三 | | 三三・〇三 |
| 昭和一 | 一〇三三・〇三 | | 三六・六六 |
| 二 | 一・一六・九三 | | 三九・四二 |

| | | | |
|---|-----------|-----------|-----------|
| 三 | 1,021,500 | 1,002,600 | 1,011,200 |
| 四 | 1,113,300 | | |

(二) 公社債及外國資本流入

——債務日多外資侵入——

日本的國債，銀行債各公社債以及外國資本流入數目與年俱增。國債自日俄戰爭以後即激增起來。到現在，日本國債已有五十八萬萬元之多。地方債自大正十三年以後激增的更快，由大正十一年的八萬萬元進到大正十一年的十一萬萬元，再進到昭和三年的十三萬萬元。大地震的破壞當然是主要因。所以地方債中市債的數目增加更快。公司的社債自大正十三年以後也有猛烈的增加，由大正十一年的八萬萬元進到大正十三年約十二萬萬元，再進到昭和三年的二十六萬萬元。茲將日本公債及社債等歷年增加情形列表如次：

第五十表——日本公社債額表(單位百萬圓)

| 年次 | 國債 | 地方債 | 市債 | 道府縣債 | 銀行債 | 社債 |
|-----|-------|-----|----|------|-----|----|
| 明治五 | 2,100 | — | — | — | — | — |
| 一〇 | 3,300 | — | — | — | — | — |

本日 職 治 經 濟 研 究

| | | | | | | | |
|----|----|---------|---------|---------|--------|---------|---------|
| 昭和 | 一 | 五・七六・六 | 一・三三〇・三 | 一・〇三三・五 | 三三三・三 | 一・六三三・〇 | 一・六三三・五 |
| | 一三 | 四・八三三・〇 | 一・二九・一 | 七・七・七 | 三三三・一 | 一・四三三・五 | 一・三三三・五 |
| | 一一 | 四・三三三・九 | 七・六・三 | 五・七・二 | 一・三三・三 | 一・一四三・五 | 六・三・八 |
| | 九 | 三・三三三・三 | 三・六・六 | 三・三・二 | 一・〇・六 | 六・九・二 | 三・〇・六 |
| | 七 | 三・〇三三・六 | 三・六・六 | 三・〇・五 | 五・六・六 | 五・〇・二 | 三・〇・六 |
| | 五 | 二・四三三・七 | 三・六・六 | 三・三・五 | 一・三・六 | 四・三・四 | 三・三・三 |
| | 三 | 二・三三三・四 | 三・六・六 | 三・三・七 | 三・〇・〇 | 三・三・一 | 三・三・三 |
| 大正 | 一 | 一・三三三・三 | 三・〇・〇 | 三・三・六 | 三・三・三 | 三・六・一 | 三・〇・〇 |
| | 四〇 | 二・三三三・九 | 六・三・五 | 三・三・〇 | 三・六・六 | — | — |
| | 三五 | 三・三三三・四 | 三・〇・四 | 三・三・一 | 一・〇・六 | — | — |
| | 三〇 | 四・〇三三・〇 | 三・三・三 | 六・七・七 | 四・三・三 | — | — |
| | 二五 | 三・三三三・六 | 四・三・三 | 二・九・九 | 一・三・三 | — | — |
| | 二〇 | 三・三三三・〇 | — | — | — | — | — |
| | 一五 | 三・三三三・三 | — | — | — | — | — |

三 五八三・三 一〇〇五・四 一〇五七・九 四五一・八 一・六三三・五 二六三三・二

至於外國資本流入額則以國債爲最多。在大正十三年達十五萬萬元，最近達十四萬萬元。地震以後，各公司所借的社債裏，外國資本也激增起來。在大正十一年社債中的外國資本僅有二千萬萬元，大正十三年增到一萬萬九千萬萬元，昭和元年又增到三萬萬四千萬元，昭和三年又增到四萬萬七千萬萬元，大正十一年和昭和三年相比，增加幾到二十倍。此外還有外國人在日本內地銀行公司的投資也與年俱增：大正十三年爲二千一百萬元，昭和元年爲九千二百萬元，昭和三年爲九千七百萬元。在日本的外國資本總數，截至昭和三年爲止，共有二十三萬萬元之多。茲將日本的外國資列表如次：

第五十一表—日本外國資本流入額表（單位千圓）

| 年次 | 國外債 | | 地方債 | | 社債 | | 外國人內地銀行公司投資 | | 合計 |
|------|----------|--------|-------|--------|-------------|----------|-------------|--|----|
| | 海外流出 | 內國債 | 地方債 | 社債 | 外國人內地銀行公司投資 | 合計 | | | |
| 明治四一 | 一・二五七・〇 | 一〇六・四〇 | 三・八五 | 一〇三・四六 | 一五・三三〇 | 一・四六六・四四 | | | |
| 四三 | 一・四〇七・三六 | 一〇六・三五 | 六〇・七五 | 一〇六・七元 | 三六・一六 | 一・七七七・二六 | | | |
| 大正 一 | 一・四四七・六四 | 七三・三三 | 一七・三五 | 一四・四〇 | 二五・三三 | 一・八四一・二九 | | | |
| 三 | 一・五〇四・六三 | 八・三三 | 一七・一〇 | 一六・九〇 | 二五・七一 | 一・九六六・九八 | | | |

日本金融與國家財政

日本、政府、經濟、研究

| | | | | | | |
|------|---------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 五 | 一・六四・三五 | 五・七四 | 一六・五五 | 一六・一六 | 一六・六六 | 一・六〇・二九 |
| 七 | 一・三二・二六 | 三・三〇七 | 一四・五〇 | 一五・五五 | 一五・三三 | 一・七四・一六 |
| 九 | 一・四六・三五 | 四・三〇八 | 一四・三九 | 一五・三〇 | 一五・五五 | 一・六〇・四〇 |
| 一一 | 一・五九・九三 | 五・七六〇 | 一四・三九 | 一五・三〇 | 一五・三三 | 一・五〇・九三 |
| 一三 | 一・五四・三六 | 五・九五五 | 一三・四四 | 一五・三三 | 一六・三三 | 一・六三・〇八 |
| 昭和 一 | 一・四七・六五 | 九・六六八 | 三〇・三三 | 三三・三四 | 三三・三三 | 三・一四・四七 |
| 三 | 一・四三・〇三 | 三・三六七 | 三三・一六 | 三三・〇七 | 三三・九二 | 三・三〇・〇三 |

第五十二表—日本外資輸入公司社債表

| 名 稱 | 發行地 | 發行額 | 昭和三年上半年 | | 發行年月 |
|-----|-----|-----|---------|-----|------|
| | | | 外貨 | 日金換 | |
| 金額 | 算額 | 金額 | 算額 | 金額 | 算額 |
| 千單位 | 千圓 | 千單位 | 千圓 | 千圓 | 年月 |

本日金の証券本國與家財

| | | | | | | |
|-----------|--------|--------|---------|--------|---------|--------|
| 東洋拓殖株式會社 | 米國(金元) | 一九・九〇〇 | 三九・九一九 | 一七・四三三 | 四〇・四九八 | 大正三・三 |
| (第二十五回) | 英國(磅) | 四・〇〇〇 | 三九・〇六一 | 四・〇〇〇 | 三九・〇三三 | 同 三・七 |
| 南滿洲鐵道株式會社 | 英國(磅) | 三・〇〇〇 | 三九・三六九 | 三・〇〇〇 | 三九・三六九 | 同 三・七 |
| (第十九回) | 英國(磅) | 三・〇〇〇 | 三九・三六九 | 三・〇〇〇 | 三九・三六九 | 同 三・七 |
| 東京電燈株式會社 | 英國(磅) | 三・〇〇〇 | 三九・三六九 | 三・〇〇〇 | 三九・三六九 | 同 三・七 |
| 同 | 英國(磅) | 三・〇〇〇 | 三九・三六九 | 三・〇〇〇 | 三九・三六九 | 同 三・七 |
| 同 | 米國(金元) | 一四・〇〇〇 | 四六・一四四 | 三四・〇〇〇 | 四六・一四四 | 同 一四・八 |
| 大同電力株式會社 | 米國(金元) | 三三・〇〇〇 | 三〇・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 同 三・八 |
| 同 | 米國(金元) | 三三・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 同 三・八 |
| 東邦電力株式會社 | 米國(金元) | 一五・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 一四・三三三 | 三三・〇〇〇 | 同 一四・七 |
| 同 | 英國(磅) | 三〇〇 | 三三・〇〇〇 | 一四・三三三 | 三三・〇〇〇 | 同 一四・三 |
| 同 | 英國(磅) | 三〇〇 | 三三・〇〇〇 | 一四・三三三 | 三三・〇〇〇 | 同 一四・三 |
| 同 | 米國(金元) | 一〇・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 一〇・〇〇〇 | 三三・〇〇〇 | 同 一四・七 |
| 宇治川電氣株式會社 | 米國(金元) | 一四・〇〇〇 | 三六・〇六四 | 一三・〇一四 | 三六・〇六四 | 同 一四・三 |
| 信越電力株式會社 | 米國(金元) | 七・六五五 | 三三・四三三 | 七・六五五 | 三三・四三三 | 昭和二・二 |
| 日本電力株式會社 | 米國(金元) | 九・〇〇〇 | 一六・〇〇〇 | 九・〇〇〇 | 一六・〇〇〇 | 同 三・三 |
| 東京電燈株式會社 | 米國(金元) | 七〇・〇〇〇 | 一四〇・四一〇 | 七〇・〇〇〇 | 一四〇・四一〇 | 同 三・六 |

| | | | | |
|----|-------|-------|--------|---|
| 同 | (英國磅) | 四・五〇 | 四・九〇 | 同 |
| 合計 | | 五八・三〇 | 五〇四・二六 | |

第二節 日本財政的各方面

(一) 日本財政之史的觀察

——入日少出日多 負債以為活——

從歷史上看日本的財政，明治十年以前可以說是混亂時期，一方面因為政權正在轉移，而日本社會也正在封建制度和資本主義的變革過程之中，另一方面勤王倒幕以及西南戰役用費很多，另一方面因為初學西洋，一切產業，交通，軍備，教育等將建設正在起初，也用錢不少，政府財政便困難了。發公債，發不兌現紙幣以濟燃眉，結果財政更趨於混亂。明治八年確定會計年度制，明治八年以前，僅能稱期而不能稱年。在明治初年的八期之中，第五六期以後，歲出入的數目，因為廢藩置縣，鎮定爭亂，實行產業政策，大為膨脹，但也不過在五六千萬元左右而已。明治十五年以後，日本政府漸漸整理幣制，銷燬紙幣，增加新稅收。明治十八九年日本政府大改革財政制度，成立內閣制，確立豫算制度，創設所得稅等。那時候日本經濟漸入好況中，同時，資本主義漸發達，人民企業心起，政府

也實行殖產興業政策，出資經營各種官業，並擴張軍備以爲資本主義掠奪原料地及市場的準備。因此，日本的歲出入數目便又膨脹，但也不過一千萬元左右而已。

由中日戰爭，經過庚子之役，到日俄戰爭，因爲用兵的緣故，軍事的財政大爲膨脹。在這期間，日本政府創立營業稅，登記稅，砂糖稅及專賣制度。在日俄戰爭期中，徵非常特別稅又新創立織物消費稅，通行稅，煤油消費稅，并大募內外債，日本政府的歲出入遂爲之大膨脹，由一萬萬元左右增到八萬萬元左右。

明治末年及大正初年，日本財政大困難，歲出入數目也略爲減少。歐戰以來，日本資本主義的黃金時代，降臨，日本財政也入於空前好況之中，因而歲出入數目自然也隨着大膨脹。大正九年以後，歲入突過二十萬萬元，歲出突過十三萬萬元。大正十三年歲入爲二十一萬萬元。這是歲入的最高紀錄。昭如三年歲出爲十八萬萬元。這是歲出的最高紀錄。

但是，歐戰以後，日本資本主義沒落了，日本的財政也一天比一天艱難。民政黨上棧，勵行緊縮政策，不慕債政策，日本政府的歲出入數目遂行減少。昭和五年減到十六萬萬元左右。但是，不久政友會上棧以及中日事件發生，歲出必又大膨脹。不過，在另一方面

，在世界經濟恐慌之下，歲入必大減少，結果唯有出於募債之一途。歲入日少，歲出日多，募債爲活，日本財政上的大問題就在目前，日本財政上的大難關也就在目前。此外，還有地方財政問題。地方財政在大正八年僅等于中央財政的一半，以後一年年的膨脹，到昭和三年竟超過中央歲出入一萬萬元之多。茲將六十餘年來日本中央及地方財政膨脹數目列表如下：

第五十三表—日本中央及地方財政膨脹表(單位千圓)

| 年 度 | 中 央 財 政 | | 地 方 財 政 | |
|------|---------|-------|---------|-----|
| | 歲 入 | 歲 出 | 歲 入 | 歲 出 |
| 第一 期 | 三〇・六九 | 三〇・五五 | … | … |
| 二 | 三三・四六 | 三〇・六六 | … | … |
| 三 | 三〇・九六 | 三〇・一〇 | … | … |
| 四 | 三三・一四 | 三三・一〇 | … | … |
| 五 | 三〇・四三 | 三三・九〇 | … | … |
| 六 | 三三・五五 | 三三・六六 | … | … |

本日金の賁本與國家財政

| | 七 | 八 | 明治 | 九 | 一〇 | 一一 | 一二 | 一三 | 一四 | 一五 | 一六 | 一七 | 一八 | 一九 |
|--|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 三・四八 | 六・三二 | 六・三二 | 五・九二 | 五・三六 | 六・四四 | 六・二五 | 六・三六 | 七・九〇 | 七・五八 | 六・一七 | 六・六〇 | 六・二五 | 六・三六 |
| | 三・三〇 | 六・一三 | 六・一〇 | 五・三〇 | 四・九八 | 六・九四 | 六・三六 | 六・二四 | 七・四〇 | 七・八一 | 六・一七 | 六・六三 | 六・二五 | 六・三六 |
| | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... |
| | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... |

| | | | | |
|----|--------|--------|--------|--------|
| 二〇 | 六・五五 | 五九・四五三 | ... | ... |
| 二一 | 五・五零 | 八一・五四四 | ... | ... |
| 二二 | 六・六六 | 五九・七四 | 四二・五五四 | 三九・三三三 |
| 二三 | 一〇六・四九 | 六二・六二五 | 五二・三三四 | 四二・二六 |
| 二四 | 一〇三・三三 | 六三・五五六 | 五三・六六六 | 四二・七三四 |
| 二五 | 一一三・六九 | 六六・七五 | 五五・六五六 | 四九・九六七 |
| 二六 | 一〇一・四三 | 六四・六三 | 五七・九二七 | 五一・四四四 |
| 二七 | 九六・七〇 | 六九・三九 | 六六・三三 | 五三・六六一 |
| 二八 | 一一八・四三 | 七三・三二 | 六九・六二 | 五七・九三一 |
| 二九 | 一六〇・〇九 | 一六・八零 | 八四・四五 | 六九・七九 |
| 三〇 | 三三六・三〇 | 三三・六九 | 一〇〇・五六 | 六九・六二 |
| 三一 | 三三〇・〇四 | 三九・七六 | 一〇九・六四 | 六九・四三 |
| 三二 | 三三〇・三三 | 三四・六六 | 一三〇・六三 | 一四〇・四 |
| 三三 | 三三〇・六三 | 三三・五〇 | 一四〇・四三 | 一三三・二六 |

| | | | | | |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 三三 | 六六〇・〇〇〇 | 六六〇・〇〇〇 | 六六〇・〇〇〇 | 六六〇・〇〇〇 | 六六〇・〇〇〇 |
| 三二 | 六三〇・〇〇〇 | 六三〇・〇〇〇 | 六三〇・〇〇〇 | 六三〇・〇〇〇 | 六三〇・〇〇〇 |
| 大正 一 | 六〇〇・〇〇〇 | 六〇〇・〇〇〇 | 六〇〇・〇〇〇 | 六〇〇・〇〇〇 | 六〇〇・〇〇〇 |
| 四四 | 五七〇・〇〇〇 | 五七〇・〇〇〇 | 五七〇・〇〇〇 | 五七〇・〇〇〇 | 五七〇・〇〇〇 |
| 四三 | 五四〇・〇〇〇 | 五四〇・〇〇〇 | 五四〇・〇〇〇 | 五四〇・〇〇〇 | 五四〇・〇〇〇 |
| 四二 | 五一〇・〇〇〇 | 五一〇・〇〇〇 | 五一〇・〇〇〇 | 五一〇・〇〇〇 | 五一〇・〇〇〇 |
| 四一 | 四九〇・〇〇〇 | 四九〇・〇〇〇 | 四九〇・〇〇〇 | 四九〇・〇〇〇 | 四九〇・〇〇〇 |
| 四〇 | 四七〇・〇〇〇 | 四七〇・〇〇〇 | 四七〇・〇〇〇 | 四七〇・〇〇〇 | 四七〇・〇〇〇 |
| 三九 | 四五〇・〇〇〇 | 四五〇・〇〇〇 | 四五〇・〇〇〇 | 四五〇・〇〇〇 | 四五〇・〇〇〇 |
| 三八 | 四三〇・〇〇〇 | 四三〇・〇〇〇 | 四三〇・〇〇〇 | 四三〇・〇〇〇 | 四三〇・〇〇〇 |
| 三七 | 四一〇・〇〇〇 | 四一〇・〇〇〇 | 四一〇・〇〇〇 | 四一〇・〇〇〇 | 四一〇・〇〇〇 |
| 三六 | 三九〇・〇〇〇 | 三九〇・〇〇〇 | 三九〇・〇〇〇 | 三九〇・〇〇〇 | 三九〇・〇〇〇 |
| 三五 | 三七〇・〇〇〇 | 三七〇・〇〇〇 | 三七〇・〇〇〇 | 三七〇・〇〇〇 | 三七〇・〇〇〇 |
| 三四 | 三五〇・〇〇〇 | 三五〇・〇〇〇 | 三五〇・〇〇〇 | 三五〇・〇〇〇 | 三五〇・〇〇〇 |

| | | | | |
|----|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 四 | 30,666 | 5,150 | 3,300 | 33,966 |
| 五 | 23,300 | 5,500 | 3,250 | 31,750 |
| 六 | 1,020,900 | 4,000 | 4,000 | 1,028,900 |
| 七 | 1,000,200 | 1,020,000 | 300,000 | 1,320,200 |
| 八 | 1,800,000 | 1,150,000 | 620,000 | 3,570,000 |
| 九 | 2,000,000 | 1,500,000 | 1,300,000 | 4,800,000 |
| 一〇 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 4,000,000 |
| 一一 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 4,000,000 |
| 一二 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 4,000,000 |
| 一三 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 4,000,000 |
| 一四 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 4,000,000 |
| 昭和 | | | | |
| 一 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 4,000,000 |
| 二 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 4,000,000 |
| 三 | 2,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 4,000,000 |

四 1,621,000 1,621,000 1,766,200 1,766,200
 五 1,600,000 1,600,000 ...

(註)昭和四五年的中央財政昭和三四年的地方財政均係預算
 (一)日本的中央歲出

——以軍費爲第一——

日本中央財政的歲出一項內容到底是些什麼呢？也就是日本政府把他們的錢都用什麼地方呢？日本土方教授就昭和二年度的預算分析一下，有如下表：

第五十三表——日本昭和二年預算單純計算表(單位千圓)

| | | | |
|------|-----------|-------|-----------|
| 一般政費 | 1,550,000 | 勸業費 | 31,000 |
| 軍事費 | 8,311,000 | 社會事業費 | 1,550,000 |
| 司法費 | 5,300,000 | 以上計 | 1,011,200 |
| 教育費 | 8,360,000 | 官業 | 1,550,000 |
| 衛生費 | 9,330,000 | 公債利息費 | 7,311,000 |
| 土木費 | 1,550,000 | 合計 | 3,766,200 |

很明顯的可以看出來，以軍費為第一，年約四萬萬七千萬元約佔十二萬萬元總額的三分之一以上。其次是廠費，年約一萬萬七千萬元。若合官營工商業及公債利息在內，歲出總額達三十七萬萬元。

不過，日本的會計分普通會計及特別會計兩種。在普通會計之中，按各部來區分，歲出數目，以大藏省（即財政部）為最多，年約三萬萬六千萬元，佔總額的百分之二十二。遞信省（即交通部）次之，年約三萬萬四千萬元，佔總額的百分之二十以上，再次是海軍省，年約二萬萬六千萬元，佔總額的百分之十五以上，再次是陸軍省，年約二萬萬二千萬元，佔總額百分之十三以上。遞信的多額應出是最近幾年的事情。這是因為郵政，電報，電話費用增加的緣故。大藏省的歲出比例年漸低減，在明治初年為百分之五十以上，大正初年也在百分之三十以上，最近降到百分之二十上下。文部省的歲出，近年也有增加。這是最近日本地方財政困難，教育國庫負債總額增加的緣故。茲將普通會計的各部歲出額及百分比列表如次：

第五十四表—日本普通會計各省歲出額表（各年期平均額，單位千元）

年 期 總 額 皇室費 外務省 內務省 大藏省 陸軍省

本日金庫の與國案財政

| 明治 | 一八一八 | 一八一五 | 一六一二〇 | 二二一二五 | 二六一三〇 | 三一一三五 | 三六一四〇 | 四一一一一 | 大正 | 二一一六 | 七一一一 | 一一一一二 | 昭和三 | 昭和三 |
|-----|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 國庫券 | 一四四 | 一四四 | 二、三六 | 二、九六 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 地方債 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 | 七、八 |
| 公債 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 | 二、〇 |
| 銀行券 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 |
| 現金 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 |
| 合計 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 | 一、〇 |

昭和五

| | | | | | | |
|----|-----------|-------|--------|---------|---------|---------|
| 計 | 一・八四・八三五 | 四・五〇〇 | 三〇・七二三 | 三〇〇・〇七五 | 三九二・三〇〇 | 二四九・一〇六 |
| 經常 | 一・三三三・〇三三 | 四・五〇〇 | 一五・六六九 | 三〇〇・八四四 | 三三三・〇三五 | 一七六・六六六 |
| 臨時 | 三六四・三〇一 | — | 一五・〇六 | 九九・二三〇 | 一五九・四四五 | 三三〇・四三四 |

第五十四表—日本普通會計各省歲出額表(一)(各年期平均額,單位千元)

海軍省 司法省 文部省 農林省 商工省 逓信省 拓務省

| | | | | | | | |
|----|-------|--------|--------|-------|--------|----|-------|
| 明治 | 一一一八 | 一・〇三五 | 三六 | 六六 | — | 六五 | — |
| | 八一五 | 三・二九〇 | 一・四九九 | 一・三三〇 | 二・四三三 | — | 一・二五九 |
| | 一六一二〇 | 七・四〇四 | 三・三〇六 | 九三 | 一・二四四 | — | 二・六六四 |
| | 二一一二五 | 九・五五五 | 三・四三三 | 一・三三三 | 一・三三三 | — | 六・〇〇七 |
| | 二六一三〇 | 一〇・四四四 | 四・〇〇一 | 一・三三六 | 一・三三三 | — | 三・三〇一 |
| | 三一一三五 | 五・七三四 | 八・三三〇 | 五・三三四 | 六・一〇六 | — | 四・二三四 |
| | 三六一四〇 | 四・六三五 | 一〇・六三五 | 六・四九九 | 一・二八〇 | — | 五・六三三 |
| | 四一一一一 | 四・四三三 | 一三・六六六 | 九・〇九九 | 一五・五六一 | — | 五・三〇〇 |

日本國與本國國庫的財政

| 年 | 期 | 皇室 | 外務省 | 內務省 | 大藏省 | 陸軍省 | 海軍省 | 司法省 | 文部省 | 農商務省 | 遞信省 | 計 |
|----|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-----|-----|-----|------|-----|---------|
| 大正 | 二一六 | 一〇、八〇九 | 三、〇六六 | 一〇、九八 | 三、〇六六 | — | — | — | — | — | — | 八、〇四三 |
| | 七一 | 一、〇〇〇 | 一〇、一〇〇 | 一〇、一〇〇 | 四、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 一〇〇、〇〇〇 |
| 昭和 | 一一二 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 三六、〇〇〇 |
| | 三一五 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 三六、〇〇〇 |
| 昭和 | 三 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 三、〇〇〇 |
| | 三 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 三、〇〇〇 |
| 昭和 | 五 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 三、〇〇〇 |
| | 五 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 三、〇〇〇 |
| 昭和 | 計 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 一〇、〇〇〇 |
| | 計 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 一〇、〇〇〇 |
| 昭和 | 計 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 一〇、〇〇〇 |
| | 計 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 一〇、〇〇〇 |

(註)昭和二年度以上係決算三年度係國庫現計四年度五年度係預算。
 第五十五表—日本各省經費百分比變遷表

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 明治 | 一一一八 | 一・三 | 〇・六 | 一・七 | 四・九 | 五・五 | 三・三 | 二・三 | 〇・七 | 一・三 | 一・五 | 一・四 | 100・0 |
| | 八一五 | 三・三 | 一・一 | 五・九 | 五・〇 | 三・三 | 五・〇 | 三・三 | 一・九 | 三・六 | 一・六 | | 100・0 |
| | 一六一二〇 | 三・九 | 〇・九 | 一・四 | 四・四 | 五・〇 | 九・六 | 三・〇 | 一・二 | 一・五 | 三・七 | | 100・0 |
| | 二一一二五 | 三・六 | 〇・九 | 一・五 | 四・四 | 三・七 | 三・七 | 二・四 | 一・四 | 一・四 | 七・四 | | 100・0 |
| | 二六一三〇 | 三・三 | 〇・九 | 一・四 | 四・三 | 五・三 | 一・三 | 九・九 | 三・三 | 一・一 | 一・三 | 九・六 | 100・0 |
| | 三一三三五 | 一・一 | 〇・九 | 五・三 | 三・四 | 二・八 | 一・九 | 五・三 | 三・一 | 一・九 | 三・〇 | 一・五 | 100・0 |
| | 三六一四〇 | 〇・七 | 一・二 | 四・一 | 四・一 | 三・一 | 一〇・六 | 三・六 | 二・六 | 二・二 | 一・四 | 八 | 100・0 |
| | 四一一一 | 〇・六 | 〇・九 | 五・九 | 五・四 | 四・九 | 一・四 | 四・三 | 一・五 | 三・六 | 三・四 | | 100・0 |
| 大正 | 二一一一六 | 〇・七 | 一・〇 | 七・一 | 三・一 | 一・五 | 九・七 | 三・三 | 三・〇 | 一・七 | 三・六 | 三・四 | 100・0 |
| | 七一一一 | 〇・三 | 一・五 | 七・五 | 一・九 | 三・六 | 九・七 | 三・七 | 三・一 | 三・三 | 五・四 | 三・四 | 100・0 |
| | 一一一一一 | 〇・二 | 一・三 | 三・三 | 三・三 | 四・一 | 三・三 | 六・二 | 二・一 | 二・一 | 四・四 | 四・三 | 100・0 |
| 昭和 | 三一—五 | 〇・三 | 一・三 | 一・九 | 三・〇 | 三・一 | 一・五 | 七・三 | 三・一 | 七・四 | 四・一 | 四・〇 | 100・0 |

農林商
工合計
(拓務省
一三共)

右表中有幾件事很得注意：第一，沒有鐵道省，因為鐵道省是特別會計。第二，在明

治三十六至四十年俄戰爭期間，用軍費十九萬萬元陸軍省歲出反減少，這也因為歸入特別會計的緣故。第三，大正七年至十一年的海軍省歲出大增到三萬萬五千萬日元，佔總額的百分之二十七以上，以後便減少，這是因日本八八艦隊建造計劃開始，軍備大擴充的緣故，華盛頓會議以後，計劃中止，歲出也因爲減少。

(三)日本的中央歲入

——由剩餘減少到入不抵出——

日本普通會計的中央歲入，以租稅爲主，年約八九萬萬元，佔歲入總額的百分之五十四五以上，其次是官營事業及官有財產的收入，年約四五萬萬元，佔歲入總額的百分之三十以上。在明治初年，以借貸爲活，故公債及借入金最多，佔全歲入的百分之五十六以上。以後漸減少。昭和五年以後，民政黨斷行緊縮政策，實行不募債主義，公債及借入金遂等於零。這年代的兩極端各有其財政上的兩極端，頗可注意。

此外每年國庫剩餘金一項也值得注意。在明治初年財政繁亂無所謂剩餘。大正初年財政情形漸好，剩餘金也漸多。歐戰以來，稅收日多，官營各業也發達，歲入激增，財政入於好況之中，剩餘金也最多。大正九年至十四年，每年總剩餘五六萬元。大正十二年爲最

多，竟達六萬萬五千餘萬元。昭和元年以後一年不如一年，由五萬萬元減到四萬萬元，再減到二萬萬元，再減到五千萬元，再減到四千萬元。世界經濟恐慌發生以後，不僅把以前的剩餘都用光了，而且發生出入不能相抵，豫算不能平衡，所謂「赤字問題」而日本財政困難與年俱增，達於極點了。茲將日本普通會計的主要歲入來源金額及百分比列表如次：

第五十五表——日本普通會計主要歲入來源金額表（單位千元）

| 年 度 | 歲入總額 | 租 稅 | 印花收入 | 官業及官 有產業收 入 | 公債及 借入金 | 前年度 剩餘金 |
|------|---------|--------|------|-------------------|------------|------------|
| 第一期 | 三三〇,八九 | 三二,七 | — | 五 | 二六,七七〇 | — |
| 第五期 | 五〇,四四五 | 二八,四五 | — | 四四三 | 一七,八二五 | — |
| 明治一〇 | 五,三三六 | 四,七,五三 | — | 一,六一 | — | — |
| 一五 | 五,五〇六 | 六,七,七〇 | — | 一,八六 | — | — |
| 二〇 | 六,六,二一 | 六,六,三五 | — | 六,六,九九 | — | 二,一〇一 |
| 二五 | 一〇一,六六三 | 六,一,七三 | — | 九,七〇九 | — | 一,五,〇九 |
| 三〇 | 三三六,六〇 | 六,九,五三 | — | 二,三五〇 | — | 三,〇,三〇 |
| | | | | 一九,七七三 | | 一,八,二二五 |

本日基金的來源與國家財政

| | | | | | | | |
|----|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 三五 | 三、七、四〇 | 三、三、六二 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 四〇 | 六、七、〇〇 | 三、三、六二 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 大正 | 一 | 六、七、〇〇 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 二 | 三、二、五五 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 三 | 六、四、〇〇 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 四 | 六、六、六六 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 五 | 六、三、〇〇 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 六 | 一、〇、六六 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 七 | 一、四、九二 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 八 | 一、六、六六 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 九 | 二、〇〇、〇〇 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 一〇 | 二、〇〇、七九 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 一一 | 二、〇〇、三三 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |
| 一二 | 二、〇〇、六六 | 三、〇、六二 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 | 三、〇、〇〇 |

| 年 度 | 歲入總額 | 租 稅 | 印花收 入 | 官業及 官有財 產收入 | 公債及 借入金 | 前年度 繰越金 |
|-----|----------|--------|--------|-------------------|------------|------------|
| 一三 | 三・三三・五六一 | 六六・三三六 | 五二・七〇〇 | 六八三・二七 | 一七・九七〇 | 五〇三・五八 |
| 一四 | 三・〇七・三三三 | 六四・八〇九 | 五・五〇〇 | 四七・六三三 | 四六・五五〇 | 五〇三・四九 |
| 昭和一 | 三・〇五・五六一 | 六六・九〇九 | 三・三三六 | 四二・四二四 | 三三・〇三三 | 五〇六・六六一 |
| 二 | 三・〇三・七五五 | 六六・六三三 | 二・四四一 | 四七・四九二 | 六・〇九四 | 四七・七五五 |
| 三 | 三・〇五・六六一 | 六五・九二〇 | 六・五五九 | 四四・一九四 | 一五・〇六五 | 三九七・〇三 |
| 四 | 一・六二・〇六一 | 九〇・四〇六 | 六・二一六 | 四六・五五六 | 五・九四四 | 五五・四九四 |
| 五 | 一・六〇・七二六 | 六六・六〇九 | 五・五五六 | 五〇・二七九 | — | 四七・一〇一 |

(註)各年度均係決算惟昭和四年度及五年度係預算額。

第五十六表—日本普通會計主要歲入來源百分比變遷表

政財宗國與本資融金の本目

| 大正 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | 五三・五 | 五三・三 | 四六・六 | 四四・一 | 四三・六 | 三九・七 | 三三・一 | 三三・三 |
| | 四・二 | 四・三 | 三・六 | 四・五 | 四・七 | 四・一 | 四・四 | 三・五 |
| | 二〇・七 | 二〇・六 | 一八・三 | 二二・七 | 二二・五 | 二二・四 | 一九・五 | 一九・九 |
| | 二・七 | 二・七 | 一・三 | 〇・七 | 〇・三 | 一 | 三・四 | 一・一 |
| | 一〇・四 | 一三・〇 | 一〇・一 | 一一・一 | 一三・四 | 一 | 二二・六 | 二二・四 |

日本財政經濟研究

| 昭和 | 九 | 一〇 | 一一 | 一二 | 一三 | 一四 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 三〇.六 | 三六.〇 | 四〇.九 | 四三.四 |
| 四.一 |
| 一六.四 | 一六.一 | 一六.二 |
| 三.八 | 三.五 | 三.三 |
| 三.八 | 三.〇 | 三.四 | 三.一 |

(四)日本的特別會計

——國家出入的混雜原因——

日本在普通會計的一般支出入外，還有三十四個機關係屬特別會計範圍。這三十四

個大體可以分爲五類：(一)鐵路，製鐵所，專賣局等。(二)大藏省預金部(即存款部)，公債金，國有財產整理資金。(三)朝鮮，台灣，樺太(即庫頁)等殖民地會計。(四)各大學。(五)陸海軍兵器火藥廠等。這特別會計部份的歲出入情形有如下表：

第五十七表——日本特別會計部份的歲出入情形(單位千元)

| 會計名及所管省 | 歲 入 | | 歲 出 | |
|---------|-------|---------|-------|---------|
| | (外務省) | (內務省) | (大藏省) | (資本部) |
| 對華文化事業 | 四・六四一 | 二・五二六 | | |
| 健康保險 | | 二〇・八三三 | | |
| 造幣局 | | 五・九六三 | | |
| 資本部 | | 四・七五五 | | 四・七五三 |
| 印刷局 | | 九・九六六 | | 八・〇〇七 |
| 專賣局 | | 三三・三四二 | | 一六・〇七六 |
| 大藏省預金部 | | 一四一・〇七三 | | 一三三・一一〇 |
| 教育基金 | | 三六 | | 一 |
| 國債整理基金 | | 九〇・八六二 | | 八三・三九九 |

| | | | |
|-------------|-------|--------|--------|
| 公債金 | () | 五〇・五〇〇 | 五〇・五〇〇 |
| 賠償金 | () | 一六・六〇三 | 一六・六〇三 |
| 國有財產整理資金 | () | 九・二六六 | 四・六四三 |
| 教育改善及農村振興基金 | () | 七・三六六 | 七・三六六 |
| 陸軍造兵廠 | (陸軍省) | 四七・五九九 | 四七・五九九 |
| 千住製絨所 | () | 三・三三三 | 三・三三三 |
| 海軍工廠資金 | (海軍省) | 三九・三三三 | 三九・〇四四 |
| 海軍火藥廠 | () | 三・三三〇 | 三・一七六 |
| 海軍燃料廠 | () | 二四・四〇七 | 三三・三六八 |
| 帝國大學 | (文部省) | 二四・八三三 | 二四・八三三 |
| 資金部 | () | 一・五五五 | 二・三三三 |
| 官立大學 | () | 三・六六六 | 三・六六六 |
| 資金部 | () | 一・三三三 | 六・六六六 |
| 學校及圖書館 | () | 一七・三三三 | 一七・三三三 |

日本國與本國之財政

| | | |
|--------|---------|---------|
| 資金部 | 三五六 | 一、三三三 |
| 米穀需給調節 | 百・〇八 | 百・〇八 |
| 家畜再保險 | 三三 | 三三 |
| 製鐵所 | (農林省) | |
| 資本勘定 | (商工省) | |
| 用品勘定 | 三三・二八〇 | 四・一八〇 |
| 作業勘定 | 六六・三六 | 六六・六〇三 |
| 簡易生命保險 | 一三三・三五 | 一三三・九八八 |
| 郵便年金 | (遞信省) | |
| 帝國鐵路 | (鐵道省) | |
| 資本勘定 | 九・〇八 | 三・八三三 |
| 用品勘定 | 一七〇・九七 | 一七〇・九七 |
| 收益勘定 | 二〇六・五八〇 | 二〇六・五八〇 |
| 朝鮮總督府 | 六六・七六 | 五五・七六 |
| (拓務省) | 三三・六〇 | 三三・六〇 |

朝鮮鐵道用品資金

一八・五〇〇

一八・五〇〇

朝鮮簡易生命保險

()

一・六五五

六五五

台灣總督府

()

一七・四五六

一七・四五六

台灣官設鐵道用品資金

()

六・〇〇〇

六・〇〇〇

關東廳

()

三・五〇〇

三・五〇〇

樺太廳

()

三〇・六五六

三〇・六五六

南洋廳

()

四・六五〇

四・六五〇

因爲日本的特別會計很多，弄得國家出入關係複雜，二重計算頗爲不便，且使難明瞭日本國費全部正確情形如何。如若把普通會計和特別會計合在一齊，單總計算，則日本歲入及歲出數目，有如下表：

第五十九表—日本豫算單純計算表(單位千圓)

| 年 度 | 入 | 出 |
|-------|---------|---------|
| 大 正 一 | 八五五・四三三 | 八六一・八三三 |
| 二 | 九二四・六二四 | 九三三・六七五 |

日本金融資本與國家財政

| 昭和 | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 三 | ... | ... | ... |
| 四 | ... | ... | ... |
| 五 | ... | ... | ... |
| 六 | ... | ... | ... |
| 七 | ... | ... | ... |
| 八 | ... | ... | ... |
| 九 | ... | ... | ... |
| 一〇 | ... | ... | ... |
| 一一 | ... | ... | ... |
| 一二 | ... | ... | ... |
| 一三 | ... | ... | ... |
| 一四 | ... | ... | ... |
| 一 | ... | ... | ... |
| 二 | ... | ... | ... |

三

四

三・六三・三三

三・六二・三三

按照上表，日本的歲入年約三十八萬萬二千三百餘萬元，歲出年約三十六萬九千一百餘萬元。這日本會計的全體情形。

(五) 國債的內容

——起債原因的變遷——

日本的國債一年多似一年，在前面已經說過了。至於日本起債原因的變遷也值得我們注意。日本最初借債的原因多半都是爲「制度變重」，尤其是明治初年，封建制度正在崩潰的時期。最近已經很少，由百分之八十二（明治五年）降到百分之二（昭和三年）。這當然可以證明日本資本主義舊制度業已成熱。此外，爲築鐵路，築港，治水，製鐵等「殖產興產」事項最初起債不少。從明治三年借英款一百萬磅修鐵路起，直到現在仍佔很高的比例（昭和三年爲百分之三十以上）。此外，佔起債比例很高就是「軍事的債」（昭和三年佔百分之二十八以上），尤其是日俄戰爭後的明治末年（明治四十年佔百分之六十一以上）。這可以證明日本軍國主義的急進。這一次出兵東北，出兵上海，以及田中內閣出兵山東，都借了

不少的債。最近因爲財政整理及金融整理借債不少（昭和三年兩者共佔百分之二十三以上），這可以看見日本財政及金融的疲敝而紊亂。大地震後，日本爲復興又起債不少（昭和三年佔百分之八）。現在按照起債目的將日本國債數目及百分比列表如次：

第六十表——按起債目的區分日本國債額表（單位百萬元）

| 年度末總額 | 制度變更 | 殖產興業 | 軍 | 事 | 財政整理 | 拓殖事業 | 金融調復 | 興業 |
|-------|--------|------|-------|--------|------|------|------|----|
| 明治五 | 三六·一 | 三三 | 四·九 | — | — | — | — | — |
| 一〇 | 三六·三 | 三三·三 | 二·四 | 九·五 | 二·一 | — | — | — |
| 一五 | 二九·五 | 三〇·〇 | 一·六 | 一五·〇 | 五·六 | — | — | — |
| 二〇 | 二四·〇 | 一六·五 | 三·九 | 三三·〇 | 一三·九 | — | — | — |
| 二五 | 二六·〇 | 一八·一 | 三·六 | 三三·〇 | 一三·一 | — | — | — |
| 三〇 | 四三·二 | 二五·七 | 六·八 | 二〇·一 | 四·五 | — | — | — |
| 三五 | 五五·二 | 二九·九 | 一四·一 | 三二·八 | 四·七 | 一六·七 | — | — |
| 四〇 | 二二·六·三 | 一五·〇 | 三三·四 | 一八·九·七 | 四·六 | 三·六 | — | — |
| 大正一 | 二·五五·一 | 一〇·六 | 七·三·〇 | 一·六六·三 | 四·〇 | 五·五 | — | — |

日本政治經濟研究

| 年度 | 未總額 | 制度變 更 | 殖產興 業 | 軍 事 | 財政整 理 | 拓殖事 業 | 金融調 整 | 復興事 業 |
|----|---------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|
| 明治 | 五 100.0 | 八二.六 | 一.四 | — | — | — | — | — |
| 一〇 | 100.0 | 八四.一 | 一.〇 | 四.〇 | 〇.九 | — | — | — |
| 一五 | 100.0 | 八六.五 | 四.六 | 六.二 | 二.四 | — | — | — |
| 二〇 | 100.0 | 八三.六 | 一.四 | 八.五 | 五.三 | — | — | — |
| 三 | 三二.六 | 一〇九.一 | 七九.四 | 一.四六七.二 | 四.六 | — | — | — |
| 五 | 二.四七.七 | 七〇.七 | 七〇.五 | 一.三三三.六 | 一.四〇.四 | 九.五 | — | — |
| 七 | 二.五九.九 | 六.三 | 六九.三 | 一.三三六.六 | 一.三三.三 | 一.四〇.四 | — | — |
| 九 | 三.三四〇.〇 | 六.四 | 一.二四九.九 | 一.三三〇.九 | 一.三三.一 | 一.三六.六 | — | — |
| 一一 | 三.六六.七 | 六.一 | 一.四四〇.六 | 一.三九六.九 | 一.四〇.四 | 三.〇一.六 | — | — |
| 一三 | 四.三九.七 | 九.一 | 一.五五六.七 | 一.三三四.〇 | 二.六六.六 | 三.〇〇.九 | — | — |
| 一五 | 五.一七.六 | 九.九 | 一.六三三.九 | 一.三二六.一 | 四.〇三.〇 | 三.六六.六 | — | — |
| 三 | 五.六三.三 | 九.九 | 一.七五二.〇 | 一.三三三.七 | 四.二七.一 | 四.四三.五 | — | — |

第六十一表—按起債目的區分日本國債額百分比表

本日金の融貸本與國家財政

| | 昭和 | | 大正 | | | | | | | | | | |
|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 三 | 一 | 一 | 一 | 九 | 七 | 五 | 三 | 一 | 四〇 | 三五 | 三〇 | 二五 |
| | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | 一・六 | 一・九 | 二・三 | 二・六 | 三・〇 | 三・六 | 四・〇 | 四・三 | 四・二 | 五・一 | 三・三 | 三・〇 | 三・三 |
| | 三〇・三 | 三三・三 | 三五・〇 | 三六・三 | 三六・六 | 三三・三 | 三三・三 | 三三・三 | 三九・七 | 一〇・三 | 三三・七 | 一四・七 | 一七・七 |
| | 三六・六 | 三三・三 | 四一・〇 | 四二・三 | 三九・九 | 三三・三 | 三六・〇 | 三六・六 | 三六・七 | 三〇・六 | 三六・四 | 三六・〇 | 三六・六 |
| | 七・三 | 七・六 | 六・六 | 三・六 | 三・六 | 四・八 | 五・〇 | 一・九 | 一・九 | 二・四 | 七・七 | 一〇・三 | 三・四 |
| | 七・五 | 七・一 | 七・九 | 八・〇 | 五・五 | 四・八 | 三・六 | 三・八 | 二・五 | 一・三 | 三・〇 | 一 | 一 |
| | 一六・三 | 一七・七 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| | 六・六 | 六・六 | 六・三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

第四章 大集中傾向及財閥的形成

第一節 歐戰後日本產業的大集中

(一) 企業集中的一般觀察

——工場及公司數目的變化——

資本主義由羣小企業的叢立，進而有大企業的出現，再進而合同或聯合以使企業大規模化，獨佔化，乃是必然的趨勢。日本資本主義自然也不能獨外。恐慌的經過越多，小企業越難立足，集中的程度也更增高。日本在明治末年，五十人以下的小工場數目佔總數的百分之九十以上。五十人以上的中大工場數目很少。歐戰中的大正八年，小工場數目顯然減少到百分之八十八有奇，五十人以上不滿五百人的中工場數目及五百人以上的大工場數目都有增加。到昭和三年，小工場數目減到百分之八十七有奇，中工場數目增加到百分之九以上，大工場數目增加到百分之一。如下表：

第六十二表——按規模大小分別日本工場數目表

式形的開財及向傾中集大

| 年次 | 總數 | 實數 | 實數 | 實數 | 實數 |
|------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 明治四二 | 三・三六 | 二・八〇三 | 三・八六六 | 一・四六〇 | 九六〇 |
| 大正三 | 三・七七 | 一四・六五 | 一三・六五 | 一・六〇三 | 一・一五 |
| 八 | 四・〇九 | 一〇・二六 | 一五・二四 | 二・四七四 | 一・六六一 |
| 一三 | 四・五五 | 三・四一五 | 一五・九四六 | 二・五六五 | 一・九五三 |
| 昭和 三 | 五・四八 | 二九・二六 | 二・一五三 | 二・六五〇 | 二・二六三 |
| 明治四二 | 一〇〇・〇 | 三・一 | 三・九 | 四・五 | 三・〇 |
| 大正 三 | 一〇〇・〇 | 四・二 | 四・六 | 五・七 | 三・六 |
| 八 | 一〇〇・〇 | 四・六 | 五・五 | 五・六 | 四・三 |
| 一三 | 一〇〇・〇 | 四・四 | 四・三 | 五・三 | 四・〇 |
| 昭和 三 | 一〇〇・〇 | 五・〇 | 三・六 | 五・一 | 四・一 |

五人以上
十人未滿

十人以上
五十人未滿

五十人以上
未滿

百人以上
五百人未滿

五百人以上

若就工人數目而論則集中形勢更爲顯然。因爲一個大工場所用工人數目可以抵幾十個或幾百個小工場。在明治末年全部工人百分之四十四都在小工場裏工作，五百人以上的大工場不過佔百分之二十有奇。到了大正十三年小工場減到百分之三十有奇，大工場增到百分之三十七以上。昭和三年，五十八以下的小工場所用工人佔總數的百分之三十二有奇，五百人以下的中工場所用工人佔總數的百分之三十三以上，五百人以上的大工場所用工人佔總數的百分之三十四以上。大工場的勢力可以想見。按照工場規模大小以分別工人數目有如下表：

第六十三表——按照工場規模以分別日本工人數目表

| 年次 | 總數 | 五十人以上 十人未滿 | 五十人以上 十人未滿 | 五十人以上 百人未滿 | 一百人以上 百人未滿 | 五百人以上 |
|------|--------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------|
| 明治四二 | 八〇〇・六三 | 一〇六・四六 | 二四六・三三 | 三〇・九三 | 一〇〇・九九 | 一〇六・〇六 |
| 大正三 | 九〇九・三三 | 一〇一・〇一 | 二九一・三〇 | 三〇・五六 | 三三・〇四 | 二四一・三三 |
| 八一六二 | 九〇九・三三 | 一〇一・〇一 | 二九一・三三 | 三〇・五六 | 三三・〇四 | 二四一・三三 |

式形的開財及向類中集大

| 年 | 百 | 分 | 比 |
|-------|-------|------|------|
| 昭和 三 | 100.0 | 10.0 | 33.1 |
| 大正 三 | 100.0 | 10.0 | 33.0 |
| 明治 四二 | 100.0 | 10.0 | 33.1 |
| 八 | 100.0 | 8.5 | 33.6 |
| 一三 | 100.0 | 6.6 | 33.1 |
| 昭和 三 | 100.0 | 10.0 | 33.1 |
| 大正 三 | 100.0 | 10.0 | 33.0 |
| 明治 四二 | 100.0 | 10.0 | 33.1 |
| 八 | 100.0 | 8.5 | 33.6 |
| 一三 | 100.0 | 6.6 | 33.1 |

此外，就公司數目及公司資本兩方面也很容易看出日本資本主義的集中形勢來。由資本全數目以比較公司數目的多少，在明治年間，十萬元以下小公司數目佔總額的百分之八十左右，十萬元以上大公司數目佔總額的百分之二十左右。以後小公司年漸減少，大公司年漸增加，到最近，小公司數目減到百分之六十左右，而大公司增到百分之四十左右。如下表：

第六十四表——按照資本金額分別日本公司數目表

本日政治經濟研究

| 年次總數 | 實數 | 實數 | 實數 | 實數 | 實數 | 實數 | 實數 | 實數 |
|------|--------|--------|----|--------|----|--------|----|--------|
| 明治二七 | 三・六四 | 三・一七六 | 三〇 | 三・一七六 | 三〇 | 三・一七六 | 三〇 | 三・一七六 |
| 三〇 | 三・七〇七 | 四・四〇七 | 三三 | 三・七〇七 | 三三 | 三・七〇七 | 三三 | 三・七〇七 |
| 三三 | 八・五九六 | 五・五九六 | 三六 | 八・五九六 | 三六 | 八・五九六 | 三六 | 八・五九六 |
| 三六 | 九・二二六 | 六・二二六 | 三九 | 九・二二六 | 三九 | 九・二二六 | 三九 | 九・二二六 |
| 四一 | 二・五三四 | 八・五三四 | 四二 | 二・五三四 | 四二 | 二・五三四 | 四二 | 二・五三四 |
| 四三 | 三・六九七 | 一〇・六九七 | 四四 | 三・六九七 | 四四 | 三・六九七 | 四四 | 三・六九七 |
| 四五 | 一七・二九〇 | 一七・二九〇 | 四六 | 一七・二九〇 | 四六 | 一七・二九〇 | 四六 | 一七・二九〇 |
| 四七 | 三三・〇〇六 | 一四・三〇六 | 四八 | 三三・〇〇六 | 四八 | 三三・〇〇六 | 四八 | 三三・〇〇六 |
| 四九 | 二九・五二七 | 一四・五二七 | 五〇 | 二九・五二七 | 五〇 | 二九・五二七 | 五〇 | 二九・五二七 |

五萬元
未滿
五萬元以上
十萬元以上
五十萬元以上
一百萬元以上
五百萬元以上

日本政治經濟研究

| | | | | | | | |
|-----|------|----|-----|-----|---|---|---|
| 八 | 1000 | 壹萬 | 110 | 151 | 壹 | 六 | 四 |
| 九 | 1000 | 壹萬 | 110 | 151 | 壹 | 壹 | 六 |
| 一〇 | 1000 | 壹萬 | 111 | 151 | 壹 | 壹 | 六 |
| 一三 | 1000 | 壹萬 | 111 | 151 | 壹 | 壹 | 六 |
| 昭和二 | 1000 | 壹萬 | 111 | 151 | 壹 | 壹 | 六 |
| 三 | 1000 | 壹萬 | 111 | 151 | 壹 | 壹 | 六 |

若就資本金及出資額來說，則集中形勢更為顯然，因為一個大公司可一以抵幾十個或幾百個小公司。在明治年間，日本全國十萬元以下的小公司所有的資本金合計佔公司投資總額的百分之十幾，而十萬元以上的大公司所有的資本金合計佔公司投資總額的百分之八十乃至九十。以後一年年小公司資本金減少，大公司資本金增多，到昭和三年，小公司資本金僅佔百分之三有奇，而大公司佔百分之九十六以上。其中，尤以五百萬元以上的大公司激進的更快。在明治年間佔百分之三十幾，大正初年佔百分之五十幾，大正十三年以後佔百分之六十幾，而且依一條直線前進，與年俱增。看下表：

第六十五表：按照公司規模分別日本實收資本金出資額表

大集中傾向及財源の形式

| 年次總數 | 實 | | 數 (單位百萬元) | |
|------|------|------|-----------|------|
| | 未滿 | 以上 | 未滿 | 以上 |
| 明治二七 | 三〇・三 | 一六・七 | 三〇・三 | 一六・七 |
| 三〇 | 三三・三 | 一六・七 | 三三・三 | 一六・七 |
| 三三 | 三六・六 | 一六・七 | 三六・六 | 一六・七 |
| 三六 | 三九・九 | 一六・七 | 三九・九 | 一六・七 |
| 三九 | 四二・二 | 一六・七 | 四二・二 | 一六・七 |
| 四二 | 四五・五 | 一六・七 | 四五・五 | 一六・七 |
| 大正 一 | 四八・八 | 一六・七 | 四八・八 | 一六・七 |
| 四 | 五一・一 | 一六・七 | 五一・一 | 一六・七 |
| 七 | 五四・四 | 一六・七 | 五四・四 | 一六・七 |
| 八 | 五七・七 | 一六・七 | 五七・七 | 一六・七 |
| 九 | 六〇・〇 | 一六・七 | 六〇・〇 | 一六・七 |

五萬元
五萬元以上
十萬元以上
五十萬元以上
一百萬元以上
五百萬元以上
以上

日 本 治 理 研 究

| 年 代 | 額 (千 分) | 比 (%) |
|--------|----------|-------|
| 昭 和 一〇 | 10,000.0 | 10.0 |
| 昭 和 一三 | 10,000.0 | 10.0 |
| 昭 和 二一 | 13,000.0 | 13.0 |
| 昭 和 二二 | 13,000.0 | 13.0 |
| 昭 和 二五 | 13,000.0 | 13.0 |
| 昭 和 二七 | 10,000.0 | 10.0 |
| 昭 和 三〇 | 10,000.0 | 10.0 |
| 昭 和 三三 | 10,000.0 | 10.0 |
| 昭 和 三六 | 10,000.0 | 10.0 |
| 昭 和 三九 | 10,000.0 | 10.0 |
| 昭 和 四二 | 10,000.0 | 10.0 |
| 大 正 一 | 10,000.0 | 10.0 |
| 大 正 四 | 10,000.0 | 10.0 |
| 大 正 七 | 10,000.0 | 10.0 |

式形的閱財及向額中集大

| 昭和 | 一〇 | 一三 | 二二 | 三三 |
|------|------|------|------|------|
| 八 | 九 | 一〇 | 一一 | 一二 |
| 一〇〇〇 | 一〇〇〇 | 一〇〇〇 | 一〇〇〇 | 一〇〇〇 |
| 二四 | 二〇 | 一六 | 一六 | 一五 |
| 三三 | 三三 | 二六 | 二六 | 二五 |
| 六六 | 六六 | 六〇 | 六六 | 六五 |
| 六七 | 六七 | 六〇 | 六六 | 六五 |
| 三三 | 三三 | 三三 | 三五 | 三五 |
| 三五 | 三五 | 三五 | 三五 | 三五 |
| 三五 | 三五 | 三五 | 三五 | 三五 |
| 三五 | 三五 | 三五 | 三五 | 三五 |

——重工業基礎的獨佔化——

重工業是一切工業的基礎，而礦業是重工業的基礎。現在我們看看日本礦業的集中形勢如何。

第一，日本煤油生產集中的形勢最顯然。現在日本石油株式會社一家所產煤油每年達一百四十四萬餘石，佔全國產額一百六十萬石的百分之九十。其實數及百分比如下表：

| 年 | 次 | 內地總產額 | 日本石油株式會社產額 | 內地產額中石所佔百分比 |
|-------|-----------------|-------|------------|-------------|
| 第六十六表 | 日本煤油生產集中額(單位千元) | | | |

第二，日本煤生產的集中形勢也很顯然。在日本全國煤產之中，六個財閥及官業的產額佔一半以上，而三井，三菱兩大財閥的產額佔三分之一。日本煤油集中形勢有如下表：

| 資本系統 公司名 | 三井鑛山 | 三菱鑛業 | 三井 | 北海炭鑛 | 明治鑛業 | 安川 | 貝島鑛業 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 大正 | 三・九六 | 三・七五 | 一・四六 | 一・四六 | 一・四三 | 一・三三 | 一・三三 |
| 一〇 | 三・三六 | 三・一〇 | 二・〇〇 | 二・〇〇 | 一・〇三 | 一・三六 | 一・三六 |
| 一四 | 四・四三 | 三・六六 | 三・九〇 | 一・四六 | 一・四六 | 一・三六 | 一・三六 |
| 昭和 | 三・〇七 | 三・五三 | 三・三六 | 三・三六 | 一・五三 | 一・四三 | 一・四三 |

第六十七表—日本煤生產額集中表（單位千公噸）（上）

第六十七表—日本煤生產額集中表（單位千公噸）（下）

| 資本系統 公司名 | 淺野 | 官業 | 野 | 以上合計 | 內地總產額中 七事業者百分比 |
|-------------|------|------|------|------|-------------------|
| 大正 | 三・三三 | 三・四九 | 三・六一 | 三・五三 | 五七・七% |
| 一〇 | 三・六一 | 三・三三 | 三・四九 | 三・三三 | 四七・三% |

第三，日本銅生產的集中更為明顯。五大財閥所支配七個銅山的生產額，在大正八年全國生產總額的百分之七十四以上，大正十三年增到百分之八十六，昭和三年又突過百分八十六以上。如下表：

第六十八表—日本內地銅生產額集中表（單位千斤）（上）

| 資本系統 | 古河 | 住友 | 藤田 | 久原 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 銅山名 | 尾 | 別子 | 小坂 | 佐賀關 |
| 大正 | 三三,七九九 | 一七,一〇〇 | 一五,〇〇六 | 二二,一四九 |
| 昭和 | 三三,三三九 | 一六,〇六五 | 一四,〇一〇 | 二二,〇〇六 |

第六十八表—日本內地銅生產額集中表（單位千斤）（下）

| 資本系統 | 三井 | 三菱 | 七銅山 | 總產額 | 內地產額中七銅山所佔百分比 |
|------|--------|-------|--------|---------|---------------|
| 銅山名 | 直島 | 尾去澤 | 合計 | 總產額 | 內地產額中七銅山所佔百分比 |
| 大正 | 一六,四〇〇 | 四,〇三三 | 二〇,四三三 | 一〇〇,〇〇〇 | 二〇,七〇〇 |

| | | | | | |
|------|------|-------|--------|---------|--------|
| 大正一三 | 六〇六一 | 五三三三 | 九〇,四〇九 | 一〇五,〇四三 | 六〇〇% |
| 昭和二三 | 八〇九六 | 五,六六五 | 九六,五五三 | 一三三,七三一 | 八六,七七% |

(三)工業及運輸業的集中

——主要四大類的顯然獨佔

日本的工業也都集中於幾個大公司，擇其中重要的說明如次：

第一，棉紗紡織業的集中。日本全國棉紗紡織業都集中在大日本，東洋，鐘淵，富士瓦斯等六大公司之手。這六大公司的錠子數佔全國總數的一半以上，資本金及公積金也都佔一半上下。其情形如下表：

第六十九表 日本棉紗紡織業集中表(昭和四年六月)

| 公司名 | 大日本 | 東洋 | 鐘淵 | 富士瓦 | 大阪合 | 日清 | A | B | 全國 | A/B |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 公積金(千圓) | 五,〇〇〇 | 三,〇〇〇 | 六,〇〇〇 | 三,〇〇〇 | 〇,〇〇〇 | 一六,〇〇〇 | 一六,〇〇〇 | 四九,〇〇〇 | 四九,〇〇〇 | 四〇 |
| 錠子數(千錠) | 五〇三 | 三三三 | 六三三 | 四三三 | 四三三 | 四三三 | 四三三 | 四三三 | 四三三 | 五 |

第二，電氣工業的集中。日本的電氣工業都集中在東京電燈，在邦電力，大同電力等五

式形的圖財及向傾中集大

個公司之下。這五個公司的資本金佔日本全國電工業資本金總額的四分之一以上。此若加上在他們支配下的公司計算，則幾佔百分之四十。發電力佔全國總電力的一半以上。加上支配下的公司則佔百分之六十九以上。如下表

第七十表—日本電氣事業集中表（昭和三年）上

| 公稱資本 (千圓) | | 現在發電力 (散瓦特) | |
|--------------|------------|----------------|-----------|
| 本公司 | 支配下公司 | 本公司 | 支配下公司 |
| 東京發燈 | 東邦電力 | 大同電力 | 日本電力 |
| 4,712,000 | 1,000,000 | 1,600,000 | 3,000,000 |
| 1,612,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 3,000,000 |
| 5,550,000 | 3,500,000 | 3,500,000 | 1,000,000 |
| 合 計 | 合 計 | 合 計 | 合 計 |
| 10,874,000 | 10,874,000 | 7,000,000 | 7,000,000 |

第七十表—日本電氣事業集中表（昭和三年）下

宇治川電氣 A 五社合計 B 全 國 A B %

日本政治經濟研究

現在發電力(歐羅瓦特) 強流電機製造業也集中在芝浦製作所，三菱電機，日立製作所等四個公司之下。這四個公司的資本佔全國的百分之二十八以上，所用工人及技術員等佔百分之七十以上，年產額佔百分之七十七以上。如下表：

第七十一表 日本強流電機製造集中表(昭和二)

| 公司名 | 芝浦製作所 | | 日立製作所 | | 富士電機 | | A四公司 | | B全 | | A B % |
|--------------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|-----------|-------|
| | 機 | 機 | 機 | 機 | 機 | 機 | 機 | 機 | 機 | 機 | |
| 實收資本(千圓) | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 1,150,000 | 1,150,000 | 1元・8 |
| 事務員 | 1,314 | 1,314 | 1,314 | 1,314 | 1,314 | 1,314 | 1,314 | 1,314 | 4,330 | 4,330 | 1 |
| (人)工人及其他 從業者(人) | 2,638 | 2,638 | 2,638 | 2,638 | 2,638 | 2,638 | 2,638 | 2,638 | 16,337 | 16,337 | 1 |

| 公稱資本 (千圓) | 本公司 | | 支配下公司 | | 合計 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 本公司 | 支配下公司 | 本公司 | 支配下公司 | |
| 現在發電力(歐羅瓦特) | 2,500 | 2,500 | 2,500 | 2,500 | 5,000 |
| 合計 | 2,500 | 2,500 | 2,500 | 2,500 | 5,000 |
| 合計 | 2,500 | 2,500 | 2,500 | 2,500 | 5,000 |

年產額(千圓) 10,000 11,000 13,100 14,500 15,500 17,500 17,500

包括輕電機及電球製造業在內

第三，日本製糖業的集中。日本的糖業都集中在台灣製糖，明治製糖，大日本製糖三個公司之下，粗糖產額佔全國總額的百分之六十七以上，精糖產額的百分之八十二以上。如下表：

第七十二表 日本製糖事業集中表(昭和三十一年)

| 實收資本金(千圓) | 台灣製糖 | | 明治製糖 | | 大日本製糖 | | A三社合計 | | B全 | | 國 | | A B % | |
|---------------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|
| | 金額 | % | 金額 | % | 金額 | % | 金額 | % | 金額 | % | 金額 | % | 金額 | % |
| 在台灣的甘蔗耕作面積(甲) | 35,700 | 100.00 | 110,300 | 100.00 | 107,000 | 100.00 | 253,000 | 100.00 | 108,600 | 100.00 | 462,000 | 100.00 | 462,000 | 100.00 |
| 粗糖生產高(千斤) | 3,600,000 | 100.00 | 3,300,000 | 100.00 | 3,300,000 | 100.00 | 10,200,000 | 100.00 | 10,200,000 | 100.00 | 10,200,000 | 100.00 | 10,200,000 | 100.00 |
| 精糖生產高(千斤) | 1,600,000 | 100.00 | 1,500,000 | 100.00 | 1,500,000 | 100.00 | 4,500,000 | 100.00 | 4,500,000 | 100.00 | 4,500,000 | 100.00 | 4,500,000 | 100.00 |

第四，洋灰，肥料，造紙工業的集中。這三種工業各集中在不同的三四個大公司手裏。這不同的兩三公司的產額都佔日本全國總額的一半以上，其中尤以造紙為甚，佔百分之八十六以上。茲將這三種工業中情形分別列表如次：

第七十三表 日本洋灰生產集中表(昭和四年)

| | | | | | | |
|-----------|---------|-------|---------|-------|---|---|
| 公 司 名 | 洋 野 | 小 野 田 | 二 社 合 計 | 全 國 | A | B |
| 公稱資本(千圓) | 106・330 | 3・000 | 109・330 | 3・330 | | |
| 年產能力(千樽) | 22・200 | 5・000 | 27・200 | 2・000 | | |
| 實 產 額(千樽) | 6・900 | 4・700 | 11・600 | 3・000 | | |

第七十四表 日本過磷酸肥料生產集中表(昭和三年)

| | | | | | | | | |
|---------|-------|---------|---------|--------|-------------|---------|--------|---|
| 公 司 名 | 大 日 本 | 多 木 製 肥 | 住 友 肥 料 | 拉 薩 島 | 鐵 四 公 司 合 計 | 全 國 | A | B |
| 生產額(千貫) | 82・5 | 3・900 | 2・300 | 33・300 | 119・600 | 223・600 | 50・500 | |

第七十五表 日本造紙業集中表(昭和三年)

| | | | | | | | |
|------------|---------|---------|---------|-------------|-------------------------|---|---|
| 公 司 名 | 富 士 製 紙 | 王 子 製 紙 | 樺 太 工 業 | A 三 公 司 合 計 | B 製 紙 聯 合 會 所 附 公 司 總 計 | A | B |
| 工場數(工場) | 16 | 13 | 8 | 37 | 3 | | |
| 抄紙機台數(台) | 100 | 100 | 100 | 300 | 100 | | |
| 洋紙生產額(百萬磅) | 300 | 300 | 300 | 1・330 | 1・000 | | |

第四，海運業的集中，運輸業中鐵路的由政府獨佔可以不必說了。海運方面則集中於日本郵船，大阪商船兩公司。這兩公司的資本金及輪船噸數均佔日本全國總額的百分之三十以上。如下表：

第七十六表—日本海運業集中表(昭和三年)

| 公司名 | 日本郵船 | 大阪商船 | 二公司合計 | 全 國 |
|-----------|-------|-------|-------|-----------|
| 實收資本金(千圓) | 壹,三〇〇 | 壹,五〇〇 | 二,八〇〇 | 四〇,〇〇〇 |
| 輪船數(隻) | 壹 | 一五〇 | 一五〇 | 三,三三三 |
| 輪船總噸數(噸) | 壹,〇〇〇 | 一,〇〇〇 | 二,〇〇〇 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |

第二節 金融業的集中

(一) 戰後日本銀行的合併運動

——二十二年間減少一千個——

日本自歐戰以來，不僅是各種產業成大量集中的形勢，銀行業方面也有很顯著的集中傾向。這銀行業的集中由兩方面而成：一個是銀行本身的發達，即銀行資本的增加；一個是銀行的合併及合同，即銀行行數的減少。在歐戰以前，日本的銀行資本佔極少額。例如，

普通銀行在戰前的大正二年（民國二年）末，公稱資本金不過五萬萬六千七百萬元，實收資本金不過三萬萬九千二百萬元，但是到了戰後的大正七年（民國七年），公稱資本金增到二十三萬萬六千五百萬元，實收資本金增到十四萬萬八千一百萬元之多，戰後比戰前有三倍乃至四倍的增加。同時，銀行行數由一千六百十四行減到一千二百八十三行。因此，日本的銀行便成爲集中的形勢。銀行行數的減少主要原因在合同及合併，其實在情形有如下表：

第七十七表—歐戰以來日本銀行合同及合併及其減少行數表

| 年次 | 合同合併 加行數 | 因合同 新立行數 | 未合同之 存續行數 | 因合同 消滅行數 | 除去新立 實減行數 |
|----|-------------|-------------|--------------|-------------|--------------|
| 大正 | | | | | |
| 五 | 一五 | 一 | 九 | 一〇 | 九 |
| 六 | 三 | 二 | 一五 | 二 | 一九 |
| 七 | 三三 | 二 | 三 | 三 | 二五 |
| 八 | 一〇 | 四 | 與 | 天 | 西 |
| 九 | 二 | 二 | 與 | 星 | 星 |
| 一〇 | 三三 | 三 | 萬 | 六 | 三 |

大集中類商及財的圖式

| | | | | | |
|-----|-------|----|----|-------|-----|
| 一 | 一〇三 | 四 | 五 | 六 | 四 |
| 二 | 一五 | 一 | 六 | 三 | 九 |
| 三 | 六 | 七 | 四 | 五 | 四 |
| 四 | 二五 | 一〇 | 五 | 五 | 五 |
| 昭和 | 一五 | 六 | 五 | 九 | 一〇 |
| 一 | 三六 | 四 | 六 | 一四 | 一〇 |
| 二 | 三〇 | 五 | 三 | 一四 | 一〇 |
| 三 | 三〇 | 三 | 三 | 一三 | 一〇 |
| 合 計 | 一・三〇一 | 三三 | 六五 | 一・〇〇八 | 九二六 |

由上表可以看出來，在大正五年（民國五年）因為合併及合同的緣故，僅減少九個銀行，大正八年（民國八年）便減少五十四個銀行，大正十年（民國十年）減少六十五個銀行，昭和元年（民國十五年）減少一百個銀行以上，昭和三年（民國十七年）減少近二百個銀行；從大正五年到昭和三年的十二年間共減少了近一千個銀行（九百十六個）集中的作用自然是不小。

(一) 資本的集中

——大銀行的增進趨勢——

因為銀行的集中，所以資本多的大銀行漸多，而資本少的小銀行漸少。在明治三十年（一八九七年）不滿十萬元的小銀行有七百七十八行之多，在總數一千三百零五個銀行之中，佔百分之五十九以上，超過一半，二百萬元以上的大銀行一個也沒有。到了昭和三年不滿十萬元的小銀行僅有九十九個，在總數一千零三十一個中僅佔百分之九，而百萬元以上的大銀行有二百一十七個之多，佔總數的百分之二十一以上，而五千萬日元以上的最大銀行也有了八個。其詳細有如下表。

第七十八表——日本普通銀行各種資本金別行數表

| 年 | 次 | 十萬元 | 十萬元 | 五十萬元 | 百萬元 | 二百萬元 | 五百萬元 | 千萬元 | 五千萬日元 | 以上 | 計 |
|----|----|-----|-----|------|-----|------|------|-----|-------|----|-------|
| 明治 | 三〇 | 七五 | 四三 | 四 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一・三〇五 |
| 大正 | 三 | 五三 | 六六 | 三 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一・四四五 |
| | 八 | 四四 | 五五 | 三六 | 九 | 四 | 三 | 六 | 一 | 一 | 一・三〇五 |

到了昭和三年大部份（一半以上）都在千萬元及五千萬元以上。其詳細有如下表：

第七十九表——日本普通銀行資本金大小別資本額表

| 年 | 計 | | | | | |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 十萬元以上 | 五十萬元以上 | 一百萬元以上 | 二百萬元以上 | 五百萬元以上 | 一千萬元以上 |
| 明治三〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 大正 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 昭和 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 | 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 同上 | 百分比 | | | | | |
| 明治三〇 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 |
| 大正 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 |
| 昭和 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 |

日本政治經濟研究

| | | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|------|-----|-----|-----|-----|--------|
| 大正 | 三・四・五 | 二・三・三 | 三・三・三 | 三・三・三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 100・00 |
| | 八 | 一・三 | 六・九 | 一〇・三 | 一〇・九 | 九・六 | 三・五 | 吳・五 | 一 | 100・00 |
| | 一三 | 〇・五 | 三・六 | 九・六 | 二・四 | 三・六 | 三・五 | 三・五 | 一 | 100・00 |
| 昭和 | 三 | 〇・三 | 三・五 | 六・五 | 一・五 | 二・三 | 三・〇 | 三・六 | 三・六 | 100・00 |

(三) 存款的集中

——十二大銀行佔一半以上——

不僅是銀行的資本金集中於大銀行，那全國人民的存款也集中於大銀行，尤其是在幾次經濟恐慌之後。在昭和元年（民國十五年）日本十二個大銀行的存款佔全國所有銀行存款的百分之四十一，昭和二年（民國十六年）增到百分之四十六及四十七，昭和三年（民國十七年）竟超過一半，到百分之五十及五十一有奇，其餘的銀行一千一百六十餘家合計也追趕不上，集中的進展更形激急了。其詳細如下表：

第八十表——日本十二大銀行存款集中表

| 銀 | 行 | 昭和元年 | 昭和二年 | 昭和二年 | 昭和二年 | 昭和三年 | 昭和三年 |
|---|---|------|------|------|------|------|------|
| | | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 下期 |

日 本 政 治 經 濟 研 究 院

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 安田銀行 | 三井銀行 | 第一銀行 | 三菱銀行 | 川崎第百銀行 | 住友銀行 | 三十四銀行 | 山口銀行 | 鴻池銀行 | 愛知銀行 | 名古屋銀行 | 明治銀行 | A 以上小計 | B 其他 |
| 三〇・五〇〇 | 三〇・五〇〇 | △四九・五七 | 三六・八〇〇 | ×三三三・三三三 | 四〇〇・一〇〇 | 五〇〇・三〇一 | 二〇〇・三三三 | 三三三・三三三 | 一三三・三三三 | 二二二・三三三 | 一一一・三三三 | 三三三・三三三 | 三三三・三三三 |
| 六六・六六六 | 五九・六六六 | 五〇・六六六 | 四六・六六六 | 三〇六・六六六 | 三三三・三〇一 | 三三三・一三三 | 一一〇・三三三 | 一一三・一〇六 | 一三三・一三三 | 一〇六・三三三 | 一三三・一三三 | 四〇六・六六六 | 四・三三三・三三三 |
| 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 |
| 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 |
| 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 |
| 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 |
| 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 |
| 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 | 三三・三三三 |

| | | | | | |
|------------|---------|--------|----------|---------|---------|
| C 全國普通銀行合計 | 九〇.三〇.〇 | 八六〇.八二 | 八〇.〇六.〇三 | 九〇.五.六三 | 九二.五.九六 |
| A 對 C 之百分比 | 四〇.三 | 四六.〇 | 四〇.〇 | 四〇.〇 | 四〇.〇 |

△包含東海銀行在內

* 係川崎銀行及第百銀行的合計

大集中傾向及財閥的形態

若就安田，三井，三菱，第一，住友五個最大的銀行來看，則存款集中更顯然。這五大銀行的存款自昭和元年未到昭和三年末的期間，百分比由二十四增到三十四，存款實數由二十二萬二千三百四十萬元，增到三十一萬萬二千九百萬元，增加額為八萬萬九千五百萬元。如若除去這五大銀行，其他的全國一千一百六十餘銀行合計尚減少七萬萬一千一百萬元。變化的烈可以想見。在貸出方面，五大銀行在同期間有一萬萬三千六百萬元的增進，但是除去五大銀行以外，其餘全日本普通銀合計尚減少一十二萬萬四千一百萬元。其詳細有如下表：

第八十一表—日本五大銀行存款及貸出集中表

預 金 貸

出

| 年次 | 全國普通銀行 | 除五大銀行外的全國普通銀行 | 全國普通銀行 | 除五大銀行外的全國普通銀行 |
|------------|---------------|---------------|---------------------|---------------|
| 昭和元年十二月末 | 百萬元 百萬元 | 百萬元 | 百萬元 百萬元 | 百萬元 |
| 同二年六月末 | 九〇三・二・三三 | 六・七五 | 八・四三 | 六・六三 |
| 同二年十二月末 | 八八〇・二・七六 | 六・〇〇 | 八・三九 | 六・三五 |
| 同三年六月末 | 八五〇・二・六元 | 六・〇七 | 八・三九 | 六・三五 |
| 同三年十二月末 | 九〇五・三・〇〇 | 六・〇四 | 七・四五 | 五・八三 |
| 昭和元年三月末的比較 | 六・三五 三・二九 | 六・〇六 | 七・三六 | 五・四三 |
| | (+) 二倍 (+) 公證 | 二倍 | (+) 1.10倍 (+) 1.15倍 | 二倍 |
| | (-) 1.41 | | (-) 1.10倍 (+) 1.15倍 | |

(四) 信託保險業的集中

——大公司至少佔四分之一——

銀行以外的金融資本，如信託公司及保險公司等，在戰後的日本也呈集中的形勢。就信託業而論，三井，安田，住友，三菱，四家的資本，在總數三十七個之中約佔百分之三十，信託財產總額約佔百分之七十，金錢信託佔百分之七十二以上，其餘的三十三個公司反

佔極小的比率。其實在數目如下表：

第八十二表—日本信託事業的大公司集中表(昭和四年)

| | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|------|
| 實收資本金 | 井安 | 田住 | 友三 | 菱A | 四社合計B | 國A | B |
| (千圓) | 7,000 | 4,000 | 5,000 | 4,000 | 24,000 | 25.5% | |
| 信託財產總額 | 56,000 | 30,000 | 27,000 | 16,000 | 109,000 | 1.0% | 1.0% |
| 金額信託 | 30,000 | 15,000 | 16,000 | 8,000 | 69,000 | 1.2% | 0.3% |

保險業方面也是如此。日本，明治，帝國，千代田，第一，安田，六個公司的資本金及基金在日本全國四十二個公司竟佔到百分之二十六以上，責任準備金及支出備金約佔百分之五十。其實在數目如下表：

式形的圖財及向傾中集大

第八十三表—日本生命保險事業的大公司集中表(昭和三年)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 實收資本金 | 日 | 本 | 明 | 治 | 帝 | 國 | 千 | 代 | 田 | 第 | 一 | 安 | 田 | 合 | 計 | 全 | 國 | A | B |
| 及基金 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 責任準備金 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 及支出備金 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

第三節 財閥的形成及其內容

(一) 金融業的支配產業

——股票及社債均在銀行把握中——

銀行等金融業既形成大集中，其在經濟上之勢力當然已經很大，但是仍不僅此，並且進一步可以支配各種產業，因而握經濟全部之牛耳。在以前，經濟界最有權威的是工業家，工場主，如今則工業家，工場主亦爲人所支配。支配的是金融資本家了。

金融資本家爲什麼能支配產業？這有兩個原因：(一)各公司的股票大部份都被金融資本家所收買，因而居于股東的地位；(二)各公司的社債都是金融資本家所借貸，因而居于債主的地位。據昭和元年(民國十五年)的調查，日本金融家(包括銀行，信託公司，存款部，保險公司四種金融機關)所有的五十三萬萬五千八百萬元有價證券之中，公司的社債及股票佔二十二萬萬九千五百萬元，約爲一半。但在擔保貸出方面，總貸出額的二十九萬五千二百萬元之中有二十七萬萬四千四百萬元是公司方面所借的。如若將這兩種(金融資本家所保有的社債股票及擔保貸出)合起來計算，社債的百分之六十五以上，股票的百分之二十七以上，都在金融資本家手裏，金融資本家在產業界的勢力可以想見了。實在數目

大集中額內向財團的形態

有如下表：

第八十四表—日本金融資本家所有的有價證券表(昭和元年未調查)

| | 金額 | | 百分比 | |
|------------|-------------|---------|---------|---------|
| | 金額 | 佔總額 | 金額 | 佔總額 |
| (1) 公債 | 100,000,000 | 100.00% | 100.00% | 100.00% |
| (2) 社債 | 100,000,000 | 100.00% | 100.00% | 100.00% |
| (3) 股票 | 100,000,000 | 100.00% | 100.00% | 100.00% |
| (2) 及 (3) | 200,000,000 | 200.00% | 200.00% | 200.00% |
| 以上總計 | 300,000,000 | 300.00% | 300.00% | 300.00% |
| △包含外國公社債在內 | | | | |

日本現在一切產業的經理部都有金融資本家的代表支配和監督着。這銀行的金融資本家兼理工商業，因而握有經濟全部利權的便成爲「財閥」。所以日本的財閥，一方面是握有銀行金融資本，同時支配着工商業。

(二)日本財閥的內容

——八大財閥與九小財閥——

現在日本經濟界的王座自然是財閥了。日本的財閥也不祇一個，最著名的一等財閥有八個。這八大財閥握住日本的重工業。因為重工業煤，鐵，鑛產及機械工業等是資本主義經濟的基礎，所以大財閥必首先握有重工業。日本握有重工業的八個財閥之中以三井，三菱，住友為最大。茲將支配日本重工業的財閥及其所支配的產業列表如左：

第八十五表 支配重工業的日本財閥表(單位日金萬圓)

| 財閥 | 採掘 | 製煉 | 機械工作(包括造船) |
|------|-------------|------------|------------|
| 三井財閥 | 三井鑛山(一〇〇〇〇) | 芝浦製作(二〇〇〇) | |
| | 北海道煤鑛(七〇〇〇) | 日本製鋼(三〇〇〇) | |
| | 小野洋灰(一四八〇) | 三井造船部(一一) | |
| | 釜山鑛山(二〇〇〇) | | |
| | 太平洋煤鑛(一〇〇〇) | | |
| | 松島煤鑛(五〇〇) | | |

三菱財閥

基隆煤礦(一〇〇〇)

三菱礦業(一〇〇〇〇)

三菱製鐵(二五〇〇)

九川煤汽(五〇〇)

中島鑛業(一一)

雄別煤礦(五〇〇)

住友財閥

住友合資(一五〇〇〇)

住友煤礦(一〇〇〇)

古河財閥

古河鑛業(二二五〇)

大正鑛業(一一)

三菱造船(五〇〇〇)

三菱電機(一五〇〇)

三菱燃機(五〇〇)

日本光學(三〇〇)

住友電線(一〇〇〇)

住友製鋼(二二〇〇)

住友伸銅(一五〇〇)

古河電氣(二〇〇〇)

日本伸銅(五〇〇)

日本電線(二〇〇)

尾崎伸銅(二二〇)

大阪製煉(三〇〇)

藤田財閥 藤田鐵業(三〇〇〇)
久原財閥 久原鐵業(七五〇〇)

富士電機(一〇〇〇)

日本製作所(一〇〇〇)
大阪製鐵工(二〇〇)

貝島財閥 貝島鐵業(一〇〇〇)

大連屋煤鐵(一〇〇〇)

貝島石灰(一〇〇)

安川財閥 明治鐵業(二〇〇〇) 安川電機(三〇〇)

在三井三菱支配日本頭等大財閥之外，還有許多二等財閥，也很有勢力。這二等財閥中最著名的便是在中國大投資，以輸出資本為特徵的大倉。大倉的資本大部份都在中國，尤其是東三省，及台灣。此外，安田是雜種產業，片倉是輕工業（製絲），鴻地，川崎，山口，野村，岡崎，澀澤是以銀行資本為主體的財造。茲將日本二等財閥內容分析列表如下：

第八十六表—日本的二等財閥分析表（單位日金萬元）

財 閥

產 業

及 資

本

一，大倉組(五〇〇〇)

大倉商業(一〇〇〇)

大倉鑛業(一〇〇〇)

大倉土木(二〇〇〇)

大倉火災(一〇〇)

大倉建築(三〇〇)

大房製材(二〇〇)

入山探煤(六〇〇)

秋田木材(一〇〇〇)

新高製糖(二八〇〇)

大倉製絲(一〇〇)

日本無線電(一〇〇)

月島機械(一五〇)

本溪湖鐵山，魯大公司，華興公司，製元紡紗及其他。

二，滿蒙投資(一六〇〇)

三，對華借款(二四〇〇)

四，西伯利亞投資(三〇〇)

安 田 財 閥

一，銀行資本：

保善社(三〇〇〇)

安田銀行(一五〇〇〇)

安田貯蓄(五〇〇三)

華業銀行(一〇〇〇)

- 正隆銀行(一二〇〇)
四國銀行(一二〇〇)
第九十八(一三〇)
富山銀行(二六四)
安田生命(三〇)
帝國海上(一〇〇〇)
二、電氣鐵道：
京濱電氣(一五〇〇)
小湊鐵路(一五〇)
博多灣(六三三)
熊本電氣(二六〇〇)
湘南電氣(一二〇〇)
三、雜種產業：
日本紙業(一五〇〇)
十七銀行(一〇二〇)
大垣共立(三〇〇)
第三十六(三〇〇)
安田信託(一二〇〇〇)
東京火災(一〇〇〇)
東洋火災(五〇〇)
中國鐵道(四三〇)
水戶鐵道(二〇〇)
秋田電氣(二〇五)
海岸電軌(二〇〇)
帝國製麻(三三二五)

川崎財閥

鴻池財閥

- | | |
|--------------|------------|
| 奉天製麻(一五〇) | 台灣製麻(二〇〇) |
| 橫濱棧橋(一〇〇〇) | 東京建物(一〇〇〇) |
| 滿洲興業(五〇〇) | 興亞起業(一〇〇〇) |
| 安田商事(二〇〇〇) | |
| 定德(保善社)(三〇〇) | 川崎第百(三三九八) |
| 川崎貯蓄(三〇〇) | 趙町銀行(一〇一〇) |
| 安房合同(三〇〇) | 常盤銀行(八八五) |
| 常盤貯蓄(一〇〇) | 足利銀行(七三二) |
| 所澤銀行(三〇〇) | 日本水災(一〇〇〇) |
| 日華生命(一〇〇) | 萬康生命(一五〇) |
| 常盤火災(三〇〇) | 汽車(一〇〇) |
| 日本商事(一一) | |
| 鴻池合名(一七〇〇) | 鴻池銀行(一〇〇〇) |
| 鴻池信託(二〇〇〇) | 鴻池建築(二〇〇) |

片倉財閥

片倉製絲(五二七五)

其餘尚有日華蠶絲、藤原製絲、片倉江津製絲、長崎製絲、日東紡織、備作製絲、武州製絲、滿州蠶絲

山口財閥

日本生命

山口銀行

關西信託

野村財閥

野村銀行

野村證券

大瓦斯

岡崎財閥

岡崎銀行

神戶海上

朝日海上

澁澤財閥

第一銀行

澁澤倉庫

石川島造船

富士製鋼

帝國劇場

石川島飛機

(三)日本財閥的實力

——自己資本之外尙支配他人資本——

財閥的形成總不外三種原因：(一)因資本的集中作用，使大量的資本匯聚在少數人手裏。(二)因爲銀行，信託業的經營，把民間的資財可以吸收少數人手裏而供他們運用。

(三)因爲股份公司制度的發達使產業更容易受金融資本家的支配。比如一千萬元資本的公司，保有五百萬元股票的資本家便可以支配全公司。

由以上原因形成財閥，財閥的勢力如雪球一般漸漸大起來。現在日本財閥的實力已經

不小了。他們的資本除去自己資本以外，還有存款，保險準備金，及支配下的銀行公司的資本。日本的財閥之中僅三井一家已有二十五萬萬元以上，三菱一家已有二十萬萬元以上。詳細數目有如下表：

第八十七表 日本財閥支配資本額表(大體昭和三年單位千圓)

| 大集中財閥的形態 | 自己資本 | 存款及 銀行信託 | 保險 準備金 | 以上總計 | 支配下銀行公 司實收資本 |
|----------|---------|-------------|-----------|---------|-----------------|
| 三井 | 200,000 | 300,000 | 60,000 | 560,000 | 60,000 |
| 三菱 | 100,000 | 130,000 | 10,000 | 240,000 | 20,000 |
| 住友 | 100,000 | 100,000 | 10,000 | 210,000 | 10,000 |
| 安田 | 100,000 | 100,000 | 10,000 | 210,000 | 10,000 |
| 川崎 | 100,000 | 100,000 | 10,000 | 210,000 | 10,000 |
| 大倉 | 100,000 | 100,000 | 10,000 | 210,000 | 10,000 |
| 古河 | 100,000 | 100,000 | 10,000 | 210,000 | 10,000 |

至於這七大財閥的資本力在全國資本總額上佔有什麼位置呢？則如下表：

第八十八表 日本大財閥資本力對全國資本百分比表(昭和三年末)

| | 財閥數 | 大財閥支配額 | 全 | 國 | 大財閥支配百分比 |
|-----------|-----|---------|----|---------|----------|
| 銀行存款 | 五 | 三・六五・五五 | 千元 | 九・二五・九四 | 三三・三% |
| 信託公司信託金額 | 五 | 九・七・三六 | 千元 | 一・三六・五零 | 三三・三% |
| 保險公司責任準備金 | 五 | 三・七・九一 | 千元 | 一・三九・〇三 | 三六・六% |
| 公司實收資本 | 七 | 三・三九・五三 | 千元 | 一・三六・三三 | 三六・七% |

銀行存款方面佔到百分之三十九以上，信託公司的信託金額佔到百分之七十二以上，勢力之大可以想見了。

第五章 日本的政治制度

第一節 日本政治制度之史的發展

(一) 從族長政治到封建政治

——所謂幕府政治的特質——

日本社會基礎的經濟情形大體明瞭以後，我們可以進一步，看看上層建築之一的政治

制度如何。按照一般的公例，自然要從歷史上敘述起始。

要敘述日本的政治制度，要從很古的日本開國起始。

日本國，據一般日本人所深信的傳統神話來說，開國天皇是神武天皇；他的建國年代，在公歷紀元前六六〇年。自他開國之後，日本臣民都是接連不斷的受治於他的直系子孫，所以他也就是現在日本帝國的創始者。他的政府，也和其他民族的原始政府一樣，是建在族長權的統系上面的。一直在到第七世紀中葉，有名的「大化改新」方纔把日本的政府從一個族長權的政府變作了直正的專制政府，即從此以後日本的天皇，才從「族長」的地位，而踏入「專制君主」的地位。經此改新以後，日本天皇仍舊成爲全國政治上的「直接首長」。這樣的，直至第十二世紀，纔又再生變化。這變化便是有名的「幕府政治」成立。遠在第六世紀的時候，佛教流入日本，使日本政治生了鉅大的變化。君主時常在壯年禪位而入寺院，致力潛修，因此，在位的君主。總是年幼無知的，這樣，便釀出親近寵臣，承機盜竊大權的機會。到了第七世紀中葉，藤原氏便將一切的文官，悉然剝斷，因而將一切的治權，集中在他的手裏。藤原氏屢次勸令日本天皇禪位，而扶保幼主登基，因而取得「太政大臣」一職。這樣的，一直延長到四五個世紀之久。藤原氏以世襲而取得高官，到了十二

世紀的時候，便非常腐化，當時的武人階級，就借這個機會，逐漸侵佔他們的政權。最後，軍事貴族原賴朝。以武力的鬭爭方式，而奪得政權。到了二二〇年，日本天皇竟以大將軍之職封給他。原賴朝乃開幕府於鎌倉。鎌倉離日本首都西京很遠，但是他却將一切的政務，都在這裏執行，而一切政柄遂盡入於大將軍之手了。這便是日本封建政治的開始。這便是日本有名的「幕府政治」。直到明治維新為止，日本都被這形式的政治之所支配。

日本幕府制度和現今的日本政治制度作個比較，牠的特色如次：

(A) 大將軍是日本天皇的世襲攝政——幕府制度的第一個特色，便是日本天皇大權由一個世襲的大將軍代為行使。日本政府，從來便是一個世襲的君主政府，自從日本帝國成立以來，日本政府，並未曾換過朝代；而同時全國最高的權力，也總是屬之天皇的。這種史實是絕對可據的。但是自從幕府政治產生以後，日本天皇的一切政權，却都由大將軍代為行使了。從衆人的心目中看來，他的一切政權之行使，都是頂着日本天皇名義的。換言之，他乃是日本天皇世襲的代表。這種說法，可以拿下面的實例來證明屬實：(一)當大將軍就任的時候，他一定要得到日本天皇的正式任命；(二)重要政務，雖亦得由大將軍執行，但有時却要取得天皇的同意；(三)勳章與爵位的授與權，始終由天皇躬自行使。由

此可見，大將軍並未曾將一切的政權，看作了他自己的政權。簡言之，從他的地位而言，他彷彿是天皇的一個世襲的攝政。

(B) 政府以分權爲原則——第二，幕府乃是一種極端分權的政府。在這種制度之下，全國共分爲若干封建的采地，各地均有各該地的領主行使統治之權，而這些領主，則又在事實上，離開了中央政府而獨立行政。大將軍只能向這些封建的領主，行使統治之權，至於散居於各采地的臣民們，却直接受治於各該采地的領主。在這種形勢之下，外交，鑄幣，運輸，以及其他類似的政權，雖然仍舊是屬於中央政府，但是關乎國防，民刑事訴訟，稅收，審政，以及其他類似的政權，却又分別地爲各采地的領主們所單獨享。關於後一類的政權行使，中央政府，對於這些領主，只有一種極端不切實用的監督權。這便是，遇有領主們政績確屬惡劣萬分的時候，中央政府得將他的領主的地位撤銷。

(C) 政府以領主地位之擁有與服從爲基礎——第三，幕府乃是以「土地所有權之擁有」與「個人的忠誠」爲基礎的。除天皇不計外，大將軍乃是全國最高的大地主。大將軍將國內的土地，分給各領主和他自己的陪臣，而各領主又復將他自己所領有的土地，分給他

自己的陪臣。各領主的陪臣一定要向他所隸屬的領主盡忠，而各領主又一定要向大將軍盡忠。至於各地的統治權，則又須以各該地的土地所有權為準。要祇你在那裏享有土地所有權，你在那裏便得享有統治權。

(D) 政府以階級特權的樹立為基礎——階級特權的保持也是幕府基礎之一。全國的人民，一共分為下述的四個階級：(一)廷臣，(二)封建諸侯，(三)武士，(四)平民。廷臣對天皇服務，而與大將軍及各領主無直接關係。領主對大將軍服務，但是他們却不是地方的長官。武士乃是大將軍和領主們的陪臣，他們有參與公務，民政，和軍政的特權，但是他們却不得從事於普通的營業。平民階級乃是最下流的階級，他們只許從事於普通的營業，而不得參與公務。

(二)明治維新以後

——近代國家的落闕殊儻勢力——

十九世紀以來，西方資本帝國主義的勢力東來，崩潰之中國的封建勢力，同時崩潰了日本的勢力。日本人一方面憤列強的壓迫，另一方面憤德川幕府的腐敗，於是各地的「廢幕藩」和「歸政於天皇」的運動，如兩後春筍一般，隨處均有出現。這時西南四藩「薩長

士肥)又恰巧以備受中央政府的排斥，而積怨於幕府制度，因此，他們便借了這個機會，而圖以武力將牠廢止。結果，牠們竟能博得勝利，而借着日本天皇的名義，牠們也獲得了相當的治權。他們的第一步工作，便是幕府之廢除，在一八六七年十月，德川大將軍將他辭職的奏摺遞給明治天皇，過了一天，明治天皇便將他的辭職批准。於是幕府制度，便正式廢除，而一切統治權。也就由天皇收回，躬自行使了。他們的第二步工作，便是封建制度廢除。在一八六八年六月，各地的領主和臣民，都將他們的土地還給天皇，緊接着，天皇又將全國的地方政府根本改組，以由天皇任命的文官，為地方政府的行政首長。經此之後，而他們的第二個目的也達到了。至於他們的第三步工作，則是在一八七〇年完成的。他們的第三步工作，便是階級特權的廢除。就在這年，天皇下了一道上諭，特許武士階級從事於普通的營業，平民階級得參與一切公務，民政，和軍政。『在法律上，國內臣民一律平等』這個原則，從此也就算是大致確立了。但是到了一八八四年，「公」，「侯」，「伯」，「子」，「男」，這五種爵位，又復重新起用，以為「廷臣」和「領主」們的特殊榮典，而一八八九年的憲法，則更特予這些爵士以出席貴族院之權，這也不能不算是企圖恢復階級特權的一種手段。

明治盛政，既借西南四藩的力量以完成，所以在新的政府改組就緒的時候，他們便以取得不少的政權，高級官吏，差不多都被他們所壟斷。時人便把這個時代的政府，喚做「藩閥政府」。但是，以後因為牠們為爭政權而互相傾軋，結果，牠們的結合漸漸發生問題，而取得最後勝利的，則為薩摩，長洲二藩，至於一般的臣民——尤以橫被排斥的諸藩為甚——對他們頗懷厭惡，因此，迭次請求政府，廢棄專制政體，而召集民選的國會。此外，在一八七二在一八七七這五年當中，各地又發生了許多以武力打倒藩閥，政府的種種民衆運動，經過政府方面的極力壓迫之後，然後消沈下去。

在日本政治歷史上，藩閥的地位既至要至此，所以日本維新以後，在經濟上雖然已經走上資本主義的途徑，但在政治上尚不能實行如西方資本主義國家的純粹議會政治。而日本維新以後的政治史幾乎全部都是新興資產階級和藩閥，或藩閥和藩閥間的鬥爭史。不過日本藩閥（尤其是薩長兩閥）勢力異常強大，而議興資產階級勢力雖日漸膨脹，但總是敵不過，所以日本代表新興資產階級的各政黨對藩閥的政治鬭爭，始終沒能成功。我們看看日本歷代內閣表：

第八十九表——日本歷代內閣表

日 本 政 治 的 變 遷

| | | | | | | | |
|---------|-------------|-----|-------------|-----------|---|---|---|
| 第 一 次 | 內 | 關 | 所屬藩閥 或政黨 | 關 | 員 | 成 | 分 |
| 第 二 次 | 第一次伊藤 黑田 | (長) | (薩) | 薩長土及其他 | | | |
| 第 三 次 | 第一次山縣 | (長) | (長) | 薩長土肥及其他 | | | |
| 第 四 次 | 第一次松方 | (薩) | (薩) | 同上 | | | |
| 第 五 次 | 第二次伊藤 | (長) | (長) | 薩長土及其他 | | | |
| 第 六 次 | 第二次松方 | (薩) | (薩) | 薩長肥及其他 | | | |
| 第 七 次 | 第三次伊藤 | (長) | (長) | 薩長及其他 | | | |
| 第 八 次 | 第一次大隈 | (肥) | (肥) | 憲政黨 | | | |
| 第 九 次 | 第二次山縣 | (長) | (長) | 薩長及其他 | | | |
| 第 十 次 | 第四次伊藤 | (長) | (長) | 政友會 | | | |
| 第 十 一 次 | 第一次桂 | (長) | (長) | 薩長及其他 | | | |
| 第 十 二 次 | 第二次西園寺 | (長) | (長) | 聯立(政友會)藩閥 | | | |
| 第 十 三 次 | 第二次桂 | (長) | (長) | 藩閥 | | | |

- | | | | |
|------|--------|-----|---------------|
| 第十四 | 第二次西園寺 | (長) | 聯立(政友會，藩閥) |
| 第十五 | 第三次桂 | (長) | 聯立(同志會，藩閥) |
| 第十六 | 第一次山本 | (薩) | 政友會 |
| 第十七 | 第二次大隈 | (肥) | 合縱(同志會，中正會) |
| 第十八 | 寺內 | (長) | 藩閥 |
| 第十九 | 原 | | 政友會 |
| 第二十 | 高橋 | | 政友會 |
| 第二十一 | 加藤(友) | (薩) | 貴族院 |
| 第二十二 | 第二次山本 | (薩) | 藩閥，革新 |
| 第二十三 | 清浦 | | 貴族院 |
| 第二十四 | 加藤(高) | | 合縱(憲政會，政友會革新) |
| 第二十五 | 若槻 | | 聯立(政憲會，研究會) |
| 第二十六 | 田中 | | 政友會 |
| 第二十七 | 濱口 | | 民政黨 |

第二十八 若槻

同上

同上

第二十九 犬養(實)

政友會

政友會

第三十 齋藤

(薩)

聯立(藩閥，民政黨，政友會)

由上表看來，日本自有內閣直到現在，幾全部都是「長」薩「兩藩閥」所佔，其中尤以長藩爲最久。閣員成分間雖有時一部份容納各政黨中人物，也不過是一時敷衍之計，甚至於有時連敷衍都沒有，完全由藩閥或貴族院中人物組織內閣。日本各既成政黨，苦戰甚久，有時投降，有時變節，亦未能十分如願的掌握政權。到了最近，原敬內閣以後，政黨似乎稍估位置。這也是由於歐戰後日本金融資本家勃興，使日本資本主義成熟，資產階級勢力自然擴大，但仍不敵藩閥等封建勢力。九一八事件日本政治又重入於藩閥壟化的軍人手中，現仍在相持之中。

第二節 日本現行的政治制度

(一) 天皇及其諮詢階級機關

——所謂憲政下的封建勢力——

誰是日本的最高權力者？自然有人會回答說是「天皇」。誰執行日本政府的政務？自然

有人會回答說是議會多數政黨所組織的「內閣」。不是的。天皇背後尚有舊封建勢力。這是日本政治最高金字塔。這塔是由天皇及其諮詢輔助機關組織而成。其內容如次：

(A) 天皇——日本天皇是立法，司法，行政，軍事的最高總攬者。日本憲法上有以下的條文：

- 一，大日本帝國為萬世一系之天皇所統治。
- 一，天皇為國之元首，總攬統治權。
- 一，天皇帝以國議會之協贊，施行立法權。
- 一，天皇決定行政各部之官制及文武官之俸給，及任免文武諸官。
- 一，國務各大臣以輔助天皇為其職責。
- 一，司法權，於天皇之名義下，依照法律，由裁判所施行之。
- 一，天皇統率海陸軍。

由此看來，天皇是最有權力，甚至於內閣也是輔助天皇的。

(B) 元老——在天皇背後尚有一種政治上的有力者便是「元老」。每次內閣更迭，天皇必要諮詢元老擔任應當歸何人，即由元老開會議，向天皇奏薦，天皇無不依奏而行。所以

元老是日本事實上的最高權力者。不過，所謂元老的職務，在憲法上或其他任何法規上都沒有那種官制的規定，完全是封建勢力的社會遺傳罷了。元老都是「長」「薩」等藩閥，發端於明治二十五年前後的「黑幕會」，「薩長元勳會」，「六伯會」一類的所謂元老會議。列過元老席的有伊藤博文，山縣有朋，井上馨，黑田清隆，山田顯義，大山巖，西鄉從道，松方正義，西園寺公望之。現在祇剩西園寺一人，他死之後，日本的元老便自然歸於消滅。

（C）內大臣——天皇的又一個諮詢輔弼機關便是「內大臣」。「內大臣」和「宮內大臣」不同。「宮內大臣」猶如前清的內務總管大臣是管理宮廷事務的。「內大臣」則是對天皇稟奏「常侍輔弼」的職務，關於國務也可以陳述意見，並且在內閣更迭的時候，對於繼任者也可以說話。所以內大臣的職責為：

- 一，輔弼皇室事務，
- 一，輔弼國家事務，
- 一，保管御璽國璽，
- 一，處理請願書，
- 一，作元老與樞密院之聯絡。

內大臣是官制上規定的官職。

(D) 樞密院——天皇的又一個諮詢顧問機關便是「樞密院」。樞密院是院照日本憲法第五十六條的規定而組織的機關。院中有議長，副議長，顧問官，書記官長等。樞密分子是由：

- 一，四十歲以上對於國務精達之親任者，
- 一，在京成年以上之皇族，
- 一，各大臣。

樞密院的職責為：

- 一，由皇室典範及皇室令，屬於其權能之事項。
- 一，關於憲法條項，或附屬於憲法之法律勅令草案及疑義。
- 一，戒嚴之宣告，緊急勅令罰則之規定勅令。
- 一，各國交涉之條約及約束。
- 一，樞密院之官制及事務規定之改正。
- 一，其他臨時諮詢事項。

樞密院與內閣對立，似有二重政府」的嫌疑。雖然內閣是實際執政務機關，樞密院是天皇有所諮詢時方纔上奏的機關，但如樞密院與內閣意見不一，而樞密院堅持己見，內閣便大受牽制，往往因之而倒潰。

（二）內閣以外獨立的「軍務政府」

——所謂憲政下的軍閥勢力——

日本天皇之有元老，內大臣，樞密院等所謂諮詢輔助機關，在「立憲政治」之下已經是特別，但日本政治還有更特別的，便是軍閥勢力下的所謂「軍務政府」。

本來，在立憲政治之下，一切的國務都應當以議會為中心，而屬之於內閣的各國務大臣，不能於內閣之外，另有政府，但是，日本不然。日本的軍務，內閣是不能管理的，由軍閥把持而直隸於天皇。事實上日本的政府遂分為「內閣政府」與「軍務政府」兩個。這是其他立憲政治的國家所沒有的。日本這「軍務政府」有兩種特權分述之如次：

（A）「帷幄上奏」——凡不經過內閣同意，可以直接上奏天皇，實行內閣以上的國權活動的便叫做「帷幄上奏」。可立實行帷幄上奏的機關有五：

一，參謀本部，

一，海軍司令部，

一，軍事參議院，

一，元帥府，

一，陸海軍大臣。

其中最重要的是陸軍方面的參謀本部和海軍方面的海軍司令部。這兩部是關於國防用的最後決定機關及最高發令機關。參謀本部設參謀總長。海軍軍令部設海軍軍令部長。參謀總長和海軍軍令部長都直隸天皇，參與秘密軍機，不受內閣的指導和監督。

軍事參議院由元帥，陸海軍大臣，參謀總長，海軍軍令部長，及天皇特別親任的海陸軍官組織而成。軍事參議院和元帥府都是關於軍務方面的顧問機關，不是直接發令機關，猶如樞密院對於內閣一般。

海陸軍大臣本來是閣員一份子，應當是受支配於內閣，但是日本的情形特別。日本的海陸軍大臣不能用文官，必須在陸海軍人裏去找，而這陸海軍人又另成系統，有他們特殊的意見和政策，內閣多受他們的牽制。內閣爲閣存在起見，有時不能不遷就他們。這海陸軍大臣便成爲內閣以內的外人，關於軍機軍令，他們可以不經閣議而直接上奏於天皇。

(B)二重外交——日本這「軍務政府」不僅於立於內閣之外，而且有侵越，管到軍政和軍令以外的事情，特別是外交方面。在外交方面，如對外出兵等，「軍務政府」，往往越過內閣，依着帷幄上奏的辦法，直接決定。在內閣裏陸海軍大臣往往和外務大臣抱不同的外交政策，而陸海軍大臣有軍務政府的背景，勢力特大，有時通過外務省，即（外交部）的，通不過參謀本部，也是無效。這便是有名的（二重外交）。「軍務政府」的人物們，帝國主義色彩異常濃厚，如對華山東出兵，對俄西伯利亞出兵，以至這一次九一八事變都是他們的主持。這是「二重外交」的好結果！

(三)所謂憲法政中心帝國議會

——封建勢力及資產階級的大本營——

近代立憲政治中心是立法機關的議會，所以議會應當是最高權力機關，但是日本不然。日本的所謂帝國議會參與國務的部份是很少很少。軍事和外交特別有主持者，不能干涉，若有緊急事件發生，天皇可以不得議會的同意，發布緊急勅令，而且關於財政上的緊急處分，可不拘束於預算。所以議會的權力不過是扶助法規的制定和預算而已。凡是經過議會通過法律案，由國務大臣奏請議可後，公佈而為法律。議會的權能如此而已！內閣的信

任與否，雖然權在議會，但是政府可以自由解散議會並干涉選舉。按憲政的精神，雖然應當由議會中佔多數的政黨出而組閣，但是這「政黨內閣」在日本久未實現，直到最近數年間，彷彿略有模樣，尙未能確立。

日本的議會是貴族院和衆議院制，分述如次：

(A) 貴族院——日本的貴族院，完全是封建殘餘勢力——皇族，軍閥，官僚，資本家，大地主，及御用學者。現在的貴族院是由：

- 一，皇族年男子，親王，及王子六人；
- 一，三十歲以上的公侯爵四十三人，內公爵爲十三人，侯爵爲三十人；
- 一，伯子男爵互選一百五十人，內伯爵十八人，子男爵各六十六人；
- 一，終身的勅選議員一百二十五人；
- 一，帝國學士院會員議員四人；
- 一，多額納稅者六十六人。

內中多額納稅者是大地主，勅選議員及帝國學士院會員是官僚及御用學者，其餘便是皇族及有爵者了。

(B)衆議院——日本衆議院，表面說是由四百六十六名人民公選議員，組織而成，但事實上并不如此簡單。日本自明治二十三年舉行第一次衆議院選舉之後，人民似乎可以參與國務了，但是選舉有財產等限制，仍爲少數資產階級所把持。大正十三年通過普通選舉案似乎是無產階級也可以參與選舉了，但事實上仍然不能。原因有五：

一，選舉人的財產限制雖然表面上撤除，而代以「被選舉候補者」的供託金制度，大害無產階級的當選。

一，無產階級雖有選民資格，而投票日期不准工場及各機關放假，無異獎勵選民棄權。

一，性別仍有限制：女子無選舉權及被選舉權。

一，年齡仍有限制：男子滿二十五歲始有選舉權，三十歲以上始有被選舉權。

一，殖民地人民無選舉權及被選舉權。

我們看昭和三年(民國十七年)第一次普通選舉投票日定爲二月二十日，星期一，第二次普通選舉投票日定爲二月二十五日，星期四，都特意不定星期日，工場機關不放假，請假要扣薪，無產階級爲生活自不能參與，結果，自然爲少數資本家及其爪牙所獨佔。

所以日本的帝國議會，貴族院爲舊封建殘餘勢力，衆議院爲新興資產階級的勢力所壟斷，平民無法過問。

(四) 最高國務執行機關的「內閣」

——軍務及殖民政府三足鼎立——

日本政治經濟研究

所謂立憲政治下的政權執行者自然完全歸之於內閣，而內閣以外不能有第二個執行國務機關，一切國務必須經過閣議通過，聯帶負責，但在日本，有兩個機關不受內閣的支配：一個是可以實行唯權上奏的軍務政府，凡一切軍機軍令可以直接上奏天皇，內閣不能干預。又一個是殖民地各政廳，如朝鮮總督，台灣總督，關東州長官，南洋長官，表面上雖受內閣總理大臣的監督，但總督直轄於天皇，在他所管的區域內，有絕對的支配權，實行專制政治，而且可以獨裁的發佈政令和律令以代替法律。這是日本內閣的特殊現象。

日本內閣是由內閣總理大臣(即首相)及內院，大藏(即財政)，司法，外務，(即外交)，商工，農林，文部(即教育)，遞信(即交通)，鐵道，拓務，陸軍，海軍十二個大臣，(亦稱相)組織而成。這首相及十二相共十三人爲閣員，開閣議，連帶負國務的責任。內閣的職務爲：

- 一，法律案及預算決算案。
 - 一，外國條約及重要國際事件。
 - 一，官制及其他勅令案。
 - 一，各省（即各部）門主管權限之爭議。
 - 一，由天皇交下或由議會送達之人民請願。
 - 一，預算之支出。
 - 一，勅任官之任命進退。
 - 一，其他重要行政事宜。
- 一切天皇的詔令自然須內閣副署後方能發佈。
- 內閣之下便是十二省（即十二部）每省設大臣一人。各省大臣權限的共通者為：
- 一，指揮監督所主任事務之下級官廳。
 - 一，監督屬下官吏，奏請委任官以下之進退，判任官以下則獨裁之。
 - 一，發佈主任事務之省令。
 - 一，在主任事務中，依照法令作行政行為。

此外，內閣還有幾個附屬機關，如法制局，恩給局，印刷局，賞勳局，資源局，統計局，以及文政審議會，行政制度審議會，人口食糧問題調查會等。

內閣應當是由議會佔多數的政黨來組織，所謂「政黨內閣」，日本各政黨爲這個問題鬥爭很久，便是日本有名的「護憲運動」，到最近也不過略有些彷彿模樣，尙不能有像英國那種所謂民主政治的精神。這代表新興資產階級與舊封建勢力的政治鬥爭，留待以後再詳細來說。

(八) 名爲獨立的司法機關

——司法大臣監督下的檢事局與裁判所——

所謂司法機關便是指日本的裁判所及檢事局而言。裁判所便是中國的審判廳。檢事局便是中國的檢察廳。裁判所分區裁判所，地方審判所，控訴院，及大審院四級，猶如中國的初級審判廳到大理院的四級。各級裁判所都分民事部和刑事部。裁判所也是三審制與中國大致相同。各裁判所都附設檢事局。檢事局有檢事長，一切刑事犯都由檢事長提起公訴由裁判所裁判。大審院的檢事局首領爲檢事總長，是檢事方面的最高機關。

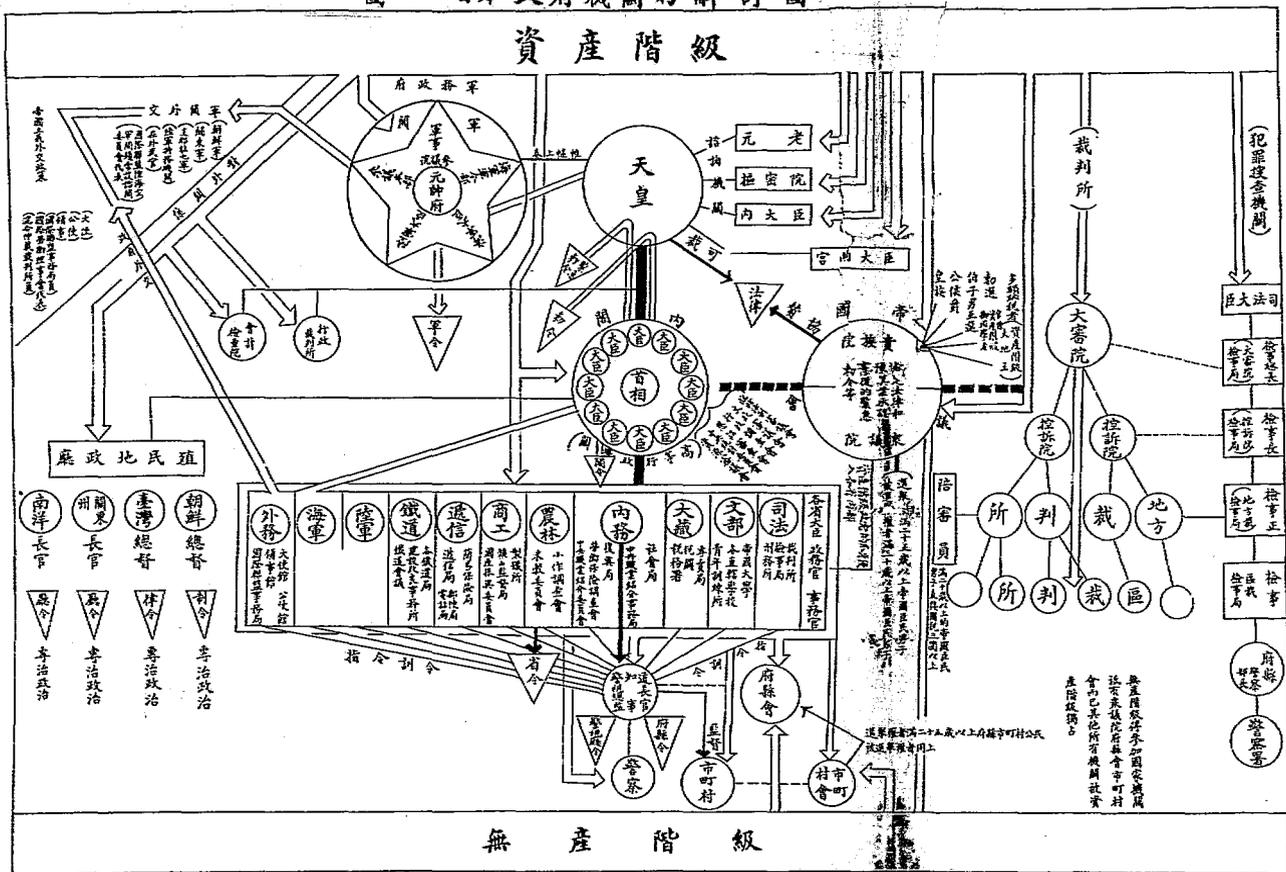
在所謂立憲政治之下，司法理應獨立，但在日本祇名義上如是，因爲：(一)日本的司

法制度於普通裁判所的司法裁判以外另有特別裁判的行政裁判所，軍法會議，及領事裁判（在中國內地，特別是在東三省）等。這特別裁判全然是行政權的掌握中。所以日本的司法權是分制的，而不是獨立的。（二）檢事總長受司法大臣的監督，而各檢事長又受檢事總長以下各上級官指揮命令而活動。司法大臣是行政方面的政務官，既可以直接監督檢事總長，間接監督各檢事長，那麼，司法權仍然操在行政機關的政府手裏而不是獨立的。檢事總長和檢事長不提起公訴，裁判官自無從裁判，而提起公訴的最高權又受支配於司法大臣，所以日本有許多重大司法案件，可以由一兩個人的意見一決定起訴與否，原因即在此。前年日本幾次受賄案件，涉及政府黨要人，如出席倫敦五國軍縮的若槻禮次郎，便是其中的一個，但是得了政府的暗助，因而檢事局不起訴，便是一個很好的明證。

日本的犯罪搜查機關是由司法大臣而檢事總長（大審院檢事局），而檢事長（控訴院檢事局），而檢事正（地方裁判廳檢事局），而檢事（區裁判檢事局），而府縣警察部長，而警察署。日本全國的警察須服從檢事局的指揮，因此方完成了統治階級的刑事政策統一，因而對於無產階級及一切被壓迫民衆施行彈壓手段。政治本來就是統治階級用以鎮壓被統治階級的工具，而司法機關便是最利銳及鋒先試的工具。這話，在現今的日本尤其是正確。

圖一 日本政府機關的解剖圖

資產階級



第六章 日本的政黨

第一節 日本資產階級政黨之史的發展

(一) 政黨萌芽及政友會前身

——板垣大隈的捲足先登——

日本的步入近代政治途徑中，我們都知道是在明治初年，推倒幕府之後。當時出力最大的要算「薩」，「長」，「土」，「肥」諸藩。這四大藩閥，一方面把持日本的軍政大權，一方面便變化而為資產階級。這四大藩閥，因為競爭政權便衝突起來，其中勢力最大的是「長」，「薩」兩藩，久握政權——特別的「長」藩，從維新到現在，幾乎是無時不掌權要——「土」，「肥」兩藩便在野作民權運動，借民衆之力以倒「長」，「薩」，政黨運動於是開始。

談到日本的資產階級民權運動，自然不能忘記一位土藩的人物，板垣退助。板垣退助熱心法國，自由主義政治的，他譯了半本盧騷「民約論」，高唱「板垣不死自由不死」。板垣退助是日本第一個組織政黨的人。遠在五十餘年前，日本政府內的急進派下野，也就是長藩獨占了政府，薩，土，肥三藩全部退出以後，板垣退助便糾合後藤象二郎，江藤新平等

於明治七年（清同治十三年，西歷一八七四年）一月，組織「愛國公黨」，也就是後來自由黨的起源，而現在的政友會便是自由黨的後身。翌年二月，日本各地便以愛國公黨為基礎，組織「愛國社」，以為民權運動的團體。由這愛國社的運動方纔逼得日本天皇不能不於明治十四年（清光緒七年，西歷一八八一年）十月十二日下詔，宣布定於明治二十三年開國會。所以愛國社是日本立憲政治的第一個功臣。

議會既將實現，競爭選舉以圖政權，政黨便愈必要。明治十四年十月，愛國社人便正式組織「自由黨」，主張「確立立憲政治，擴充人民權利」，完全是資產階級的自由主義口號。當開第一次大會，選舉幹部人員如次：

總理——板垣退助

副總理——中島信行

常議員——後藤象二郎等四人

幹事——大石正巳林正明等五人

在野的肥藩也有二個人物，便是聲名赫赫的大隈重信。大隈門下士很多，眼光也很遠大，對於政黨運動自亦不肯後人，於是在明治十五年三月，組織「立憲改進黨」。現今政友

會總裁犬養毅以及尾崎行雄，箕浦磨人等名人在內。改進黨雖然也是民權運動者，比較主張漸進，尤贊成英國式的政治，和法國式急進的自由黨，立在友黨地位，同向政府奮鬥。改進黨發表宣言主張：

尊奉皇室，改良內政，地方分權，擴張選舉權。

改進黨的幹部人員爲：

總理——大隈重信

副總理——河野敏實

同時，又有一位東京日日新社社長福地源一郎，主張保守主義，擁護政府，反對寬大的人民選舉權，也組織了一個「立憲帝政黨」。

這事日本有議會以前的事情。

(二) 伊藤博文組織及政友會成立

——如矢如奈的護憲運動——

我們已經知道日本自由黨是代表急進民權運動的政黨，現在我們看看這自由黨如何會變爲軍閥官僚的政友會，這誠然是奧味的問題。

明治二十三年（清光緒十六年，西歷一八九〇年）十一月二十五日，日本第一次議會召集。當時板垣的自由黨改組的「立憲自由黨」，佔一百三十議席，大隈的改進黨佔四十一議席（衆議院議席總數爲三百），民間的勢力雖然很大，但是竟不敵軍閥。到了明治三十一年（清光緒二十四年，西歷一八九八年）六月自由黨及改進黨改組的進步黨合組「憲政黨」，以其抗政府，因之第一次政黨內閣，所謂「隈板垣內閣」，便能成立，大隈重信任首相。板垣退助任內相，其餘閣員雙方平均。多年奮鬥，一旦登台，這當然是件喜事。不想，分座不勻，起了內鬨，因爲大隈系的犬養毅任了，文相（即教育總長），引起板垣系大憤，雙方又復分裂，舊自由黨另組「憲政黨」，舊進步黨另組「憲政本黨」，而這多年盼望的政黨內閣也因之而倒，日本政治遂重入於舊藩閥內閣的故塗中。

在這個代表民權運動的政黨分裂之後，長藩有一位享大名的人物，伊藤博文，野心和卓識，使他一必要組織政黨，以圖久握政權。當時伊藤博文既是首相，又是元老，出而組黨，很招其他元老的反對，尤其是山縣有朋，但伊藤博文已有決心，甚至於上表向日本天皇辭去首相及勳爵。日本天皇準辭首相而不準辭勳爵。同時有一位馬越恭平獻黨費三十萬元，於是元老，軍閥，兼長藩要人的伊藤博文，便開始組織政黨了。

在這個時候，那多年和元老，軍閥，及長薩兩藩鬻爭，而以民權相號召的自由黨見攝，憲政黨，因為競爭不過憲政本黨，竟已於明治三十三年（清光緒二十六年，西歷一九〇〇年）六月開評議會決議希望伊藤博文入黨。那伊藤博文尚不肯立即承受，怕是不好運用，結局憲政會幹部便議定無條件把黨交給伊藤博文，並派總務委員星亨，松田正久，片岡健吉等，親赴伊藤邸接洽。這便是有名的「星亨獻黨」，而這急進民權運動的自由黨遂歸於伊藤博文的御用！

在憲政會總務來訪的那一天，伊藤博文便拿出他的新黨宣言書和政綱，決定黨名為「立憲政友會」，即刻指定憲政會的四總務和西園寺公望，渡邊國武，金子堅太郎等作為發起人。於是這日本兩大政黨之一的政友會便成立，伊藤也受命組織第四次內閣，而獻黨的星亨也做了遞信大臣（即交通部長）。以後日本議會的政黨相便成為政友會，憲政本黨對立的形勢，而政友會，因伊藤博文及西園寺公望的關係，多握政權。

在日本新興資產階級的民權運動中最急進的自由黨，自獻給伊藤博文元老，改組政友會之後，名譽雖然掃地，但勢力一天一天的膨脹。議席每次增加，明治四十一年（清光緒三十四年，西歷一九〇八年）直到兩百零六名，佔絕對多數。於是非政友會感覺有大聯合

的必要，便以舊大隈進步黨的憲政本黨爲中心，聯合尾崎行雄的猶與會等團體，共九十二名議員，組織「立憲國民黨」。明治四十三年（清宣統二年，西歷一九一〇年）三月，在東京芝區紅葉館實行結黨式，當時舉出犬養毅，大石正巳，島田三郎，河野廣中等二十人爲常議員。在那時，政友會是勾結藩閥，而國民黨是代表民權運動者，國民黨確是立脚在革新一方面。

在中國武漢革命的前兩個月，日本明治天皇死了，大正皇帝即位。當年之末，西園寺內閣，因爲陸軍擴充案而辭職，那時桂太郎正在內大臣兼侍從長，又由元老會議決定出而組閣。桂太郎又是長閑，又是元老，又是最專制出名，內閣總理大臣不求於議會的多數政黨首領，而求之天皇當侍輔強人物，這是立憲政治下所不許，於是議會方面的國民黨和政友會便聯合起而反對。這新興資產階級對舊封建藩閥的政治鬥爭便開始，就是日本有名的「護憲運動」。這運動的重要領袖人物便是九一八以後任日本首相的犬養毅及仍在舊門中的尾崎行雄。

這次護憲運動是以政友會和國民黨爲中心，並糾合無所屬政團多人，組織「憲政友護會」。大正元年（民國元年，西歷一九一二年）十二月十九日，在東京歌舞伎座開大會，舊

自由黨首領，老民權運動者，板垣退助，亦親蒞會，民衆熱烈參加，盛極一時。當時尾崎行雄的演說最激烈。主要的幾句話爲：

「我們與其說桂公誥似袁世凱，不如說把王莽董卓的性格兼而有之的袁世凱似桂公。……我們要根絕藩閥，必須：第一，廢滅藩塞上下的元老；第二，改正文官任命令；第三，議會裏約有五十名到百名的政府委員要和內閣同時更換；第四，掃蕩軍閥的特權。現今帝國國民和開族激戰的武器，不是彈丸，不是刀戟，是道義的利劍。」

犬養毅的演說也很動聽，其中一段爲：

「……比那還更急要的，乃是把樞密院的權限縮回到第二次山縣內閣以前的最高顧問府的權限，勅令的改廢，再不要經樞密院的同意。從來的藩閥打破運動就是，因爲以前的政黨領袖醉心權勢，急急於想做閣員大臣，所以不能達到。……」

犬養毅和尾崎行雄所領導的護憲運動，在那時，轟動全日本，所以犬養尾崎二人有「憲政之神」的尊號。

如若犬養毅在那時候死了，也不失爲民權運動的偉大純潔人物。但是犬養毅的政治節操竟不能維持於晚年。自入三派聯立的加藤內閣以後，世人已有微詞，及入政友會，在田

中義一之下作顧問，真如苦守柏舟的老寡婦，始終不能自持，未免太可惜。九一八以後夫差完全變成軍閥的工具而終死於軍閥之手！可歎！

(四) 桂太郎組黨及民政黨的前身

——由兩黨並峙到三派鼎立——

在日本長閥之中有兩個廣有權謀，眼光敏銳，也就是陰險專橫的人物：一個是伊藤博文，一個是桂太郎。伊藤博文，組閣四次；掌國權共七年八個月，桂太郎組閣三次掌國權共七年十個月，桂太郎比伊藤博文還多兩個月，而且第一次桂內閣（明治三十四年）壽命長到四年七個月，是日本內閣的最長壽命者。伊藤博文吞併了朝鮮。桂太郎在第一次組閣期間締結日英同盟及日俄戰爭的勝利。這兩位炙手可熱的東洋實業，才能功績不相上下，而行為也有許多的相仿處。伊藤一心想組織政黨，桂太郎晚年也一心想組織政黨。

當大正元年，護憲運動正烈的時候，立在反對藩閥最前線的立憲國民黨竟分裂，一部份脫黨的人，跑到所反對對象的中堅，桂太郎那一邊去，日本黨人的無恥可以想見。於是桂太郎便糾合這些脫黨者及其他人物實行組織政黨，名曰「立憲同志會」，於是大正二年（民國二年，西歷一九一三年）二月發布政綱政策。因為桂太郎得病，一時未能實行結黨式

，到十月十日，桂太郎的雄心未遂，竟一命嗚呼。但是，立憲同志會的組織運動仍然進行。十二月舉行結黨式，推定加藤高明為總理，大浦兼武，大石正巳，河野廣中等為總務。

到了大正五年（民國五年，西歷一九一六年）立憲同志會又糾合中正會等合組大的新政黨，黨名「憲政會」。最初本想推大隈重信為黨首，大隈不就，乃推加藤高明為黨首。這憲政會便是立憲民政黨的前身。重要的知名之士有尾崎行雄，箕浦勝人，河野廣中，若槻禮次郎，濱口雄幸，安達謙藏，江木翼等要人都任內。

政友會是民權運動始祖的自由黨投降伊藤博文而成的。民政黨是護憲運動先鋒的立憲國民黨一部投降桂太郎而成的，日本現在的兩大黨，政友會和民政黨，與其說有光榮的歷史，無寧說有污穢的歷史，其污穢程度也不相上下。

立憲國民黨自分裂後，勢力大減，大正九年，僅有議員二十九人，大正十一年（民國十一年西歷一九二二年）國民黨想擴充，組織大的政黨，於是聯合「無所屬俱樂部」的議員押川方義，副島義一等組織新政黨名曰「革新俱樂部」。這革新俱樂部中有大隈毅，尾崎行雄，關直彥等名人，主張實行普通選舉，實行陸海大臣官制，延長義務教育年限，增加普通教育國庫負擔，擴張市村自治權，生活必需品等減稅，以及對華對俄親善等。這當然是

比較革新的政黨，有議員四十五人。

以後日本政治上便是三黨鼎立：政友會，憲政會和革新俱樂部。

(五)政友會的衰落與田中義一組黨

——政友會分裂及犬養變節——

由民權運動急先鋒而改嫁於藩閥伊藤博文の政友會，在日本政治舞台上實在鬧煞了一陣。伊藤博文任第一任總裁，組織第四次伊藤內閣，握政權八個月。第二任總裁西園寺公望，組織兩次西園寺內閣，握政權四年九個月。第三任總裁原敬，組織原敬內閣，握政權三年一個月。如若連上和山本權兵衛組織聯立內閣一年一個月計算在內，政友會握政權共有九年七個月之久。其餘的政黨，除了和藩閥組織聯立內閣。握一部政黨之外；僅有歐戰期間對中國送二十一條件の大隈重信所組織的立憲同志會和中正會の合縱內閣，二年五個月。政友會氣勢之盛可以想見。但是，盛極必衰，這也辨証的發展。原敬於大正十年（民國十年，西歷一九二一年）十一月四日，在東京車站，被一個十九歲的青年鐵路工人中岡良，用短刀刺死。高橋是清繼任首相和總裁。但是，政友會的前三任總裁，伊藤和西園寺，藩閥而養元老是何等聲勢赫赫的人物，原敬號稱「智多星」頗有權謀，高橋繼其後，真有

些難乎其爲繼矣！高橋任首相六個月，內閣即倒。以後便由薩派的加藤友三郎組閣，薩派的山本權兵衛繼之，貴族院的清浦奎吾再繼之。這三任內閣又都是藩閥，尤以清浦內閣爲最純粹，於是所謂「護憲運動」又起。

那時候，高橋是清已失却統率全政友會的能力，高橋既和憲政會及革新俱樂部決定反對清浦內閣。政友會內部便分裂，床次竹二郎，元田肇等另組織「政友本黨」，聲言繼續伊藤老公的精神，同時支持清浦內閣，那政友會本有二百七十八名議員，分裂後，政友本黨帶走一百四十九名，祇剩一百二十九名，勢力大殺。

護憲運動成功，政友會，憲政會，革新俱樂部三派組織聯立內閣，通過普通選舉案，民間多年鬭爭的懸案，一旦實現，這是一件可注意的事件。這時，高橋是清頗感覺本人的本領難於服政友會黨員的慾望，便乘機以護憲目的告一段落爲詞，辭去政友會總裁之職。

在日本最有勢力的藩閥（長閥）之中，有一位元老，山縣有朋，他的聲望，地位，資格，都不下於伊藤博文和桂太郎，曾組閣兩次，但是不會組織政黨，也不贊成組織政黨。不想到到了他的嫡派，田中義一大將，一心想信伊藤博文和桂太郎兩位老公，乘政友會缺乏領袖人物的時候，便由軍界改行，跌入政界，辭去一切軍職，任政友會總裁。於是政友會的藩

閱和保守的色彩更加濃厚。

那時，憲政運動先鋒，以革新自號，由立憲國民黨改組的革新俱樂部僅有議員二十九名，勢力日弱，首領的憲政之神，犬養毅，也不能自持，改節變賣，和田中軍閥所領導的政友會合併，犬養毅本人任政友會顧問。以犬養本人，此舉未始不是有利，但是在政治節操上看，犬養晚年，應了孔子所說「血氣既衰，戒之在得」一句話了。但是，革新派的激烈份子如尾崎行雄，關直彥等仍然強硬，不肯追隨犬養，而另組「真正俱樂部」，不過，人財兩缺，勢力毫無。

以後日本政界便成為政友會和憲政會（即現今的民政黨）兩大黨對立的形勢，而衝突和鬭爭日烈一日，直到最近。

(一) 立憲民政黨的成立和政友本黨的消滅

——床次竹二郎一再投機——

政友會和革新俱樂部合併，擁戴田中義一為總裁，犬養毅為顧問，以圖再振黨勢，並且退出三派聯立的議事內閣之後，憲政會方面也頗感威脅，而憲政會首領加藤高明在這時又因病逝世，由若槻禮次郎繼任總裁及首相，便想乘機擴充黨勢，以圖自存。

在這裏，再說說脫離政友會，另組政友本黨的床次竹二郎了。床次在政友會中，資格本是很老。在原（敬）內閣時代，曾內務鐵道兩大臣，而床次，在以先本和高田和松方兩財閥有關係，頗有組閣作首相的資格，但是後來失去兩財閥的支持，而政友本黨又太保守，以致勢力不振，便想復歸於政友會，唱「政本合同」說，但是條件沒說好，又轉入憲政會，而唱「憲本聯盟」說。後者終於實現了。昭和二年（民國十六年，西歷一九一七年）五月，憲政會議員一百六十一名，政友本黨議員六十九名，及新正俱樂部 and 無屬議員各一名，組織「新黨俱樂部」，準備組織新黨。六月一在東京上野精養軒行結黨式，改推憲政會，推濱口雄幸為總裁，而以原憲政會總裁若槻禮次郎及政友本黨總裁床次竹二郎為顧問。黨名改為「立憲民政黨」。這件事表面上似乎像是憲政會和政友本黨的互讓，其實是憲政會裏，濱口派戰勝若槻派。因為若槻的背後支持者是產業資本家，而濱口背後支持者是金融資本家，若槻自然是難抗濱口。

床次竹二郎出政友會獨立後又入民政黨，政治的真操場始終無存，誰想，民政黨下台用中義一組織政友會內閣之後，床次又率其舊部於昭和三年（民國十七年，西歷一九一八年）八月，脫離民政黨。九月民政黨內部，非幹部派的田中義立，樋口秀雄，小寺謙吉也脫離，

另組憲政一新會」。當時民政黨便再行整理內部。由濱口總裁指定新總務為：

藤澤幾之輔，類母木桂哲，富田常次郎，森田茂，小川鄉太郎，田中隆三，永井柳太郎，川崎克，紫藤九郎，木田恒之。

又指定顧問為：

安達謙藏，町田忠治，小橋一太，加藤政之助，天津涼一郎，石塚英藏，菅原蓮敬。

床次的脫離民政會也有人說是因為安達謙藏和江木翼一派握持民政黨，不尊重床次的意見，其實還是為上台。床次脫離後即發表聲明主張「對華外交」擁護滿蒙既得權利，「階級協調」，「財政緊縮」，「金解禁」四大政策，並且還跑中國來一次，其目的不過在田中內閣的外務大臣。但在田中任首相期內，始始沒把外相一席送床次，所以床次始終是徘徊着，沒入政友會。及到田中下台，民政黨組閣，床次又重入政友會，以為造成議會中的多數黨，求獲得政權。

(七) 田中死後的政友會

——鈴木床次等三派內訌——

政友會，自高橋是清任總裁時，黨內已經十分糾紛難治，高橋因而不自安以去。田中

義一繼任，其聲勢赫赫，當然可以壓服一切，但仍時聞「政友黨團」，「更換總裁」，「清黨運動」之聲，不想田中因政會內閣中大臣受賄起訴的猛烈刺激，一時情急身死，政友會失其領袖，遂陷於羣龍無首狀況。在黨內長老有高橋是清，犬養毅，岡崎邦輔，元田肇。黨內實力派有床次竹二郎，鈴木喜三郎，中橋德五郎，山本條太郎，小川平吉，望月圭介，山本樞二郎，水野練太郎，三土忠造，久原房之助，勝田主計，樺田清兵衛，秦豐助，高橋光威，松木孫右衛門等，各有一部份人馬，成爲不同的小組織，可以進取黨魁地位。其中，床次竹二郎爲政友本黨首領，在政友會資格亦老，頗有取總裁之心。鈴木喜三郎，尤有特別勢力，成爲所謂「鈴木系」。鈴木系中由鈴木喜三郎妻弟鳩山一郎與政友會幹事長森恪及內田信也，宮田光雄等相結納，亦有取總裁之意。小川平吉爲田中義一心腹，號稱政友會軍師，亦爲勢力。再者，久原房之助爲久原財閥，田中自有財神，自然更勢力山本條太郎曾任滿鐵社長。亦係有財有勢者。在以上各實力派之外，黨員中的中堅份子，如鳩山一郎，森恪，龍田米藏，秋田清，山崎達之助，吉植莊郎，廣岡宇一郎，堀切善兵衛，犬口喜六，濱口國松，大內鳴三，亦各有背景，均想擁戴自己的人出任總裁，所以田中死後，政友會幾人人有作總裁之心，遂陷於羣龍無首的狀態。望月圭介說：「黨內總裁候補之

多，足證政友會人方之盛」。但自反而說，候補人物衆多，適足證明黨內缺乏領袖人才！政友會總裁本輪不到犬養毅身上，犬養毅率革新俱樂部入政友會爲顧問，革新俱樂部議員本少，且尾崎行雄，關置彦又不肯隨同，勢力遂微弱。犬養毅入政友會的時候，很悲切的說：『政黨就是金錢。我沒有錢，祇有把全黨出賣！犬養毅末路也太可憐了。不過，田中死後政友會的名譽捨地，爲挽回國民信仰計，不能不借犬養的一塊老招牌。同時，鈴木系怕競爭不過床次派，所以招出犬養毅來抵制，以備他日金彈脫殼之計。這是犬養毅所以能任總裁的原因。現在政友會內部可以說分三派：

(A) 犬養派——內有(一) 秋田清等舊革新俱樂部系與黨外的右島一雄等內外呼應。(二) 鳩山一郎等鈴木系。(三) 山崎達之輔，東武，山口巖一等純理論系。(四) 前關係的鈴木喜三郎，山本健二郎，久原房之助等。

B 床次派——內有(一) 柳田清兵衛，大內鳴三等舊新黨俱樂部系。(二) 元田肇，川村竹治等與床次友誼極深者。(三) 島田俊雄，松浦五兵衛，若尾璋八，高橋光威，廣爲久等地方團體中的床次系。(四) 前關係中的水野鍊太郎，三十忠造等。

(C) 中立派——如岡崎邦輔，山本條太郎，中橋應五郎，望月圭介等。

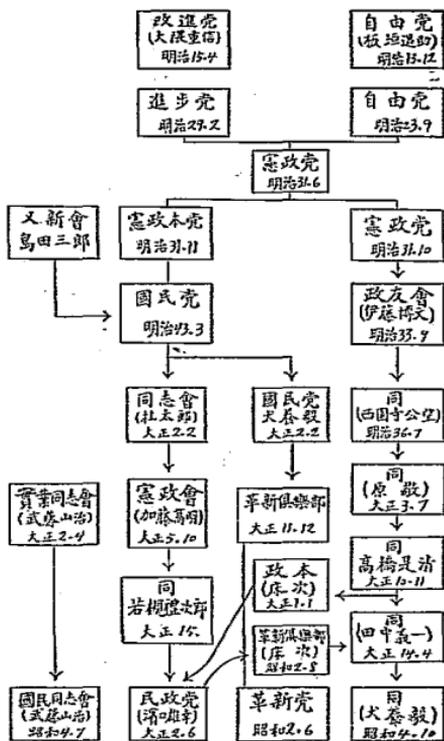
政友會派別紛紜如此。

(八) 參政黨分合變化圖解

——九一八以前情形如此——

以上所說的日本政黨分合變化情形是九一八事變前的情形。九一八以後，日本政治發生很大的變化，資產階級的各政黨破裂支離，而法西斯運動異常突起。詳以留在末一章再詳細說明。為讀者容易明瞭起見將九一八以前，日本資產階級各政黨的變化情形繪圖如次：

黨 政 的 本 日



圖二——日本資產階級政黨分會變化圖

第二節 日本資產階級政黨的財閥背景

(一)三井三菱的對立和衝突

——各種資本無一不競爭——

要想知道日本資產階級政黨的骨子裏真實情形，不可不知道各政黨和財閥的關係。財閥爲什麼和政黨發生關係？這要先由各財閥的對立和衝突說起。

資本主義是立脚在競爭上，所以對立和衝突是資本主義下的常態，同時，因爲資本集中過甚，所以對立和衝突也就更爲激烈。日本現在全國的經濟，無論是工業，商業礦業銀行，都提在少數財閥手裏。而這少數財閥的對立和衝突也就激烈到極點。其中對立和衝突最利害的，還是要推三菱和三井。三菱和三井無論那一種資本或那一種產業都是對立，都要衝突。比如銀行資本，在三井有三井銀行，三井信託，三井生命，大正海上，在三菱便有三菱銀行，三菱信託，明治生命東京海上等對立。其他，如重工業和一般產業也無一不對立，無一不衝突。三井和三菱不對立不衝突的產業僅有鐵種。茲將三井三菱兩大財閥的對立情況列表如次：

第九十表 日本三井三菱兩大財閥的事業對立表（單位日金萬元）

三 井 財 閥 三 菱 財 閥

一、財閥的主體：

- | | |
|---------------|-------------|
| 三井合名(三〇〇〇〇) | 三菱合資(一二〇〇〇) |
| 男爵八郎右衛門(六九〇〇) | 男爵久彌(四〇〇〇) |
| 男爵元之助(三四五〇) | 彦彌太(五〇〇〇) |
| 源右衛門(三四五〇) | 男爵小彌太(三〇〇〇) |
| 男爵高精(三四五〇) | |
| 壽太郎(三四五〇) | |
| 高修(三四五〇) | |
| 高達(一二七〇) | |
| 守之助(一二七〇) | |
| 高昶(一二七〇) | |
| 辨藏(一二七〇) | |
| 高光(一二七〇) | |

二、銀行資本：

三井銀行(一〇〇〇〇)

三井信託(三〇〇〇)

三井生命(二〇〇)

大正海上(五〇〇)

三菱銀行(五〇〇〇)

三菱信託(三〇〇〇)

東京海上(三〇〇〇)

明治火災(一〇〇〇)

明治生命(二〇〇)

三一海上(五〇〇)

森村銀行(五〇〇)

三、重工業產業：

三井礦山(一〇〇〇〇)

北海道煤礦(七〇〇〇)

小野田洋灰(一四八〇)

釜山礦山(二〇〇〇)

太平洋煤礦(一〇〇〇)

三菱礦業(一〇〇〇〇)

三菱製鐵(二五〇〇)

九川煤汽(五〇〇)

中島礦業(一一)

雄別煤礦(五〇〇)

松島煤礦(五〇〇)

基隆煤礦(一〇〇〇)

芝浦製作(二〇〇〇)

日本製鋼(三〇〇〇)

三井製糖部(一一)

四，一般產業：

三井物產(一〇〇〇〇)

臺灣製糖(六三〇〇)

一 東神倉庫(一五〇〇)

一 王子製紙(六五九一)

中島製作所(一一)

物產船舶部(一一)

五，不對立的一般產業：

三菱造船(五〇〇)

三菱電機(一五〇〇)

三菱燃機(五〇〇)

日本光學(三〇〇)

三菱商事(一五〇〇)

明治製糖(三七五〇)

三菱倉庫(一〇〇〇)

三菱製紙(一〇〇〇)

三菱航空機(五〇〇)

日本郵船(一〇六一五)

電氣化學(三五〇〇)

三越吳服店(一五〇〇)

豐田紡織(三〇〇)

熱帶產業(六五〇)

東洋烈空(一〇〇〇)

東洋棉花(二五〇〇)

日本製粉(一〇七)

旭玻璃(一二五〇)

麒麟啤酒(一〇八〇)

東山農事(一〇〇〇)

日本生產(五〇〇)

日光玻璃(三〇〇)

三井三菱以外的各財閥間也無不對立，無不衝突。比如玻璃工業，有三井和住友兩大財閥的對立並衝突，東京力有三井，三菱，安田，川崎，若尾五大財閥的對立並衝突。

(六)日本兩大政黨的財閥背景

——財閥政治的形成——

日本的全國經費既為幾個大財閥所支配，而這幾個財閥又是互相對立而衝突的，最終各財閥便不能不利用政府機關以求致勝。一方面政府的政策都與財閥的利害有關係。另一方面，所謂各政黨如若沒有財閥在後面供給金錢，也無法站穩，所以財閥便同政黨相勾結

而成爲現在的財閥政治。比如三井和布住友兩大財閥，因爲爭奪天野樂器會社，三井的工人發生罷工，三井竟無條件承認工人的要求，爲的是不讓樂器的特作權落到住友手裏，但是可惜！因爲內閣是民政黨，以致兩敗俱傷。這是財閥沒有政治的失敗。又如前憲政會內閣時代，以整理財政，調節物價爲名，對於砂糖稅及消費稅，加以改正，以致砂糖價格突然增高，而財閥大得其利。三井和三菱因爲買進美金而使民政黨和政友對於金解禁問題持不同的政策更是好例。以上都是財閥便有政治的利益。同時，各政黨也需要財閥的金錢，尤其是在總選舉的時候。尾崎行雄在日本第五十一屆議會中的演說很有趣：

『政黨在總選舉時，費用達數百萬，然而這些款從什麼地方來的？近年來都是非常秘密的，就是政黨黨員恐怕也是不知道呢！……這個秘密的關鍵祇有總裁和其他二三人方能明白。……』

這可以說是自剝口供了，以前喬田公司曾以大木達伯爵爲代表，執政友本黨的牛耳。在總選舉的時候，他送了政友本黨一百萬元，但是這一百萬元并不是他自己的，是由他處以低利借來的，後來因爲破產，方爲世人所知。現在日本的政黨，已經是各財閥所支配的政黨，我們看一看日本最大的兩政黨，民政黨和政友會的黨員職業，便可以明瞭一半了。

第九十一表 日本兩大政黨的黨員職業表

| 職 | 業 | 民 | 政 | 黨 | 政 | 友 | 會 |
|---------------|---|---|---|----|---|---|----|
| 銀行及公司的社長經理職員等 | | | | 三一 | | | 四〇 |
| 農村地主 | | | | 四七 | | | 一四 |
| 富裕的小資產階級 | | | | 四八 | | | 五九 |
| 商業資本家 | | | | 一八 | | | 一一 |
| 律師 | | | | 三一 | | | 一九 |
| 新聞記者 | | | | 一一 | | | 八 |
| 職業的政治家 | | | | 一一 | | | 一四 |
| 官僚 | | | | 一八 | | | 一 |
| 軍人 | | | | 一 | | | 二 |
| 醫生 | | | | 九 | | | 一 |
| 學者教育家 | | | | 四 | | | 三一 |
| 不明 | | | | 七 | | | 八 |

由上表很清楚的可以看出來：民政黨和政友會的黨員，大部分都是銀行，公司的社長，經理，職員以及農村地主，商業資本家，小資產階級等。其餘便是些以政治為職業的政客，官僚等等。所以事實上，日本的各政黨已經是各財閥的政黨，而政黨的勝利不決定於所謂政策政綱，而決定於後台的財閥實力如何。我們現在分析一下：

政友會和民政黨所代表的財閥都是些什麼人們：

第九十二表——日本兩大政黨的財閥背景比較表

(一) 政友會方面

三井財閥 山本悌次郎

服部金太郎

安田財閥 高橋是清

前田利定

住友財閥

久原財閥 久原房之助

藤田財閥 田中義一

日 本 政 治 經 濟 研 究

片倉財閥

小川平吉

今井五介

若尾財閥

若尾璋八

若尾機太郎

商船系財閥

中橋徳五郎

日魯漁業

後藤蘆平

堤清六

(二) 民政黨方面

三菱財閥

幣原善重郎

久原財閥

中村房次郎

山口財閥

町田忠治

根津財閥

根津嘉一郎

河西豊太郎

若尾財閥

若尾謙之助

民政黨是三井財閥的政黨，政友會是三井財閥的政黨，這是人人皆知的。此外的小財閥則可東可西，朝秦毆友，暮遷民政。大概說來，川崎，古河，淺野等可以算是政友會，而澀澤，鴻池，大倉的政治色彩，表面不十分明鮮，也就是那一黨都可以拉攏。

日本財閥政黨的內容如是。

(三)日本政治的司令台

——各財閥的主持人物——

日本資產階級政黨皆為各財閥所指揮，而日本政權又握在資產階級政黨之手，所以日本財閥事實上是日本政治的司令。這日本政治的後台老板，這日本政治的發號施令的司令台，值得我們細看一看。

日本各財閥的主要人物，各財的參謀部有如下表：

第九十三表——日本財閥的主要人物表

△三井財閥
八郎右衛門，元之助，源
右衛門，高精，高修守之
助，高修，辨藏，高光，

合名的主腦參謀
國琢磨(理事長)有賀長文
，彌井菊三郎(常務理事)

將軍及幕僚
藤原銀次郎，池田成彬，山本錦
二郎，米山梅吉，安川雄之助
，服部金太郎，瀧廣政次郎，

△三菱財閥
若崎久彌，彦彌太，小彌太，俊彌，

木村久壽彌太(總理事)青木菊雄(常務)

各務鎌吉，串田萬藏，桐島保一，

△安田財閥
安田善次郎，善五郎，善四郎，善助，善兵衛，

高橋是實(顧問)森廣藏，

結成豐太郎，男爵長松篤斐，子爵前田利定

△大倉財閥
男爵大倉喜七郎

門野重九郎，梅浦健吉

大倉久米馬，大倉直介

△古河財閥
男爵古河虎之助

鈴木恒三郎，佐佐木敏綱

男爵中島久萬吉

日 本 政 治 經 濟 研 究

△住友財閥
男爵住友吉左衛門，寛一，元夫，忠輝

湯川寛吉(總理事)草鹿丁卯次郎(理事)

八代則彦，山中柴吉

△久原財閥
久原房之助

點川義介，(社長)竹内維彦

大谷登由，伊藤文吉，津村秀松

△川崎財閥
川崎八右衛門

野野村金五郎

郷城之助，原邦造

△淺野財閥
淺野總一郎

淺野總一郎，泰次郎良三

白石元次郎

△淺澤財閥
淺澤榮一

淺澤正雄，武之助，秀雄，敬三，佐佐木勇之助

阪谷芳郎，穗積陳重，大川平三郎，田中榮八郎

△鴻逵財閥
鴻池善右衛門，高藏，福雄，幸武，

野野村政也

加藤晴比故

△藤田財閥
男爵藤田平太郎

田中隆三(總務理事)

鈴木庫太郎，和田久左衛門

△片倉財閥
片倉兼太郎

尾澤福太郎，片倉武雄，
修一，直人

今井五介

△原財閥
原富太郎

大河原與三郎

井阪孝

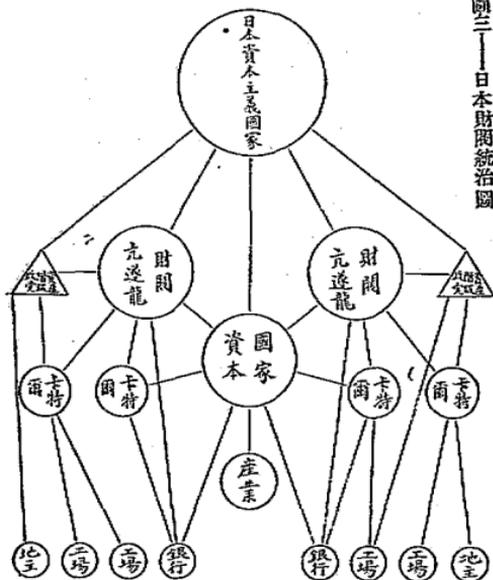
至於最大的兩個獨立財閥，三井和三菱的參謀主要人物有如下表

第九十四表—日本三井三菱兩大財閥主要人物表

| 黨 | 政 | 的 | 本 | 日 |
|-------|-------|----------|------------|------------------|
| 三井 | 三井 | 一合 | 族名(三〇〇〇萬圓) | 三三菱一合(資)(二〇〇〇萬圓) |
| 男爵社長 | 八郎右衛門 | 六九〇萬圓 | 男爵、久彌 | 四〇〇〇萬圓 |
| 男爵元之助 | 三四五〇 | 副社長 彦彌太 | 五〇〇〇 | |
| 源右衛門、 | 三四五〇 | 社男爵長 小彌太 | 三〇〇〇 | |
| 男爵高 精 | 三四五〇 | | | |
| 壽 大郎 | 三四五〇 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 參 | 參 | 參 | 理 | 理 | 常 | 常 | 理 | 合 | | | | | | | |
| 與 | 與 | 與 | 事 | 事 | 務 | 務 | 事 | 名 | 高 | 辦 | 高 | 守 | 高 | 高 | |
| 米 | 池 | 間 | 大 | 阪 | 福 | 有 | 國 | 之 | 光 | 藏 | 租 | 助 | 達 | 修 | |
| 山 | 田 | 島 | 島 | 井 | 田 | 賀 | 琢 | 主 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 三 | |
| 梅 | 成 | 興 | 雅 | 德 | 菊 | 長 | 磨 | 腦 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 四 | |
| 吉 | 彬 | 喜 | 太 | 太 | 三 | 文 | | 部 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 五 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 參 | 理 | 理 | 理 | 社 | 社 | 社 | 社 | 合 | | | | | | | |
| 與 | 事 | 事 | 事 | 長 | 長 | 長 | 長 | 資 | | | | | | | |
| 與 | 永 | 三 | 船 | 會 | 會 | 會 | 會 | 之 | | | | | | | |
| 村 | 原 | 好 | 田 | 青 | 武 | 串 | 木 | 主 | | | | | | | |
| 政 | 仲 | 重 | 一 | 本 | 田 | 田 | 村 | 腦 | | | | | | | |
| 雄 | 雄 | 道 | 雄 | 菊 | 秀 | 萬 | 久 | 部 | | | | | | | |
| | | | | 雜 | 雄 | 藏 | 壽 | | | | | | | | |
| | | | | | | | 爾 | | | | | | | | |
| | | | | | | | 太 | | | | | | | | |

這司令台以如何的形式統治全日本資本主義國家可以用下圖來表示。
圖三——日本財閥統治圖



參 與 佐藤梅太郎

各財閥充塞籠 (Ronsan) 支配日本的政治，同時支配日本的經濟。工場，銀行，地主，以及國家資本下各種產業均在財閥的統治之下。日本財閥的權威可以想見。日本資本主義至此遂達於頂點。

第三節 日本兩大資產階級政黨的組織和主張

(一) 立憲政友會的組織政綱與政策

——總裁的獨裁和空洞的政綱——

我們急於要知道，日本民政黨和政友會在組織上及政策上的差異，這當然是政黨的根本問題，可惜，在這一方面可說的實在是太少。在組織方面，民政黨和政友會都是總裁的首領制。其下有顧問，總務（民政黨尚有諮議）幹事長，幹事，評議會或常議員會。（民政黨名評議會；政友會名常議員會），及黨務部，游說部，政務調查會，各地方支部等。總裁名為大會選舉。政友會任期七年。民政黨任期四年。總裁和二黨內要人可以獨裁一切。茲將政友會的內部組織列表如次：

第九十五表——日本政友會組織表

總裁 一人 主持一切會務。

總務 若干名 協理總裁，處理本會重要事務。總務由總裁向常議員中選出人數，亦由總裁規定。

幹事長 一人

幹事 若干人 由總裁選任，掌理庶務，會計，事務。

常議員會 五十人 內三十名由大會選舉，二十名由總裁指派。

黨務部長 一人

遊說部長 一人

通信部長 一人

臨時選舉部長 一人

臨時政務調查 一人

會長 一人

會計監督 二人

說到政策，民政黨和政友會本是像「兩個空瓶」一樣。任你貼上什麼商標，灌進什麼酒，
！我祇好抄先一段最近政友會公佈的政綱和政策吧！

政友會的綱領，約計九條，現譯如左：

一，我等同志，須恪遵憲法，遵照條章，以完成統治權的應用，期與舉國家要務，保全各自之權利和自由。

二，我等同志，遵奉維新大典的宏謨，盡力為增進國運，扶植文明的事業。

三，我等同志，為完成行政上以機能，當保公正，精選敘，增繁編，明責守，正規律，敏處分，謀與時代相伴進步。

四，我等同志，注重外交敦睦友邦，以文明的政治，安輯外人，以全法治國的名實。

五，我等同志，認定適應中外形勢，以充實國防為必要，希望常與國力的發達相伴並行，以完盡國權國利的防護。

六，我等同志，須振興教育，陶冶國民品性，發達公私各個人，對於國家的負擔，和發責的懿德良能，以鞏固國本。

七，我等同志，須獎勵農商百工，振興航海貿易，增進交通的便利，以期國家在經濟上生存的基礎鞏固。

八 我等同志，須努力實現地方自治團體，互相團結，以完成在社會上，經濟的協同。

九，我等同志，對於國家。尊重政黨的責任，以公益爲目的而行動，慎勿變粉飾的藉辭。

政友會的政策在第二次普選時所揭出的八大政綱，譯錄如左：

一，金解禁的等後處置和不景氣對策，內分：(1)停止強制消費節約，(2)積極設施資本經濟發展的事業，(3)對中小農工商融通資金，(4)助成重要工業，(5)實行國貨獎勵的組織的獎勵策，(6)爲振興產業之改正稅法，(7)制定輸出補償制度，(8)產業金融的改善。

二，國防之經濟化，內中關於陸軍的有：(1)整理平時兵員，(2)短縮在營期間，(3)充實青年訓練，(4)整理特別隊，(5)整理要寨，用地和戰用貯藏品以及官衛學校工廠之改良，(6)防空設施及兵器之改良；關於海軍的，則依照倫敦軍縮會議的規定。

三，行政的改革，內分：(1)各部之廢止分合，(2)計畫各部事務之改革，統治

，敏捷，簡明，(3) 保障事務官的地位，擴充職權而其範圍須在其事務程度之內，(4) 為行政經濟化之徹底的整理，(5) 擴張自由團體的權限，(6) 改正恩給制度。

四，官業整理。官業整理後，可以此資金助成重要產業，作為通行道路，港灣，治水和他產業政策的資源，且亦可助成實施社會政策尤其是擁護中小生產之設施。

五，減稅。由國防行政之改革產生的永久餘裕財源，能有五十萬元的減稅——兩稅委讓，地方稅之根本的整理，地租營業收益稅，消費稅減稅鐵稅委讓半額。

六，安定米價。

七，統治產業。防止非經濟的競爭，規格統一，製品的單純化，標準化，電力統
一以及設施為充實產業之制度。

八，改正選舉法。

到了大養毅任政友會總裁以後，為一新耳目，又發表十大政策，內容如下：

(一) 實行產業五年計畫。五年之中，投五萬萬圓，以增加生產八萬萬圓，目的在防止輸入，增加輸出，保護關稅亦從速實施。

(二) 國防經濟化，實施國民總動員，以資縮減軍費並固國防。

(三)擁護國家權益及外交經濟化，外交應以擁護國民經濟上利益為主，如原料之獲得，銷路之擴張，移民航運利權之發展為最要者；

(四)改革教育制度及思想，教育年限之縮短，教育經費之節約，教育上畫一主義之打破。

(五)增進國民所得，安定民衆生活，實現產業五年計畫之後，國民所得，自然增加。

(六)減低生產費，改良消費經濟施設。

(七)失業及社會政策，獎勵國外殖民及國內移民。

(八)減輕國稅及地方稅

(九)打破官僚政治，確立政黨政治。

(十)水產米穀政策之樹立與農村經濟之調查。

今年這一次的總選舉，政友會所提出的十個口號，也是本於犬養的十大政策而來，主要題目如下：

一，產業五年計劃。

- 二，國民所得的增進與大眾生活的安定。
 - 三，生產費的合理低下與消費經濟的改善。
 - 四，米穀，蠶絲，及水產政策的樹立並農村經濟的調整。
 - 五，國稅及地方稅的減輕。
 - 六，失業對策及社會政策的確立。
 - 七，國防計劃的建立。
 - 八，國家權益的擁護及外交的經濟化。
 - 九，教育制度設施的根本改善及思想問題的解決。
 - 十，行政機構的全部改革。
- 總之，日本政友會的政策是採用一種發展的積極態度，對內對外，在經濟，在政治，均係如此。最近的標榜是產業五年計劃，其實也不過是說說，騙選民多投他們兩票而已。

(二) 立憲民政黨的政綱和政策

——大緊縮節約的成就——

立憲民政黨的組織和立憲政友會相彷彿，不必贅述。現在可以再抄一段民政黨的政綱和政策吧！

立憲民政黨的綱領，乃昭和二年創立時所訂立，共計五條，現譯錄如左：

一，以國民的總意，反映於帝國議會，徹底的實現在天皇統治下之議會中心政治。

二，由國家的調整，使生產旺盛，分配公正，以芟除社會不安甯的禍根。

三，國交上貫徹國際主義，并擴充人種平等資源公開的原則。

四，陶冶品性，啓導獨創自發的個性，均等學習機會，進而期教育實際化。

五，注重立法行政及地方自治，打破時代錯誤的陋習，以順應新興氣運，並期改造實現。

至民政黨之政策，時有改變，現在將第二次總選舉時提出之八大政策，譯錄如左：

一，政治的公明和綱紀的肅正。

二，選舉的革正。

三，金解禁之善後處置，內分：（1）財政緊縮和公債整理，（2）能率增進和產業

合理化，(3)輸出貿易增進和國際貸借之改善，(4)擁護金本位制。

四，減輕國民負擔和生活的安定，內分：(1)國稅地方稅之整理減輕，(2)整理和減輕生活必需品之消費稅，(3)增加義務教育費之國庫負擔額。

五，社會政策之實行，內分：(1)勞務者生活之向上和勞資關係之合理化，(2)失業之預防救濟，住宅改善，兒童保護，救貧設施，社會保險之整備。

六，金融機關之改善和中小農工商業者之便益增進。

七，肥料之配給改善，自耕農之獎勵維持，佃農問題的解決，以及其他農漁村之振興。

八教育之刷新，內分：(1)教育之實際化 (2)獨創個性之啟發 (3)德性之涵養。

犬養內閣成立後，民政黨退為野黨，若槻又發表十大政策在今年這一次總選舉中，民政黨也提出十個口號，兩者內容相同，主要的題目如下：

一，關於國體觀念，國民精神的徹底。

二，議會政治的威信確立及必要的各種制度之改善。

三，經濟的及科學國防計劃之樹立。

四，除去劃一教育的弊害及教育的實際生活化。

五，中央及地方財政的基礎的樹立。

六，產業的統制及其合理化計劃的完成並調節生產消費。

七，扶助國際貸借的改善，產業政策輸出補償制度的擴張，國產工業的確立，及科學發明的獎勵。

八，農漁山村的經濟改善，農漁山村的負債整理，米價的安定及副業的指導獎勵，貿易農產品的獎勵保護，肥料政策的確立，農業保險的創設。

九，中小農商工業的維持振興。

十，庶民金融，失業救濟，國營保險擴張，其他國民生活的安定及以階級調和為目的的各種社會政策。

總之，民政黨的政策是消極的，緊縮的，和政友會恰恰的相反。民政黨在台上履行：

(一)不募債主義。(二)減薪，緊縮，節約，整理政策及(三)金解禁。實行的結果，日本的國債大為減少。我們把昭和四年(民國十八年)民政黨當權時候，和昭和三年(民國十七年)

田中內閣政友會當權時候，所發行公債額相比，減少到一半以上，而償還額幾略似。其詳細數目如下表：

第九十六表——近年來日本國債發行償還額表（單位百萬圓）

| 年次 | 發行額 | 償還額 | 發行超過 |
|-------|------|------|------|
| 大正十四年 | 三三·七 | 四六·六 | 一三·九 |
| 大正十五年 | 四〇·一 | 三六·九 | 三·二 |
| 昭和二年 | 六五·一 | 四一·三 | 二五·八 |
| 昭和三年 | 五九·七 | 四三·〇 | 一四·七 |
| 昭和四年 | 四一·六 | 三九·〇 | 一·二 |

九一八以後，民政黨下台，日本軍閥又一用兵，緊縮，整理，節約云乎哉，早就談不到了！

第四節 日本資產階級兩大政黨的對華政策

(一) 民政黨的對華自由主義論

——所謂「幣原外交」——

歷史上，民政黨的對華外交政策便是有名的「幣原外交」。「幣原外交」的內容可以由幣原首相所發表外交方針中關於中國部份的內容見之。其言曰：

「民國的前途今後尚有很多的難關。欲破此難關，一方面固須藉中國政治家的勇氣和忍耐，同時又須俟列國的友情和援助。國民政府今方肅清內亂，從事政治的建設，樹立國家的基礎。對外亦力求國際地位平等。我國原亦由國際不平等地位而躍進者，對於中國此種努力，自希望其成功，政府亦不惜盡力為之援助。中日兩國以有長久的歷史，始成立今日般複雜密切的政治關係及經濟關係，在構造此種關係的各種分子之中，何者具有於我國國民生活係屬必要而不許改變的性質，何者可以應世界的變遷，尤其是中日間新形式而可改易調整，整理的順序方法怎樣，對於這些問題，國論當然可以一致的。為處決這些問題，兩國中的任何一方，如以宣傳威嚇相加，徒足以增加事態的糾紛，難達以有益的目的，必須互相以寬大的精神及理解的態度，講求共存共榮的方策，始可解決各起交涉條件，而增進雙方真正的利益。數年來懸而未決的南京事件，漢口事件，其損害賠償問題，最近二國當局間意見已見一致。中日二國間的重要通信機關，即上海長崎間及青島佐世保間的海底電線問題，經數個月困難的交涉

，卒於舊約滿期之日決定締結新約。滿洲的鐵路問題，數年來糾紛不少，但政府依着上述方針，正努力於適當的解決。我們決沒有不顧民國正當的立場，妄作利己的要求之意。同時亦不信民國有令我南滿鐵路地位感受危害的計劃，即有此種企圖，也不是容易實現的』。

對於滿洲問題，幣原也是個溫和論者。幣原解釋滿鐵的減收，並不由於中國鐵路包圍政策，以爲『滿鐵減收由於中國大豆沒有輸出。大豆沒有輸出的原因，一由於銀價的低落，一由於歐美市場無此需要。因大豆無輸出而感困苦的，實尙以中國鐵路爲最，固不僅滿鐵而已。如中國鐵路有輸運貨物，而滿鐵減收則猶可說，但今則并不這樣。中國鐵路現因運貨減少，甚至連職員俸給都停止不發了。這可見滿鐵減少，並不由于中國鐵路的滿鐵包圍策，況中國鐵路自現內閣成立以來，未曾增設新綫。北通綫是昭和二年十一月完成的，海吉綫是昭和四年五月開通的，自此以後，未聞有新建鐵路呢』。

對於滿蒙鐵路問題，幣原主張最好與中國政府訂結協定 『使中國鐵路既受相當利益，而滿鐵利益亦仍得有相當保護。換句話說，就是共存共榮的原則與國中談判協定』。

對於葫蘆島等港問題，幣原也以爲不應有所非難。因爲『對鐵路並行線固尙有可堪異

議的條約根據，但對於築港一事則並沒有可以提出抗議的根據。『不許中國築港開發富源，滿洲利益只許日本獨佔，一切貨物必須出口大連，這種主張未免太無理了』。

民政黨的外交政策，即所謂「對於自由主義論」或「經濟中心主義論」，就以擁護並支持幣原外交為基礎，所以民政黨對華外交的中心點是：

- (一) 為確立經濟國策起見，對華問題必須重視；
- (二) 因中國鄰接日本而為大市場，所以更有重視的必要；
- (三) 為確立經濟國策，其手段必須是平和的，經濟的；
- (四) 除去東洋方面經濟發展的障礙且進圖積極的發展，實為中日問題解決的關鍵；
- (五) 以此見地而言，則滿蒙問題只其一小端而已；
- (六) 所以對幣原外交而施以非難攻實足以妨害日本的經濟國策。

代表此項主張的有富田幸次郎的演說：

『床次就外交問題以攻擊幣原外交，推其思想，似有喜歡帝國主義外交的傾向。不知今之時代已非帝國主義外交的時代，必須以平等和主義而徐圖經濟的發展。今與日本距離最近而又非常密接的關係者，實為東洋之市場，然而日本反有不注重東洋市場

之感。無論中國，無論南洋，其輸出入大部分即七成以上均與歐美有關。就中國而論，中國的輸入貿易，日本僅佔其十分之三，其餘七成，均為歐美所佔，日本輕視此極近而又大之市場，於經濟上之發展究屬無望。所以我們常願慮及此，謀在東洋尤其是中國確立一經濟市場。對於中國常執指導親善的方針，不料前次田中內閣反對此項意見，二次出兵山東，費國幣四千萬圓，以威嚇中國，並引起張作霖炸死事件，致激發中國朝野上下的反感。對華關係卒至無路可通，因此內閣更迭，浪口內閣力謀善後之策，中日之關係始見改善，中日貿易亦見增進。現內閣外交的根本主義，是在提倡國際正義，努力世界和平。總而言之，即在除去世界各方面，尤其是東洋方面經濟發展的障礙，進而圖謀發展，對於中國方面則力圖我國經濟市場的確立。總之，幣原外交的總綱，在於確立經濟國策，對全局問題統盤籌算，各種計劃均以平和的經濟的為主，計劃遠大，理想高遠，若僅就目前板領問題，滿洲鐵路問題一二事件以相質難，直與異盲人摸象，焉能得其真相。而非難攻擊，徒足以妨害我國經濟國策而已。

他如櫻井兵五郎則又極力為歌頌幣原外交的功德，說：『幣原使對華外交復上軌道，銀值雖低而對華貿易尙有相當成績。去年五六月內中國內戰，日本不動一矢一兵，而濟南

及膠濟鐵路沿線三千日僑絲毫無損這都是幣原外交的成功」云云。

關於滿蒙問題。民政黨雖未敢大胆地唱言自由主義，但是主張大致如下：

- (一)滿蒙的既得權利自宜加意擁護；
- (二)滿蒙問題的核心，在於包圍滿鐵之中國鐵路的並行線問題，此問題必須以中日共存共榮為原則而圖解決；
- (三)現內閣正在研究其解決方案，而中國交涉之中。

總之，滿鐵問題當就滿蒙自身以求解決以此僅不過全局的對華問題中一片鱗，沒有像政友會一般的重視。

(二)政友會的對華強硬論

黨 政 的 本 日 :

——所謂「非第三者外交」——

政友會的對華強硬論者，可以床次竹二郎氏為其代表。床次在五十九議會提出內閣不信任案時說明理由演說詞中說道：

『日本和中俄二國相鄰接。二國新在革命之後，所以日本不能不直當二國的革命外交。二國的外交，因其各有特殊的國情，所以有時是積極的澈底的，有時又不免是大胆』

的，露骨的。因之，日本的外交應該基於國策，確定方針，隨之以公正堂皇的態度除此以外，別無良策。就此以言，則現內閣的外交，蓋以根本錯誤了。現內閣外交不願我國在東洋的地位，不知中俄二國目的方針，殊為遺憾。日本的使命在手維持東洋的和平，增進東洋的文化，以貢獻於世界，日本的軍備外交亦即當以此為其基礎。故其日本外交方針極易明瞭，即對華深交友誼，維持密接的經濟關係，同時確保我國在滿蒙地位，而圖經濟的發展，對俄則擴充既得的權利，實現圓滿的通商關係。以此二者為基礎，東亞和平始克維持。這就是日本外交的神髓了。但是，由此見地以考最近情勢，則遺憾實多。即中日二國的關係，尙多缺乏意志疏通之點，訓至各種懸案無法解決。而滿蒙的現狀，尤足憂慮日本在滿蒙的地位，為日本生命所繫，說起不安動搖，我們決不能默視。滿蒙不特與我們經濟上有重大關係，即東亞平和之鍵亦藏於滿蒙問題之中。滿蒙而起動搖，即東亞平和的動搖。滿蒙經濟關係的不安，同時亦即對滿蒙政治關係的不安。在歐洲大戰時東亞平和猶能維持，而至今尙能確保者，這實是日本將東洋和平的責任，全力負荷的結果。為使此種責任，將來亦繼續負擔，故各國亦有確認日本在東亞之地位的必要。因為欲負擔責任，必須保障其所以能擔負的地

床次的主張，大體是（一）東亞和平的保持繫於滿蒙問題，（二）滿蒙現狀的動搖即東亞和平的動搖，（三）爲維持東亞和平起見，勢非先掃除日本在滿蒙經濟上的不安不可，（四）現內閣的外交政策，不辨日本在東洋的立場。

此外，政友會松岡洋右也是攻擊幣原外交的一個人。他以爲世謂幣原對華外交，其具體的結果，就是兩件事情，即前有南京事件，後有小幡公使拒絕事件。又如政友會秦豊助則竟批評幣原外交爲第三者外交，說幣原竟妄其爲日本當事者，而以第三者地位自居，就兩方的言論以作判斷。不把日本的權利利益放在眼中。

對於滿蒙問題，政友會的根本意識是主張「日本的生存權」。如床次氏說：「滿蒙就是日本國民的生命線」。松岡洋右也說：「無論從國防上，從經濟上講，滿蒙問題均爲關係日本存亡問題」。此外最代表的言論則爲川村竹治在第五十九議會貴族院會議的演說，摘錄如下：

「日本在滿蒙的特殊利益係根據條約及其他協定而來，根底至爲堅固。過去數十年，舉國擁護，不敢或懈。又爲中日二國的共存共榮的起見，投下巨額資本，力圖開發，

藉以增進中日兩國的福利。但是最近日本對華外交，關於滿蒙一點，使人大感不滿。中華民國因鑒於列國之寬容，常轉換其對內政策於外交方面，往往提出不法要求，有時不顧國際信義，動輒提倡排日以脅迫日本。而日本此時若只知追隨，以求博得民國歡心，則不外將既得權利，全部拋棄。所以我們為顧慮我國權利的現在及將來不可不採取堅決的態度。充其量也不過依然排日排貨而已。若事事迎合民國，博其歡心，恐終徒勞無益。民國態度的不當並不足憂，所憂者反為政府態度的軟弱。而我們所最重視的尤為滿蒙經營的基礎，即滿鐵之現狀及其將來。滿鐵會社自創立以來，已有二十二年之歲月，營業成績大體順則，但至昭和五年度，俄而發生變易。據聞貨物運賃的減收竟達二千五百萬元。本年度或且在三千萬元以上，此實為創業以來所未有之情況。至其原因，雖說是一般不景氣及銀價下落之結果，但我們所視為最重大而可憂慮的原因，則為民國的滿鐵包圍計劃。民國在滿蒙方面的鐵路現狀，最近新聞紙上已詳細報告。滿鐵兩旁，東有渤海，吉海，吉敦諸線，西有四洮，洮昂，齊克諸線，現已完成，而相互間的連絡運輸亦已成功。更加東北交通委員會預備將此西東兩線再行延長，東至綏遠，西至黑河，復藉北寧鐵線，即京奉線，以與最近完工的葫蘆島海港相連絡。

，一方又計劃自葫蘆島經熱河，至庫倫的幹線。除上三幹線以外尚有許多培養線，正在調查之中。然而日本外務大臣在其演說中，猶說民國方面的計劃，謂其能危害日本的南滿鐵路的地位，恐不足信，並謂即有此種企圖亦決難實現。但是如上所述，現在既成的民國鐵路如打通線，吉海線，瀋海線等不己成爲滿鐵的大威脅嗎？滿鐵的將來與北滿的貨物有重大關係。今民國鐵路計劃擬於滿鐵左右兩方造成平行線，此不但北滿貨物滿鐵不得運輸，即連向來滿鐵所已得者亦將被奪。滿鐵在前本須與烏蘇里鐵路及中東鐵路互相競爭，今則更加民國各鐵路，則已受三面挾擊的形勢。長此以往滿鐵之事業將永久不能回復，而所謂滿蒙開發的大使命必將根本破滅。此事我國國策的進行必遇重大挫折，蓋已明甚。

此外歐友會議員內田信也的議論尤爲強硬，茲不具述。

但是，以上所說的是九一八以前的情形。九一八以後，日本的對華政策，完全是軍閥的政策，各政黨本身無所謂政策了。幣原外交既不能行，芳澤外交也是仰軍閥鼻息。同時，各政黨分化的很厲害。到現在，都在那裏一致叫「承認滿洲國」了！

九一八以來由幣原而芳澤，而內田，漸由財閥而純粹軍閥化，同時也統一化了！

第四節 日本資產階級的小政黨

(一) 國民同志會的內容

——產業資本家的政黨——

在政友會和民政黨之外，日本還有一兩個資產階級的小政黨，便是國民同志會及革新黨。

國民同志會的前身就是實業同志會，去年方改爲現在這個名字。實業同志會在民國十二年四月創立，創立時人是鐘淵紡績公司主人武藤山治，支持的團體主要的是大阪實業家團體。創立當時標榜着政界之腐敗及政治的經濟化。從另一方面看來，則是一部份聰明的資本家，對漸趨尖銳化的階級對立，所擬的自衛政策和一種和緩運動。

在民國十二年二月二十二日，武藤氏在大阪今橋旅館會合市內實業家有志者三十名，協議招待大阪市內實業各團體和其他案件，又在同日午後五時半起，在所招待大日本紡績聯合會等六團體員，當時表明樹立新黨的意思。在以後二個月間，武藤又招待大阪市內一百二十七餘的實業組合幹部，說明實業家有覺醒奮起的必要約有二十次。出席者增加到一千人。因爲得到大多數的同情，遂於同年四月二十三日在大阪中央公會堂開實業組合代

表委員大會。當日參加者共有六百十名（代表團體百二十四，所屬組合員約五萬），武藤被推爲主席，並推爲新黨的宣言，綱領，政策及會則起草委員。起案全體通過，於是武藤即起立宣告新團體——實業同志會——的成立。同時即由高津久右衛門的提議，推舉武藤爲會長。於是這個專門代表產業資本家利益的政黨，即正式成立。到現在，已經有八年的歷史，其中雖曾一度改名，但是內容性質與前無異。

國民同志會既是個代表產業資本的政黨，所以在性質上和那金融資本家操縱的民政黨政友會稍有不同，因此牠的地盤也祇限於工商業和近代產業發達的大都市，如東京大阪，神戶等，勢力尙未發展到全國各地。

產業資本在性質上，必然和地主發生對立。金融資本躍進至券頭支配，和地主形成反動的聯合，而國民同志會對此專制支配的建立，當然要站在反對的地位。產業資本是直接和勞動階級對立的，但是產業資本却沒有像金融資本這樣可以驅使國家的權力和地主的勢力的偉大權能。金融資本家和地主結合的彈壓無產階級運動，產業資本是表示反對的，因爲產業資本覺得這種政策反使階級鬥爭更激烈，而於自己不利，故國民同志會也就主張勞資協調並反對彈壓政策。

國民同志會既抱如此態度，在發展上當然比較困難，故在政治舞臺上亦從未重要任務。民國十八年（昭和三年）四月，雖因和政友會訂立「政實協定」，而稍稍出了一下風頭，結果亦毫無所得，祇是受了大政黨一場欺騙。最近幾屆議員的選舉人數也不太多，在第十五次總選舉的時候得八名，民國十八年（昭和三年）第一次普通選舉的時候祇得四名，且此後因「政實協定」又去了一名。第二次普選則又當選六名，人數雖似增加，但實力不過仍是平平，是附隨大政黨的一個小團體而已。

國民同志會的綱領計有六條，內容如下：

- 一、促進國民的自覺，以期確立純粹的立憲政治；
 - 二、排斥輕視公眾利益的國家保護，和想要得到此種的請託與運動，以期振肅綱紀；
 - 三、振作剛健的氣風，以期健實社會之發達；
 - 四、振興產業，以期鞏固國家的基礎；
 - 五、整理財政行政，以期減輕國民的負擔；
 - 六、實行適切的社會政策，以期安定人心。
- 國民同志會的政策，約可歸納得下列諸條：

- 一，緊縮國費，期減輕國民負擔，第一應着手的主張減省國費三億圓。
- 二，廢減稅。內中應全廢的是地租，營業收益稅，清涼飲料稅，織物消費稅中的毛織物消費稅。應減稅的是所得稅（提高免稅點），砂糖消費稅，登錄稅，及印花稅，酒稅，關稅，以及煙草專賣利益金之應該減低等。
- 三，義務教育費七千萬圓由國庫負擔。
- 四，貨幣改鑄利益金一億二千萬圓應全部使用救濟失業者及其他社會事業。
- 五，完成傷病殘廢者及衰老者之救濟制度。
- 六，退職軍人，廢兵及戰死者遺族之優遇。
- 七，鐵道之國有民營。
- 八，電話之民營。
- 九，郵政電報經營之實業化，並漸行減少出費。
- 十，特殊銀行公司制度之改革。
- 十一，整理國有財產並極力使其減少。
- 十二，漸行金輸出解禁。

十三，提高郵政儲金利息，且其放資限於公債及議會可保證支付本利之債券。
十四，國民政治教育之普及。

國民同志會的組織也很簡單，有的甚至叫做「武藤黨」，於此亦可知武藤在黨裏的權力和地位。分會有關西本部和關西本部，各本部有理事數名，掌理常務。他的最高幹部組織如下：

會長一人

議員會長一人

議員幹事一人

理事。關東四人，關西三人

(二)革新黨的內容

——小資產階級的政黨——

革新黨是由腐敗的政黨裏分離或落伍集合而成的，在「革新主義」的旗幟之下，自稱是無產政黨，其實，看他的內容至多可說是個改良主義的政黨。這一點，可以看他們的宣言。宣言上說：「革新黨是根本承認現在的社會組織和經濟組織，祇須對現組織加以切實的

改革，當可補救今日社會上所有缺陷。我們深信經濟上的痛苦可以治愈，並且我們想到這是合於世界的唯一的原理與進化的法則。由此看來，革新黨實是改良的主義的政策，對於無產階級，可說絲毫不生關係。

革新黨無黨義的拘束，既是人們的結合，其中有自由主義者，也有立憲民主主義者的產業資本家。革新黨是一時有利害關係的產業資本家和急進小資產階級的混合體，所以現在革新黨主動的傾向是小資產階級的傾向，並且在某種程度上還帶着德模克拉克西的要求。

革新黨的勢力也很薄弱，開始時有議員七名，民國十八年第一屆普通選舉只得三名，三名中又有二名前後聲明脫黨。到第二屆普通選舉又得三名，可說能保持舊態。革新黨在政治舞台上，很少活動，故實有若存若無之概。

革新黨的綱領，大要如左：

一，議會 主張擴充衆議院，縮小貴族院的權限，而多額納稅者之有兩院的權利，華族的一團殆獨占貴族院的太不公平，當奏請改正憲法，以匡救此項缺陷。制定朝鮮及臺灣的憲法。

二，選舉 主張修正缺額條件，性，年齡，保證金，選舉運動費，及選舉方法。

三，教育 打破劃一主義，以國生活和教育之調和，並努力打破因襲的偏見。義務教育費須全部由國負擔。平等的待遇官私學校。

四，國防 軍備縮小至國防最少限度，並採用軍部大臣的文官制。

五，勞動確立勞動權，地租權，減低生活費，完成其他防貧救貧等諸制度。

六，整理行政 實行行政之大整理（合併陸軍部，海軍部，合併農林部，商工部，廢止司法部及參謀本部等）

七，租稅 以累加有產者減輕無產者之負擔為原則，而實行負擔均衡並改正稅則。減輕或廢止關稅及消費稅。

八，地方自治。公選地方長官，擴張自治權，充實地方財政。

九，移殖民 在移殖民地應以國費做適當的施設（教育，衛生，金融等）。

第五節 日本無產政黨的發生和變化

（一）普選與無產階級政治鬥爭

——政治活動之又一頁——

因為資本主義的發展，資產階級的勢力固然是隨着發展了，而那無產階級的勢力也不

能不隨着發展。這是所謂「資產階級的自掘墳墓」，無可奈何之事也！政治本是階級鬥爭的工具，也就是「支配階級」用以支配「被支配階級」的工具。無論那一個階級，勢力澎漲到相當的程度之後，便需要把這政治的工具握在手中，以求自己階級不為他階級所支配，同時並想進一步支配他階級。資產階級對付貴族封建勢力是如此，無產階級對付資產階級也是如此。世界到了現在，無產階級的勢力，在質同量的兩方面，都發達到不受其他階級的支配，並進而支配其他階級的程度，所以政治鬥爭的又一頁開始，無產階級也想握政權。不過，在方法方面顯然分為兩派：一個主張借革命手段整個的把政權拿到手中，一個主張借資產階級的會議，由選舉勝利，漸漸的把政權移到手中。前者便是以俄國為中心，第三國際所領導的共黨。後者便是以英國為中心，第二國際所領導的各國勞工黨，社會民主黨等。廣義的說來，這兩種都叫「無產政黨」，狹義的解釋，後一種是「無產政黨」。不過，前一種主張革命的人也有時加入後一種，理由認議會選舉活動為無產階級政治鬥爭的實習。不過，無產階級的議會選舉活動，一定要在選舉權沒有財產，資格等限制的時候方能實現，也就是普通選舉（無限制的選舉）實現之後，方能實現。

全世界最早的普通選舉，起始於八十年前（一八四八年），法國二月革命之後。歐美各

國先後實行。日本因封建勢力的雄厚，延未能實現。遠在三十四年前，甲午中日戰爭以後，締結馬關條約之後一年（日本明治二十九年，清光緒二十二年，西歷一八九六年），日本的普選運動開始，由急進的小資產階級組織「普選選舉期成同盟會」。二十八之前，庚子八國聯軍之後二年，日俄戰爭醞釀風雲正急之際（日本明治三十五年，清光緒二十八年，西歷一九〇二年），最初的普選案，提出於日本第十六屆議會，但是在那藩閥軍人用事極盛的時候，何能通過！以後第二十四屆議會（一九〇八年），第二十五屆議會（一九〇八年），第二十六屆議會（一九〇九年）又復提出，完全沒能通過。第二十七屆議會（一九一〇年）又復提出，在衆議院通過，又爲貴族院所否決，這普選運動運動了六十年，仍未能實現。這是因爲，在這期間，普選運動的領導者是急進的小資產階級，其目的在增加下層勢力以抵制藩閥軍人等封建勢力，但是沒有勞動羣衆以爲後盾，當然是不能成功。

歐戰以後，日本資本主義到了成熟期，無產階級的勢力也隨之大爲澎漲，自然就產生新的普選運動——以民衆爲基礎的普選運動。在十一年之前（日本大正八年，西歷一九一九年）二月十一日，第一次羣衆普選運動發生，參加的有東京各大學三千多人。其後，勞工也參加，向議會請願示威。翌年，第四十二屆議會裏，立憲國民黨和憲政會各自提出普

選舉，爲政友會內閣所反對，以致解散議會。以後議會都是政友會得勢，當然是不能通過。直到五年之前（民國十四年，日本大正十四年，西歷一九二五年），第五十屆議會方纔通過了現行的普通法。

現行的普通法仍然不徹底，因爲：（一）選舉權的年齡，日本定爲滿二十五歲以上，但是俄國爲十八歲，德國爲二十歲，法，英，美，意等國爲二十一歲。（二）居住限制，日本定爲一年，但是大多數國家都定爲六個月。（三）被選舉權的年齡，日本定爲滿三十歲以上，但是俄國爲十八歲，德國爲二十歲，英國和意國爲二十一歲，法國和美國爲二十五歲。（四）預備候選保證金，日本定爲二千元，這爲各國之所無。（五）女子沒有參政權。（六）沒有選舉及被選舉權的條款規定的特別煩瑣複雜，爲他國所沒有。（七）投票日，歐美多定在星期日放假日，日本則否。

所以日本的普通選舉法仍然是限制的選舉法。

（一）日本無產階級的民衆背景

——有組織的農工僅之十萬——

無產政黨的活動是以無產階級的民衆爲基礎，所以在急速日本無產政黨之前，先說說

日本無產階級的實力如何。

據一九二七年的調查，日本內地（除去朝鮮，台灣等殖民地）的總人口爲五千五百八十四萬九千人。其中本業的爲二千七百零八萬九千人，佔百分之四十九，從屬者爲二千八百七十六萬人，佔百分之五十一。本業之中又可分爲業主，職員，和勞工三項。業主爲九百五十五萬三千人，佔本業總數的百分之三十五。職員爲一百五十六萬六千人，佔本業總數的百分之六。勞工一千五百九十七萬人，佔本業總數的百分之六十五，約爲三分之二這便是日本無產階級在數目字上的實力了。我們看看這三項本業者在各種產業中如何分配法

第九十七表 日本各種產業別人口分配表（單位千人）

| 日本政 治經濟 研究 | 總數 | 總數、業主、職員、員勞 | | | |
|------------------|--------|-------------|-------|--------|---|
| | | 業主 | 職員 | 員勞 | 工 |
| 總數 | 二七,〇九九 | 九,五三三 | 一,五三六 | 一五,九二〇 | |
| 農業 | 一四,一四〇 | 五,一〇五 | 一五 | 九,〇二〇 | |
| 水產業 | 五九七 | 一九九 | 八 | 三九〇 | |
| 礦業 | 四六 | 一五 | 三 | 四六 | |
| 工業 | 五,二九九 | 一,三二〇 | 三六 | 三,六〇三 | |

黨的政的日

商 業 三〇五〇 一・七〇〇 四一 三〇八
 交 通 業 一・〇三三 四四 一四 六〇九
 公 務 自 由 業 一・二二六 三六 六六 三六二
 其 他 有 業 者 四一 七 九 四六
 家 事 使 用 人 三 三 一 一
 無 職 業 者 一六一 六一 一 一

嚴格的說來，所謂無產階級的中堅，是近代產業勞動者，因為他們是無產階級運動中第一個能動的力星，也就是無產階級的基本隊伍。我們現在看看日本的近代產業勞動者數目如何：

第九十八表—日本近代產業勞動者數目表

| 業 別 | 男 | 工 女 | 工 合 | 計 |
|-------|---------|---------|---------|---------|
| 總 數 | 三・三・四六 | 一・零四・六 | 四・三九・〇六 | 二・二四・四三 |
| 工 廠 | 一・〇三・四〇 | 一・〇三・六六 | 二・〇七・〇六 | 二・二四・四三 |
| (一)官營 | 九・七五 | 三六・七五 | 四六・五〇 | 三六・〇九 |

| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| (一)公營 | 六・五〇 | 二・三四 | 八・五五 |
| (二)民營 | 三六・六三 | 一・〇三・六中 | 三・〇〇・六〇 |
| 鑛山 | 三三・四七 | 九・三六 | 三・〇一 |
| 交通通信 | 三三・八四 | 二・三六 | 三・〇六 |
| 日傭勞動者 | 一・四六・二六 | 四〇・七四 | 一・三二・四九 |

由上表可以看出來，日本的近代產業勞動者總數還不到五百萬人。其中爲主的工廠勞動者還不過二百餘萬人。我們再看看日本農民勞動者的數目如何：

農業勞動者三・一一〇・〇〇〇人

(其中純勞動者數爲三七〇・〇〇〇人，兼業勞動者數爲二，七四〇・〇〇〇人。)

佃農一・五二六・〇〇〇戶

(約佔從事耕作農家戶數的百分之二八)

自耕自佃農二・二九八・〇〇〇戶

(約佔從事耕作農家戶數的百分之四十八)

自耕農約百六七十萬戶

黨 政 的 本 日

嚴格的說來，唯有有組織的勞動者才是真正的無產階級鬥士也就是無產政黨的真正基礎。但是，日本加入工會的工人不過三十一萬餘人，和近代產業勞動者的總數四百六十萬相比，不過百分之七而已。我們現在看看這三十一萬餘有組織工人在各產業中佔有多大的地位：

十九表—日本各種產業中有組織工人數

| 產 業 | 全勞動者數 | 工會勞動者數 | 工會數 | 組織率 |
|------|--------|--------|-----|-----|
| 金 屬 | 三三,〇〇〇 | 六,〇〇〇 | 四 | 三〇% |
| 海上交通 | 四四,三〇〇 | 七,七〇〇 | 一四 | 一六% |
| 陸上交通 | 二六,三三三 | 三〇,九六 | 一七 | 一一% |
| 紡織被服 | 九七,三三三 | 三三,〇〇〇 | 三〇 | 三三% |
| 鐵 山 | 二五,〇〇〇 | 三,〇〇〇 | 七 | 五% |
| 化學陶業 | 一五,〇〇〇 | 七,〇〇〇 | 三 | 四% |
| 建築製材 | 四六,三三三 | 六,四〇〇 | 三 | 一三% |
| 印刷製品 | 三〇,〇〇〇 | 六,〇〇〇 | 三 | 二〇% |

| | | | | |
|------|-----------|-------|-----|-------|
| 食料煙草 | 一七・六〇 | 五・六六 | 三 | 三〇% |
| 電氣煤氣 | 六・三三 | 五・六六 | 一〇 | 六九% |
| 商業事務 | 一・一〇九・〇〇〇 | 六三三 | 六 | |
| 雜業 | | 三三・六一 | 一〇一 | |
| 合計 | | 三六・九六 | 一二三 | |

(註)電氣煤氣業的組織率之所以特別高是因為沒有把臨時雇傭者算入

日本有組織的農民。在一九二五年末，全國有農民組合一類的團體三千四百九十六個，包括農民三十萬七千人。

合有組織的工廠兩種總計不過六十二萬餘人。這是日本無產政黨的真正基礎。

以上都是民國十六年以前的情形。最近幾年來，日本有組織的工人及農民略有增加。

工人方面的勞動組合，參加人數在昭和六年（民國二十年）六月的調查，有三十七萬餘人，比昭和元年（民國十五年）增加幾近十萬萬其詳細數目如下表：

第一〇〇表——近年來日本勞動組合發達表

年 次 組合數 組合員數

日 本 的 政 黨

如若按各種產業來區分則以運輸交通業工人為第一，參加組合的有十六萬餘人，其次
是機械器業工人，也有九萬餘人。其詳細數目如下表：

| 業 態 | 昭 和 | | 大 正 | |
|------------------------|---------|---------|---------|---------|
| | 一 | 二 | 三 | 四 |
| 第一〇一表——近年來日本各種產業的組織工人表 | 一 | 二 | 三 | 四 |
| 運輸交通業 | 160,000 | 160,000 | 160,000 | 160,000 |
| 機械器業 | 90,000 | 90,000 | 90,000 | 90,000 |
| 礦業 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 |
| 化學 | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 40,000 |
| 紡織 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 30,000 |
| 飲食 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000 |
| 其他 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 |
| 合計 | 300,000 | 300,000 | 300,000 | 300,000 |

日 本 政 治 經 濟 研 究

| | | | | |
|------|----|------------|-----|------------|
| 雜工業 | 二元 | 一八・〇〇(七四) | 三〇 | 一七・五五(八六) |
| 鑛業 | 一六 | 五・〇六(一) | 一九 | 六・五五(四) |
| 煤氣電氣 | 三 | 九・九四(三) | 一五 | 九・五〇(一) |
| 運輸交通 | 一五 | 一〇・六六(一・三) | 101 | 一三・四一(一・四) |
| 通 信 | 二 | 二・一五(五) | 三 | 二・〇四(一) |
| 土木建築 | 三〇 | 三・五〇(一) | 三 | 三・〇〇(一) |
| 其 他 | 三九 | 三・七六(一・七) | 三〇 | 三・〇三(一・三) |
| 計 | 七三 | 三三・三三(三・〇) | 一九 | 三三・三三(三・〇) |

(括弧內係女工)

至于農人方面，昭和六年（民國二十年）也有三十萬人參加組織，比昭和元年（民國十五年）增加約八萬人。詳細數目如下表：

第一〇二表——近年來日本參加農民組人數表

| 年 次 | 組 合 數 | 組 合 員 數 |
|-----|-------|---------|
| 昭 和 | | |

| | | |
|---|------|-------|
| 一 | 三・五五 | 三三・六五 |
| 二 | 四・五一 | 三三・三三 |
| 三 | 四・三三 | 三三・〇五 |
| 四 | 四・一五 | 三三・六九 |
| 五 | 四・〇八 | 三三・〇五 |
| 六 | 四・四四 | 三三・〇一 |

但是，日本有組織的工人及農民總數仍不過六十餘萬耳。

(三)日本無產階級戰線，分野

——左，中，右三派的對立——

日本，無產階級戰線中最不良的景象是戰線不能統一，因之亦不能樹立單一的無產政黨，像英國勞工黨那樣。日本無產政黨在樹立之初，也是以單一相號召。如農民勞動黨及其繼起的勞動農民黨都是。以後便分裂了，并且是分的厲害。日本無產政黨的不能統一。原因日本工人和農民團體的不能統一。因為各無產政黨皆以一部份工人及農民團體為基礎。因為工人及農民團體的戰線分裂，影響到無產政黨的分裂，而無產政黨的離合也可以影

到工人及農民團體的離合。最好是在說明日本無產政黨離合之前，先說明日本工人和農民團體的分裂情形。

日本的工人團體戰線極不統一。以全國的總機關而論，有日本勞動總同盟，日本勞動組合評議會，日本勞動組合同盟，日本勞動組合總聯合會四個。其中日本勞動總同盟和日本勞動組合評議會尤為水火。大體上說來，日本的主要工人團體可以分為左，中，右三派。人數以右派為最多，可到十五萬餘人，左派次之，可到五萬餘人。中間派最少，不過三萬餘人而已。茲將日本各派工人團體列表如次：

第一〇三表——日本各派工會表

| 名 | 稱 | 會 | 員 | 數 |
|---------|--------|---|-----|-----|
| | (一) 右派 | | | |
| 日本勞動總同盟 | | | 三七, | 八五五 |
| 日本海員組合 | | | 四八, | 四四四 |
| 海員協會 | | | 九, | 〇〇〇 |
| 官業勞動總同盟 | | | 一二, | 六〇〇 |

海軍勞動組合聯盟

四三,四九一

東京市電自治會內「現實同盟」

四,〇〇〇(?)

總計

一五一,三九〇

(二)中間派

全國勞動組合同盟

二〇,一五〇

日本勞動組合總聯合

五,二三〇

日本司厨同盟

九,六九五

日本客業勞總聯盟

二,一二二

橡皮工組合

一,〇〇〇

浦田勞友會

四〇〇

總計

三八,五八七

(三)左派

日本勞動組合評議會

三五,〇八〇

關東電氣勞動組合

一,二〇〇

關西電氣勞動組合

四五〇

東京市從業員組合

二,五〇〇

在日本朝鮮勞動總同盟

一,七五三

全日本鐵道從業員組合

五,〇〇〇

日本通交總聯盟

一四,九八八

礦夫組合九州聯合會

六,〇〇〇(?)

京都陶磁工組合

七〇〇

海員刷新會

一〇〇〇

總計

五七,七九一

(勞動組合評議會後被解散，改組爲「全國單一勞動組合聯合促進協議會」。)

日本農民團體方面也是派別紛歧，全國的機關，共有日本農民組合，全日本農民組合，全日本農民組合同盟，日本農民組合總同盟四個。日本農民組合爲左派，全日本農民組合爲中間派，全日本農民組合同盟及日本農民組合總同盟爲右派。人數以左派爲最多。茲將日本全國農民團體內容列表如次：

第一〇四表—日本各派農會表

| 名 稱 | 會 員 數 |
|-----------|--------|
| 日本農民組合 | 六八,七四八 |
| 全日本農民組合 | 二〇,二二〇 |
| 全日本農民組合同盟 | 四二,四〇〇 |
| 日本農民組合總同盟 | 一〇,一〇〇 |

(以上數字均係各農民協會自己的報告,不甚確實)

(四)日本無產政黨的發生及早年變化

從單一政黨到三黨鼎立—

從歷史上考察日本的無產政黨，最早要算明治三十四年（清光緒二十七年，西歷一九零一年）的社會民主黨，但即日就被解散。明治四十年又有日本社會黨出現，但僅存在一年有餘。這等尚不能算作真正的無產政黨，因為那時日本資本主義尚未成熟，無產階級在質和量兩方面均感不足，自然沒有羣衆的後盾。在一九二二年八月，山川均在「前衛」雜誌上發表了一篇「無產黨的方向轉換」文章，主張勞動運動應當由經濟鬥爭轉到政治鬥爭，大

引起日本人士的注意。六年之前（一九二四年）二月，日本勞動總同盟在全國大會中通過參加政治運動的宣言，內中主要的是說：「希望薪資階級的議會來實現無產階級的根本解放自然是不可磨的事，不過在普通選舉實現後，我們却願意有效的行使選舉權以獲得政治部份的利益，同時促進無產階級的政治覺悟。」農民團體方面，一九二四年二月，日本農民組合第三次大會中也提出「對於未來總選舉的態度」，但是因議論紛歧，不能解決。七月中央委員會中又提出無產政黨樹立準備問題。十二月，中央委員又討論無產黨的組織單位問題。無產政黨的樹立醞釀遂日盛一日。

一九二五年，普通選舉法通過兩院之後，日本第一個無產政黨，農民勞動黨，便於該年十二月一日下午五時二十分，在明治會館舉行結黨式。但是，成立後不到三小時，便被憲政會（即現在的民政黨）的加藤（高明）內閣藉口違反治安警察法解散了。第二天，日本農民組合開中央委員會聲明仍願再起組織單一無產政黨。到了一九二六年三月五日，新無產政黨，勞動農民黨，又在大阪土佐摺青年會館成立，但是，黨內左右的對立一天一天的明顯，而傾軋排擠也一天甚似一天。左派主張開放門戶，一切勞動團體都可以加入，右派主張「根據國情」，「排除共產」。最後遂歸於分裂，而日本的單一無產政黨亦告終。

一九二六年十二月，勞動總同盟退出勞動農民黨，由吉野作造，安部磯雄等人指導，另組織社會民衆黨。但是，勞動總同盟不久又分裂，其中左傾份子脫離另組織，日本勞動組合同盟。同時，又以日本勞動組合爲基礎組織日本勞農黨，而以廣生久，加藤勘十，三輪壽壯等人爲領袖。這日本勞農黨和勞動農民黨醞釀合併，未能實現。在勞動總同盟退出勞動農民黨的前一月，日本農民組合內部也生了變化，一部份右傾分子脫離，另組織日本農民黨，主張「農民到農民黨來，否認和工人聯合，勞動農民在分裂之後，加以整理，選舉大山郁夫爲中央執行委員長，態度愈左傾。以後日本無產階級便成爲勞動農民黨（左派），日本勞農黨（中間派），社會民衆黨（右派），日本農民黨（極右派）對立的形勢。

在一九二八年四月，日本發生全國大檢舉共產黨事件，田中反動內閣搜捕全國工農運動者達一千餘名，四月十日以「共產嫌疑」，莫須有的把勞動農民黨及左派工會的日本勞動組合評議會解散了。但是，勞動農民黨人依然奮鬥，其中一部分中和份子，於該年七月二十二日又成立無產大衆黨，並選出鈴木茂三郎，大道憲二，大森義太郎等爲中央委員。無產大衆黨成立後便鼓吹單一的無產政黨。到了一九二八年十二月二十日，由無產大衆黨，日本勞農黨，日本農民黨，及地方無產政黨的九州民權黨，信州大衆黨，島根自由民衆黨

，七黨合併，新黨名曰日本大衆黨，舉高野岩三郎爲委員長。於是日本無產政黨又成日本大衆黨和社會民衆黨，左右對立的形勢。

一九二九年春天，日本大衆黨內部又起糾紛，一部左傾份子退出，黨權落於中間派之手。同時，資勞動民黨的左傾份子，如大山郁夫，細迫兼光，上村進等又組織農黨。於是日本的無產政黨又入於勞農黨（左派），日本大衆黨（中間派）社會民衆黨右派三足鼎立的形勢中。

此外，日本尚有若干地方無產政黨，如京都的勞農大衆黨，廣島的中國無產黨，千葉的千葉勞農黨，奈良的大和無產黨，岩手的岩平無產黨等，其中以京都的勞農大衆黨勢力最大。一九三〇年，堺利彥成立東京無產黨，也是地方無產政黨之一。

（五）九一八以前的日本無產政黨

——依然左右兩派對立形勢——

一九三〇年以後，日本的無產政黨又起變化。這種化起於社會民衆黨內。本來，日本的社會民衆黨自成立以後，一向很是平穩無事。到了一九二九年九月，因爲該黨的支持團體，日本勞動總同盟大阪聯合會分裂的結果，黨內發生動搖，一方面由勞動總同盟大阪聯

合會分裂而出的勞動組合全國同盟代表五十五名聲明脫籍，另一方面黨內智識階級份子，如宮崎龍價等，因為不滿意於「總同盟」系的專橫和黨的右傾反動化，暗中和各支部的不平分子結合，作清黨運動，在一九二九年十二月二十五日發起「防衛社會民衆黨反動化全國協議會」，在東京本所公會堂開會，決議：『鈴木文治，松岡駟吉，西尾末廣三人，在第四次黨大會時，違反黨之精神，以集團暴力蹂躪大衆討論，要求中央委員會勸告三氏即時脫黨。』幹部派以其於黨中造黨，紊亂統系，違反大會之決議，命其解散協議會。不聽，遂開除宮崎氏黨籍。於是宮崎等一派乃相率脫黨，和大阪的「全國同盟系」互相提携，樹立新黨。在一九三〇年一月十五日，集會於東京本鄉追分町帝大基督教青年會館，舉行結黨式，定名曰「全國民衆黨」。印度自治運動駐日員爽申氏也赴會致辭說：「爲印度無產階級而作戰的甘地的等之一員，特來祝賀日本一無產黨之產生，並祈此後日印解放運動之提携與親睦」。東京，大阪，京都等二十九處社會民衆黨農家參加新黨的約有五萬餘人。稻葉房藏氏以大阪爲根據所統率的「勤勞黨」，也來加入。全國民衆黨舉大原社會問題研究所所長高野岩三郎博士爲顧問，宮崎及吉野周澄，阿部茂，山內鐵吉，田實青臣等二十六人爲中央執行委員，暫不設執行委員長與書記二職。至於該黨所屬的團體，有「勞動組合

全國同盟」(係由舊勞動總同盟大阪聯合會所分出，人數約占該聯合會的三分之一，組員四千五百人)，「北海道勞動總同盟」(組員二千三百人)，「兵庫合同勞動組合」，「關東總合勞動組合同盟」，「傳給生活者協會」等。

自全國民衆黨成立以後，日本無產政黨的聯合運動，略有進展。在第二次總選舉(一九三〇年)以前，日本大衆黨曾向各無產黨提倡「選舉協定」，設立「總選舉對策共同協議會」，因為各無產政黨間彼此爭持不讓，沒有結果。但是各地方無產政黨，在這時候共同組織「無產政黨統一協議會」，以水谷長三郎，所統率的京都「勞農大衆黨」爲中心，所屬有「宮城大衆黨」，「岩手無產黨」，「千葉勞農黨」，大和統一無產黨」，「中國無產黨」等。不久「東京無產黨」及大阪之「無產大衆黨」亦均於結黨後加入。

總選舉的結果，各無產政黨慘遭失敗，凡關心社會主義運動的人都希望他們能消除陰域，一致團結，而各黨亦蓋感合同統一之必要。一九三〇年二月二十六日，左派的「勞農黨」發表聲明書，希望各無產政黨合併。右派的「社會民衆黨」，也係一同的聲明。以後幾經折衝，多方奔波，一九三〇年四月二十八日，由「日本大衆黨」向「全國民衆黨」及「無產政黨統一全國協議會」提議合同，七月二十日舉行三派合同大會於東京芝區之「協調會館」

，定名為「全國大衆黨」。於是無產黨中間派的大團結告成。首由河野本氏致開會詞，舉松谷與二郎，宮崎龍價，水野長三郎三氏為正副主席。大會公舉中央委員百十四名，互選中央執行委員二十九名，吉田賢一，賀川豐彥等。支持團體，以全國勞動組合同盟為主。全國勞動組合同盟是由屬於日本大衆黨的日本勞動組合同盟與屬於國民大衆黨的勞動組合全國同盟二團體合併而成。日本無產政黨，經過這一次合同運動後，他們壁壘分野，較前更為簡明：社會民衆黨為右，勞農黨為左，全國大衆黨居中。

日本政黨的

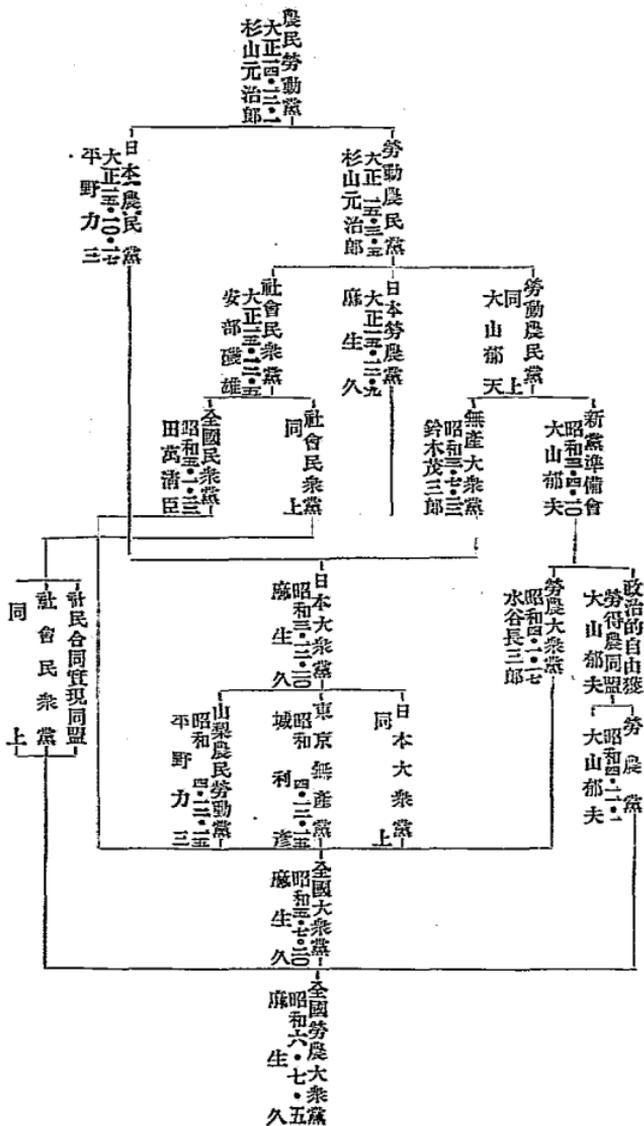
日本大衆黨與全國大衆黨合同運動雖然成功，但是勞農黨的內訌又起。一九三〇年夏該黨「大阪支部聯合會」本部內，忽然發生所謂「解消運動」，即主張即時解散「勞農黨」而返於非合法的「勞農鬥爭同盟」時代的狀態。領導主持的為大阪市會議員小岩井淨，赤市五十磨等。而飯石豐市，安田高行，小田孝等，則反對此議，故一般稱之曰「存續派」。該黨大阪支部聯合會支持團體中，除金屬勞動者組合及木材勞動組合等仍主張支持勞農黨外，其他如全大阪動組合，市電自治會大阪電氣勞動組合，關西反彈勞動，全農組合之一部以及借家人同盟，泉州合同泉州勞動組合等之青年部員，多傾向于解消運動而表示不信任黨的態度，因此八月二十九日，支部聯合會黨大執行委員會席上，解消派大獲勝利，通過「即

時解散勞農黨」的緊急動議。但是黨首大山郁夫和常任委員上村進等反對解消，而書記長細迫兼光則贊成解消，雙方衝突甚烈。到了九月四日，常任委員會議決細迫除名處分，並開除小井淨・赤市五十磨等諸人黨籍。十月二十三日常任委員會又議決開除河上肇，上村進種，神道實次三人黨籍。勞農黨失掉這樣多的領袖人物，黨勢遂大衰，而無產政黨的旗幟為滿色矣！

但是此後各無產政黨合同的空氣，非常緊張，不久就由新成立的全國大衆黨，大山郁夫的勞農黨和由社會民衆黨分化出來的「社民合同實現同盟」等極力協議，結果成立了所謂「二黨半合同」。正式政黨於一九三一年七月五日成立，定名為「全國勞農大衆黨」。黨首問題，因為難產生，暫時付諸闕如。秘書長推大衆黨的廖生久。城利彦，高野岩三郎，彬山元次郎，松谷興次郎，山崎今朝彌等，被推為顧問。中央執行委員共十四名，大衆黨八名，勞農黨四名，社會民衆黨二名。久懸不決的無產政黨合同問題，到此始告一段落，無產階級的政黨戰線表面上歸於統一，但是內部，因為各黨舊來關係，尚不免糾紛。

截至到九一八止，日本的無產政黨仍然維持這全國勞農大衆黨（左中混合）和社會民衆黨（右）對立的形勢。為觀察便利起見將日本無產黨的變化繪圖的如次：

圖四 一九一八以前日本無產政黨分合變化圖



九一八以後，日本無產政類一部份竟法西斯化，因而起極大的變化。這詳細留待後章說明。

第五節 日本無產政黨的組織和政綱政策

(一) 日本無產政黨的組織大概

均採取委員制！

日本的無產政黨，在組織方面係採用近代的委員制和資產階級政黨的總裁制略有些不同，但是不能十分徹底，黨首仍然佔很主要的地位，而幹部的勢力很大，時常發生幹部和地方支部以及下層黨員間的衝突。日本無產政黨的職員都由選舉而出，和資產階級政黨的黨相彷彿。

一，社會民衆黨以大會為最高決議機關，每年一次，由中央執行委員會召集。但中央委員三分之二以上或黨員三分之一以上之要求可以開臨時大會。

二，大會閉幕後，以中央委員會為最高決議機關，由中央執行委員會召集。

三，中央執行委員會為執行機關，對大會及中央委員會負責。

四，中央執行委員會由中央執行委員會，書記長和會計監督組織之。

五，中央執行委員，書記長，會計監督，及中央執行委員長均由中央委員會互選。

六。中執行委員會視事實之需要得設：組織部，宣傳部，教育，出版部，調查部，事業部，國際部，機關報部，青年部，婦女部，情報部，財政部等。

七，中央執行委員會設以下職員：

中央執行委員長……………一人，

中央執行委員……………若干人，

書記長……………一人，

會計監督……………一人，

會計……………一人，

部長……………若干人，

部長及會計均由中央執行委員會任命，職員任期均為一年。

八，設顧問若干，由中央執行委員會推薦。

九，地方組織分支部、支部聯合會、地方協議會三種。支部以同一選舉區中，五十名

以上的黨員組織。支部聯合會由兩個以上的支部組織。地方協議會由同一地方的支部，及支部聯合會，得中央執行委員會的許可組織。

十，支部及支部聯合會均有大會及執行委員會。

十一，黨員犯左項之一，得由中央執行委員會或大會與以除名處分：

A. 違反黨的主義綱領者，

B. 損毀黨的名譽者，

C. 紊亂黨的統制者。

十二，黨員每人年納中央黨費五十錢，支部黨費五十錢，均由支部徵收。其他的各無產政黨大略相同，也有沒有中央委員會或顧問的，猶以左傾各黨為然。

(二) 社會民衆黨的黨綱及政策

——改良派意味濃厚——

現在我們值得細看看日本新興的各個無產政黨的最近政綱何如。先由右傾而比較穩定的社會民衆黨看起。

日本社會民衆黨是右派的無產政黨，有人說：社會民衆黨不能算是無產政黨，因為他

們不過是改良主義者（社會民主主義）而已。所以社會民衆黨的黨綱中改良派意味甚爲濃厚，錄之如下：

一，確信可以建設勤勞階級本位的政治經濟制度和樹立健全的國民生活。

二，認資本主義的生產和分配方法，有阻礙健全國民生活的地方，應依合法手續改革之。

三，主張排斥代表特權階級的已成政黨，和輕視社會進化程度的急進主義。

至於社會民衆的政策，按照一九二九年十二月的改正有十八條，全部譯錄如左：

一 澈底普選，內分：（1）選舉年齡減至二十歲，（2）給婦女以參政權，（3）採用比例代表法，（4）選舉費用由國家負擔，（5）廢居住限制，（6）廢保證金制，（7）公體投票時間，（8）徹底的確認不在投票權。

二，改廢抑壓言論，集會，結社之自由的各種法令，內分：（1）廢止治安維持法，

（2）改廢治安警察法，（3）廢止行政執行法，（4）改正新聞紙法出版法。

三，改革議院制度，內分：（1）廢止貴族院的預算修正權，（2）延長議會的會期。

四，確立民衆外交，內分：（1）解放被壓迫民族，（2）打破資本主義侵略政策，

(3) 打破對華反動政策，(4) 確立世界的移民之自由。

五，改革軍政，內分：(1) 縮小軍備，(2) 增加兵卒的俸給，(3) 給在營兵家族以扶助費。

六，改革行政組織，內分：(1) 打破中央集權的警察政治，(2) 徹底確立地方自治制。

七，改革財政及稅制，內分：(1) 支出：(A) 增加為勤勞階級的支出，(B) 廢止擁護資本家的補助金及獎勵金，(C) 極端軍事費，(D) 財政部存款部資金的運用於勤勞階級。(2) 收入：(A) 國稅：(a) 設定財產稅，(b) 設定土地增加稅，(c) 高率累進的賦課資本利息稅和承繼稅，(d) 設定不勞利得稅，(e) 廢止砂糖消費稅，(f) 廢止生活必需品關稅。(3) 地方稅：(a) 廢止特別地稅，(b) 廢止府縣營業稅，(c) 深堂，理髮業稅等，(c) 廢止雜稅(腳踏車，運貨稅，牛馬車稅等)，(d) 設定家室稅免稅點，(e) 增加財產所得稅附加稅率，(f) 廢止戶數比例。

八，重要產業及金融的社會化，內分：(1) 交通機關，電氣·瓦斯，自來水等的公營。(2) 中央批發市場公營。(3) 中央銀行的國營。(4) 新設公營庶民銀行。

九，改革土地制度，內分：(1)都市住宅地的公有。(2)禁止官公有地的官賣。

十，完成勞動立法，內分：(1)實施八小時工作制。(2)確立團結罷工權。(3)制定最低工資法。(4)改正康健保險法，工場法，礦山法，船員法，船艙職員法，(5)制定工本，建築，漁業，交通和其他屋外勞動者的保護法。(6)實施國際勞動條約。

十一，確立農民政策，內分：(1)制定完全的佃農法。(2)確立耕作權。(3)決定最高租稅。(4)確立爭議權。(5)確保團結權。(6)充實耕作階段的金融。(7)產業組合，農會，農業倉庫須以耕作者為本位。(8)設定農業保險制。(9)肥料農具國營。(10)促進農村電化。

十二，制定傳給生活者保護法，內分：(1)確定八小時勤務制。(2)公定退職津貼。(3)確立公休制。

十三，教育的根本改革，內分：(1)義務教育費的全額公費制。(2)農民學校，勞動學校的公費制。(3)普及夜間中學而實行公費制。(4)增加小學教員的新俸。(5)國定教科書編輯委員會議應參加民衆代表。

十四，徹底社會設施，內分：(1)制定關於疾病，養老，災害的社會保險法，(2)完成小住宅地域的衛生保險設施，(3)育嬰堂的公營普及，(4)醫學救療事業的公營，(5)確立醫藥分業制。

十五，徹底失業對策，內分：(1)為救濟失業而公營興工土木，建築，植林，開墾事業，(2)設定失業保險制，(3)新設及普及勞動者和下級俸給生活者管理的職業介紹所。

十六，改革審判制度，內分：(1)對犯罪者國家應認賠償，(2)撤廢陪審員選舉的納稅資格，(3)廢止死刑，(4)廢止秘密審理的預審制，(5)確立對無產者的訴訟救助制。

十七，撤廢對女子之經濟的法律的差別，內分：(1)對男女同一勞動應付同樣工資，(2)制定有子孀婦的扶助法，(3)廢止由人身買賣的娼婦制，(4)廢止女工的夜工制，寄宿制，(5)徹底的改正親族法，承繼法，(6)給妻以承繼權。

十八，確立居住權，內分：(1)設定賃稅制限法，(2)公營及增設勤勞者的住宅，(3)禁止押租，(4)制定房租合法。

(三)全國勞農大眾黨的黨綱及政策

——左中兩派的混合意味——

全國勞農大眾黨，因為係左傾和中間兩種份子混合而成，同時又受當局的嚴重監視，所以比較以前的左傾無產政黨主張和緩多了。全國勞農大眾黨的前身，勞農黨，經過三次的解放，仍苦鬥不已，其主張頗有可注意者。全國勞農大眾黨的另一前身，全國大眾黨則以「根據我國情」及「採用合法手段」為言，就和緩多了。到全國勞農大眾黨成立，份子複雜，主張也就更和緩了。全國勞農黨的黨綱計共三項：

一，我黨係勞動者，農民，及無產市民的結合體，為全被壓迫大眾的日常利益的擁護和擴張而奮鬥。

二，我黨期望資本主義制度的徹底改革及無產階級的解放。

三，我黨努力合於勞動組合及其他無產大眾諸組織的擴大強化，並為達此目的而奮鬥。

至於全國勞農大眾黨的政策，則分以下各項：

一，打破秘密外交。

- 二，絕對反對帝國主義侵略政策。
- 三，縮小軍備。
- 四，對於入營兵卒的家族生活國庫與保證。
- 五，資本利息稅，繼承稅，收益稅等提高為屢進稅。
- 六，制定完全自由的工會法及最低工資制。
- 七，七時間勞動制。
- 八，國庫負擔的失業保險法確立。
- 九，佃農權的確立。
- 十，廢止政治警察。
- 十，公選市鎮村長。
- 十一，社會科學研究的自由等項。

第六節 日本各政黨的政治實力

(一) 從選舉方面看各黨消長

——選舉勝利與政治勝利並行！

於大正七年（民國七年）的原敬政友會內閣。從大正七年到大正十二年，是政友會得勢的時期。大正十三年以後，政友會分裂，憲政會遂在多年苦節之後而登臺。昭和二年（民國十六年）田中義一入政友會，政友會遂又得勢。昭和五年（民國十八年）民政黨得勢。到最近中日事件以後，政友會又握政權。

在議會方面也是如此。第十四次（大正九年）選舉政友佔絕對多數，第十五次（大正十三年）憲政會便超過政友會。第十六次（昭和三年），政友會，憲政會相若，前者略多於後者。第十七次（昭和五年）民政會獲絕對多數。最近第十八次，政友會又獲絕對多數。有如下表：

第一〇五表——日本每次選舉各政黨勢力表

| 內閣次數 | 日期 | 政友 (本黨) | 憲政 (民政) | 革新 (草俱) | 實同 (國同) | 無產 | 備考 |
|------|--------|------------|------------|------------|------------|----|-------|
| 原四十四 | 大正九年十月 | 355 | 100 | — | — | — | 定員四六四 |
| 原四十三 | 同 | 276 | 133 | — | — | — | |
| 原四十四 | 同 | 103 | 167 | — | — | — | |

| | | | | | | | | |
|----|----|---|-------|----|----|---|-----|---|
| 田中 | 56 | 同 | 四・三・三 | 三三 | 一三 | 一 | (1) | 七 |
| 濱口 | 57 | 同 | 五・三・三 | 三三 | 一五 | 一 | 三 | 七 |
| 濱口 | 58 | 同 | 五・三・三 | 三三 | 一五 | 一 | 三 | 七 |
| 濱口 | 59 | 同 | 五・三・三 | 三三 | 一五 | 一 | 三 | 七 |
| 若槻 | 60 | 同 | 五・三・三 | 三三 | 一五 | 一 | 三 | 七 |
| 犬養 | 61 | 同 | 六・三・三 | 一七 | 一五 | 一 | 六 | 五 |
| 犬養 | 62 | 同 | 六・三・三 | 一七 | 一五 | 一 | 六 | 五 |
| 犬養 | 63 | 同 | 六・三・三 | 一七 | 一五 | 一 | 六 | 五 |
| 齊藤 | 64 | 同 | 七・六・三 | 三三 | 一五 | 一 | 六 | 五 |
| 齊藤 | 65 | 同 | 七・六・三 | 三三 | 一五 | 一 | 六 | 五 |

備考(1)次數欄中，漢字數字係總選次數附刺伯數字係議會次數。(2)期日一項：係總選當日或議會閉會日(3)括弧內的政黨係現不存在者。如若分看每次選舉結果的候補當選，及增減情形，則如下表：

第一〇六表—日本各次選舉各黨詳情表

(一)第十四次總選舉

| | | | | | |
|-----|-----------|------|------|---|---|
| 政黨名 | 候補者數(內公認) | 當選者數 | 解散當時 | 增 | 減 |
|-----|-----------|------|------|---|---|

| 日 本 政 治 經 濟 研 究 | | 中 立 | | 計 | |
|-----------------|--------|-------|-------|-----|--------|
| 立憲政友會 | 四三(零七) | 立憲國民黨 | 四二(零) | 中 立 | 二六(一一) |
| 憲 政 會 | 三三(三二) | | | | 六六(三二) |
| 立憲政友會 | 三三(三二) | | | | |
| 立憲國民黨 | 四二(零) | | | | |
| 中 立 | 二六(一一) | | | | |
| 計 | 六六(三二) | | | | |
| (2) 第十五次總選舉 | | | | | |
| 政黨名 | 當選者數 | 解散當時 | | | |
| 憲 政 會 | 一五 | 一〇三 | 增 | 減 | |
| 政 友 會 | 一五 | 三二 | 增 | 增 | |
| 革新俱樂部 | 三 | 四 | 減 | 減 | |
| 政友本黨 | 二〇 | 一五 | 減 | 減 | |
| 中 立 | 六 | 三 | 增 | 增 | |
| 計 | 六六 | 一五 | | | |
| (3) 第十六次總選舉 | | | | | |

| 政黨名 | 候補者數 | 當選者數 | 解散當時 | 增 | 減 | 得票總數 |
|------------|-------|------|------|-----|---|----------|
| 政黨名 | 候補者數 | 當選者數 | 解散當時 | 增 | 減 | 得票總數 |
| 立憲政友會 | 三四三 | 二七 | 一四 | 增三 | | 四・四・六五 |
| 立憲民政黨 | 三三三 | 三六 | 三九 | 減三 | | 四・三六・〇一〇 |
| 實業同志會 | 三 | 四 | 六 | 減四 | | 三・三・五〇 |
| 革新黨 | 一五 | 三 | 六 | 減三 | | 六・三三四 |
| 無產階級黨 | 八 | 八 | 一 | 增八 | | 四・九・三四 |
| 中立 | 一與 | 六 | 三 | 減六 | | 五・三・六三 |
| 計 | 一四五 | 四六 | 四九 | | | |
| (4)第十七次總選舉 | | | | | | |
| 政黨名 | 立候補者數 | 當選者數 | 解散當時 | 增 | 減 | 得票總數 |
| 立憲民政黨 | 三四三 | 三三 | 一三 | 增〇〇 | | 四・四・六二 |
| 立憲政友會 | 三〇三 | 一五 | 二 | 減三 | | 三・九四・五三 |
| 國民同志會 | 三 | 六 | 三 | 增三 | | 二・六・三五 |
| 革新黨 | 六 | 三 | 一 | 增二 | | 五・四・六七 |

| | | | | | | |
|-------|---|---|----|---|---|--------|
| 無產諸政黨 | 壹 | 伍 | 廿 | 減 | 1 | 50.210 |
| 中 立 | 壹 | 伍 | 10 | 減 | 1 | 30.210 |
| 計 | 六 | 伍 | 四 | 減 | 1 | 30.210 |
| | 六 | 伍 | 四 | | | 10.210 |

今年的總選舉結果并不在上述之內，留待末章來說明。

(二)無產政黨的選舉戰

表一由八名減至五名

日本自從民國十四年國會通過普通選舉法案後，直到民國十六年秋，方纔在府縣議會議員改選時實行，而日本無產政黨的政治爭鬥遂開始。選舉競爭的結果，無產政黨共得票二十五萬五千五百五十六張，當選議員二十七人。其中以左派的勞動農民黨為最佔多數，當選人五十三名，得票一十一萬五千八百八十張。茲將這一次地方選舉各無產政黨的成績，列表如下：

第一〇七表—日本無產政黨第一次選舉成績表

| | | |
|-------|------|---------|
| 勞動農民黨 | 當選人數 | 得票數 |
| | 13 | 113,880 |

| | | |
|-------|----|--------|
| 日本勞農黨 | 三 | 三〇・九六 |
| 社會民衆黨 | 二 | 二五・八〇 |
| 日本農民黨 | 三 | 三〇・三六 |
| 地方無產黨 | 六 | 三〇・五〇 |
| 合計 | 十五 | 一三六・〇二 |

日本無產政黨在這一政治爭鬥小試驗之後，接着便是民國十七年二月，日本第一次依普通選舉法所行的衆議院議員總選舉了。如無產政黨當然用全力以對付這次向總選舉，但是結果得票四十八萬七千五百零五張，當選議員八名。其中當選人數固然是以右派的社會民衆黨爲多，共有四名，但依得票數而論，仍然是以左派的勞動農民黨爲多，共得十九萬三千五百五十三張，但勞動農民黨當議員僅有議員兩名，這是政友會當局嚴重壓迫的結果。日本既成政黨幾乎以全力防礙勞動農民黨黨員的當選。勞動農民黨領袖大山郁夫在香川縣和政友會團員三土忠造相敵對，無論在財力，在勢力，自然是不易取勝。茲對日本第一次普選中無產政黨的成績列表如次：

第一〇八表——日本第十六次選舉無產政黨勢力表

| 黨 名 | 候選者數 | 當選者數 | 得 票 數 |
|-------|------|------|--------|
| 勞動農民黨 | 四〇 | 二 | 一五、七五三 |
| 日本勞農黨 | 二三 | 一 | 六、九三三 |
| 社會民衆黨 | 一七 | 四 | 一四、九六六 |
| 日本農民黨 | 三三 | 〇 | 四、三三三 |
| 地方無產黨 | 七 | 一 | 四、六二七 |
| 總 計 | 一五〇 | 八 | 四六、七五三 |

在將近一千萬的投票人中，無產政黨祇得了四十八萬多張票，四百六十六名議員中祇得了八名，成數當然是不能算好。不過，失敗的原因有：（一）日本當局的壓迫太甚，宣傳品往往被沒收，演說會無故即可被禁止。（二）財力不足。日本的政治已經是財閥政治，而選舉戰尤其是金錢戰。政友會和民政黨背後有三井和三菱兩大財閥，自然是不愁沒有錢，無產黨那裏能及他們。（三）候選者過多，超過實力。不過，這一層也有理由，無產政黨的選認加入選舉為練習政治爭鬥，所以在加入方面的意義過於當選方面。（四）無產政黨的選舉協定破裂，感線不能統一，往往自相火併起來，這是當選數少的主要原因，所以得票四

十八萬，按民政黨當選率至少可以當選二十名，但是僅選出了八名。

第二次日本衆議院總選舉結果，無產政黨當選議員僅有五名，（社會民衆黨一名；日本大衆黨二名，勞農黨一名），當然是失敗了。不過，在得票總數比前一次確有進步。這一次無產政黨得票總數爲五十萬零四千二百四十三張，比前一次約多二萬張，但是當選人數反減少三名，這完全是戰線分裂自相火併的結果。第二次的成績列如次：

第一〇九表—日本第十七次選舉無產政黨勢力表

| 本日的政黨名 | 立候補數 | 當選者數 | 得票總數 |
|--------|------|------|-------|
| | | | |
| 勞農黨 | 三 | 一 | 五・七〇 |
| 日本大衆黨 | 三 | 二 | 一六・三五 |
| 社會民衆黨 | 三 | 二 | 一〇・九四 |
| 全國民衆黨 | 四 | 一 | 一・六六 |
| 地方無產其他 | 三 | 一 | 七・六〇 |
| 計 | 壹 | 五 | 五〇・六〇 |

同樣，今年的總選舉也留待末章來說明。

(三)從握政權上看各黨消長

——政友會賂估優勢——

如若從握政權上看日本各政黨的勢力則以政友會為較強。原敬內閣，自大正七年至大正十年，期間甚長，勢亦甚盛。政友會倒後，薩系軍人組兩次內閣及清浦組貴族院內閣。以後即為各政黨聯立內閣，終至憲政會內閣。號大正十四年到昭和二年。以後田中義一率政友會組閣。昭和四年濱口率民政黨上台直到中日事件發生後始下野。以後政黨又轉入王犬養所指導的政友會手中。本年五月犬養被刺後，政黨政治動搖，但仍由齋藤維持聯立形式，事實，已不似以前了。其間各政黨的消長及與政府關係有如下表：

第一一〇表——日本政黨與政府關係表

原

內

閣

大正七年九月二十九日——十一年十一月四日

(3年1月)

閣員及政務官氏名

議 會
次 數

政 黨 關 係

日 本 的 政 黨

內閣總理大臣
兼 司法大臣

原 敬

(後九年五月)

司法大臣

(大木遠吉)

外務大臣

內田康哉

內務大臣兼

床次竹二郎

鐵道院總裁

(後九年五月)

鐵道大臣

(元田肇)

大藏大臣

高橋是清

陸軍大臣

田中義一

(後)

(山梨半造)

逓信大臣

野田卯太郎

四 自 大 正 七 一
 一 至 同 八 二
 二 二 三
 二 八
 四 二
 四 一
 六 八
 二 九
 二 六
 二 六

與 黨

立憲政友會
立憲國民黨
新政會
正交俱樂部

反對黨

憲政會

中立

立憲正國民黨

與 黨

立憲政友會

與 黨

新政會

反對黨

正交俱樂部

中立

憲政會
中憲國民黨

究 研 濟 經 治 政 本 日

| | |
|--------|-------|
| 農商務大臣 | 山本達雄 |
| 文部大臣 | 中橋五郎 |
| 海軍大臣 | 加藤友三郎 |
| 内閣書記官長 | 高橋光威 |
| 法制局長官 | 權田千之助 |
| 兼恩給局長 | |
| 警視總監 | 岡喜七郎 |
| 拓殖局長官 | 古賀巖造 |
| 内務省 | 川村竹治 |
| 警保局長 | |

高

大正十年十一月十三日

橋

| | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 四 一・七・九 自正 二 二 六 三 | 四 一・七・九 自正 二 二 六 三 | 三 一・七・九 自正 二 二 六 三 |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|

(七月個)

内

興黨 立憲政友會

反對黨 {憲政會
立憲國民黨}

中立 庚申俱樂部

興黨 憲政友會

反對黨 {憲政會
立憲國民黨}

中立 庚申俱樂部

閣

黨 政 的 本 日

內閣總理大臣
兼大藏大臣

子爵高橋大清

以下全部留任

加 藤 (友)

大正十一年六月十二日—十二年八月

內

閣

(月朔3年1)

內閣總理

大臣兼

海軍
大將加藤友三郎
子爵

海軍大臣

(後)海軍大臣(財部) 彪

四 五
正大自 同至
一〇一
一一三
一二三
二六六

四 六
正大自 同至
一一一
二一一

與黨 憲政友會

反對黨 {憲政會
立憲國民黨

中立 康申俱樂部

本日政治經濟研究

外務大臣(留任) 內田 康哉

鐵道大臣 大木 達吉

司法大臣 岡野敬次郎

內務大臣 水野練太郎

農商務大臣 荒井賢太郎

大藏大臣 市來 乙彦

文部大臣 鎌田 榮吉

逓信大臣(留任) 前田 利定

陸軍大臣 山梨半造

七二・二一
六二・三

反對黨(憲政會)
革新俱樂部

中立 庚申俱樂部

山 本 內 閣

大正十二年九月二日——二十二年十二月

(4月個)

黨 政 的 本 日

內閣總理

大臣兼

山本權兵衛

外務大臣

(後)外務大臣 伊集院彦吉

內務大臣

後藤 新平

大藏大臣

井部準之助

陸軍大臣

田中義一

逓信大臣兼

犬養毅

文部大臣

(後)文部大臣(岡野敬次郎)

農商務大臣

田健治郎

兼司法大臣

四
七

(一・二一・二一 正大自)
(三二・二一・二一 同至)

與 黨 革新俱樂部

反對黨 立憲政友會

好 意(憲政會)
立(庚申俱樂部)

究 研 濟 經 治 政 本 日

(後)司法大臣(平沼騷一郎)

鐵道大臣 山之内一夫

海軍大臣 (留任) 財部 彪

清

大正十三年一月七日

浦

一十三年六月

内

閣

(5月個)

内閣總理大臣 齋浦奎吾

内務大臣 水野隼太郎

外務大臣 松井慶次郎

大藏大臣 勝田主計

陸軍大臣 宇垣一成

海軍大臣 村上格一

四 八

(正 大 自
一 二 三 同 至
二 七 二)

與 黨 (政友本黨)

憲政會
政友會
反對黨
革新俱樂部

中立 (虎申俱樂部)

黨 政 的 本 日

司法大臣

鈴木喜三郎

文部大臣

江木千之

農商務大臣

前田利定

逓信大臣

藤村義朗

鐵道大臣

小松謙次郎

加藤

(高明聯立)

内

閣

(第一次)

大正十三年六月十一日—十四年七月

内閣總理大臣

加藤高明

外務大臣

幣原喜重郎

内務大臣

若槻禮次郎

(備考)
本會譯
閣内

本山
教

四
九

自至
同至

六
七

憲政會
政友會

革新俱樂部

反對黨
政友本黨

日本政治經濟研究

大藏大臣

濱口雄幸

海軍大臣

財部 彪

司法大臣

橫田千之助

(後)

(小川平吉)

文部大臣

岡田良平

商務農大臣

高橋是清

農林大臣

野田卯太郎

(後)

商工大臣

岡崎邦輔

逓信大臣

犬養毅

(後)

(安達謙藏)

鐵路大臣

仙石貢

陸軍大臣

(留任)
宇垣一成

五〇
 自一至四
 大正
 同至
 二六三〇

二八一八

中立
 中正俱樂部
 實業同志會

與黨
 憲政會
 政友會
 革新俱樂部

反對黨
 政友本黨
 中立
 中正俱樂部
 實業同志會

黨 政 的 本 日

加 藤 (高明第二次) 內 閣

大正十四年八月二日 一—十五年一月

(六個月)

八月二日憲政會單獨內閣

司法大臣 江木翼

農林大臣 早速整爾

商工大臣 片岡直温

以下留任

五 一

政會議本 (備考) 閣內概若

〔自一大正一四一五〕
〔至同三五二六二五〕

與 黨 憲政會

反對黨 立憲政友會
政友本黨

中 立 新正俱樂部
實業同志會

若

榎

丙

關

大正十五年一月三十日

— 昭和二年四月

(一年4個月)

十五年一月

內閣總理大臣 若槻禮次郎
兼內務大臣

以下留任

改造後(十五年六月)

總理大臣 若槻禮次郎

內務大臣 濱口雄幸

大藏大臣 早速繁爾

(死後)(九月)(片岡直温)

農林大臣 町田忠治

鐵道大臣 井上匡四郎

商工大臣 藤澤幾之助

以下留任

日 本 政 治 經 濟 研 究

五 自 昭 和 一 一 一 二 二 六
二 同 至 二 三 二 五

與 黨 [憲政會]

反對黨 [立憲政友會]

中 立
政友本黨
實業同志會
新正俱樂部

日 本 政 黨

田 中 內 閣
昭和二年四月十二日
四年七月
閣 (2年2個月)

內閣總理大臣

田中義一

兼內務大臣

內務大臣

鈴木喜三郎

(後)

(望月圭介)

大藏大臣

高橋是清

(後)

(三十五忠造)

陸軍大臣

白川義則

與黨 [立憲政友會]

反對黨 [新黨俱樂部 (民政黨準備會)]

中立 [新正俱樂部 實業同志會 昭和俱樂部]

與黨 [立憲政友會]

五 三
昭自 二和 昭自 四・五・二
同至 同至 八・五・二

究 研 濟 經 治 政 本 日

| | |
|------|---------|
| 海軍大臣 | 岡田啟介 |
| 司法大臣 | 原嘉道 |
| 文部大臣 | 三土忠造 |
| (後) | (水野鍊太郎) |
| (後) | (勝田主計) |
| 農林大臣 | 山本壽二郎 |
| 商工大臣 | 中橋德五郎 |
| 逓信大臣 | 望月圭介 |

| | |
|-----------------------------|------------|
| (二・四・三和昭自) 五 | (二・二・二和) |
| (三・六・五・三 ³ 同至) 五 | (二六二一・一・三) |

反對黨
 { 革新黨
 無產政黨 } 立憲民政黨

與黨
 { 實業同志會 } 立憲政友會

中立
 { 革新黨
 實業同志會 } 立憲民政黨
 { 修正俱樂部
 (革新黨除) }

日 本 政 治 概 論

(後)

鐵道大臣

小川平吉

(久原房之助)

拓務大臣

(首相兼)

濱

口

函

閣

昭和四年七月二日—六年四月

(1年9個月)

內閣總理大臣

濱口雄幸

外務大臣

幣原喜重郎

內務大臣

安達謙藏

五

七

中立 [明正會]

與黨

立憲政友會
實業同志會
憲政一新會

反對黨

立憲民政黨
革新黨
無產政黨

中立

新黨俱樂部
明政會

立憲民政黨

與黨

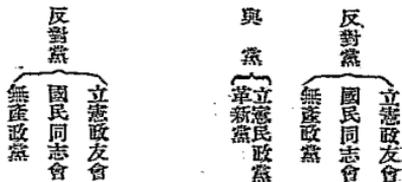
革新黨

明政會

本日政治經濟研究

| | |
|------|--------|
| 大藏大臣 | 井上準之助 |
| 陸軍大臣 | 宇垣一成 |
| 海軍大臣 | 財部 彪 |
| (後) | (安保清種) |
| 司法大臣 | 渡邊千冬 |
| 文部大臣 | 小橋一太 |
| (後) | (田中隆三) |
| 農林大臣 | 町田忠治 |
| 商工大臣 | 俵 孫一 |
| 逓信大臣 | 小泉又次郎 |
| 鐵道大臣 | 江本翼 |
| 拓務大臣 | 松田原治 |

(三二・四・五和昭自) 五 (六二・二一四和昭自)
 母 八 一二・一・五 同至
 三一・五・五 同至



若

概

丙

閣

昭和六年四月十四日—六年十二月

(8個月)

內閣總理大臣

岩槻禮次郎

外務大臣

幣原喜重郎

內務大臣

安達謙藏

大藏大臣

井上準之助

陸軍大臣

南次郎

海軍大臣

安保清種

司法大臣

渡邊千冬

黨 政 的 本 日

五 九
(自昭五·十·二六) 至同六·三·二八

與

黨
〔立憲民政黨
革新黨〕

反對黨

立憲政友會
國民同志會
無產政黨

究 研 濟 經 治 政 本 日

文部大臣

田中隆三

農林大臣

町田忠道

商工大臣

櫻内幸雄

逓信大臣

小泉又次郎

鐵道大臣

江木翼

拓務大臣

厚修次郎

犬

養

内

閣

昭和六年十二月十三日—七年五月二十六日

(6個月)

内閣總理大臣

犬養毅

昭自同
六〇

與黨 立憲政友會

日 本 的 政 黨

(後)

高橋是清

犬養毅

外務大臣(兼)

犬養毅

(後)

芳澤謙吉

內務大臣

中橋徳五郎

大藏大臣

高橋是清

陸軍大臣

荒木貞夫

海軍大臣

大角岑生

司法大臣

鈴木喜三郎

文部大臣

鳩山一郎

農林大臣

山本徳二郎

六
一
○二・三・七和昭自
五二・三・七 同至

六和
二一
一七
六二・二一・六和
一・二・一七

與黨 立憲政友會

反對黨 立憲政友會
無產政黨

反對黨 立憲民政黨
無產政黨

商工大臣

齋田米藏

逓信大臣

三十忠造

鐵道大臣

床次竹二郎

拓務大臣

秦豊助

齋

藤

内

園

昭和七年五月二十六日

内閣總理大臣

子

齋藤實

外務大臣

(兼)子

齋藤實

(後)

内田康哉

六 自昭和七年六月一
三
二 同至七年六月一

號稱舉國一致之政府

日 末 的 政 黨

內務大臣

男山本達雄

大藏大臣

高橋是清

陸軍大臣

荒木貞夫

海軍大臣

岡田啟介

司法大臣

小山松吉

文部大臣

鳩山一郎

農林大臣

後藤文夫

商工大臣

男中島久萬吉

逓信大臣

南 弘

鐵道大臣

三土忠造

拓務大臣

永井柳太郎

六

(二二・八和昭自)

三

(一・九八同至)

準與黨 立憲民政黨

準反對 立憲政友會

第七章 日本帝國主義

第一節 日本資本主義的特徵

(一) 資本主義發生的物質條件

——英德的先例——

使用機器，實行產業革命，以走入資本主義的途徑，在物質方面是有其條件的。英國是第一個產業革命的國家，並不僅僅因為發明蒸汽機器的瓦特 (James Watt) 在一七六九年) 是英國人。英國如若不具備實行資本主義的條件，瓦特的機器也是會被外國利用的。

資本主義發生的主要物質條件是：煤，鐵及其他一切原料品。

英國是西方(也可以說全世界)最占的產煤國家。據說，當羅馬人侵入英吉利的時候，羅馬人已經知道用煤作燃料了。遠在一千年前(第九世紀)英國已經發現煤礦。遠在七百年前(一千二百四十年)英國已經開採煤礦了。在三百年前(一千六百六十年)，英國已

經每年消費二百萬噸煤了。在十八世紀，英國每年出產煤達六百至八百萬噸；一千八百三

十年達到二千一百萬噸。在歐洲，英國是產煤的一等國。

我們看看從一千八百六十年，到一千九百零七年英國煤出產額：

| 第一一表 產業革命後英國煤產額表(單位公斤) | |
|------------------------|------------|
| 一八六〇年 | 八一, 三二三·三 |
| 一八八〇 | 一四九, 三二〇·九 |
| 一八九〇 | 一八四, 五二〇·一 |
| 一八九八 | 二〇五, 二九七·〇 |
| 一八九九 | 二二三, 六二七·〇 |
| 一九〇〇 | 二二八, 七九五·〇 |
| 一九〇一 | 二二二, 五六二·〇 |
| 一九〇二 | 二三〇, 七三九·〇 |
| 一九〇三 | 二三四, 〇三一·〇 |
| 一九〇四 | 二三六, 一五八·〇 |

這煤做什麼用呢？大部份用於蒸汽機關，所以英國的工業方能興盛。普萊司威廉 (Price William) 把一千八百八十七年度英國煤消費量，各分產業部門而作成如左表

第一二二表 一八八七年英國煤消費分配比率表

| | |
|--------|-----------|
| 鐵工業 | 一六·五% |
| 其他金屬業 | 〇·八 |
| 鑛業 | 六·七 |
| 工業蒸汽機關 | 二三·六 |
| 輪船 | 八·四 |
| 鐵路 | 四·〇 |
| 煤氣業 | 五·九 |
| 家庭溫室用 | 五·一 |
| | 二三九，九八一·〇 |
| | 二五五，〇九七·〇 |
| | 一九〇七 |
| | 一九〇六 |
| | 一九〇五 |

輸出 一七·四
其他 一·六

至於，同樣的比例，在一千九百年則如左表：

第一三表 一九〇〇年英國煤消費分配比率表

鑛業 九·七%
 熔鑛業 一五·七
 工廠經營 三一·六
 鐵路 七·一
 輪船 一〇·二
 煤氣業 八·二
 家庭用 一七·四

煤之外便是鐵。用煤熔鐵，英國在十七世紀初葉已經實行了。英國是熔解鑛鐵的老國家。我們看一看從一千七百四十年到一千八百四十年這一百年間英國鐵的生產發達的傾向

第一一四表 產業革命前後英國鐵生產額表(一)

| 年 度 | 熔鑄量 (噸) | 總生產量 |
|------|------------|-----------|
| 一七四〇 | 五九 | 一七,三五〇 |
| 一七八八 | 七七 | 六一,三〇〇 |
| 一七九六 | 一一一 | 一二五,〇七九 |
| 一八〇六 | 一三三 | 二五八,二〇六 |
| 一八二五 | 三六四 | 七〇三,一八四 |
| 一八二八 | 三六五 | 平均 二五三〇 |
| 一八三九 | 三七八 | 一,三四七,七九〇 |

我們再詳細看一個英國鐵的生產表，以明英國製鐵事業是怎樣在日趨盛大。

第一一五表 產業革命前英國鐵生產量表(二)

| 年 度 | 產出量單位千噸 |
|------|---------|
| 一七四〇 | 七 |
| 一七五〇 | 一〇 |

日 本 帝 國 主 義

| | |
|------|-------|
| 一七六〇 | 一五 |
| 一七七〇 | 二〇 |
| 一七八〇 | 四〇 |
| 一七九〇 | 六八 |
| 一八〇〇 | 一五八 |
| 一八一〇 | 三〇五 |
| 一八二〇 | 四〇〇 |
| 一八三〇 | 七〇〇 |
| 一八四〇 | 一,三九六 |
| 一八五〇 | 二,二五〇 |
| 一八六〇 | 三,八二七 |
| 一八六五 | 四,八一九 |
| 一八六六 | 四,五二四 |
| 一八七〇 | 五,九六四 |

究 研 濟 經 治 政 本 日

| | |
|------|-------|
| 一八七二 | 六，七四二 |
| 一八七四 | 五，九九一 |
| 一八七五 | 六，三六五 |
| 一八七七 | 六，六〇九 |
| 一八七九 | 五，九九五 |
| 一八八〇 | 七，七四九 |
| 一八八二 | 八，五八七 |
| 一八八五 | 七，四一五 |
| 一八八六 | 七，〇一〇 |
| 一八八八 | 七，九九九 |
| 一八八九 | 八，三二三 |
| 一八九〇 | 七，九〇四 |
| 一八九一 | 七，四〇六 |
| 一八九二 | 六，七〇九 |

日 本 空 國 主 義

| | |
|------|--------|
| 一八九三 | 六，九七七 |
| 一八九四 | 七，四二七 |
| 一八九五 | 七，七〇三 |
| 一八九六 | 八，六六〇 |
| 一八九七 | 八，七九七 |
| 一八九八 | 八，六一〇 |
| 一八九九 | 九，四二二 |
| 一九〇〇 | 八，九六〇 |
| 一九〇一 | 七，九二九 |
| 一九〇二 | 八，六八〇 |
| 一九〇三 | 八，九三五 |
| 一九〇四 | 八，六九三 |
| 一九〇五 | 九，六〇八 |
| 一九〇六 | 一〇，一八四 |

繼英國之後而實行產業革命以走上資本主義途徑的是德法兩國，法國在先而德國在後。但是因為法國缺乏煤礦，所以反遠在德國之後。梵萊特 (Achille Vialato) 在「近五十年來的經濟帝國主義與國際關係」書中說的很明白。譯文如次：

『最先完成工業主義的是英國，因此他得以凌駕各國而上之。這種革命運動在十九世紀的後半期更普遍地渲染了歐陸各國；初則法國，次為德國，各驍方於其製造工業。法國因缺乏煤礦乃盡力利用其國民性的聰明才智致力於奢侈及生奢侈品之生產，於是法國不久即操縱了這類產品的市場，不過法國的工業無論怎樣發達，他的農業依然與工業並茂，故法國的經濟組織常是混合的。德國因富於煤礦有了成形大工業國的必要條件。皇國統一不久，幾個識遠胆大的人即預備證實這種假定。他們的事業完全成功了。一八八〇年時，服務於工商業的人數即與農業者相稱，十五年後工商業者即已多於農業者百萬。德國已步伍英國以他的命運付之於工業。布羅王子 Prince Von Bismarck 說：『可以使德帝國躋於強盛者其惟工商業。』以後二十年中，他的努力求此一個目標的實現，遠得而發達滋茂。

.....』

(二)日本原料品的極度貧乏

——一切的一切均感不足——

現在我們看看，日本的煤，鐵及其他原料品的情形。先從地下去看，看有多少埋藏量，能持續多少年。這當然是一種想像，不能十分準確。在一千九百十年開過一次的國際會議中，決定世界各國鐵的埋藏量如左表。這表不僅包含新鐵，就是舊鐵的利用，也在考察之中。

第一一六表 世界各國鐵的埋藏量表(單位百萬公噸)

| 國 家 | 實 在 量 | 年 限 | 想 像 量 | 年 限 |
|-------|-----------|-----|-------------|--------|
| 德 國 | 3,000,000 | 100 | 多 大 | 1,000 |
| 法 國 | 3,000,000 | 100 | 多 大 | 1,000 |
| 英 國 | 1,000,000 | 25 | 3,400 | 15,000 |
| 瑞 典 | 300,000 | 110 | 一 大 | |
| 俄 國 | 300,000 | 35 | 1,000,000以上 | 200以上 |
| 西 班 牙 | 210,000 | 35 | 1 | 1 |

義 主 國 帝 本 日

| | 理 藏 量 | 持 續 年 限 |
|-------|---------|-----------|
| 德 國 | 1150.0 | 1.500 |
| 英 國 | 102.4 | 330 |
| 法 國 | 13.6 | 300 |
| 奧 匈 國 | 15.1 | 400 |
| 俄 國 | 11.1 | 400 |
| 比 利 時 | 1.5 | 200 |
| 美 國 | 1.435.0 | 1000—1500 |
| 加 拿 大 | 101.0 | 1000—1500 |
| 中 國 | 1.100.0 | 1 |
| 日 本 | 11.0 | 100 |

如若從生產額和消費額，輸入額和輸出額方面看，日本的煤，鐵，及其他原料品更是
 貧乏，更是不足，日本的煤不僅是儲量不豐，產額甚少而且品質惡劣。日本的煤田，俱發
 達於第三紀層和歐美中國所產的煤相比，年代甚近，所以一般品質不良，有煙煤頗多，無

煙炭極少見。且煤層比較不厚，其中有多數煤的薄層。因種種地質的變動，煤化狀態不同，煤質上亦大生差別。其次一般有膨脹粘結性的頗多，用他作焦炭原料則不適用。所以日本要把低劣煤輸出，而吸收中國優良的無煙煤。日本煤集中於九州（占百分之六十）和北海道（占百分之三十），其餘則散佈於本島及四國。主要的煤田和工業區遠隔。

最近日本煤的生產額自大正六年以來，已經有停滯不進的形勢而輸入額一年一年的飛躍。尤其是大正十二年以後。茲將十餘年來日本煤的生產，輸入，及輸出額列表如次：

第一一八表 日本煤的供給表（每三年平均單位千公噸）

| 年 期 | 生 產 量 | 輸 入 量 | 合 計 | 輸 出 量 | 消 費 量 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大正三—五 | 三〇・六五 | 七〇 | 三三・〇五 | 三三・二六 | 五五・〇五 |
| 六—八 | 三〇・五五 | 七五 | 三三・六三 | 三三・四三 | 五三・四一 |
| 九—一 | 三三・七三 | 七五 | 三六・五二 | 三三・〇六 | 五三・五三 |
| 二—四 | 四〇・三三 | 一〇・三三 | 三三・〇〇 | 三三・〇〇 | 五〇・〇一 |
| 昭和一—三 | 三三・五五 | 二〇・〇五 | 三三・〇五 | 三三・五五 | 三三・一三 |
| 昭和四 | — | 三三・〇〇 | — | 三三・〇一 | — |

日本鐵的儲量和產量尤不如煤。歐戰以後。日本重工業發達，每年用鐵在一百萬公噸以上，日本國內所產不過十萬公噸左右，所差之額在百分之九十左右。這所差之額當然是要靠輸入了。所以自過大正三年以來，日本鐵輸入額一年一年的飛漲。茲將日本鐵需給情形列表如下：

第一一九表 日本鐵需給表(內地單位公噸)

| 日本 | 內地 | 輸移入額 | 合計 | 輸移出額 | 需要額 | 引生 |
|----|----|-------|-------|------|-------|-------|
| 年 | 期 | 生產額 | 移入額 | 計 | 出額 | 對需要 |
| | | | | | | 額的百分比 |
| 大正 | 三 | 三,一五〇 | 四,六〇〇 | — | 四,六〇〇 | 二二・〇% |
| | 五 | 三,六八〇 | 六,七〇〇 | — | 六,七〇〇 | 二二・〇% |
| 四 | 六 | 三,八二〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・九% |
| | 一 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 二 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 三 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 四 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 五 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 六 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 七 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 八 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 九 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一〇 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一一 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一二 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一三 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一四 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一五 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一六 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一七 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一八 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 一九 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |
| | 二〇 | 四,一〇〇 | 六,六〇〇 | — | 六,六〇〇 | 二一・二% |

至於鐵，日本的生產額也僅僅足需要額的一半。需要每年在一百五十萬公噸而生產祇有九十萬公噸。詳細如下表：

第一二〇表 日本的鐵需給表(內地單位公噸)

| 年 期 | 內 地 生 產 額 | 輸 移 入 額 合 計 | 輸 移 出 額 需 要 額 | 生 產 額 對 需 要 額 的 百 分 比 |
|-----------|---------------|-----------------|---------------|-----------------------|
| 大 正 三 十 五 | 三 五 六 . 〇 三 三 | 一 〇 九 . 二 五 九 | 三 五 三 . 〇 〇 〇 | 三 〇 . 三 五 % |
| 六 十 八 | 三 五 〇 . 三 五 〇 | 三 三 〇 . 〇 三 四 | 三 三 〇 . 〇 三 五 | 六 六 . 二 % |
| 六 十 一 | 三 五 三 . 六 三 三 | 三 〇 六 . 六 五 五 | 三 〇 六 . 〇 〇 三 | 五 一 . 八 % |
| 三 十 四 | 三 〇 六 . 〇 九 九 | 四 〇 〇 . 七 二 一 | 二 〇 五 . 〇 三 五 | 五 八 . 九 % |
| 昭 和 一 十 三 | 三 〇 〇 . 六 六 一 | 一 〇 〇 〇 . 六 〇 五 | 四 〇 六 . 〇 〇 〇 | 三 三 . 四 % |

(註) 合 金 鐵 包 含 在 內

鋼 的 生 產 和 消 費 是 重 工 業 的 指 針 ， 而 重 工 業 是 工 業 的 基 礎 。 但 是 日 本 鋼 的 生 產 僅 足 需 要 的 一 半 。 我 們 可 以 再 詳 細 看 看 日 本 的 鋼 生 產 和 消 費 的 情 形 如 何 。

第 一 二 表 日 本 鋼 的 需 給 表 (內 地 單 位 公 噸)

| 年 期 | 內 地 生 產 額 | 輸 移 入 額 合 計 | 輸 移 出 額 需 要 額 | 生 產 額 對 需 要 額 的 百 分 比 |
|-----------|---------------|-----------------|---------------|-----------------------|
| 大 正 三 十 五 | 三 五 六 . 〇 三 三 | 一 〇 九 . 二 五 九 | 三 五 三 . 〇 〇 〇 | 三 〇 . 四 % |
| 六 十 八 | 三 五 〇 . 三 五 〇 | 三 三 〇 . 〇 三 四 | 三 三 〇 . 〇 三 五 | 六 六 . 二 % |
| 六 十 一 | 三 五 三 . 六 三 三 | 三 〇 六 . 六 五 五 | 三 〇 六 . 〇 〇 三 | 五 一 . 八 % |
| 三 十 四 | 三 〇 六 . 〇 九 九 | 四 〇 〇 . 七 二 一 | 二 〇 五 . 〇 三 五 | 五 八 . 九 % |
| 昭 和 一 十 三 | 三 〇 〇 . 六 六 一 | 一 〇 〇 〇 . 六 〇 五 | 四 〇 六 . 〇 〇 〇 | 三 三 . 四 % |

三一四 六六·六六 六六·六三 一·六五七〇 六六·六 一·五五·六六 番·三%

昭和一一三 四·六三 八番·五七 二·三〇四·四八 一五·〇一〇 二·二五·六六 六·三%

我們再看日本鐵鋼全部輸入額更可以明瞭一些。如下表：

第一二二表 日本鐵鋼輸入額

| 日 本 帝 國 鐵 鋼 | 數量(千公噸) | | | 金額(千圓) | | |
|----------------------------|---------|-------|-------|--------|--------|--------|
| | 昭和元年 | 昭和二年 | 昭和三年 | 昭和元年 | 昭和二年 | 昭和三年 |
| 鐵 | 八五二 | 一·一〇八 | 一·六四三 | 七·六四五 | 一〇·一五九 | 一三·五七九 |
| 鋼 | 三三 | 三六 | 五三 | 二·九一〇 | 六·三三三 | 一三·三六 |
| 鐵鋼(合金鐵包含在) | 四〇四 | 四八 | 五三 | 一六·四四 | 三·九七 | 三六·〇三 |
| 鋼塊鋼片其他塊錠 | 三 | 六 | 九 | 二·三三 | 五·三六 | 九·一六 |
| 鋼 | 三 | 六 | 九 | 二·三三 | 五·三六 | 九·一六 |
| 鋼塊鋼片其他塊錠 | 三 | 六 | 九 | 二·三三 | 五·三六 | 九·一六 |
| 鋼 | 三 | 六 | 九 | 二·三三 | 五·三六 | 九·一六 |

鐵鋼以外，其他原料品，日本是同樣的感覺不足。近世工業基礎由煤轉到煤油。軍艦，飛機，汽車，鐵甲車亦無一不需要煤油，但是日本地下埋藏着有多少石油呢？依據美國狄比脫華脫氏地下埋藏測定量，列表如左：

一三表 各國煤油理處量表 (單位千桶)

地下埋藏煤油量

| 國 別 | 地 下 埋 藏 煤 油 量 | 比 例 |
|-------------------|---------------|------|
| 美 國 | 4,000,000 | 100 |
| 墨 西 哥 | 4,000,000 | 100 |
| 加 拿 大 | 2,200,000 | 55 |
| 北 部 南 美 洲 | 2,200,000 | 55 |
| 南 部 南 美 洲 | 2,200,000 | 55 |
| 亞 爾 宰 利 亞 及 埃 及 | 2,200,000 | 55 |
| 波 斯 及 美 索 波 達 米 亞 | 2,200,000 | 55 |
| 蘇 俄 | 2,200,000 | 55 |
| 羅 馬 尼 亞 希 臘 | 1,100,000 | 27.5 |
| 俄 領 庫 頁 島 | 2,200,000 | 55 |
| 日 本 | 1,100,000 | 27.5 |
| 中 國 | 1,100,000 | 27.5 |

| | | |
|-----|-----------|-----------|
| 印度 | 2,900,000 | 1,400,000 |
| 東 度 | 1,015,000 | 400,000 |
| 總 計 | 3,915,000 | 1,800,000 |

(註)每七蒲(Barral)約合中國一千七百七十五斤

現在我們看看日本國內煤油產量的情形，自大正三年以後年年減少，可見其煤油儲量已日就枯竭，但是社會需要則逐年增高，故煤油的輸入量有加無已。在原油方面，大正三年到五年平均每年輸入六萬七千石，昭和四年增加到二百九十萬九千石，速度之快，真沒有追得上的。精油在大正十二年到十四年每年不過二百萬函，但是昭和二年增到三百二十萬函。如下列二表：

第一二四表 日本原油需給表(每三年平均單位千石)

| 年 期 | 產 出 量 | 輸 入 量 | 供 給 量 |
|-------|-------|--------|-------|
| 大正三—五 | 3,500 | 6,000 | 2,500 |
| 六—八 | 3,300 | 10,000 | 3,300 |
| 九—一 | 1,500 | 13,000 | 2,500 |

第一二五表 日本精油需給表(每三年平均單位千噸)

| 年 期 | 內 地 產 | 輸 入 | 輸 出 | 消 費 量 |
|-------|-------|------|------|-------|
| 三十一四 | 一·六六 | 一·〇六 | 二·五二 | 二·五二 |
| 昭和一一三 | 一·六四 | 二·〇三 | 三·九七 | 三·九七 |
| 昭和 四 | 一·八六 | 二·〇九 | 四·〇五 | 四·〇五 |

我們再看看日本煤油的用途，煤油在日本的重大意義便可明瞭，而日本對於煤油的渴望亦就可以想見。看下表：

第一二六表 日本煤油用途表

| 用 途 | 百 分 比 |
|-----|-------|
| 海 軍 | 二 |

日 本 帝 國 主 義

| 種 別 | 昭和元 | 二 | 三 | 四 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 印度棉 | 克・七・七 | 六・二・六 | 六・七・五 | 七・六・三 |
| 美國棉 | 元・三・五 | 六・四・〇 | 六・六・三 | 六・〇・六 |
| 中國棉 | 二・三・五 | 一・九・〇 | 七・三・六 | 三・〇・四 |
| 埃及棉 | 三・六・五 | 三・三・六 | 三・三・六 | 三・三・六 |
| 商船 | | | 三 | 三 |
| 汽車，飛機 | | | 三 | 三 |
| 漁船 | | | 三 | 三 |
| 機械油 | | | 六・五 | 六・五 |
| 燈油 | | | 七・五 | 七・五 |
| 鐵道，工廠，礦山等 | | | 六 | 六 |
| 合 計 | | 100 | | |

輕工業指針的棉花，日本幾全部倚賴外國，看下表：
 第一二七表 日本棉花消費額表（單位千貫）

| | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| 朝鮮棉 | 1,001 | 1,131 | 1,385 | 1,575 |
| 其 他 | 3,256 | 2,000 | 2,076 | 1,000 |
| 合 計 | 1,957 | 1,131 | 3,461 | 1,575 |

木材一項，日本也要倚賴殖民地及國外。看下表：

第一二八表 日本木材的需給表(每三年平均單位千圓)

| 年 期 | 內 地 | | 供 給 | | 額 輸 | | 移 出 | | 出 費 額 |
|------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|-------|
| | 伐採額 | 輸入額 | 移入額 | 移入額 | 計輸 | 移出 | 計輸 | | |
| 大正一五 | 1,533 | 3,361 | 3,361 | 1,533 | 1,828 | 1,828 | 1,533 | 1,533 | |
| 一六 | 1,835 | 3,361 | 3,361 | 1,835 | 1,526 | 1,526 | 1,835 | 1,835 | |
| 一七 | 2,266 | 3,361 | 3,361 | 2,266 | 1,095 | 1,095 | 2,266 | 2,266 | |
| 一八 | 2,433 | 3,361 | 3,361 | 2,433 | 966 | 966 | 2,433 | 2,433 | |
| 一九 | 2,896 | 3,361 | 3,361 | 2,896 | 465 | 465 | 2,896 | 2,896 | |
| 二〇 | 3,256 | 3,361 | 3,361 | 3,256 | 334 | 334 | 3,256 | 3,256 | |
| 二一 | 3,576 | 3,361 | 3,361 | 3,576 | 217 | 217 | 3,576 | 3,576 | |
| 二二 | 3,936 | 3,361 | 3,361 | 3,936 | 100 | 100 | 3,936 | 3,936 | |
| 二三 | 4,296 | 3,361 | 3,361 | 4,296 | 3 | 3 | 4,296 | 4,296 | |
| 二四 | 4,656 | 3,361 | 3,361 | 4,656 | 0 | 0 | 4,656 | 4,656 | |
| 二五 | 5,016 | 3,361 | 3,361 | 5,016 | 0 | 0 | 5,016 | 5,016 | |
| 二六 | 5,376 | 3,361 | 3,361 | 5,376 | 0 | 0 | 5,376 | 5,376 | |
| 二七 | 5,736 | 3,361 | 3,361 | 5,736 | 0 | 0 | 5,736 | 5,736 | |
| 二八 | 6,096 | 3,361 | 3,361 | 6,096 | 0 | 0 | 6,096 | 6,096 | |
| 二九 | 6,456 | 3,361 | 3,361 | 6,456 | 0 | 0 | 6,456 | 6,456 | |
| 三〇 | 6,816 | 3,361 | 3,361 | 6,816 | 0 | 0 | 6,816 | 6,816 | |
| 三一 | 7,176 | 3,361 | 3,361 | 7,176 | 0 | 0 | 7,176 | 7,176 | |
| 三二 | 7,536 | 3,361 | 3,361 | 7,536 | 0 | 0 | 7,536 | 7,536 | |
| 三三 | 7,896 | 3,361 | 3,361 | 7,896 | 0 | 0 | 7,896 | 7,896 | |
| 三四 | 8,256 | 3,361 | 3,361 | 8,256 | 0 | 0 | 8,256 | 8,256 | |
| 三五 | 8,616 | 3,361 | 3,361 | 8,616 | 0 | 0 | 8,616 | 8,616 | |
| 三六 | 8,976 | 3,361 | 3,361 | 8,976 | 0 | 0 | 8,976 | 8,976 | |
| 三七 | 9,336 | 3,361 | 3,361 | 9,336 | 0 | 0 | 9,336 | 9,336 | |
| 三八 | 9,696 | 3,361 | 3,361 | 9,696 | 0 | 0 | 9,696 | 9,696 | |
| 三九 | 10,056 | 3,361 | 3,361 | 10,056 | 0 | 0 | 10,056 | 10,056 | |
| 四〇 | 10,416 | 3,361 | 3,361 | 10,416 | 0 | 0 | 10,416 | 10,416 | |

此外，鋼的生產在日本也佔重要地位。日本鋼在戰前，他的產量佔世界第二位，僅次於美國。當歐戰中（大正六年）因海外需要驟盛，產額更登峯造極，達一億八千萬斤，輸出占百分之七十二。歐戰以後也逐漸衰落了，而且由出超變爲入超。現在我們看看日本鋼及其卑金屬的輸出入情形：

第一一九表 日本鋼及其他卑金屬輸出入表（單位日本金千圓）

| 日 本 帝 國 主 義 | 類 別 | 入 輸 | | 出 輸 | | |
|----------------------------|--------|-------|-------|------|------|------|
| | | 昭和元年 | 二 | 三 | 昭和元年 | 二 |
| 銅 | | 10.66 | 8.06 | 3.40 | 2.36 | 2.50 |
| 鉛 | | 1.52 | 1.50 | 1.46 | 1 | 1.52 |
| 亞 鉛 | | 15.66 | 11.56 | 3.56 | 6 | 1 |
| 錫 | | 10.60 | 11.66 | 5.60 | 1.5 | 1.31 |
| 明 礬 | | 6.66 | 6.56 | 6.50 | 1 | 1 |
| 銻 | | 6.66 | 1.66 | 1.66 | 1 | 1 |
| 水 銀 | | 1.66 | 1.66 | 1.66 | 1 | 1 |

| | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 錫 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 鉛 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 銻 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 自然銅 | 二・四三三 | 一・六美 | 二・三三六 | 四・六六六 |
| 其他金屬 | 一・〇〇一 | 一・五三三 | 一・二二二 | 一・五三三 |
| 合計 | 五・三三三 | 六・〇九一 | 八・〇三三 | 六・九六六 |

至於產量則如下表；

第一三〇表 日本銅及其他卑金屬生產量表

| 礦類 | 明治四十二年平均產 | | 大正二十七年平均產 | | 昭和二年 | | 昭和三年 | |
|----------|-----------|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 數量 | 價值 | 數量 | 價值 | 數量 | 價值 | 數量 | 價值 |
| 銅(千斤) | 二・〇〇二 | 一・九三三 | 一・九三三 | 二・〇〇二 | 二・〇〇二 | 二・〇〇二 | 二・〇〇二 | 二・〇〇二 |
| 鉛(千斤) | 六・三三三 | 二・五三三 | 五・三三三 | 六・三三三 | 六・三三三 | 六・三三三 | 六・三三三 | 六・三三三 |
| 銻(千斤) | 一・〇〇一 | 一・〇〇一 | 一・〇〇一 | 一・〇〇一 | 一・〇〇一 | 一・〇〇一 | 一・〇〇一 | 一・〇〇一 |
| 碲石銻鉛(千斤) | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

表 主 國 帝 本 日

| | | | | | | |
|---------|-------|-------|------|------|------|------|
| 錫(千斤) | 與・三〇九 | 三・六六 | 一・三三 | 一・七克 | 一・四一 | 一・三三 |
| 礬石錫(千斤) | 六・五五 | 五・四〇 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 鏡(千斤) | 一番 | 六・三六 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 硫化鋁(千斤) | 二・七四 | 三・五五 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 水銀(千斤) | 七克 | 一・三三 | 一 | 一 | 一 | 〇・五 |
| 亞鉛(千斤) | 一 | 五・五五 | 三・二五 | 六・二五 | 三・六六 | 六・三三 |
| 亞鉛鍍(法噸) | 三・〇三 | 四・三三 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 亞砷酸(千斤) | 一 | 一 | 二・六五 | 一・五 | 三・〇六 | 三・三 |
| 水鉛(鍍貫) | 一〇・七五 | 七・三六 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 砒(千斤) | 三 | 九 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 礬石砒(貫) | 一 | 四・四一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 磷礦(公噸) | 六・六〇 | 一〇・五五 | 五 | 一・五五 | 五 | 五・五 |
| 黑鉛(千斤) | 三六 | 一・六六 | 一・〇五 | 五 | 三三 | 三 |
| 硫黃(千公噸) | 九・〇五 | 五・一〇 | 三 | 三・〇一 | 七〇 | 四・〇五 |

硫黃礦(千公噸)

I 13.4國

1K 104

111

110

由以上，我們得到一個結論：按照日本客觀的物質條件是不能走上資本主義途徑的。然而，日本竟用人工使他自已走上資本主義的長途途中。

(三)日本農村經濟的衰落與食糧問題

——國內市場狹隘的原因——

日本不僅是原料品的一切都感覺不足，因而資本主義難於發展，就是農村經濟也因為追不上工業發展的緣故而日形衰落。我們先看看日本農業基礎的耕地一項面積有多少：

第一三二表 日本內地耕地面積表(昭和四年九月農業調查結果)

(單位町步)

| | | | | |
|-------------------|-----------|-----------|-----------|----|
| 總數 | 五、八六、〇九四 | 三、五二、一七六 | 二、三三、九一八 | |
| 自耕地 | 三、〇三、二二九 | 一、〇三〇、〇三四 | 一、〇〇三、一八五 | |
| 佃戶地 | 二、八三二、八六五 | 一、七五三、六三三 | 一、〇七九、〇三三 | |
| 第一三二表 日本內地各種旱田分類表 | | | | |
| 普通田 | 桑田 | 茶田 | 果樹田 | 其他 |

| | | | | | |
|-----|---------|-------|-------|-------|-------|
| 總數 | 一・八二・六五 | 六九・七六 | 三三・四四 | 七六・六六 | 三三・七七 |
| 自耕地 | 一・〇三・七三 | 四六・四三 | 一六・三九 | 五三・〇二 | 二一・七七 |
| 佃戶地 | 八八・九二 | 二三・三三 | 一六・〇五 | 二三・六四 | 一五・八九 |

(註)一町步合中國一六・一四一畝

由上表，日本的耕地總面積合種桑，茶果樹的荒田在內，不過五百八十九萬餘町步，約當中國不過九十四萬餘頃，數目並不太大。

至於生產額，全部總額每年不過三十二萬萬三千六百餘萬元，其中以米麥為最多，米麥每年都不過在二十萬萬元左右。而且，歷年漸漸。在大正八年日本農產總額為五十一萬萬八千餘萬元，大正十三年降到三十九萬萬一千餘萬元，昭和三年又降到三十二萬萬二千餘萬元。其中米生產額的減退為尤甚，由大正八年到昭和三年從二十八萬萬九千萬元減到十六萬萬三千萬元。地餘各種也是如此。日本農產生產在十年間幾乎有一半的減退，真可驚人。日本農產額有如下表：

| | | | | | | | |
|-------|------------------|---|---|---|---|-------|------|
| 第一三三表 | 日本內地農產生產額表(單位千元) | | | | | | |
| 次 | 年 | 總 | 額 | 米 | 麥 | 食用農產物 | 蔬菜花卉 |

日本仍是農業佔優勢。看下表：

第一三四表 日本工農兩大生產部門生產額比較表(單位千元)

| | 大正三年 | 大正八年 | 大正十年 | 大正十四年 |
|-----------------------------|----------|----------|----------|----------|
| 工業生產額 | 一・三三・六〇八 | 六・三三・三二 | 三・四九・三五五 | 廿〇元・六六六 |
| 農業生產額 | 一・四二・三三九 | 三・二六・三五一 | 三・二六・三五四 | 四〇〇元・六六六 |
| 大正 | 五・二六・〇〇〇 | 二・六九・〇〇〇 | 四・七・〇〇〇 | 三・〇六・〇〇〇 |
| 昭和 | 三・三六・〇〇〇 | 三・二四・〇〇〇 | 三・三六・〇〇〇 | 三・三六・〇〇〇 |
| 次 年 果 實 工 藝 農 產 | 一・六六・〇〇〇 | 一・六六・〇〇〇 | 一・六六・〇〇〇 | 一・六六・〇〇〇 |
| 茶 綠 肥 作 物 果 樹 苗 桑 苗 繭 蠶 製 品 | 一・六六・〇〇〇 | 一・六六・〇〇〇 | 一・六六・〇〇〇 | 一・六六・〇〇〇 |
| 大正 | 八・五・〇〇〇 | 一・六六・〇〇〇 | 一・六六・〇〇〇 | 一・六六・〇〇〇 |
| 昭和 | 三・六・〇〇〇 | 三・六・〇〇〇 | 三・六・〇〇〇 | 三・六・〇〇〇 |
| 大正 | 三・六・〇〇〇 | 三・六・〇〇〇 | 三・六・〇〇〇 | 三・六・〇〇〇 |
| 昭和 | 三・六・〇〇〇 | 三・六・〇〇〇 | 三・六・〇〇〇 | 三・六・〇〇〇 |

因為農業生產的衰敗所以日本在歐戰以後農業便追不上工業。但是，在大正八年以前

(註)此表因根據不同，數目與前表微有出入。

至於日本的農業生產衰落的原因，當然是因為日本人專注意於工業方面。這由日本的職業人口可以看出來。在明治五年，日本農業人口佔全國總人口的百分之七十七，大正九年減退到百分之五十一。日本人的半已經不務農業了！反之，工商業者由百分之三，七及六，九增到百分之二九，四及一一，七。如下表：

第一三五表 日本各種職業本業人口變化表(單位千人)

| 年次 | 職業 | | | | |
|------|-----------|-----|-------|-----------|-------|
| | 農業 | 水產業 | 礦業 | 商業 | 交通業 |
| 明治五年 | 1,914,947 | 41 | 75 | 1,339 | 1,603 |
| 大正九年 | 1,313,356 | 1 | 1,339 | 1,313,356 | 41 |
| 大正九年 | 1,313,356 | 1 | 1,339 | 1,313,356 | 41 |
| 明治五年 | 100.0 | 0.1 | 0.1 | 3.4 | 0.5 |
| 大正九年 | 100.0 | 0.1 | 0.1 | 3.4 | 0.5 |
| 大正九年 | 100.0 | 0.1 | 0.1 | 3.4 | 0.5 |

反過來，我們再看看日本工場及鐵山勞動者數目增進有多們猛烈：

第一三六表 日本工場及鐵山勞動者增加表

| 年 次 | 工場工人 (千人) | 鐵 人 (千人) | 全國人口 (千人) | 對全國人口的百分比 工 人 鐵 夫 |
|----------|--------------|-------------|--------------|----------------------|
| 明治 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 一 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 二 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 十 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 一 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 二 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 二 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 一 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 二 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 三 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 一 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 二 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 四 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 一 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 二 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 五 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 一 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 二 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 六 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 一 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 二 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 七 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 一 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 二 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 八 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 一 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 二 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 三 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 四 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 五 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 六 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 七 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 八 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 九 九 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |
| 明治 一 〇 十 | 三, 〇〇〇 | 一 | 四, 〇六三 | 九. 一 |

日本人既致力於工業的發展，所以農戶及耕地年年減少——即或不減少也很難的增加。下面兩個表是日本農戶及耕地消長的情形：

第一三七表 日本農戶消長表

| 年 次 | 總 戶 數 | 農家戶數 | 農戶對總戶數的百分比 |
|--------|------------|------------|------------|
| 明治四十三年 | 九, 三三, 三三六 | 五, 四七, 五九六 | 五. 九 |

| | | | |
|---------|----------|---------|-----|
| 大正四年 | 九・八三・五三 | 五・三三・〇六 | 五・一 |
| 同 九 年 | 一〇・五七・五三 | 五・三三・〇六 | 五・七 |
| 同 十 四 年 | 一一・三三・三三 | 五・六八・五九 | 五・三 |
| 昭 和 二 年 | 一〇・五七・五三 | 五・三三・〇六 | 五・三 |

第二節 所謂温室資本主義與帝國主義

(一) 帝國主義的本質

——所謂資本主義最後階段！

什麼叫帝國主義？帝國主義是一種獨佔。帝國主義是資本主義最後階段必然發生的獨佔。所以帝國主義和資本主義是相依以存的。為要澈底明瞭帝國主義，必須要從資本主義——尤其是資本主義之史的發展——明瞭起。

在初期資本主義一方面榨取國內大多數民衆使無產化；另一方面和兇暴的好戰的商業競爭相始終，因而建立起來資本主義的基礎。所以資本主義的起初是武力的。

本來在資本主義萌芽期，因為生產力的限制，沒有巨大蓄積可能，最初的資本形態——商業資本，或高利貸資本——在產業革命後大規模生產行程中，不得不漸讓渡他們的地

位於產業資本，自然由家庭手工業和工場手工業，變做工廠工業。這時候資本主義遂和平的達到充分發展期。在自由競爭的口號之下，資本主義首先集中國內經濟——發展國民經濟——使生產力達到空前的高度以後，於是可以積蓄得更多量的資本。在自由競爭的口號之下，資本主義的規模和支配範圍越發的擴大。在政治上乃有所謂「自由主義德模克拉克西」¹。而且，資本家不斷的為他的生產品而有擴大市場的必要，地球上逐漸全被資本主義所浸蝕，隨處作巢穴，隨處安住，乃不得不隨處結姻緣，遂使全世界資本主義化。到處銷納他們商品；假使遇見有拒絕或排斥他們銷路的事實發生，他們是最為仇視。不過，在工業資本支配的時代，態度尚因為口號是自由競爭，反比初期資本主義多傾向於和平。

資本主義又因為自由競爭的結果，自然的使小資本沒落，而發生獨占集中的資本，並且以資本過剩，略進的積蓄，資本多入了金融資本家的手中，乃使金融資本，一方面促進產業資本的結合，以實現獨佔的利益，另一方面代表過剩資本及獨佔資本，而膨脹了侵略政策。資本主義到了這個時代，遂發揮他的兇暴好戰的性質。所以產業資本——尤其是金融資本的支配下的和初期的資本主義不相同：中小資本漸漸被集中獨佔的大資本所統一；而個個集中獨佔的資本更為國家資本主義的托拉司所統一，使自由競爭，完全消滅，且

更追求利潤，不斷推進侵略政策，擴充軍備，造成帝國主義的形勢。

所以帝國主義是資本主義發展到金融資本後必然的結果。列寧下帝國主義的定義為資本主義最後階段是帝國主義，意義便在此。列寧說明帝國主義有五個特點，概述如下：

一 生產和資本的蓄積，發展到高度階段，決定經濟生活，生獨佔的形勢。

二 銀行資本和產業資本融合，在金融資本的基礎上，發生財閥寡頭政治。因為生產高度的積蓄和獨佔，給與銀行以巨大資本的積蓄，使從來僅供仲價借貸的銀行資本，更進而侵入產業界，且支配之，或與產業資本相混合。侵入產業資本的金融資本，本身係富於強固組織和獨佔特性，所以得由接近產業資本，進而管理及支配產業資本。結果，在國內發現少數巨大的銀行，立於堅固的地位，掌握整個產業資本在他手中，在政治上發生寡頭政治，而一國的經濟政治軍事等勢力，完全為他們所支配。

(三) 特別重大的意義即是以資本輸出代替商品輸出。因為商品輸出，是自由競爭時代的典型，而現代資本主義乃在投資於世界，各處造成巢穴，而以自己的形像，造成讀社會。同時他們本國的產業，也更日益擴大集中，海外投資，亦日豐富。於是這少數資本家，遂得經營其寄生生活。

四，因為資本家組織的國際團結，瓜分了全世界。各個國家的托拉司，加特爾等，和其他國的托拉司，加特爾等，競爭結果，把世界市場，互相協定罷斷，同時縱斷的，或橫斷的數個結合或對立，乃發生了國際獨佔組織。這種國際的結合，因為目的在於協定世界

的瓜分，故常為確定自己的獨佔支配權而互相競爭。

五，資本主義列強間已將世界的領土瓜分盡了。資本主義列強，如英，法，德，美，意，日等，以及其他已完全瓜分了世界，而為其領有。各國若不獲得新的領土，既不認得到排滲資本的市場；若要獲得新領土，則又不得不與他國火併。所以列強殖民政策的白熱化黃黑兩大陸最後的瓜分，成了帝國主義戰爭的焦點。

由以上，我們可以斷言：日本帝國主義應當發生於歐戰以後，因為歐戰以後，日本資本主義方纔走到金融資本的最後階段，但是事實上並非如此。日本資本主義在他的初期便染有深濃帝國主義的色彩，自始至終，並沒有大大的變更。這是為何？這當然是因為日本資本主義自有特色的緣故。特色是什麼？看到後面自可明瞭。

(二)所謂溫室資本主義

——日本內部時人工助長——

(A) 官營保護政策

我們在第一節中說過，按照日本煤鐵等原料品的貧困，日本資本是不應當發達的，然而事實上，日本資本主義竟發達了，這發達是人工的力量。人工分為兩種：一種是對內的保護，獎勵，扶助等政策，便成為所謂「溫室資本主義」。一種是向外的掠奪，拓殖，武力等政策，便成為「軍國主義」和「帝國主義」。現在，我們先看一看日本的所謂溫室資本主義內容如何。

日本資本主義的發達，自然也有得力於天的地方。比如在日本實行產業革命以前，西洋的科學技術已經很發達，日本可以很容易的吸取來運用。機器的輸入當然是最顯著的一個。我們單就日本紡織業的機器來說，在文久二年（一八六二年）還是從英國購入來的，總子數有五千餘。以後日本自己研究通而至於自己製造，但是最初的借助於西洋自然無可諱言。

此外，還因為日本有低廉的勞動力。日本自明治維新，樹黨廢藩以後，武士階級也隨之而廢止，當時武士約有二百萬人都流為貧苦者。政府的救濟法也唯有使他們進工場加入生產軍之中，而武人們因為自身生活的艱難，雖然是很低廉的工資也樂而為之；勞動力的

供給既有，而生產自然激增，而日本資本主義也就發達了。

不過，僅僅是以上兩種仍然不能使日本資本主義發達。以外雇用人工。人工之最大者是日本政府的「官營保護政策」。這官營保護政策就是中國在滿清末年所提倡的「勸業政策」，由政府主動推行各種，新式工商業，日本人叫作「接木式的產業政策」，言其是在封建樹木上接了一塊資本主義的嫩枝，又叫作「慈父的干涉政策」。日本最初的工商業都是這一種。我們看日本大藏省所編的「明治財政史」上「商法大意」一段裏，有以下的解釋：「商法者，政府與商家取聯絡之關係，且借貸以資金，鼓舞商業之機關也。舊各藩的物產皆改稱為國產，是亦獎勵國產之最完美制度也」。

日 本 政 治 經 濟 研 究

因為這種原因，所以明治維新之初，日本重要的產業，差不多都實行國營政策。內中重要的有以下各種：

(一)鑛業方面——鑛業本是幕府及藩主所有，在明治二年二月割歸民業，但是一方面維新政府將重要的鑛業都歸官營，聘了許多外國技師，採用外國機器及採礦法，製煉法，大大開墾了鑛業。當時在金銀全產額中，政府官營業佔了百分之六十乃至九十；在鋼鐵的全產額中，政府官營業也佔了百分之十有奇。以後纔慢慢歸於民營。主要的計有下列各礦

- (1) 佐渡金礦 明治二年四月國營，明治二九年歸三菱公司經營。
 - (2) 生野銀礦 明治元年十二月國營，明治二九年歸三菱公司。
 - (3) 小坂銀礦 明治二年十一月國營，明治一九年歸藤田氏經營。
 - (4) 院內銀礦 明治八年十一月國營，一七年十二月歸古河氏經營。
 - (5) 三池煤礦 六年九月國營，二十一年歸佐木氏經營，二十三年歸三菱。
 - (6) 高島煤礦 六年國營，七年一月歸後藤氏經營。
 - (7) 樫內煤礦 六年調查十二月開礦，同時國營，二二年一月歸北海道煤礦公司經營。
 - (8) 阿仁銅礦 八年十一月國營，一八年一月歸古河氏經營。
 - (9) 釜山鐵礦 七年國營，一六年二月廢業。
- (ii) 工業方面——工業方面的國營，有兩種：一種是軍事上的，如造船所，兵工廠等。一種是產業的，如製絲紡織等。日本重要國營工業如下：
- (i) 橫須賀造船廠 創立於幕府時代，在明治元年四月收為官有。五年十月海軍部移

管。

(2)長崎造船廠 創立於幕府時代，明治元年六月官存。一七年交三菱公司管理，二年三菱公司收買。

(5)兵庫製船廠 四年十二月官有，一九年五月川崎氏收買，改稱川崎造船廠。

(4)赤羽鐵工廠 四年起工八年開業，一六年歸海軍部專屬。

(5)深川水泥廠 七年起工，八年開業。十七年淺野氏收買。

(6)深川火磚廠 十一年開業，一七年淺野氏收買。

(7)品川玻璃廠 九年開業，一八年石材氏收買。

(8)富岡製絲廠 三年企劃，五年開業，一六年三井收買。

(9)新町紡織廠 九年企劃，十年開業，二〇年三井收買。

(10)千住製絨廠 九年開業，二一年陸軍部移營。

此外，鐵路，郵務，電報，郵政匯兌，郵政儲金等不必說都是國營。鹽煙的專賣也是政府事業的最重要部分。

(三)海運業方面——日本對於政府海運業的保護政策最爲努力。因爲在明治七年日本侵

略台灣的時候，外國船一律拒絕軍事運送；而日本內地輪船公司的船又不堪遠洋航行，使日本政府不得不向西洋訂購價值一百四十七萬圓的輪船十三隻，刺激日本朝野很大，所以日本政府對於三菱輪船公司保護扶助甚力。保護的方面計有：

(1) 明治七年日本政府以一百四十七萬元購的十三支輪船，無償的給與三菱公司。

(2) 明治八年郵務汽船公司由政府解散；將該公司所有的輪船十八隻（政府以三十二萬五千元贖買的）歸三菱公司所有。

(3) 同年以降十一年止，政府以二百四十五萬七千圓借給三菱公司；將美國大洋公司上海航路（即現在的神戶，長崎，上海間航線）及倉庫地等收買。

(4) 明治十年雖然是紙幣恐慌時代，但政府仍然用公款七十萬元借給三菱公司購汽船十支。

(5) 明治十四年日本政府由農商部撥二十六萬九千圓，給三菱公司作為補助金。（當時日本農商部的預算，總額不過四十五萬八千七百七十三元，這補助金數目佔百分之六十）

(6) 日本政府每年支出一萬五千圓，設立商船學校（即現在東京月島的船學校）養成海

真訓練航海技術。

以上六項使日本海運業得着急激的發達，而產業的開發，實以此爲中樞。

由以上，很顯然的可以看出來，日本的官營業，漸漸轉入民營。日本資本主義漸漸離了母親的懷抱而自走其路了。這種轉變是在松方正義長財政的時候。那時日本政府因爲紙幣恐慌，財政艱難，不得不將經濟政策改革。是松方喊相下了「財政整理命令」。一方面實行大緊縮，一方面發施產業條令。內容主要爲下列幾種：

- (1) 停止產業的積極政策實行緊縮主義。
 - (2) 放棄從來的模倣西洋產業移植，即公營政策，從事民營，實行民間產業政策。
 - (3) 國產獎勵所謂外國萬能主義等一切排斥；使用本國人及本國品。
 - (4) 勵行國內產業發達，獎勵輸出品。
 - (5) 抑制物價上落，整理紙幣。
 - (6) 以官營業工場事歸民間經營。
- 以上諸條尤以(6)爲重要。

直到現在，日本的官營業仍然存在很多，因爲日本的官營業目的，一方面在促進資本

主義的前進，一方面為國家財政上的補助，同時是官僚，貴族，軍閥維持他們權力的物質基礎。截至昭和三年止，日本官業的資本金總額達二十五萬八千三百餘萬元，其中以鐵路為第一，計有資本三十一萬九千餘元，約佔十分之九。其次是各種軍事工業，如製鐵所，陸軍造兵廠，海軍工廠，海軍火藥廠，海軍燃料廠等。製鐵所的資本金一萬萬七千五百餘萬元，陸軍造兵廠的資本金一萬萬四千餘萬元，其詳細內容有如下表：

第一三八表 日本的官業及其資本額表(昭和三年單位千圓)

| 帝國主義 | 事業種別 | 固定資本 | 運轉資本 | 資金 | 合計 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 造幣局 | 金屬工業 | 八・三三六 | 四・〇〇〇 | 三・〇〇三 | 一五・三四九 |
| 印刷局 | 印刷工業 | 一・三五六 | 一・〇〇〇 | — | 二・三五六 |
| 專賣局 | 食品工業 | 九・〇〇〇 | 一〇・〇〇〇 | — | 一九・〇〇〇 |
| 陸軍造兵廠 | 機械器具工業 | 二二・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | — | 二三・〇〇〇 |
| 千住製絨所 | 紡織工業 | 四・三三七 | 一・〇〇〇 | — | 五・三三七 |
| 海軍工廠 | 機械器具工業 | — | — | 一六・九〇〇 | 一六・九〇〇 |
| 海軍火藥廠 | 化學工業 | 八・五三三 | 一〇・〇〇〇 | — | 一八・五三三 |

如若把官業和民業比較一下，官業佔官民業總數的百分之三十以上。其中以運輸業的官業勢力最大，佔官民業總數的百分之六十六以上。專就鐵路一項則官業佔百分之七十九。其次是工業，官業佔官民業總數的百分之八以上，專就金屬工業一項則佔百分之四十九以上。再其次是礦業，官業佔官民業總數的百分之二以上。各種事業，官業資本金所佔的百分比，有如下表：

第一三九表 日本各種事業投資中官業資本的百分比表(昭和三年)

| 業 種 | A 官業資本 (千圓) | | B 民業資本 (千圓) | | B 合 計 | A B (%) |
|-------|----------------|-----------|----------------|-----------|-------|---------|
| | 官業資本 | 民業資本 | 官業資本 | 民業資本 | | |
| 海軍燃料廠 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1 | 50 |
| 製鐵所 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1 | 50 |
| 帝國鐵道 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1 | 50 |
| 鐵道軌道業 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1 | 50 |
| 合 計 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1 | 50 |
| 紡織工業 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1 | 50 |
| 金屬工業 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1,350,000 | 1 | 50 |

日 本 帝 國 主 義

| | | | | |
|--------|----------|---------|---------|------|
| 機械器具工業 | 一、五〇・六六 | 六、五〇・〇〇 | 七、三三・七七 | 三〇・六 |
| 化學工業 | 一〇・三三 | 六、三三・六一 | 六、四〇・三三 | 一・六 |
| 印刷工業 | 六・三三六 | 四・六八 | 五・二〇 | 三・一 |
| 食品工業 | 五、〇〇五 | 六、六・三六 | 六、六・三六 | 二・五 |
| 以上計 | 三二・四八 | 三、三三・六三 | 三、四六・四六 | 二・六 |
| 其他 | — | 二、六〇・八三 | 二、〇五・八三 | — |
| 計 | 三二・四八 | 三、九〇・六六 | 六、五二・三〇 | 二・六 |
| 礦業 | — | — | — | — |
| 採煤採油 | 一五・五〇 | 四、九・八六 | 四、九・八六 | 三・三 |
| 其他 | — | 三、六三・〇三 | 三、六三・〇三 | — |
| 計 | 一五・五〇 | 八、五三・一〇 | 八、五三・一〇 | 一・八 |
| 運輸業 | — | 六、四二・三二 | 六、六・四三 | — |
| 鐵道 | — | — | — | — |
| 航海 | 一、一〇五・〇九 | 六、五三・四九 | 三、五三・六六 | 三、〇 |
| 其他 | — | 三、三・〇九 | 三、一・〇九 | — |

| | | | | |
|--------|-----------|-----------|------------|------|
| 計 | 三十九・〇六六 | 一・五六一・〇六六 | 四・六六六・〇六六 | 三〇・六 |
| 合 計 | 三・五六一・二〇〇 | 八・三六〇・〇六六 | 一二・〇二一・二六六 | 三〇・〇 |
| 內官營民營併 | 三・五六一・二〇〇 | 四・六六六・〇六六 | 八・三二七・二六六 | 四〇・〇 |
| 存專業 | | | | |

(B) 關稅保護政策

日本政府，為促進資本主義的發展，除用上述的官營獎勵政策，當然還用後進國家所慣用的關稅保護政策。日本的關稅，在明治維新以前，本來和中國一樣，是不能自主的。日本在幕府時代便訂下了不平等的關稅條約。遠在安政府時代的「五國條約」及慶應二年（一八六六年）二月的「改稅約書」都規定關稅為值百抽五，並且連百分之五的標準輸入稅也多是從量稅，後來因為物價騰貴，實際上的課稅率比百分之五又低了不少。到了明治三十二年七月日本政府與各國修改條約，一部份關稅自主，得告成功。到了明治四十四年關稅方纔能完全自主，於是保護關稅主義的主張遂成了朝野一致的輿論。但是日本的關稅率，在明治三十二年條約修改的時候已經參入不少的保護主義，不過被「協定稅率」所束縛的仍然不少。稅率的得到實質的回復，是明治四十四年修正關定稅率實施以後的事。

我們看看明治三十二年日本實施的關定稅率：普通工業品以從價百分之二十為標準，

其中對於(一)天然物，米製品，(二)學術器具，原料品，(三)機械類及運輸用具，(四)半製品，(五)日常消費品，則特別減低稅率。反之，對於奢侈品及對日本產業有保護必要的則增加其稅率。標準稅率百分之二十的爲鐘表，火柴，陶磁器等。此外大多數的工業品，爲百分之十到十五。可見大部份重要輸入品仍然是協定的低稅率。

我們再看看明治四十四年七月實施的關稅率：對於工業品的標準稅率，定爲百分之二十五，提高了百分之五。關稅率的最大者爲百分之六，最低者爲百分之五，伸縮性很大，而保護政策的運用也很靈活了。

因爲這兩度的關稅修正，日本近代產業，在和外國貨的競爭上，大受保護，乃促成了近代產業的勃興。我們一看日本輸出品性質上的變化，便可以知道這種保護政策的效果有多們大。在日本輸入品之中的金製品在明治四十一年以後有顯著的大跌落。在明治四十年以前佔輸入總額的百分之二十五有奇，明治四十一年以後落到百分之二十三有奇，明治四十二年以後再落到百分之十九有奇，大正四年以後再落到百分之十有奇。而原料品的輸入顯然膨脹起來。在明治四十年前佔輸入總額的百分之三十三有奇，明治四十一年以後，增到百分之四十四有奇，明治四十三年以後增到百分之五十，五十三有奇，大正十四以後增到

百分之五十五有奇，超過半數了。

在另一方面，輸出品之中全製品也自然增加起來而原料品遂減少。在明治三十五年以前日本輸出的全製品佔輸出總額的百分之二十六有奇，明治三十六年以後增到百分之三十九有奇，以後雖然略有小上下，但是仍是增進的趨勢，大正四年以後增到百分之三十九有奇，大正九年以後增到百分之四十一有奇。原料用的製品，在關稅修改的附近也有顯然的增進。明治四十年以前，日本輸出的原料用製品佔輸出總額的百分之四十五有奇，明治四十一年以後增到百分之四十八有奇，明治四十三年以後增加到百分之五十有奇。反之，原料品出則顯然的減少。明治三十五年以前，日本輸出的原料品佔輸出總額的百分之十一有奇，明治三十六年以後減到百分之九，明治四十三年以後再減到百分之八有奇，大正四年以後再減到百分之五有奇。茲將日本輸出入品內容變化情形列表，以見日本經濟之資本主義化的一斑：

第一四〇表 日本內地輸入品內容變化表(每五年平均)

年 期 總 額 食 料 品 原 料 品 原 料 用 製 品 全 製 品 雜 品
實 數 (千圓)

日 本 帝 國 主 義

| 年 代 | 種 類 | 價 格 | 分 數 | 比 率 (%) |
|------|-----|-------|------|---------|
| 明治三〇 | 一冊 | 100.0 | 10.4 | 10.4 |
| 三一 | 一冊 | 100.0 | 11.0 | 11.0 |
| 三二 | 一冊 | 100.0 | 11.6 | 11.6 |
| 三三 | 一冊 | 100.0 | 12.2 | 12.2 |
| 三四 | 一冊 | 100.0 | 12.8 | 12.8 |
| 三五 | 一冊 | 100.0 | 13.4 | 13.4 |
| 三六 | 一冊 | 100.0 | 14.0 | 14.0 |
| 三七 | 一冊 | 100.0 | 14.6 | 14.6 |
| 三八 | 一冊 | 100.0 | 15.2 | 15.2 |
| 三九 | 一冊 | 100.0 | 15.8 | 15.8 |
| 四〇 | 一冊 | 100.0 | 16.4 | 16.4 |
| 四一 | 一冊 | 100.0 | 17.0 | 17.0 |
| 四二 | 一冊 | 100.0 | 17.6 | 17.6 |
| 四三 | 一冊 | 100.0 | 18.2 | 18.2 |
| 四四 | 一冊 | 100.0 | 18.8 | 18.8 |
| 四五 | 一冊 | 100.0 | 19.4 | 19.4 |
| 四六 | 一冊 | 100.0 | 20.0 | 20.0 |
| 四七 | 一冊 | 100.0 | 20.6 | 20.6 |
| 四八 | 一冊 | 100.0 | 21.2 | 21.2 |
| 四九 | 一冊 | 100.0 | 21.8 | 21.8 |
| 五〇 | 一冊 | 100.0 | 22.4 | 22.4 |
| 五一 | 一冊 | 100.0 | 23.0 | 23.0 |
| 五二 | 一冊 | 100.0 | 23.6 | 23.6 |
| 五三 | 一冊 | 100.0 | 24.2 | 24.2 |
| 五四 | 一冊 | 100.0 | 24.8 | 24.8 |
| 五五 | 一冊 | 100.0 | 25.4 | 25.4 |
| 五六 | 一冊 | 100.0 | 26.0 | 26.0 |
| 五七 | 一冊 | 100.0 | 26.6 | 26.6 |
| 五八 | 一冊 | 100.0 | 27.2 | 27.2 |
| 五九 | 一冊 | 100.0 | 27.8 | 27.8 |
| 六〇 | 一冊 | 100.0 | 28.4 | 28.4 |
| 六一 | 一冊 | 100.0 | 29.0 | 29.0 |
| 六二 | 一冊 | 100.0 | 29.6 | 29.6 |
| 六三 | 一冊 | 100.0 | 30.2 | 30.2 |
| 六四 | 一冊 | 100.0 | 30.8 | 30.8 |
| 六五 | 一冊 | 100.0 | 31.4 | 31.4 |
| 六六 | 一冊 | 100.0 | 32.0 | 32.0 |
| 六七 | 一冊 | 100.0 | 32.6 | 32.6 |
| 六八 | 一冊 | 100.0 | 33.2 | 33.2 |
| 六九 | 一冊 | 100.0 | 33.8 | 33.8 |
| 七〇 | 一冊 | 100.0 | 34.4 | 34.4 |
| 七一 | 一冊 | 100.0 | 35.0 | 35.0 |
| 七二 | 一冊 | 100.0 | 35.6 | 35.6 |
| 七三 | 一冊 | 100.0 | 36.2 | 36.2 |
| 七四 | 一冊 | 100.0 | 36.8 | 36.8 |
| 七五 | 一冊 | 100.0 | 37.4 | 37.4 |
| 七六 | 一冊 | 100.0 | 38.0 | 38.0 |
| 七七 | 一冊 | 100.0 | 38.6 | 38.6 |
| 七八 | 一冊 | 100.0 | 39.2 | 39.2 |
| 七九 | 一冊 | 100.0 | 39.8 | 39.8 |
| 八〇 | 一冊 | 100.0 | 40.4 | 40.4 |
| 八一 | 一冊 | 100.0 | 41.0 | 41.0 |
| 八二 | 一冊 | 100.0 | 41.6 | 41.6 |
| 八三 | 一冊 | 100.0 | 42.2 | 42.2 |
| 八四 | 一冊 | 100.0 | 42.8 | 42.8 |
| 八五 | 一冊 | 100.0 | 43.4 | 43.4 |
| 八六 | 一冊 | 100.0 | 44.0 | 44.0 |
| 八七 | 一冊 | 100.0 | 44.6 | 44.6 |
| 八八 | 一冊 | 100.0 | 45.2 | 45.2 |
| 八九 | 一冊 | 100.0 | 45.8 | 45.8 |
| 九〇 | 一冊 | 100.0 | 46.4 | 46.4 |
| 九一 | 一冊 | 100.0 | 47.0 | 47.0 |
| 九二 | 一冊 | 100.0 | 47.6 | 47.6 |
| 九三 | 一冊 | 100.0 | 48.2 | 48.2 |
| 九四 | 一冊 | 100.0 | 48.8 | 48.8 |
| 九五 | 一冊 | 100.0 | 49.4 | 49.4 |
| 九六 | 一冊 | 100.0 | 50.0 | 50.0 |
| 九七 | 一冊 | 100.0 | 50.6 | 50.6 |
| 九八 | 一冊 | 100.0 | 51.2 | 51.2 |
| 九九 | 一冊 | 100.0 | 51.8 | 51.8 |
| 一〇〇 | 一冊 | 100.0 | 52.4 | 52.4 |

第一四一表 日本内地輸出入内容變化表(每五年平均)

| | | | | | | |
|-------|-------|------|------|-------|-------|-----|
| 大正四一八 | 100.0 | 10.3 | 56.3 | 100.8 | 106.4 | 0.4 |
| 九一三 | 100.0 | 22.6 | 81.4 | 126.4 | 136.6 | 4.0 |
| 昭和一四 | 100.0 | 14.1 | 58.4 | 133.3 | 141.1 | 0.6 |

年 期 總 數 食 料 品 原 料 品 原 料 用 製 品 全 製 品 雜 品

實 數 (千圓)

| | | | | | | |
|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|
| 明治六一三 | 110.0 | 10.1 | 32.0 | 100.4 | 107.3 | 4.1 |
| 三一三 | 112.1 | 33.3 | 101.3 | 137.0 | 157.3 | 5.3 |
| 三一四 | 114.2 | 40.4 | 111.3 | 151.4 | 171.0 | 9.4 |
| 昭一大正一 | 116.6 | 46.5 | 118.6 | 167.1 | 189.4 | 12.4 |
| 昭一大正三 | 119.1 | 53.1 | 126.6 | 184.0 | 207.3 | 14.3 |
| 大正四一八 | 121.6 | 59.6 | 134.6 | 201.3 | 227.3 | 16.4 |
| 九一三 | 124.1 | 66.1 | 142.6 | 218.4 | 247.3 | 18.4 |
| 昭和一四 | 126.6 | 72.6 | 150.6 | 235.4 | 267.3 | 20.4 |

日 本 帝 國 主 義

| | 百 | 分 | 比 | (%) |
|-------|-------|------|------|------|
| 明治三一年 | 100.0 | 12.1 | 10.1 | 12.1 |
| 三一三 | 100.0 | 13.0 | 11.1 | 13.6 |
| 三一四 | 100.0 | 11.9 | 9.0 | 13.3 |
| 皇一大正一 | 100.0 | 11.1 | 9.1 | 13.3 |
| 皇一大正三 | 100.0 | 10.9 | 8.3 | 13.4 |
| 大正四一八 | 100.0 | 9.5 | 5.3 | 13.1 |
| 九一三 | 100.0 | 6.5 | 6.0 | 13.9 |
| 皇一昭和四 | 100.0 | 7.1 | 5.4 | 13.0 |

(四) 日本帝國主義的特色

— 外部的人工助長 —

(A) 南進及北進政策

日本資本主義雖然有官營、官助、及關稅等內部人工的作用，但是因為國內原料太貧困，國內市場太狹隘的緣故，仍不能不求於外部人工作用。這外部人工作用便是帝國主義

，借帝國主義之力以掠奪國外的原料場及市場。本來帝國主義是資本主義最後階段的產物，但是，日本這個國家有很特色的地方。日本自從將一踏上資本主義途徑的時候便帶有帝國主義意味，同時好戰性便很大。中日和日俄兩次大戰，方纔確立了日本的資本主義，所以日本的資本主義生而有政治性；日本的帝國主義生而有好戰性。這政治和好戰兩種性質恐怕是要與日本的資本和帝國主義相終始。

這個緣故也很容易解釋。因為日本的產業革命不似英美各國是生產力發達的自然結果，乃是感覺經濟先進國的威脅，由人工趕造而成，多少帶有強制性。一方面因為原料和市場的異常貧乏狹隘，不能不求之於國外，而國外市場和原料場又早為各經濟先進國家所占領，日本要為他的新經濟找基礎，首先非要對外一戰不可。同時，日本是個經濟後進國，技術方面當然是不如各經濟先進國，如若在市場上和人家自由競爭起來，恐怕是十九要失敗，所以由戰爭之後獲得了市場和原料場，仍不能不用政治的力量來看守。這掠奪並看守的工具便是帝國主義。

因此，日本在明治維新之初，向外發展，向外拓殖的空氣便很濃厚，以後成為日本所謂「國策」。這國策共有兩種，即有名的「南進」「北進」政策是也。分述之如下：

(一)南進政策——日本的陸海軍人(即海軍軍人)及一部政客唱之，主張向日本南部的南洋一帶發展，所以「南進政策」，又名「南洋政策」。竹越與三郎著「兩國記」，可以算是這一派的代表言論。自明治丁午占琉球，甲午戰後獲得台灣及澎湖列島，歐戰後又取赤道以北的德國舊領馬利亞納，加羅林，馬塞爾羣島，最近菲律賓濱的移民日衆；這種種都是日本實行南進的政策的成功。可惜這種政策在歐戰前直接和英德兩國的勢力範圍衝突，歐戰後和英美兩國的聯合戰線接觸。內中尤其是美國，日本這一把南進的利劍可以斬開美國太平洋的大長蛇陣，切斷菲律賓，檀香山和美國本部的聯絡。這是何等重大的國際衝突啊！所以日本的南進政策並不能十分貫徹實行。

(2)北進政策——日本的長藩軍人(即陸軍軍人)及一部分政客唱之，主張向日本北部的朝鮮，滿蒙，及中國北部一帶大陸發展，所以北進政策又名「大陸政策」。長藩軍人，自伊藤博文(倭朝鮮者)桂太郎(主持日俄戰爭者)，以至田中義一(出兵山東者)，久握日本政權，所以北進政策又可以說是日本對外發展的「國是」。日本爲北進政策不惜對中俄兩國宣戰。甲午戰後，獲得朝鮮，日俄戰後，獲得南滿利權，歐戰中提出的二十一條，田中內閣的對華干涉，都是這種殖民政策的成績。九一八事件以後，日本對東北成立「滿洲國」，由

南滿進到北滿，由侵略進到吞併，再進而經營西伯利亞，以與蘇聯開戰。這都是北進政策的實施啊！

(B) 發展的三大時期

日本的帝國主義的發展大略分爲三個大時期，和日本資本主義的相階平行：第一時期是在中日戰爭之後。他們的經營範圍限於朝鮮及台灣。這時候東三省還在帝俄的勢力之下。以後帝俄勢力日漸澎漲，有由滿蒙而入朝鮮之勢，同時日本垂涎滿蒙的利源雄厚也有北上的企圖，兩國遂發生衝突。那時候英國在遠東方面也很不願意俄勢力的大澎漲，於是英日同盟便成立，共同與帝俄鬥爭。日本得英國的援助。遂在中國及朝鮮獲得很大的利益。

第二個時期是在日俄戰爭之後。日本的經營範圍，由朝鮮進入東三省南部——長春以南及遼河以東的地帶。在這個時期日本在滿蒙的勢力大增，英美等國也有些眼紅，便想插足，但日俄分據南北滿，各不相犯，而且聯合以拒其他的國際勢力侵入滿蒙。這個時期的特徵是英日漸漸離異，日俄反漸接近。

第三個時期是在歐洲大戰之後。日本因爲得了青島及膠濟鐵路，經營的範圍發展到山

東，而且有「高徐」濟順等鐵路之計畫，以及二十一條的嚴刻對華要求，大有囊括滿蒙，及長江以北，進而延至福建沿海一帶之勢，日本帝國主義的勢力遠達于滿點。民國六年（一九一七年），俄國革命起，日本更進一步經營北滿及東部內蒙古。「到滿蒙去」的呼聲，在日本全國叫著。至于其他帝國主義者因為歐戰的緣故，沒有力量，祇好看著。這是日本帝國主義的極盛時代。

日本帝國主義到了極盛之後，便開始入於衰落之途！歐戰後，日本帝國主義時時在苦戰之中，最後仍不能不出于退却的一法。英日同盟既然廢止，日本在遠東陷于孤立的狀態，美國的大威脅及其他國家的隨聲附和，使日本帝國主義不能不退却。華盛頓會議中強迫日本讓出青島和膠濟鐵路，二十一條無形取消，日本只好忍氣吞聲，收縮經營的範圍。但是絕對不是心願如此。田中義一借中國內亂的機會，出兵山東，想重整旗鼓，但是，衰落的日本帝國主義何能敵得過英美，所以終歸失敗，不能不作第二次的大退却，撤去山東的駐軍。

這第二次的大退却，日本帝國主義便退到最後防線的滿蒙了。床次竹二郎來東北聲明：滿蒙是特殊地帶。首松田拓相到東北聲明滿蒙是日本所以解決他的入口食糧問題的地帶

，有特殊的性質。日本帝國主義現在退到這絕對不肯放鬆最後防線的滿蒙了！

因為日本放棄全中國的利益而退守滿蒙，所以滿蒙的日本經營愈形重要。因為日本資本主義日就衰亡沒落之途，但日本又不肯使他衰亡沒落，所以更不能不想法救濟，救濟的道路唯有滿蒙，所以滿蒙的日本將愈形重要！這一次九一八事件就是日本幾次退却之後，乘機（西方資本主義國家的恐慌無方期間）的大反攻。這反攻的主持目的仍在滿蒙。他們最高的希望也不過是達到二十一條全盛時代的狀態罷了。出兵長江是一種對外手段，自然撤兵也較容易。至滿蒙則無論如何是不肯放鬆的。這是九一八事件發生的政治原因。

第八章 日本資本主義經濟的沒落

第一節 日本資本主義的先天病及戰後的不景氣

（一）恐慌而又恐慌的原因

——瓦爾加的說明——

日本資本主義一方面因為基礎的薄弱，另一方面因為隨着資本主義一般的沒落，在歐

戰中雖有一時的發展，但是到了戰後便陷於長期的不景氣之中。這不景氣當然是戰後資本主義的普遍現象，但日本資本主義特別深刻而難以克服，長期綿延不絕，幾乎是失掉週期性。戰後中國資本主義的萌芽，德國的勵行輸出政策，及日本資產階級應付補救方法的失當，固然是這不景氣的原因之一，但是根本原因仍在日本資本主義的本身貧困上。所以在歐戰中，雖然日美資本主義同時進展，但是歐戰以後，兩國便不同了。美國似乎持久些，而日本如熱病一般，溫度的上昇僅係一時的變態。日本普羅科學研究中說的好：

『第一次世界大戰，不但在經濟方面破壞了「過剩的」生產力；而且顛覆了歐洲的全生產機構，同時促進美國資本主義之發達與日本的「熱病的好景氣」。世界的經濟重點，已經從歐洲移到美國了！』

瓦爾加 (E. Varga) 說到日本資本主義，有以下的話：

『本質上與美國相同，日本沒有像美國那樣的發展前提，換言之，就是沒有巨大的自然富源，生產手段之集積與勞動者高度的生產性。日本是一種小規模的。』

瓦爾加又說：

『日本資本主義依然缺少近代工業的基礎——重工業及機械工業。這些近代工業，只

瓦爾加又說：

是人工的育成，那基礎於極低廉勞動力與殖民地榨取。名副其實，是一個強度機械性的資本主義。這一點，也就是日本恐慌又繼之以恐慌的原因。』

『日本同樣的利用了戰爭，擴張了世界市場，其發達程度較之美國有很多的生產部門，顯示了溫室達成的性質。其生產力在無競爭的時候，還足以支配市場；一到與有力的資本主義國家競爭時，想維持其市場，就不充分了。急激的恐慌，其所以發端于日本的，就是這個原故。』

戰後日本資本主義不景氣的原因大概如是。

(二)戰後三大打擊

——八禍之外尚有天災——

(A)一般的觀察

戰後日本資本主義既陷於不景氣之中。這不景氣，除了最近三年間的全世界大不景外，日本尚有三次不景，這三次不景，可以說是戰後日本資本主義的三大打擊：

第一次打擊是打歐戰結束（一九一八）後二年（大正九年），因為歐戰大破壞的結果，戰

勝國的英法等，經濟上起了大動搖，發生全世界的經濟大恐慌，日本也受影響，而隨之，因而輸出減退，生產停止，金融疲滯，銀行公司倒閉不知其數，工場關閉，失業工人達數十萬人。

第二次打擊是在大正十二年，人事之後繼以天災，日本發生空前的大地震，物質上受了絕大的破壞，經濟上也自然受了絕大的損傷。因為這一次地震，日本政府用盡政治的力量，使盡彌縫的方法，停止銀行兌現，發佈停止現金出口命令，方才算對付過去。

日本在這天災人禍之後，經濟勢力尙沒有復原，但是歐戰前的勁敵又回來了。歐洲等國的資本主義逐漸穩定後，貨物又向東方輸出。另一方面，美國在歐戰中，獲得很厚的利益，造成空前未有的絕大經濟勢力，因為資本過剩出產過豐，不能不求國外的銷路，也祇有向東方發展的一條道路。日本資本的主義遇見比歐戰以前勢力更大若干倍的勁敵，如何能不日趨於沒落窮途？所以從民國九年以後，輸出日漸減少。同時，日金對美金匯兌行市低落顯露出來日本經濟緊迫，於是積累日深，漸漸支持不住，而露出馬脚，因之全經濟界都受其影響而陷於支離滅裂的狀態：這便是日本的第三次大打擊。

這第三次大打擊是在昭和二年，便是有名的日本大金融恐慌。因為鈴木本商店作投機事

業失敗，影響到日本在臺灣經濟勢力中堅的台灣銀行，連帶三十多家銀行，及管皇室大地主存款的第十五銀行一律停兌。因之，多數工場關閉，工人失業，呈大恐慌狀態。在民國十六年四月二十一日的一日間，各發行紙幣的銀行對擠兌的銀行借出了六萬萬三千九百萬元的巨款，日本政府下了全國停止支款三星期的命令，方纔漸漸的彌縫下去。

(B) 數目字上表現

由歐戰停止到一九二七年的期間，日本資本主義的具體情形。在數目字上的表現如下

(一) 生產量——日本工業生產數量指數，在大正九年年恐慌之第二年——大正十一年是減退的，大正十一年以後則漸次增加，有如下表

第一四二表——戰後日本工業生產額指數表

| | |
|-------|--------|
| 大正八年 | 100.00 |
| 大正九年 | 100.21 |
| 大正十年 | 104.84 |
| 大正十一年 | 113.56 |

(ii) 貿易額——關於貿易，大正十年低到六七·一的貿易額，從大正十一年起，漸次上昇，到大正十四年則超過大正八年水準。大正十四年以後又復下降。有如下表：

第一四三表 戰後日本貿易趨勢表(輸出入總額的百分比)

| 年次 | 百分比 | 除以物價指數 |
|-------|--------|--------|
| 大正八年 | 100.00 | 100.00 |
| 大正九年 | 100.03 | 99.0 |
| 大正十年 | 67.1 | 67.6 |
| 大正十一年 | 67.6 | 99.3 |
| 大正十二年 | 60.3 | 90.6 |
| 大正十三年 | | 118.0 |
| 大正十四年 | | 136.5 |
| 大正十五年 | | 136.4 |
| 大正十六年 | | 151.4 |

(III)物價指數——日本的物價指數大正十年下落，以後沒有大變化，但是在昭和元年又下落。如下表

第一四四表——東京批發物價指數

| 年 次 | 指 數 |
|----------|--------|
| 大正十三年 | 九七・七 |
| 大正十四年 | 二四・二 |
| 昭和元年 | 一〇三・五 |
| 昭和二年 | 九七・五 |
| 明治三十七年七月 | 一〇〇・〇〇 |
| 大正八年 | 二四七・八 |
| 大正九年 | 二五三・六 |
| 大正十年 | 二一〇・六 |
| 大正十一年 | 二〇六・〇 |
| 大正十二年 | 二〇九・三 |

日本資本主義經濟的發落

倫敦紐約的批發物價指數與東京的指數比較如下：

| 年次 | 東京 | 倫敦 | 紐約 |
|--------|-------|-------|-------|
| 大正十三年 | 三三・三 | | |
| 大正十四年 | 三三・二 | | |
| 昭和元年 | 二六・二 | | |
| 昭和二年 | 二六・六 | | |
| 明治三十七年 | 100・0 | 100・0 | 100・0 |
| 大正九年 | 三三・二 | 三三・四 | 三三・三 |
| 大正十年 | 三三・六 | 三三・一 | 三三・三 |
| 大正十一年 | 100・0 | 100・三 | 100・0 |

(D) 公司資本——日本公司資本的指數，戰後無論如何減退仍然繼續上昇。公司資本金指數(交付資本及出資額總計)

| 年次 | 指數 |
|--------|------|
| 明治三十七年 | 三三・六 |

| | |
|-------|-------|
| 大正八年 | 100.0 |
| 大正九年 | 135.7 |
| 大正十年 | 155.6 |
| 大正十一年 | 150.4 |
| 大正十二年 | 176.6 |
| 大正十三年 | 176.5 |
| 大正十四年 | 176.7 |
| 昭和元年 | 103.0 |
| 昭和二年 | 111.4 |

第二節 世界經濟恐慌下的日本經濟恐慌

(一) 恐慌的一般形勢——

——恐慌前後的比較——

(A) 物價跌落

歐戰後，日本資本主義雖然遇見三次的大打擊，但是大體上看來仍然是前進的，猶其

是工業資本及公司資本方面。因為在一九二八年以後，全世界資本主義俱在相對的安定期間，其中一環的日本資本主義，自然也易趨于安定。但是，一九二九年以後，世界大經濟恐慌襲來，日本的情形便一落千丈了。我們現在詳細看看，一九二八年以來，世界經濟恐慌。前後的日本經濟狀況。

物價是景氣的指針。自一九二九年（昭和四年）以後，日本的各種物價是無例外的下落有如下表：

第一四五表——最近日本物價推移表

(日銀指數 明治三三—一〇〇 大正三年七月—二二六)

| | 昭和一 | 昭和二 | 昭和三 | 昭和四 | 昭和五 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 一月 | 三三〇 | 三三〇 | 三三〇 | 三三〇 | 三〇一 |
| 二月 | 三三〇 | 三二七 | 三二四 | 三二〇 | 二〇〇 |
| 三月 | 三二四 | 三二七 | 三二四 | 三二〇 | 二〇六 |
| 四月 | 三二〇 | 三二五 | 三二四 | 三二〇 | 二〇七 |
| 五月 | 三二〇 | 三二六 | 三二七 | 三二〇 | 二〇六 |

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 六月 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 |
| 七月 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 |
| 八月 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 |
| 九月 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 |
| 十月 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 |
| 十一月 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 |
| 十二月 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 | 三三三 |

(B) 股票慘落

這次世界恐慌起于美國金融市場上股票風潮。日本的股票同樣自一九二九年以後也一條直線的向下慘落。這可以看出企業的不振來。慘落的情形有如下表：

第一四六表——最近日本股票價格推移表

(東京股票交易所上場股票指數大正一〇年(一〇〇))

| | | | | | | | | |
|---|---|-----|-----|-----|-----|---|-----|-----|
| 限 | 月 | 大正三 | 昭和三 | 昭和四 | 昭和五 | 月 | 昭和四 | 昭和五 |
| 七 | 二 | 六 | 五 | 三 | 三 | 三 | 六 | 五 |

日本資本主義經濟的落後

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 1910年 | 131.0 | 114.4 | 115.6 | 7 | 27.0 |
| 1911年 | 135.0 | 118.9 | 107.4 | 11 | 27.3 |
| 1912年 | 139.0 | 123.4 | 109.1 | 11 | 27.6 |
| 1913年 | 143.0 | 127.9 | 110.8 | 11 | 27.9 |
| 1914年 | 147.0 | 132.4 | 112.5 | 11 | 28.2 |
| 1915年 | 151.0 | 136.9 | 114.2 | 11 | 28.5 |
| 1916年 | 155.0 | 141.4 | 115.9 | 11 | 28.8 |
| 1917年 | 159.0 | 145.9 | 117.6 | 11 | 29.1 |
| 1918年 | 163.0 | 150.4 | 119.3 | 11 | 29.4 |
| 1919年 | 167.0 | 154.9 | 121.0 | 11 | 29.7 |
| 1920年 | 171.0 | 159.4 | 122.7 | 11 | 30.0 |
| 1921年 | 175.0 | 163.9 | 124.4 | 11 | 30.3 |
| 1922年 | 179.0 | 168.4 | 126.1 | 11 | 30.6 |
| 1923年 | 183.0 | 172.9 | 127.8 | 11 | 30.9 |
| 1924年 | 187.0 | 177.4 | 129.5 | 11 | 31.2 |
| 1925年 | 191.0 | 181.9 | 131.2 | 11 | 31.5 |
| 1926年 | 195.0 | 186.4 | 132.9 | 11 | 31.8 |
| 1927年 | 199.0 | 190.9 | 134.6 | 11 | 32.1 |
| 1928年 | 203.0 | 195.4 | 136.3 | 11 | 32.4 |
| 1929年 | 207.0 | 199.9 | 138.0 | 11 | 32.7 |
| 1930年 | 211.0 | 204.4 | 139.7 | 11 | 33.0 |
| 1931年 | 215.0 | 208.9 | 141.4 | 11 | 33.3 |
| 1932年 | 219.0 | 213.4 | 143.1 | 11 | 33.6 |
| 1933年 | 223.0 | 217.9 | 144.8 | 11 | 33.9 |
| 1934年 | 227.0 | 222.4 | 146.5 | 11 | 34.2 |
| 1935年 | 231.0 | 226.9 | 148.2 | 11 | 34.5 |
| 1936年 | 235.0 | 231.4 | 149.9 | 11 | 34.8 |
| 1937年 | 239.0 | 235.9 | 151.6 | 11 | 35.1 |
| 1938年 | 243.0 | 240.4 | 153.3 | 11 | 35.4 |
| 1939年 | 247.0 | 244.9 | 155.0 | 11 | 35.7 |
| 1940年 | 251.0 | 249.4 | 156.7 | 11 | 36.0 |
| 1941年 | 255.0 | 253.9 | 158.4 | 11 | 36.3 |
| 1942年 | 259.0 | 258.4 | 160.1 | 11 | 36.6 |
| 1943年 | 263.0 | 262.9 | 161.8 | 11 | 36.9 |
| 1944年 | 267.0 | 267.4 | 163.5 | 11 | 37.2 |
| 1945年 | 271.0 | 271.9 | 165.2 | 11 | 37.5 |
| 1946年 | 275.0 | 276.4 | 166.9 | 11 | 37.8 |
| 1947年 | 279.0 | 280.9 | 168.6 | 11 | 38.1 |
| 1948年 | 283.0 | 285.4 | 170.3 | 11 | 38.4 |
| 1949年 | 287.0 | 289.9 | 172.0 | 11 | 38.7 |
| 1950年 | 291.0 | 294.4 | 173.7 | 11 | 39.0 |
| 1951年 | 295.0 | 298.9 | 175.4 | 11 | 39.3 |
| 1952年 | 299.0 | 303.4 | 177.1 | 11 | 39.6 |
| 1953年 | 303.0 | 307.9 | 178.8 | 11 | 39.9 |
| 1954年 | 307.0 | 312.4 | 180.5 | 11 | 40.2 |
| 1955年 | 311.0 | 316.9 | 182.2 | 11 | 40.5 |
| 1956年 | 315.0 | 321.4 | 183.9 | 11 | 40.8 |
| 1957年 | 319.0 | 325.9 | 185.6 | 11 | 41.1 |
| 1958年 | 323.0 | 330.4 | 187.3 | 11 | 41.4 |
| 1959年 | 327.0 | 334.9 | 189.0 | 11 | 41.7 |
| 1960年 | 331.0 | 339.4 | 190.7 | 11 | 42.0 |
| 1961年 | 335.0 | 343.9 | 192.4 | 11 | 42.3 |
| 1962年 | 339.0 | 348.4 | 194.1 | 11 | 42.6 |
| 1963年 | 343.0 | 352.9 | 195.8 | 11 | 42.9 |
| 1964年 | 347.0 | 357.4 | 197.5 | 11 | 43.2 |
| 1965年 | 351.0 | 361.9 | 199.2 | 11 | 43.5 |
| 1966年 | 355.0 | 366.4 | 200.9 | 11 | 43.8 |
| 1967年 | 359.0 | 370.9 | 202.6 | 11 | 44.1 |
| 1968年 | 363.0 | 375.4 | 204.3 | 11 | 44.4 |
| 1969年 | 367.0 | 379.9 | 206.0 | 11 | 44.7 |
| 1970年 | 371.0 | 384.4 | 207.7 | 11 | 45.0 |
| 1971年 | 375.0 | 388.9 | 209.4 | 11 | 45.3 |
| 1972年 | 379.0 | 393.4 | 211.1 | 11 | 45.6 |
| 1973年 | 383.0 | 397.9 | 212.8 | 11 | 45.9 |
| 1974年 | 387.0 | 402.4 | 214.5 | 11 | 46.2 |
| 1975年 | 391.0 | 406.9 | 216.2 | 11 | 46.5 |
| 1976年 | 395.0 | 411.4 | 217.9 | 11 | 46.8 |
| 1977年 | 399.0 | 415.9 | 219.6 | 11 | 47.1 |
| 1978年 | 403.0 | 420.4 | 221.3 | 11 | 47.4 |
| 1979年 | 407.0 | 424.9 | 223.0 | 11 | 47.7 |
| 1980年 | 411.0 | 429.4 | 224.7 | 11 | 48.0 |
| 1981年 | 415.0 | 433.9 | 226.4 | 11 | 48.3 |
| 1982年 | 419.0 | 438.4 | 228.1 | 11 | 48.6 |
| 1983年 | 423.0 | 442.9 | 229.8 | 11 | 48.9 |
| 1984年 | 427.0 | 447.4 | 231.5 | 11 | 49.2 |
| 1985年 | 431.0 | 451.9 | 233.2 | 11 | 49.5 |
| 1986年 | 435.0 | 456.4 | 234.9 | 11 | 49.8 |
| 1987年 | 439.0 | 460.9 | 236.6 | 11 | 50.1 |
| 1988年 | 443.0 | 465.4 | 238.3 | 11 | 50.4 |
| 1989年 | 447.0 | 469.9 | 240.0 | 11 | 50.7 |
| 1990年 | 451.0 | 474.4 | 241.7 | 11 | 51.0 |
| 1991年 | 455.0 | 478.9 | 243.4 | 11 | 51.3 |
| 1992年 | 459.0 | 483.4 | 245.1 | 11 | 51.6 |
| 1993年 | 463.0 | 487.9 | 246.8 | 11 | 51.9 |
| 1994年 | 467.0 | 492.4 | 248.5 | 11 | 52.2 |
| 1995年 | 471.0 | 496.9 | 250.2 | 11 | 52.5 |
| 1996年 | 475.0 | 501.4 | 251.9 | 11 | 52.8 |
| 1997年 | 479.0 | 505.9 | 253.6 | 11 | 53.1 |
| 1998年 | 483.0 | 510.4 | 255.3 | 11 | 53.4 |
| 1999年 | 487.0 | 514.9 | 257.0 | 11 | 53.7 |
| 2000年 | 491.0 | 519.4 | 258.7 | 11 | 54.0 |
| 2001年 | 495.0 | 523.9 | 260.4 | 11 | 54.3 |
| 2002年 | 499.0 | 528.4 | 262.1 | 11 | 54.6 |
| 2003年 | 503.0 | 532.9 | 263.8 | 11 | 54.9 |
| 2004年 | 507.0 | 537.4 | 265.5 | 11 | 55.2 |
| 2005年 | 511.0 | 541.9 | 267.2 | 11 | 55.5 |
| 2006年 | 515.0 | 546.4 | 268.9 | 11 | 55.8 |
| 2007年 | 519.0 | 550.9 | 270.6 | 11 | 56.1 |
| 2008年 | 523.0 | 555.4 | 272.3 | 11 | 56.4 |
| 2009年 | 527.0 | 559.9 | 274.0 | 11 | 56.7 |
| 2010年 | 531.0 | 564.4 | 275.7 | 11 | 57.0 |
| 2011年 | 535.0 | 568.9 | 277.4 | 11 | 57.3 |
| 2012年 | 539.0 | 573.4 | 279.1 | 11 | 57.6 |
| 2013年 | 543.0 | 577.9 | 280.8 | 11 | 57.9 |
| 2014年 | 547.0 | 582.4 | 282.5 | 11 | 58.2 |
| 2015年 | 551.0 | 586.9 | 284.2 | 11 | 58.5 |
| 2016年 | 555.0 | 591.4 | 285.9 | 11 | 58.8 |
| 2017年 | 559.0 | 595.9 | 287.6 | 11 | 59.1 |
| 2018年 | 563.0 | 600.4 | 289.3 | 11 | 59.4 |
| 2019年 | 567.0 | 604.9 | 291.0 | 11 | 59.7 |
| 2020年 | 571.0 | 609.4 | 292.7 | 11 | 60.0 |

(C) 投資不振

日本經濟既然日趨，所以投資頗為不振。新公司不能創立，舊公司也不能擴張。所以計劃資本額在昭和四年上半年期還有七萬萬元，昭和五年上半年便減到二萬萬三千萬元。已

付的公司債券，在一年之內也從六萬萬二千六百萬元減到一萬萬一千五百萬元。股票從二萬萬六千三百萬元減到九千七百萬元。同時，市況不佳，稅收不足，國家及地方財政收入不敷出，因此，在國債及地方債方面，反而增加。其情形如下表：

第一四七表 最近日本實收及計畫資本額推移表

| | 總 額 | | 國 債 | | 地 方 債 | | 社 債 | | 股 票 | | 銀行公司 計畫資本 | |
|----|------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|-----------|
| | 昭和 上期 | 下 期 | 昭和 上期 | 下 期 | 昭和 上期 | 下 期 | 昭和 上期 | 下 期 | 昭和 上期 | 下 期 | 昭和 上期 | 下 期 |
| 上期 | 12,000,000 | 11,400,000 | 11,000,000 | 11,000,000 | 2,600,000 | 3,300,000 | 1,500,000 | 3,200,000 | 2,500,000 | 2,500,000 | 3,300,000 | 3,300,000 |
| 下期 | 12,000,000 | 11,400,000 | 11,000,000 | 11,000,000 | 2,600,000 | 3,300,000 | 1,500,000 | 3,200,000 | 2,500,000 | 2,500,000 | 3,300,000 | 3,300,000 |
| 上期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 下期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 上期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 下期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 上期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 下期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 上期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 下期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 上期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 下期 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |

(D) 貿易減退

貿易的增進是經濟好況的源泉。但是，日本一九二九年以來的貿易，無論輸出和輸入一致的減少。從昭和四年（一九二九）年七月到昭和五年（一九三〇年）六月比昭和三年（一九二八年）七月到昭和四年六月竟減少到六萬萬一千五百餘萬元之多。詳細情形有如下表：

第一四八表——最近日本對外貿易額表（單位千日元）

| 日本資本主義經濟的發展 | 輸 出 | | 輸 入 | | 合 計 | 入 超 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 昭和四上半期 | 昭和五上半期 | 昭和四上半期 | 昭和五上半期 | | |
| 減少 | 一〇六・五三 | 七三・三九 | 一三九・壹七 | 九五・壹九 | 二・三六三〇 | 三六・四三 |
| 昭和三・七・六 | 一六四・七三 | 二〇五・六〇 | 一四三・壹九 | 二二六・三九 | 一六六・二六 | 一六・〇三 |
| 昭和四・七・六 | 一六三・六三 | 一六三・六九 | 一八三・六九 | 二〇六・六九 | 四・零一六元 | 三〇・〇三 |
| 減少 | 一八・七元 | 一八・七元 | 一四三・壹九 | 一三三・三六 | 一三三・三六 | 一三三・三六 |

(E) 匯兌起伏不定

日金對外匯兌行市在大正十三年曾暴落一次，落到日本百元換美金三十九第二二年即行

恢復。昭和二年以後又漸漸的下落，到了昭和五年一月民政黨上台實行金解禁。日金滙兌又提高到美金四十九元以下。昭和六年十二月政友會上台後又實行金再禁，日金滙兌又暴落，起伏不定有如此者。昭和六年以後的情形，下節再說。昭和五年以前則如下表：

第一四九表——最近日金對外滙兌行市推移表

(正金銀行紐約電報行市日金百圓對美金價)

| 日 本 政 治 經 濟 研 究 | 月 末 | 昭和一 | 昭和二 | 昭和三 | 昭和四 | 昭和五 |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 一 月 | 三% | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% |
| 二 月 | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% |
| 三 月 | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% |
| 四 月 | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% |
| 五 月 | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% |
| 六 月 | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% |
| 七 月 | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% |
| 八 月 | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% | 四% |

日本資本主義的經濟

| | | | | |
|-----|----|----|----|----|
| 九月 | 圓六 | 圓六 | 圓六 | 圓六 |
| 十月 | 圓六 | 圓六 | 圓六 | 圓六 |
| 十一月 | 圓六 | 圓一 | 圓六 | 圓六 |
| 十二月 | 圓六 | 圓一 | 圓一 | 圓一 |

(下)正貨減少

日本因為實行金解禁，兌出的現金過多，因而銀行準備的正貨額減少。到昭和五年上半年度減少到僅有八萬萬六千萬元，和歐戰期間約二十萬萬元相比，減少三分之二！他的數目如下：

第一五〇表——最近日本銀行兌換券發行額及正貨準備額表（單位千圓）

| 月 | 昭和三年 | 昭和四年 | 昭和五年 |
|----|-----------|-----------|-----------|
| 末 | 發行額 | 發行額 | 發行額 |
| 一月 | 1,500,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 二月 | 1,500,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 三月 | 1,500,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 四月 | 1,500,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |

日 本 政 治 經 濟 研 究

| | | | | | |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 五月 | 1.252.252 | 1.031.252 | 1.202.252 | 1.022.252 | 1.222.252 |
| 六月 | 1.262.252 | 1.032.252 | 1.202.252 | 1.022.252 | 1.222.252 |
| 七月 | 1.272.252 | 1.033.252 | 1.202.252 | 1.022.252 | 1.222.252 |
| 八月 | 1.282.252 | 1.034.252 | 1.202.252 | 1.022.252 | 1.222.252 |
| 九月 | 1.292.252 | 1.035.252 | 1.202.252 | 1.022.252 | 1.222.252 |
| 十月 | 1.302.252 | 1.036.252 | 1.202.252 | 1.022.252 | 1.222.252 |
| 十一月 | 1.312.252 | 1.037.252 | 1.202.252 | 1.022.252 | 1.222.252 |
| 十二月 | 1.322.252 | 1.038.252 | 1.202.252 | 1.022.252 | 1.222.252 |

(G)工人失業

日本因為經濟衰落，所以各工廠多減工職人，因而工人的失業問題遂發生，自昭和元年以後，日本各工廠的雇傭就一天一天減退。到昭和五年六月減到百分之八十三；有百分之十六以上俱都是失業着了。詳細情形有如下表：

第一五一表——最近日本工場勞動者雇傭指數推移表（昭和一年—二〇〇）

昭和一 昭和二 昭和三 昭和四 昭和五

本日本資主經濟的落後

| 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 100.0 | 100.0 | 100.1 | 101.7 | 101.4 | 100.6 | 100.9 | 100.1 | 100.3 | 100.6 | 100.3 | 100.4 |
| 100.6 | 100.3 | 100.7 | 100.6 | 100.2 | 100.9 | 100.5 | 100.1 | 100.3 | 100.6 | 100.3 | 100.4 |
| 100.9 | 100.7 | 100.4 | 100.9 | 100.5 | 100.2 | 100.9 | 100.6 | 100.3 | 100.6 | 100.1 | 100.1 |
| 100.9 | 100.9 | 100.6 | 100.1 | 100.1 | 100.7 | 100.4 | 100.0 | 100.7 | 100.3 | 100.2 | 100.2 |

(二)恐慌的現階段

——時尙不能復原——

(A) 觀察的變種指標

自昭和六年以來，日本的經濟恐慌依然一天天的深刻化而嚴重化，昭和七年以後，因為日本得到東北及購入軍需品，經濟方面似乎是較為活躍，但是否真正的渡過恐慌，不得而知。同時也還沒能達到常態。由下表便可以看出來：

第一五二表——本年日本的生產及交易量指數表

| 年 月 | 原料品 | | 銀貨 | | 輸 入 額 | | 倉庫情形(大阪) | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|------|----------|--|
| | 消費量指數 | 發送量指數 | 輸 出 額 | 輸 入 額 | 入 庫 | 出 庫 | 存 庫 | |
| 一 | 106.1 | 106.1 | 100.9 | 89.9 | 100.0 | 5.5 | 87.6 | |
| 二 | 104.1 | 104.3 | 101.5 | 77.7 | 109.9 | 10.3 | 81.1 | |
| 三 | 101.6 | 101.9 | 106.1 | 77.5 | 106.3 | 10.9 | 81.3 | |
| 四 | 101.3 | 101.0 | 102.3 | 77.5 | 105.1 | 10.1 | 81.3 | |
| 五 | 101.3 | 101.9 | 101.9 | 73.2 | 105.1 | 10.1 | 81.3 | |
| 六 | 101.2 | 101.5 | 101.8 | 70.9 | 105.5 | 10.7 | 81.9 | |
| 七 | 101.1 | 101.0 | 101.3 | 70.6 | 105.3 | 10.5 | 81.0 | |

日本文学主要论议的译

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 五 | 九 | 七 | 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | 三 | 11 | 10 | 九 | 八 |
| 九〇・五 | 100・三 | 九六・七 | 九三・三 | 九二・二 | 九一・二 | 九〇・四 | 八九・一 | 八八・〇 | 八七・七 | 八七・〇 | 八六・一 | 八五・六 | 八五・〇 |
| 六九・九 | 六六・六 | 六六・四 | 六五・二 | 六五・三 | 六四・二 | 六三・四 | 六三・三 | 六二・九 | 六二・八 | 六二・〇 | 六一・五 | 六一・六 | 六一・九 |
| 五五・五 | 五〇・〇 | 五〇・一 | 四九・六 | 四九・三 | 四八・六 | 四八・九 | 四八・七 | 四八・六 | 四八・六 | 四七・九 | 四七・三 | 四七・一 | 四七・七 |
| 四〇・〇 | 三九・九 | 三九・九 | 三九・七 | 三九・五 | 三九・四 | 三九・三 | 三九・八 | 三九・九 | 三九・八 | 三九・三 | 三九・九 | 三九・九 | 三九・六 |
| 四一・一 | 四〇・六 | 四〇・五 | 四〇・六 | 四〇・七 | 四〇・七 | 四〇・七 | 四〇・八 | 四〇・九 | 四〇・九 | 四〇・五 | 四〇・七 | 四〇・七 | 四〇・五 |
| 四一・七 | 四一・一 | 四一・五 | 四一・一 | 四一・二 | 四一・七 | 四一・六 | 四一・四 | 四一・五 | 四一・四 | 四一・九 | 四一・六 | 四一・四 | 四一・一 |
| 三五・九 | 三五・三 | 三五・一 | 三五・二 | 三五・六 | 三五・三 | 三五・六 | 三五・七 | 三五・〇 | 三五・九 | 三五・四 | 三五・七 | 三五・八 | 三五・六 |

日 本 政 治 經 濟 研 究

| | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 10 | 108.1 | 107.9 | 108.1 | 108.3 | 108.1 | 108.0 | 108.4 |
| 11 | 108.1 | 108.0 | 108.6 | 108.6 | 108.6 | 108.5 | 108.5 |
| 11 | 108.6 | 108.5 | 108.4 | 108.3 | 108.3 | 108.5 | 108.6 |
| 11.1 | 100.4 | 100.3 | 100.0 | 100.3 | 100.3 | 100.5 | 100.1 |
| 11 | 100.5 | 100.3 | 100.5 | 100.5 | 100.5 | 100.5 | 100.3 |
| 11 | 101.8 | 101.3 | 101.5 | 101.5 | 101.5 | 101.5 | 101.1 |
| 11 | 101.6 | 101.5 | 101.5 | 101.5 | 101.5 | 101.5 | 101.5 |
| 11 | 100.4 | 100.4 | 100.4 | 100.4 | 100.4 | 100.4 | 100.4 |
| 11 | 100.4 | 100.4 | 100.4 | 100.4 | 100.4 | 100.4 | 100.4 |
| 11 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

(註)除去季節的變動原料品消費量及鐵路貨物發送量係昭和二十四年的平均一〇〇的

指數其他係以昭和三年平均為一〇〇的指數係概數

按上表原料品的消費，昭和七年以後，除四月外，略有進展，但是鐵路的貨物運輸量並不會增加。輸出方面，昭和七年一月達到最低指數的四七・〇，六月以後略有恢復，到本年六月達六二・五。輸入方面，昭和六年二月減到四七・八，以後略有恢復，到本年五

六月達六〇乃至七〇。但在鐵路運整方面自昭和七年以來，仍然減退，到本年六月僅僅是六二·五，和恐慌前相差有百分之四十左右。同時倉庫的存貨依然很多。這可以看出來，供給者雖然相當的膨脹但是需要者并不增進，恐慌依然難以克服。

(B)物價膨脹後又落

再從物價方面，因為去年尾，再禁令出口的緣故，本年一二兩月略有提高，但是三月以後又復跌落，六七兩月雖似略有回轉，但是仍然不及四月，以後更不必說了。這是可以證明，日本雖然用人工之力以克服恐慌，但是恐慌，截至現在止，仍然沒能克服。物價的詳情有如下表：

第一五三表——本年日本

東京卸賣物價總指數(大正二年一月一〇〇)

| | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 六年 | 十一月 | 十二月 | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 |
| 116.0 | 115.0 | 110.1 | 113.4 | 116.6 | 114.0 | 111.6 | 111.4 | 111.4 | 111.4 |

(備攷) 上表係東京經濟社調查，但據日本銀行的調查則六月仍降七月反騰。其調

查數目為：一月一五九·五，二月一六一·四，三月一五八·五，四月一五四·一

，五月一五〇・三，六月一四六・四，七月一四七・七。

(C) 產業的假興盛

在各種產業方面看，本年上半年，日本全國重要產業十四部門，四十三公司，共得利潤六千二百五十七萬元，比去年下半年增加九百五十九萬元(佔百分之二八・二)，似乎日本經濟漸入于好況之中，但是這利潤增加是再禁金出口後，物價騰貴及工資再減的結果，并不見得是真正的景氣。日本重要產業公司事業成績有如下表：

第一五四表—日本重要產業公司重要成績表(單位千元)

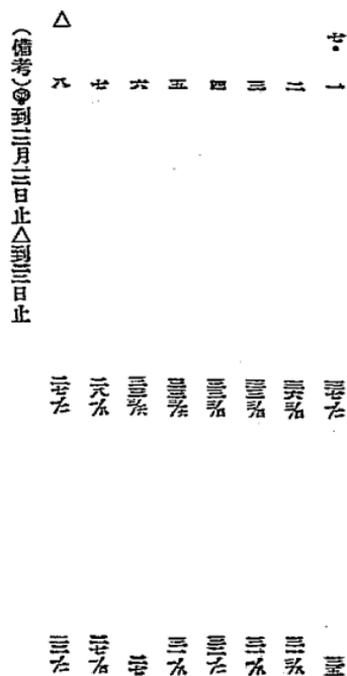
| | 昭和六年下半年 | | 昭和七年上半年 | | 比 |
|------|---------|--------|---------|--------|-------|
| | 總收入 | 總支出 | 總收入 | 總支出 | |
| 總收入 | 四六八・九六 | 四〇五・六五 | 四四〇・三六 | 三三九・九六 | 廿三・九九 |
| 總支出 | 四〇五・六五 | 三三三・六三 | 四二二・六三 | 三六・三六 | 六・三六 |
| 利益 | 三三・九三 | 三三・九三 | 三三・三三 | 一九・五五 | 一九・五五 |
| 股東紅利 | 三三・三三 | 三三・三三 | 三三・三三 | 三三・三三 | 三三・三三 |
| 職員獎金 | 一・六〇 | 一・六〇 | 一・七四 | 一・二二 | 一・二二 |

(D) 空前的匯兌慘案

自去年末，日本實行金解禁以來，日金滙兌即一落千丈。日金對美金的平價，本為四十九金元餘，大正七年歐戰將停的時候，到了五十二金元以上。這一次低落，截到八月二十止，落到二十二金元又二分之一。這當然是由于日美的國爭，國際戰爭空氣，日本國內不安等原因。因此，日本物價騰貴，工資無形低下，社會愈增加不安。日本最近滙兌落下的情形有如下表：

第一五五表——自日本採用金本位以來日米滙兌表（平價100圓=兎·六與金元）

| 年 | 年 | 最高 金元 | 最低 金元 |
|-------|-----|----------|----------|
| 明治三十一 | 大正三 | 兎·三 | 兎·三 |
| 大正四 | —— | 三·〇〇 | 兎·六 |
| 大正廿一 | —— | 三·三 | 兎·三 |
| 大正三十一 | —— | 兎·三 | 三·六 |
| 昭和十一 | —— | 兎·六 | 三·六 |
| 昭和三十 | —— | 兎·六 | 三·六 |
| 昭和三十 | —— | 三·六 | 三·六 |



(F) 失業仍有加無已

恐慌的情況雖然似乎略有好現像，但是，失業的人數仍然有加無已。在本年（昭和七年）一月，失業者有四十八萬五千多人。三月，因為季節關係雖然略有進步，到五月又增加到四十八萬人，和去年同期相比，增加八萬多人。失業率方面，佔所調查七百萬人的百分之六・八六，比去年調查六百九十萬人的百分之五・七七，增加百分之二以上。本年一

月失業率會到百分之六·九四。詳細情形有如下表：

第一五六表—昭和四年五月以前日本失業者比較表(日本社會局調查)(單位千人)

| | 一 月 | | 三 月 | | 五 月 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 調查人口 | 七,001 | 六,六九六 | 六,九三六 | 六,八五一 | 七,〇四三 | 六,三六六 |
| 失業者 | 四六六 | 三七一 | 四四四 | 三九七 | 四八三 | 四〇一 |
| 失業率(%) | 六·六 | 五·一 | 六·四 | 五·七 | 六·九 | 五·七 |

第三節 日本的農業恐慌

(一) 農業生產力的委縮

—耕地數目減少—

一九二九年以來的世界經濟恐慌特點，是除了業恐慌，金融恐慌之外，還有農業恐慌。農業恐慌是這次恐慌的特色。日本自也如此。日本的農業恐慌特別嚴重，因為日本以生絲輸出佔第一位，農業在經濟上仍然佔有位置。

日本農業恐慌情形，可于農業生產力的委縮一點見之。日本的耕地，在昭和三年共有

六百零八萬町步。昭和四年落到五百八十九萬町步，昭和五年是五百九十一萬町步，比四年度雖然增加一萬八千町步，但比三年度仍然減少十七萬町步。近三年度日本全國各地的耕地，除北海道外，一律減少。這是因為恐慌加深，利潤低下，佃戶罷工，以致田地荒蕪。北海道因為地方當局通融開墾資金，所以特別興盛。在水田與旱田之中，水田尚有增而旱田普遍的減少。最近三年日本耕地的變化有如下表：

第一五七表—近三年度日本耕地面積表(單位千町步)

| | 水 田 | | 旱 田 | |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 北海道 | 其他府縣 | 北海道 | 其他府縣 |
| 昭和三年 | 6,925,575 | 5,260,340 | 1,976,135 | 2,525,130 |
| 昭和四年 | 6,958,866 | 5,056,633 | 1,509,001 | 2,049,632 |
| 昭和五年 | 5,557,266 | 5,036,510 | 1,011,241 | 2,025,270 |

(二)農產物大跌價

—米價均不佳—

一方面農業生產力的萎縮，另一方面農產物大跌價，因而恐慌的情形一天嚴重似一天

。日本的主要農產品，一個是米，一個是繭。米的價，自昭和三年以來就年年跌落。昭和三年一月日本米價各石為三十一元七，昭和四年一月便落到二十八元二，昭和五年又落到二十六元九，昭和六年六月直落到十八元一。如下表。

第一五八表——近四年來日本米價跌落表(單位每石)

| | (元) |
|--------|-------|
| 昭和三年一月 | 三十一元七 |
| 同 年六月 | 三十一元 |
| 昭和四年一月 | 二十八元二 |
| 同 年六月 | 二十六元九 |
| 昭和五年一月 | 二十元 |
| 同 年二月 | 十九元七 |
| 昭和六年六月 | 十八元一 |

至於繭價，因為不能對美輸出生絲的緣故，跌落的更厲害。據去年昭和(和六年)一月十六日東京日日新聞所載，最近三年日本的繭價已經跌到大正元年前數目。昭和五年的春繭每貫價三元七和大正元年的四元二相比，跌落百分之八十九，若和大正八年的十一元

九相比，跌落到三分之一以上。春秋兩季，昭和五年每貨二元，和大正元年的三元八相比，跌落到百分之五十一，若和大正八年的一元二相比，跌落到五分之一以下，如下表：

第一五九表—最近二十年來日本國價比較表(單位貫)

| | 春 季 | | 夏 秋 兩 季 | |
|------|-----|-------|---------|-------|
| | 圓 | % | 圓 | % |
| 大正元年 | 四・三 | 100・0 | 三・六 | 100・0 |
| 大正八年 | 二・三 | | 二・三 | 六二・八 |
| 昭和四年 | 七・七 | | 一五・八 | 一六・八 |
| 昭和五年 | 三・三 | | 六・一 | 一六・七 |

(三) 農家收入減少

—三年間減近一半—

農業生產力既萎縮，農產物又跌價，農家的收入自然大為減少。昭和六年度日本三大農產物，米，麥，繭的總價額是十四萬萬四千萬元，和昭和五年度的十六萬二千萬元相比，減少一萬萬八千萬元(百分之十一以上)，若和昭和四年度的二十五萬萬一千萬元相比，減少十萬萬六千萬元(百分之四十二以上)。昭和五年和昭和四年相比，也有八萬萬八千

萬元(百分之三十五以上)的減少。農家收入的減少可想見矣！最近六年日本農產物總價額如下表：

第一六〇表——最近六年日本農產物總價額表(單位千元)

| 昭和元年度 | 米 | | | 麥 | | | 蘭 | | | 計 | | |
|----------|-------------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|----------|--|
| | 對前年增減 | 對前年增 | 對前年增 | 對前年增減 | 對前年增 | 對前年增 | 對前年增減 | 對前年增 | 對前年增 | 對前年增減 | 對前年增 | |
| 一、六六、三三三 | 三〇一、六三三 | 六、二七九、二九一 | (一)三、五、七五 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | |
| 二年度 | 一、六四、三三三 | 三、四、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | |
| 三年度 | 一、六三、〇〇〇 | 三、三、〇〇〇 | 三、三、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | |
| 四年度 | 一、六四、三三三 | 三、三、〇〇〇 | 三、三、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | |
| 五年度 | 一、二、七、九、〇〇〇 | 三、〇〇、〇〇〇 | 三、〇〇、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | |
| 六年度 | 一、〇、三、三、〇〇〇 | 二、五、〇、〇〇〇 | 二、五、〇、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | (一)九、〇〇〇 | 一、一、九、〇〇〇 | 二、七九、六六六 | |

(四)農民負擔加重及其貧困

——負債七七萬萬元——

另一方面，農民的負擔一年重似一年。據兵庫與農會的調查，在昭和四年，農業地主要用他總收的一半(百分之四十四以上)，自耕農及佃戶要用四分之一。(百分之二十二至

(二十三以上) 交納租稅公課。到了昭和五年，農家收入大減而租稅公課並不能減少，結果地主要用百分之八十三以上，自耕農及佃戶要用百分之三十六及至五十六以上交付租稅，公課，於是日本農民乃大困。其詳情有如下表

第一六一表—日本農民收入及負擔表

| | 收 入 | | 租稅、公課的百分比 | |
|------------|-------|-------|-----------|---------|
| | 一九二九年 | 一九三〇年 | 一九二九年 % | 一九三〇年 % |
| 地主(十町步) | 三・一〇〇 | 一・七〇〇 | 四・三 | 八・五 |
| 自耕農(米田一町步) | 三・三 | 四・七 | 三・六 | 三・五 |
| 自耕農(蠶田一町步) | 四・六 | 三・三 | 三・九 | 五・九 |
| 佃戶(蠶田一町步) | 三・七 | 一・五 | 三・五 | 三・一 |

至於租稅公課的內容則百分之八十五以上是租稅，百分之十四以上是農會等費。下表是日本農林省在昭和四年調查四十二個農村的平均數：

第一六一表—日本農民負擔內容分析表

| | | | | |
|---------|----------------------|--------|-------|-------|
| 總額 100% | 租 | 稅 5.5% | 國稅 | 16.7% |
| | | 府縣稅 | 15.0% | |
| | 村稅 | | 4.3% | |
| | 其他 (農會費, 水利組合費.....) | 1.5% | | |

由上表很明白的可以看出來，日本農民所負擔的租稅以府縣及村的地方稅佔一大部份（約百分之七十）而國稅僅佔百分之十六以上。日本地方稅的增加是使農民貧困的原因。大正十一年以後日本的地方稅這國稅有多們快法，兩者的數目幾乎可以相等了。茲將日本國稅及地方稅的變化列表如下：

第一六三表 日本國稅及地方稅變化表

| 年 | 國稅 | | 地方稅 | |
|-------|------------------|-------|------------------|-------|
| | 實數 | 每一戶負擔 | 實數 | 每一戶負擔 |
| 明治三九年 | 2,633,000,000 千圓 | 3.5 圓 | 1,072,000,000 千圓 | 1.4 圓 |
| 明治四四年 | 3,000,000,000 千圓 | 3.8 圓 | 1,212,000,000 千圓 | 1.6 圓 |
| 大正五年 | 3,876,000,000 千圓 | 5.1 圓 | 1,576,000,000 千圓 | 2.1 圓 |

| | | | | |
|-------|-------|------|-------|------|
| 大正十一年 | 八六・四四 | 七六・六 | 七四・三三 | 三三・三 |
| 昭和元年 | 六六・六 | 三九 | 六四・六 | 三三・三 |
| 昭和五年 | 六三・四一 | 三三 | 六六・六 | 三三 |

因爲農民負擔如此之重所以農民一天一天的貧困而農家負債一天一天的增多。據長野縣的調查，農家一戶平均負債一千五百元。昭和七年六月山梨縣農會調查四千四百二十六戶農家每戶平均負債一千二百元。日本內地共有農家五百六十萬戶，由此可以推算出來日本農民負債總額在六十七萬萬乃至八十四萬萬元之間。我們可以折中的說，日本內地農民負債七十萬萬元。日本農村的貧困於此可見矣。

(五) 佃戶風潮的激劇化

——半年間爭議千餘起——

日本農民既貧困到這步田地於是佃戶與地主間的爭議常起，而一天一天的激劇化。據本年七月十日的報告，本年度一月到六月的佃戶風潮有一千六百二十一件，比去年同期增加七十八件。參加人數地主是七千五百六十八人，佃戶二萬六千九百六十九人，比前年的地主一千三百，佃戶八千八百人激增多了。茲將最近兩年一月到六月的日本佃戶風潮概況列

(一) 因恐慌而歲入激減

——所謂赤字問題——

日本因為經濟恐慌的緣故，稅收不旺，以致國家收入年年減少。由有剩餘到無剩餘，由無剩餘一到不足（所謂赤字問題。）直到最近的昭和七年度仍然在減少。按昭和七年度預算，歲入經常門僅有十二萬萬八千二百萬元和昭和五年度決算相比，減少一萬萬六千萬元（百分之十一），和昭和六年度の十三萬萬九千七百萬元相比，仍然減少一萬萬一千五百萬元（百分之八・二）。臨時部則減少的更厲害。除去公債以外，昭和七年度預算僅收入四萬五千萬元，與昭和六年度預算的七千萬元相比，減少三分之二，若與昭和五年度決算一萬萬三千七百萬元相比，減少數目真是太可算驚人了。除去公債以外，昭和七年度的總收入不過十三萬萬二千七百萬元。其詳細數目及增減情形有如下表：

第一六五表——昭和七年度日本歲入預算表（單位千圓）

| 部 | 六年度預算 | 七年度預算 | 對六年度比較 | 同百分比 |
|-----|--------|--------|----------|--------|
| 經常部 | 六六・二六六 | 四〇・六〇六 | (一)七〇・六一 | (一)九〇% |
| 租稅 | 三三・三三三 | 三三・一四一 | (一)〇〇・三三 | (一)九五% |
| 所得稅 | | | | |

本日資本主義經濟的沒落

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|----------|----------|---------|---------|---------|----------|---------|----------|-----------|-----------|
| 地租 | 營業收益稅 | 資本利息稅 | 相續稅 | 兌換銀行券發行稅 | 酒稅 | 砂糖消費稅 | 織物消費稅 | 交易所稅 | 關稅 | 其他稅 | 印花稅收入 | 官業及官有財產收入 | 郵政電報及電話收入 |
| 百・六・九 | 四・六・七 | 三・三・三 | 五・〇・三 | 八・〇・三 | 三〇・六・七 | 六・六・七 | 三・一・七 | 八・四・五 | 三三・三・六 | 一一・一・六 | 三三・〇・〇 | 五〇・一・七 | 三三・〇・六 |
| 百・六・九 | 三・三・三 | 四・六・七 | 三六・〇・三 | 一四・一・六 | 一六・六・六 | 五・一・七 | 四〇・三・三 | 一一・五・三 | 三六・六・四 | 九・一・三 | 四六・六・〇 | 三三・〇・六 | |
| (一) 六・九 | (一) 三・三 | (一) 六・七 | (一) 一・〇 | (一) 五・三 | (一) 三〇・七 | (一) 四・七 | (一) 一・七 | (一) 三・一 | (一) 三三・四 | (一) 一・六 | (一) 三三・〇 | (一) 三三・〇 | |
| (一) 六・九 | (一) 三・三 | (一) 六・七 | (一) 三・六 | (一) 三・六 | (一) 三・三 | (一) 一・一 | (一) 三・八 | (一) 三・〇 | (一) 三六・四 | (一) 一・〇 | (一) 四六・六 | (一) 四六・六 | |

| | | 本日 | | 本月 | | 合計 | |
|-----------|----------|----------|--------------|--------------|--|----|--|
| 森林收入 | 1,500.00 | 3,000.00 | (1) 1,500.00 | (1) 3,000.00 | | | |
| 專賣局益金 | 1,000.00 | 1,000.00 | (1) 1,000.00 | (1) 1,000.00 | | | |
| 其他 | 1,000.00 | 1,000.00 | (1) 1,000.00 | (1) 1,000.00 | | | |
| 雜收 | 1,000.00 | 1,000.00 | (1) 1,000.00 | (1) 1,000.00 | | | |
| 特別會計挪入 | 1,000.00 | 1,000.00 | (1) 1,000.00 | (1) 1,000.00 | | | |
| 合計 | 1,500.00 | 1,500.00 | (1) 1,500.00 | (1) 1,500.00 | | | |
| 臨時部 | 5,000.00 | 5,000.00 | (1) 5,000.00 | (1) 5,000.00 | | | |
| 普通歲入 | 3,000.00 | 3,000.00 | (1) 3,000.00 | (1) 3,000.00 | | | |
| 官有物公買 | 3,000.00 | 3,000.00 | (1) 3,000.00 | (1) 3,000.00 | | | |
| 雜收 | 1,000.00 | 1,000.00 | (1) 1,000.00 | (1) 1,000.00 | | | |
| 公共團體工事納付金 | 4,000.00 | 4,000.00 | (1) 4,000.00 | (1) 4,000.00 | | | |
| 公共團體工事分擔金 | 3,000.00 | 3,000.00 | (1) 3,000.00 | (1) 3,000.00 | | | |
| 特別會計挪入 | 7,000.00 | 7,000.00 | (1) 7,000.00 | (1) 7,000.00 | | | |
| 其他 | 1,000.00 | 1,000.00 | (1) 1,000.00 | (1) 1,000.00 | | | |

| | | | |
|-----|---------|---------|---------|
| 公債 | 二五・五兆 | 四三・三三 | （一）四三・七 |
| 計 | 九六・六三 | 四六・四六 | （一）四三・九 |
| 合 計 | 一・四六・六三 | 一・七〇・四六 | （一）三三・九 |

由上表可以看出來，僅僅是兌換銀行券發行稅增加五百五十萬元，交易所稅增加三百三十萬元，關稅增加六百七十萬元及雜收入加一千四百七十萬元。此外一律都是減少。兌換銀行券發行稅的增加是因為對日本銀行保證準備發行擴張而創設納付金制度的緣故。關稅的增加是因為從本年六月十六日起實行從量關稅，增加百分之三十五保證關稅的緣故。

（二）因出兵而支出大增

——軍事費佔三分之一以上——

日本帝國主義自去年九月出兵佔領東三省，今年一月又出兵上海，兩次軍事費，截至昭和七年五月止，一般會計為一萬萬四千六百九十六萬五千元，特別會計一百十八萬八千元，會計一萬萬四千八百十五萬三千元之多。在這巨大的侵掠費之中陸軍省用去了九千六十二萬元，海軍省用去了四千六十萬元，外務省用去了六百六十萬元（所謂外交費），關東廳和朝鮮總督府用去了一百十萬元（警察費）。其詳細賬目有如下表：

第一六六表 東北及上海事變日本軍費表(單位千圓)

| | 昭和六年 | 昭和七年 | 合 計 |
|-------|------|-------|-------|
| 一般會計 | | | |
| 外務省 | 五・零 | 一・四〇 | 六・四〇 |
| 陸軍省 | 五・零 | 三〇・九〇 | 三五・九〇 |
| 海軍省 | 三・零 | 三・〇 | 六・〇 |
| 特別會計 | 五・零 | 五・五 | 一〇・五 |
| 朝鮮總督府 | 一 | 一 | 二 |
| 關東廳 | 一 | 一 | 二 |
| 小計 | 一 | 一 | 二 |
| 總計 | 一 | 一 | 二 |

(備考)截至昭和七年度五月末止

因此，自九一八事件發生以後，日本歲出上的軍事費特別增加。昭和六年度軍事費是四萬萬六百萬圓，若加上東北出兵費八千七百萬元，共達四萬萬九千三百萬元之多，但是昭和七年度軍事費總計是六萬二千萬元，比昭和六年度又增加了一萬萬二千八百萬元(百

分之二十六），而外務，大藏兩省爲東北事件的支出（間接軍事費）合計二千七百萬元尚不在內。昭和七年度的軍事費佔總歲出十七萬萬八千萬元之百分之三十五，按照用途分別日本昭和七年度的歲出如下表：

第一六七表——按照用途區分日本最近三年歲出表（單位百萬元）

| | 五年度 | 六年度 | 七年度 |
|-------|---------|---------|---------|
| 皇室費 | 四·五 | 四·五 | 四·五 |
| 國債費 | 二二·二 | 三九·四 | 三五·七 |
| 年金及恩給 | 一四六·九 | 一四九·〇 | 一六〇·六 |
| 行政費 | 六〇五·四 | 五三三·九 | 五五二·六 |
| 補助費 | 二六·二 | 九三·一 | 一一〇·四 |
| 軍事費 | 四三三·四 | 四〇五·七 | 三三一·一 |
| 國庫預備金 | 一四·〇 | 一四·〇 | 三三·〇 |
| 合計 | 一·六二〇·六 | 一·四九七·九 | 一·六七〇·四 |

因爲軍事費膨脹，所以其他各部份的預算收入全盤減少。除了內務省，因爲實行政友

會產業五年計劃追加三千二百萬元的產業振興土木事業費略有增加而外，此外一律減少。就是農林省，為實行產業五年計劃中有小麥增殖獎勵費等四百八十萬元，但是總額和昭和六年度相比，仍然減少一百五十餘萬元。增加的僅僅是與軍事有直接或間接關係的陸軍，海軍，外務，大藏四省而已。日本昭和七年度歲出預算各省分配詳情及昭和六年度的比較增減數目有如下表：

第一六八表—昭和七年度日本實行預算省別歲出額表(單位千圓)

| 日 本 政 治 經 濟 研 究 | 七 度 實 行 預 算 | | 六 年 度 預 算 | | 比 較 增 減 |
|--------------------------------------|-------------|---------|-----------|---------|----------|
| | 經常部 | 臨時部 | 計 | | |
| 皇室費 | 4,300 | 1 | 4,300 | 4,300 | 1 |
| 外務省 | 15,086 | 10,663 | 25,749 | 14,654 | (11,095) |
| 內東北事件費 | 1 | 6,226 | 6,226 | 1 | (6,225) |
| 內務省 | 44,134 | 111,860 | 155,994 | 141,313 | (14,681) |
| 大藏省 | 33,381 | 33,381 | 66,762 | 33,381 | (33,381) |
| 內國債費 | 37,756 | 1 | 37,756 | 37,756 | (1) |

日本資本主義經濟的發展

| | | | | | | |
|------------|---------|---------|---------|---|---------|--------------|
| 諸付還金及其他 | 1,000 | — | 1,000 | — | 1,000 | (十) 10,000 |
| 國庫預備金 | 100,000 | — | 100,000 | — | 100,000 | — |
| 東北事件第一預備金 | — | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (十一) 10,000 |
| 陸軍省 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (十二) 10,000 |
| 內東北事件費 | — | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (十三) 10,000 |
| 海軍省 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (十四) 10,000 |
| 內東北事件費 | — | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (十五) 10,000 |
| 司法部 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (十六) 10,000 |
| 文部省 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (十七) 10,000 |
| 內小學教員俸給分擔金 | — | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (十八) 10,000 |
| 農林省 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (十九) 10,000 |
| 商工省 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (二十) 10,000 |
| 逓信省 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (二十一) 10,000 |
| 內年金及恩給 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | — | 100,000 | (二十二) 10,000 |

拓務省

二〇四

二〇三

三〇三

三六九

(一)〇三

一〇三〇・六〇

五〇三六

一〇六〇・六〇

一〇九七・六〇(一三)〇三〇

(三)大募公債以濟燃眉

——本年度將近九萬萬元——

由以上歲出入情形看來，顯然的是出入不敷。在昭和六年度歲入十四萬萬九千七百萬元，歲出十四萬萬七千八百萬元，已經有一百萬元的不足，昭和七年度歲出爲十七萬萬八千萬元，比較增加二萬萬八千二百萬元(百分之十九)，但是歲入僅有十三萬萬二千七百萬元，不足有四萬萬五千萬元之多。即或除去東北事件費，昭和七年度的歲出仍然有十五萬萬三千五百萬元，仍然不足二萬萬四百萬元。

於是便不能不募公債以濟燃眉。於是民政黨苦苦好幾年的不募債主義遂完全打破。昭和七年預定發行的公債有多少呢？在豫算之中已經有四萬萬五千三百萬元和昭和六年度的一千九百萬元相比，真有天淵之別！這公債中以東北事件公債爲最多，有二萬萬四千九百萬元，補填歲入不足的公債次之，也有一萬萬六千一百萬元。此外還有不在正式預算中的豫定公債一萬萬六千一百萬元。在正式預算中的不和正式預算中的兩種公債合計共有六萬

萬一千五百萬元之多。詳細數目有如下表：

第一六九表—昭和七年度日本預定發行公債額表(單位千元)

| | |
|-----------------|--------|
| (A) 在實行預算中的公債 | 四三〇・三三 |
| 電話事業公債 | 一四・五六 |
| 電信事業公債 | 九三 |
| 震災前後公債 | 廿・五〇 |
| 道路公債 | 一〇・四五 |
| 東北事件公債 | 二〇〇・〇〇 |
| 歲入補填公債 | 一〇・五六 |
| (B) 其他發行預定公債 | 一六・七〇 |
| (I) 關於一般會計的交付公債 | 七五・六三 |
| 穀類關係公債 | 五五・五三 |
| (i) 損失補償之部 | 三三・九六 |
| (ii) 善後處理損失補償之部 | 二一・五七 |

| | |
|-------------------|--------|
| (iii) 生絲買收之部 | 六,400 |
| (vi) 退職特別賜金公債 | 一,270 |
| (2) 屬于特別會計者 | 22,100 |
| (i) 事業公債 | 3,200 |
| 朝鮮業公債 | 1,200 |
| 台灣事業公債 | 11,000 |
| 關東洲事業公債 | 2,000 |
| 樺太事業公債 | 1,000 |
| 帝國鐵道公債 | 10,000 |
| (ii) 滿洲事件公債 | 2,300 |
| 朝鮮之部 | 1,000 |
| 關東洲之部 | 11,000 |
| (iii) 屬於特別會計的交付公債 | 5,200 |
| 軌道補償公債 | 3 |

以上總計

五・三〇三

(備考)這數字乃是第六十二議會通過之部

日本法西斯最近政變

以上是第六十二議會(本年六月)所通過的數目，到了第六十三議會(本年八月)又通過所謂時局救預算一萬七千五百萬元，自然也要發行公債，前後合計，昭和七年度の公債到七萬萬九千萬元。如若再加上昭和六年度計劃而未發行的公債及借換差增額，公債總數恐怕要到九萬萬元。將近十萬萬元的新公債！日本政府借債的本領和胆量可以算是真正的不小！但是，以後又如何呢？何以善其後呢？日本軍閥官僚要自送彼等入於貧困死亡之途而後已！而後已！

第九章 日本法西斯運動及最近政變

第一節 日本資本主義政治的沒落過程

(一)日本法西斯之一般的輪廓

——資本主義的最後冒險——

因為經濟恐慌深刻化的緣故，動搖了資本主義經濟，同時動搖了資本主義的政治。資本主義為維持他的運命，不能不作最後的掙扎，因而廢棄了他的歷史外衣——議會民主政治而走上冒險的途徑，便是法西斯主義，法西斯主義是資本主義最後的嗎啡針。法西斯是資產階級的公開的專政形式。

西方如此，日本也是如此。戰後資本主義沒落了，同時附屬于日本資本主義的議會民主政治（所謂「立憲政治」，所謂「政黨政治」）也沒落了。於是日本的既成政黨及無產政黨均分裂，一部份遂法西斯化。

同時，日本還有他的特點，就是軍閥。這軍閥由藩閥演變而來，在歷史上本來就同議會中的各政黨衝突，在九一八事件以後，因為軍費支出過大，財閥多不肯出錢，因而主張溫和，和軍閥遂成爲正面衝突。這衝突的結果演成軍閥和財閥的短兵相接戰，軍閥遂從事於政治運動，而法西斯政黨遂如雨後春筍一般，怒放而出。

所以日本的法西斯表面上雖然表榜反資本主義，其實是反財閥，反資產階級中的金融資本家。事實上，法西斯的目的在維持資本主義，在維持病入垂危的資本主義。法西斯的

狂暴，法西斯的恐怖，都可以表示出來資本主義臨死的最後掙扎，最後憤怒，最後搏鬥。由此看來，日年的法西斯是由軍閥（所謂少壯海陸軍人），及分裂的既成政黨和無產政黨三部份而成。

東北事變是日本法西斯運動主要原因之一，也是日本最近一年來政治不安的主要原因之一。同時由金融資本家獨佔而引起中間社會層的貧困，與不安也是發生日本法西斯的主變原因。日本勞農大眾黨在本年三月二十四日開中央執委員會，討論法西斯主義，分析法西斯一般的規定，概由於

爲：
（1）獨佔支配的強化，以及因金融的危機與恐慌而生中間社會層的不安和窮乏。
（2）資產階級政治支配的動搖，與中間社會層懷疑和不满。
（3）東北事變的危機。等而臨釀。其可被視爲日本法西斯主義共通要素的大約得列舉

- （1）以資本主義爲國民經濟的體制；
- （2）無產階級的對抗；
- （3）國民主義；

(4) 國家社會主義；

(5) 軍人崇拜主義的贊成；

(6) 超階級政黨的樹立；

(7) 反議會主義。

這或者是日本法西斯一般的輪廓歟？

(二) 既成政黨的分裂

——兩大政黨破碎支離——

(A) 安達脫離民政黨

在九一八的事件發生的時候，握日本政權的是民政黨。民政黨以「幣原外交」出名而「幣原外交」根本與軍閥的強硬外交衝突，民政黨以井上的緊縮政策出名，而緊縮政策根本與軍閥的軍費擴張政策衝突，所以在九一八事變，日本軍閥氣燄高漲以後，民政黨首先崩潰。

民政黨崩潰於內部的分裂。在九一八事變以後，民政黨內的安達謙藏（內務大臣，黨の元老）主張組織協力內閣。去年（昭和六年）十一月二十一日，安達謙藏與富田幸次郎，

類母桂吉，永井柳太郎，中野正剛，山道襄一發表協力內閣聲明書。這便是法西斯運動的興起。安達等人的這種運動是以協力內閣機緣，而導上資產階級獨裁的一種試驗。我們看看進行這運動的中野正剛所說的話，便可以明白：

『吾輩對於協力內閣的主張，無非爲的是一舉把從來因爲自由主義 (Liberals) 而起的浪漫政策，繼續發生傳統主義的緊縮政策，以及不買不賣等，加以結算，而整理於國家統制經濟以及計劃經濟的制御以下，好促成外務和軍務的協力，更進而統制其已經氣沮於世界變局的資本，以努力合作於國民福利的增進。』

這種主張名爲國家社會主義。這個主義，大概是指示現階段中的資本合理化，以及將來趨向於資產階級獨裁的途徑。這個主義也是法西斯主義，不過不主張假手暴力形式，而計劃資本主義合理化的一種法西斯運動形態。

安達并且和政友會幹事長久原房之助結合，謀兩黨組織協力內閣。因此，民政黨的若槻內閣便於去年十二月崩潰，政友會的犬養毅組閣，但犬養極力反對協力內閣，安達沒能如願，結果，安達及民政黨中的協力派，如富田，中野等先後脫黨，而民政黨遂分裂。

但是，安達謀藏和民政黨，實在有不可分離的因緣，而民政黨內的安達系，在安達脫

黨後，仍然擁有不可動搖的勢力。所以安達脫黨，民政黨內的安達系，一方熱望其復黨，而安達對於民政，也有惡戀不忍捨去之意。不過民政黨內多數幹部，對於安達復黨，均絕對反對；若槻等之與安達，似已達於不共戴天之勢，所以無論民政中的安達系，如何以安達復黨相迫，而幹部均置諸不理。結果民政黨內的安達系與幹部之間遂反目，幹部抑壓復黨運動，山道襄一，古屋慶隆，小池仁郎等遂脫離民政，與先鋒脫黨之中野正剛，風見章等組織國策研究俱樂部號召黨體。到最近，安達系的脫離民政黨的已達二十二人之多。後來三木武吉等因為爭東京市會勢力，又和民政黨幹部衝突三木又率其黨徒脫離民政黨。民政黨人數遂更減少，而勢力日漸衰微。本來，民政黨自濱口雄幸死後已失其領袖。名義上固然有聰明的若槻禮次郎統率，但是若槻之為人，有才而無魄力，僅能苟延殘喘。民政黨裏也有一部份為國恢復黨勢主張擁立朝鮮總督宇垣一成作為黨首，但是沒能實現，民政黨遂日入於沒落窮途之中。

安達脫黨後，於本年六月二十七日發表聲明組織國策俱樂部。八月八日又開超黨準備會，定名為國民同盟，現有議員三十人。

(B) 政友會亂七八糟

政友會裏的森恪一派本來和軍閥一鼻孔出氣，很有法西斯之可能，類乎民政黨裏的安達。不過，這種分裂尙沒能實現。分裂雖然沒能實現，但是政友會內部分設一天一天的加甚，尤其是在大差被刺之後。現在的政友會表面上固然有鈴木喜三郎作總裁，統制全黨，但是鈴木因就任日淺，威令不行，而內部潛在暗流，也頗複雜。一黨之中竟有鈴木系，床次系，久原系，舊政友系，中橋系等，分門別戶，對立抗爭。政友會的分裂，僅屬時間問題而已。

在各派之中勢較大的自然仍然應當推鈴木一系。不過鈴木系中，歷任要職的森恪，自五月十五日大差被殺，已和鳩山一郎發生意見。森恪因有法西斯傾向，和軍部接近，而鳩山則堅執政黨主義，與軍部對立，其結果森恪遂脫離鈴木系，自成一派，縱橫活躍於日本政局之中。鈴木既失掉森恪，便對舊政友系的望月圭介，岡崎邦輔等，竭力周旋。借使鈴木系和舊政友系携手，但是久原系，床次系，鈴木系之間，惡感尙未釋然，故政友會各派之融和，或永不可能亦未可知。以後政友會是融和呢？還是分裂呢？至於分裂以後，仍堅守政黨政治戰線呢？或是法西斯呢？這就不是局外人所容易知道的了。不過，森恪一派很容易和安達採取同一步驟，化而爲法西斯。

日本資本主義經濟沒落了。日本資本主義政治也自然同歸於沒落，其勢使之然也。

(三)無產政黨陣容破壞

——改良派愈右傾——

(A)社會民衆黨分裂

日本現在

日本現在的無產政黨本就是資本主義的改良派政黨，而右傾的社會民衆黨爲尤甚，所以自法西斯運動發生以來，首先動搖。在社會民衆黨主張法西斯的是書記長赤松克磨，但黨首安部磯雄等仍主張固守社會民主主義，兩派遂分裂。一方面是屬於國家社會主義的赤松克磨，島中雄三，山元龜次郎，管舜英，小池四郎，陶山篤太郎，馬島儼諸氏，另一方面是屬於社會民主主義的安部磯雄，片山哲，龜井貫一郎，坂岡駒吉，西尾末廣等。到了本年四月七日社會民衆黨一開中央執行委員會，兩派對立，漸達表面化。在本年四月七日的中央執行委員會中，赤松，島中提出兩案同時反對的片山也提出一案。赤松案主張：『根據一日的新運動方針書，即刻解散社會民衆黨，樹立新黨。』島中案主張：『解散一切無產政黨，樹立國家社會主義的大政黨。』片山案主張：『根據一日的戰線統一決議，促進社會民衆黨及勞農大眾黨的合同。』前兩案屬於同一主義，和第三的社會民主主義的片

山案相對立。討論取決，延到八日，結果，赤松案合流於島中案，勉強以多數通過執行委員會，但是通過的案，尚須附議於四月十五日的中央委員會。到了八日中央委員會會議後，島中氏突然提出脫黨書，表明新黨樹立。四月十五日赤松等也脫黨而社會民眾黨遂分裂。

(B) 勞農大眾黨亦波及

法西斯的怒潮同樣也波及勞動大眾黨。阪本孝三郎，近藤榮藏，高山久藏首先參加法西斯運動。以後神田兵三，半谷欲造兩氏，也發表脫黨理由書而脫離勞農大眾黨，轉向法西斯主義進行。他們的脫黨理由書以爲：無產黨產的窮途日暮，掩護於惟斤斤於資產階級的收買與無產黨日常鬥爭的不定，遂致黨成雜狀之黨，缺少指導精神。此外山名義鶴，自去年秋季已經顯然的法西斯主義化，並且運動全國勞動組合同盟也法西斯化。本年三月十一日全國勞動組合同盟的幹部遂向中央執行委員會提出法西斯方向轉換意見書。三月二十四日中央執行委員會否決法西斯的新路線。五月三日全國勞動組合同盟人員遂脫黨。而勞動大眾黨也分裂了。

(四) 無產政黨的會同

——社會大眾黨的出現——

日本兩大無產政黨既然都破碎，於是便不能不合同起來了。社會民衆黨和勞農大眾黨於本年七月二十四日在東京芝協調會館舉行兩黨合併正式成立大會，兩黨出席代表三百八十六名，決議組成統一的無產黨，定名為社會大眾黨。新黨的立場反對資本主義和極端的共產主義。決定綱領後選舉職員如下：

中央執行委員長

安部磯雄

書記長

藤生久

主任會計

三輪壽壯

中央執行委員

田所輝明

外百六名

全國委員

百九十八名

顧問

高野岩三郎

松谷與二郎

杉山元次郎

至於綱領政策等內容也很簡單。

(綱領)

- 一，我等爲勞動者，農民，及一般勤勞大眾的生活權擁護而戰。
- 二，我黨以打倒資本主義及無產階級解放爲目的。

(建設大綱)

- 一，重要產業及金融機關應歸國有，貿易由國家管理，生產由勞動者管理，確保生產者的生活，確立勞動制度及社會保險制度。
- 二，土地國有，建設確保耕作權的土地制度，農業經營的合作化，農業生產應機

山崎今朝彌

濱田國太郎

鈴木文治

吉野作造

馬場恒吾

今井嘉幸

械化，重要農產品應由國家管理。

三，勞動者農民之教育費由公家負擔，實行勞農兵制度，住宅及醫療機關歸公營。
(政策)

包含一般政策，勞動政策，農村政策，其內容尚未發表。

(五)革新黨解散

——安達派的生力軍——

自大憲毅入政友會以後革新俱樂部舊份子所組織的革新黨，苦守貞操六年之久，到最近也為法西斯所動搖了。本年七月二十五日革新黨開解黨全國大會於日比谷松本樓，關直彥，清瀧一郎，田川大吉郎，湯淺凡平，佐佐木照山等各地代表共一百五十四名出席。決議解黨。解黨目的即為參加安達的法西斯活動。我們看一看他們的解黨決議便知分曉：

立黨之目的本為實行政界事業的革新，現為結合黨外勢力，以下列三大方針為基礎，另樹立有力的新黨，故將革新黨解散：

一，黨體的打破；

二，自主的外交；

三，經濟的打開。

第二節 法西斯政黨及團體

(一) 大日本生產黨

——現存最早的法西斯黨——

(A) 先行的日本國民黨等

日本 法西斯 運動 及 最近 政黨

日本最早組織的法西斯政黨要算日本國民黨，成立於昭和四年五月，野口喜代治為總理，八幡博堂及鈴木善一為幹事長，昭和四年十一月又諸頭山滿，內田良平為顧問，並舉寺田稻次郎為執行委員長，八幡博堂為書記長，鈴木善一為書記次長，西田稅為統制委員長，津田光造，長野郎為中央常任委員，預備組織全國的日本國民黨。本年總選舉中也曾提出八幡氏在信州為候選人。總選舉後寺田和八幡意見衝突，結果寺田氏脫黨，黨勢頹落。後來內田良平組織大日本生產黨，日本國民黨遂解放，加入大日本生產黨。

此外，還有津久井龍雄所創立的急進愛國黨，後來也合於大日本生產黨。

這兩個法西斯政黨可以說是大日本生產黨的先行政黨。

(B) 歷史及內容一覽

在九一八事變，日本帝國主義武力侵入東北後的兩個月，昭和六年十一月二十日，因爲日本軍人團體黑龍會大阪支部長吉田益三提唱，由內田良平爲主動，以頭山滿爲招牌，在大阪市的島公會創立大日本生產黨——日本第一個有勢力的法西斯政黨。其內容情形如下

(i) 參加團體——第一次參加的團體爲黑龍會，明德會，回天時報社，日本國民黨，大日本青年黨，本地日本聯盟，大阪同仁會，大阪北濱自治會，大阪印刷職工組合經親會，大阪市電自轉車親友會，日本光風會，洛北青年同盟，公德會，京都市電自動車組合，大神道實行團，神州護國黨，三木組，興良會等。昭和七年愛國黨進黨，橫濱自治革新黨也加入。

開會當時有代表一千人，據說黨員有十萬。

昭和七年二月該黨又組織大日本青年同盟以爲外圍。

(ii) 幹部人員——大日本生產黨在第一次大會選舉幹部人員如下：

顧問爲頭山滿

總裁爲內田良平

幹部爲鈴木善一，別城道一，佐藤博允，赤羽口種，堂前孫三郎，小山田劍雨，池田弘，葛生韶久，八幡博堂，狩野敏，鈴木茂等。

(iii)政綱內容——大日本生產黨的主張內容主要的理論爲：

(一)遵照欽定憲法，以期君民一致的善政的出現。

(二)改廢不適於國體和國家進運的制度法律，使政治機關簡易化。

(三)確立自給自足經濟立國的基礎。

在創立的當時又發表指導大綱內容如下：

一、打倒金融寡頭專制政治。

一、排擊金融財閥寄生蟲的政友會及民政黨。

一、建設國民共存共榮政治。

一、根本改變亡國的資本主義經濟組織。

一、生產者立國；確立國家統制新經濟政策。

一、打倒自利的金房資本家，金融機關歸國家管理。

一、保障勤勞國民大眾的生活。

- 一，保障勞動權，確立耕作權。
 - 一，撤廢生活必需品消費稅。
 - 一，輕減撤廢一切大衆負擔稅。
 - 一，撤廢不合理的諸社會諸制度。
 - 一，確立日本的勞動組合法。
 - 一，對一切勞動者確立失業，疾病，災害保險制度。
- 昭和七年一月廿一日又發表政綱，主要的如下：
- 一，擊滅國賊共產黨，全協，全國勞農大衆黨，社會民衆黨。
 - 一，建立大日本主義政權；強硬外交展開。
 - 一，促進滿蒙獨立國家建設滿蒙權益的國民化。
 - 一，建設驅逐侵略的白人勢力新興亞細亞。
 - 一，充實精銳的國防機關排擊賣國的軍縮論。
 - 一，擔任徵兵及其他公務；確立失業災害及窮乏家族保障制度。
 - 一，建設自主的愛國青年團。

日本根本上是個原料缺乏的國家，怎能夠自足呢？他們自有主張。他們的自給自足乃是包括日本中國成爲一個國家。他們所謂自給自足乃是給足於中國既失而未收復的東北和內蒙，給足於亞洲大陸上的中國所以生產黨的對外政策，激頭激尾主張，把東北從中國政權的支配下遮斷，並建設成爲一個獨立國，置於日本帝國的指導之下。生產黨的總裁內田良平在「亞細亞主義」的口號之下並且主張併吞中國全土。

(二) 日本國民社會黨準備會

(新日本國民同盟)

——所謂國民社會主義政黨——

(A) 先行的愛國勤勞黨

由無產政黨轉變而爲法西斯政黨第一個是日本國民社會黨。在國民社會黨之前，還有一個就是愛國勤勞黨。愛國勤勞黨是由高爾素之門下的津久井龍雄，神永文三，矢部周，小栗慶太郎。及全國與國同志會的天野辰夫，澁川武治，中谷武世，大邦社的口田康信等組織，在昭和五年二月十一日成立，本名愛國大衆黨，比日本國民黨遲一年。後來內部意見分歧，津久井及口田二人退出，遂改名愛國勤勞黨，發行「勤勞日本」。後來日本國民

社會黨準備會成立，愛國勤勞黨遂解放而加入準備會中。
這是日本國民社會主義的先行政黨。

(B) 歷史及內容一般

日本國民社會黨準備會是由無產政黨的社會民衆黨脫離的下中彌三郎所首倡，一新社的滿川龜太郎及萬朝報的杉田省田也加入。發起於昭和六年十一月二十五日，在大日本生產黨創立後的五天到昭和七年一月十七日成立日本國民社會黨準備會。其內容如下：

(i) 參加團體——在成立當時參加的團體有脫離勞農大衆黨的日本勞動組合總聯合，愛國勤勞黨，日本村治派同盟。

後來，赤松克麿退去社會民衆黨，赤松與下中遂謀聯合唯其後赤松國家社會主義派，與下中的國民會主義派，擬於昭和七年五月二十九日在東京芝協調會館舉行結黨式，屆時因爲戰線不統一，兩派遂分裂。分裂以後赤松單獨組黨。日本國民社會黨準備會發表聲明，暫時結成「新日本國民同盟」，並發行「國民思想」。

(ii) 綱領——日本國民社會黨準備會在開成立會的時候，曾發表黨章三條，內容如下：
一，吾黨期望從行動的國民運動到天皇政治的徹底實行。

一，吾黨期望在日本國內反資本主義統制經濟的實現。

一，吾黨期望在人種平等，資源平衡的原則上創建新世界的秩序。

(三)日本國家社會黨

——所謂國家社會主義政黨——

赤松克麿自本年四月脫離社會民衆黨後，即組織國家社會主義新黨準備會。後來頗想日本國民社會黨準備會聯合組黨。分裂後，赤松遂進行單獨組黨，名曰日本國家社會黨，其內容如下：

(一)參加團體——在國家社會主義新黨準備會結成的時候，參加的人大半都是社會民衆黨。脫黨，小池四郎，管舜英，陶山篤太郎，馬島圃，山元龜次郎，淺井敬吾，水原友治郎，佐藤吉熊，平野力三，稻富稜人等及繼續退出的團體，如社會青年同盟，日本農民組合，運友同志會，婦人同盟。後來，從勞農大衆黨退出的今村等及望月源治也加入。本年七月二十六日勞農大衆黨的犬矢省三辭去全國勞動大衆聯合會長，廿七日又辭去大衆黨的中央委員，廿八日正式加入日本國家社會黨。七月十七日該黨又組成青年同盟，以爲外圍。

(ii) 幹部——赤松決定單獨組黨後，選任幹部職員以赤松克磨爲黨務長，以今村等，山崎義鶴，小池四郎，岡山篤太郎，望月源治，馬島價平野力三，安藝盛，野口繁二，山元龜次郎氏爲中央執行委員。

(iii) 綱領——赤松在決定單獨組黨之後，發表綱領如下：

- 一，我黨期望從國民運動廢絕全權支配，到皇道政治的徹底實行。
- 一，我黨期望以合法手段打倒資本主義機構；實現國家統制經濟，以保障國民生活。
- 一，我黨期望在人種平等，資源平衡的原則之下，期望亞細亞民族的解放。

(四) 在鄉軍人會

——法西斯的後台——

日本的法西斯活動和軍人關係很深，所以日本的軍人團體在法西斯勢力上頗爲重要。日本軍人團體最大的是在鄉軍人會，我們應當明瞭他的內容。

日本在鄉軍人會，原係寺內正毅，田中一等長州軍閥一手創設，明治四十三年十一月三日，當時陸軍大臣寺內正毅，一方奉伏見宮貞愛親王爲總裁，一方自爲會長，創設在鄉軍人會，會成更以長州軍閥後繼的田中義一，任副會長。而田中致力統制，爲的是好作

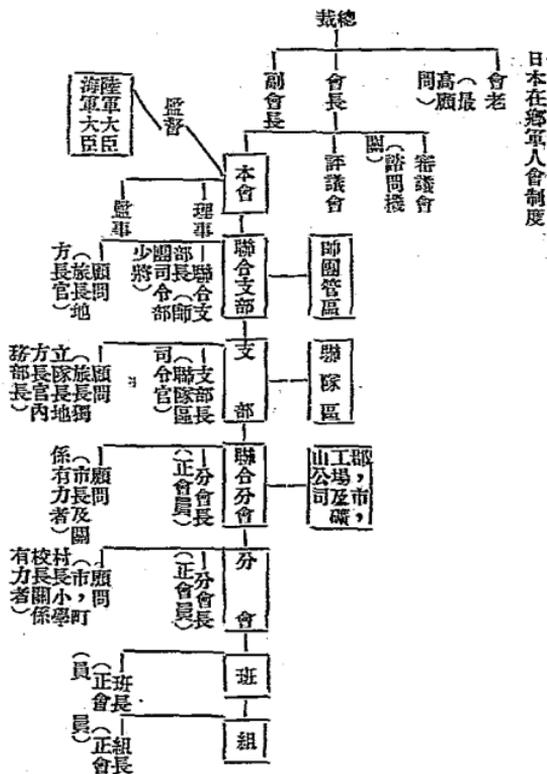
日本的莫索里尼。

寺內死後由薩派的川封景明元帥爲會長。後來長薩兩系因爲領導權發生爭執。遂密發一戶兵衛大將手中。一戶死後乃推鈴木莊六大將繼任直到現在。

日本在鄉軍人會會員數目，號稱數十萬人。正確數目，因豫後備兵員數，關係國防，日本政府向守秘密，不容易探悉。至其團體數目，日本內地及各殖民地合計，共有聯合支部十八，支部七十七，聯合分會七百三十，市町村分會一萬三千一百九十二，工場聯合會十五，工場分會三百四十一，合計共一萬四千三百七十三。在鄉軍人會創立的時候，海軍並沒有參加，大正十三年十月以後，海陸軍兩方因咸相互提攜之必要，海軍方面，乃完全加入。

日本在鄉軍人會會員，有正會員，特別會員，名譽會員三種。正會員即在鄉將兵，海軍豫備員，第一國民兵，短期現役終了的第二國民兵，退伍後希望作正會員的會員。特別會員由分會以上團體推薦的現役將校及現役將校階級相當的軍官。至於名譽會員，則凡退出在鄉軍人會，有顯著功績，並經分會以上團體介紹者，及非在鄉軍人而有功於在鄉軍人會或協助在鄉軍人會經分會以上團體介紹者，皆爲在鄉軍人會名譽會員。

一般正會員，通例受組長，班長，分會長等的統率指揮。各分會又依地方情形，聯合組織聯合分會，聯合分會所在地點，可設在鄉軍人支部。支部又須受管理該地方聯隊（聯隊等我國之團）區司令官及海軍人事部長監督，而聯合分會則受所管團長的監督。日本在鄉軍人會的組織如下表。



現在日本在鄉軍人會首腦人物，計有總裁閣院宮城仁親王，會老東鄉平八郎，上元勇作二元帥。會長係鈴木莊六大將，副會長係海軍豫備中將中野直枝，陸軍豫備中將和田龜治，現役第四師團長杉山元中將。理事則係前陸軍次官小磯國昭，以下二十一人，常務理事係陸軍預備中將赤井春海以下八人。至於審議員則係陸軍預備中將稻垣三郎，參謀次長真寄甚三郎，海軍中將外道繼隊第三艦隊司令官左近司政以下二十人；評議會則由日本全國各師管區內之退伍少將及佐官尉官七十名組織而成。

在鄉軍人會平時幹些什麼呢？我們看他們所揭的綱領。

在鄉軍人會創立當時，曾發表宣言。該宣言說明在鄉軍人會之目的如左：

「本會以奉戴聖旨，鍛鍊軍人精神，增進軍事能力為宗旨，並謀社會公益，振蕩風教，作國家子城，為人民中堅。

為求上述目的完成，在鄉軍人會又實行以下各事：

一 舉行勸諭，勸誘，詔書奉讀式，有逢四方拜，紀元節，天長節，明治節及宮中式典時，舉行遙拜式。

二，鍛鍊軍人精神，研究軍事學術，舉行演習，提倡體育。

三，本會創立紀念日，舉行紀念會。

四，紀念過去戰役，幫助戰役死亡者及因公務而死亡者之祭典，並優遇死亡者遺族及因公受傷者與罹病兵士。

五，本會會員，應準備應召，並應幫助召集事務進行，徵兵檢查及點呼時，應使參加者指導，幫助協力。

六，舉行現役兵，補充兵，補充兵未入營者之軍事教育，送迎入營退伍兵士。

七，幫助青年訓練所訓練青年，並協力誘導青年團員及少年團員。

八，協力改善風教，幫助社會公益事業，維持公安，援助非常時之救濟事業

九，謀會員之一致和諧，助成社會融和協調美德，並開會員相互扶助之道。

十，會員及其家族，現役者家族，若須扶助，會員即須加以扶助，又會員對於會員及現役者葬儀，必須會葬，並應慰撫死亡者家族。

十一，增進精神修養，提高軍事及一般智識，為謀會員相互間之指導連絡，應舉行公開演講，並發行圖書雜誌。

在以上各項目中，我們最要注意的，就是第七項的與青年訓練所及青年團協力，第八

項的改善風教，維持公安；第十一項的普及徹底軍事知識及軍國精神。在鄉軍人會及各支部分會每年支出金額，約達五百萬日元，而在鄉軍人會最爲努力者，也就是上述三項。從來在鄉軍人，房屋起火的時候，就作補助消防員。紀念日期就作交通整理員。歐戰以後，因爲社會運動勃興，而同盟罷工，地租爭議，亦因之激發，日本政府爲求防遏，即着眼於在鄉軍人會，現時在鄉軍人會已與其他勢力相結合，着着進行罷工爭議的抑壓。所以日本在鄉軍人會是日本法西斯的細胞，在反社會主義運動上頗爲有力。日本法西斯運動而不可復遏的原因在此。

（五）法西斯的地盤

——一百四十多個團體——

所謂日本法西斯的地盤就是日本原有各種法西斯團體。這團體是法西斯政黨的基礎。這團體最有力自然是國本社了。國本社據說擁有社員十七萬人內中有平沼騷一郎，鈴木喜三郎，荒木農夫，大角岑生等要人。平沼曾在大正十二年的山本內閣任司法總長。辭職後就作國粹團體運動，遍設國本社支部于日本全國。到現在，軍界及司法界國本社勢力很大。此外政界，經濟界也有不少人。如池田成彬，原嘉道，本多熊太郎，小笠原長生，加藤

寬治，真崎甚三郎，小磯國昭，山岡萬之助等都是國本社的理事。今年大森毅被殺平沼有組閣的呼聲，因而國本社便更被人注意了。

此外，日本的法西斯團體當然不少。據日本新聞社會部長石川龍星著「日本愛國運動總覽」裏所記共有八十三個，分爲純粹的國家主義團體及急進的國家主義團體兩大節，共有十種照譯如下。

第一部 純粹的國家主義團體

第一種 實行團體

- 一 玄洋社，浪人會
- 二 黑龍會
- 三 大民俱樂部
- 四 大正赤心團
- 五 皇遊義會
- 六 縱橫俱樂部
- 七 大日本國粹會

- 八 關東國粹會
- 九 大和民勞會
- 十 新日本協會
- 十一 赤化防止團
- 十二 滿蒙義團
- 十三 秋水會
- 十四 大統社
- 十五 大日本正義團
- 十六 立憲大同聯盟
- 十七 興國青年黨
- 十八 神農會
- 十九 明德會
- 二十 大日本國輝會
- 廿一 七生義團

- 廿二 愛國社
- 第二種 修養教化團體
- 一 修養團
 - 二 一心會
 - 三 國教宣明會
 - 四 國風會
 - 五 大乘會
 - 六 天業青年團
 - 七 勤王聯盟
 - 八 大日本護國會
 - 九 大日本殉國會
 - 十 國本社
 - 十一 日本會
 - 十二 大日本愛國義團

第三種 學生團體

一 國防研究會

二 學生聯盟更新會

三 東大七生社

四 全大學日本魂聯盟

五 愛國學生聯盟

第四種 軍人團體

一 恢弘會

二 明倫會

第二部 急進的國家主義團體

第一種 實行團體

一 老壯會

二 猶存社

三 大化會

- 四 行地社
- 五 大行社
- 六 白狼會
- 七 東海聯盟
- 八 東興聯盟
- 九 一新社
- 十 全日本與國同志會
- 十一 大邦社
- 十二 士林莊
- 十三 國民戰線社
- 十四 大雄峯會
- 十五 全日本愛國者鬥爭協議會
- 十六 日本社會主義研究所
- 十七 社武會

- 十八 祖國同志會
 - 十九 大衆社
 - 二〇 建國會
 - 二一 錦旗會
- 第二種 教化修養團體
- 一 金鷄學院
 - 二 興亞學塾
 - 三 自然學會
 - 四 護國堂
 - 五 愛鄉塾
- 第三種 學生團體
- 一 猶興學會
 - 二 雙刃會
 - 三 日之會

- 四 魂之會
 - 五 輝之會
 - 六 瑞穗會
 - 七 東光會
 - 八 潮之會
 - 九 全國大日本主義同盟
 - 十 全日本學生協議會
- 第四種
- 一 勞働者農民團體
 - 二 急進愛國勞働者聯盟
 - 三 尊皇急進黨
 - 四 日本村治派同盟
- 第五種
- 一 軍人團體
 - 二 小櫻會
 - 三 櫻會

此外尚有追補六十一團體。日本法西斯團體之多可想見了！追補之名稱成立時間及主

持人物如下：

| 名稱 | 成立年月 | 主持人物 |
|--------------|---------|-------|
| 三 洋夕會 | | |
| 第六種 學藝團體 | | |
| 一 日本國家社會主義學聯 | | |
| 二 日本法西斯聯盟 | | |
| 三 五日會 | | |
| 皇國青年黨 | 大正十四・十一 | 高橋佐三郎 |
| 國心會 | 昭和三・三 | 熱田佐 |
| 大衆國威聯盟 | 昭和二・二 | 笑浦春浪 |
| 大亞義盟 | 昭和七・四 | 三浦義夫 |
| 日本建國會 | 昭和五・九 | 神保幸三郎 |
| 一心會 | 大正十五・一一 | 楠瀬幸右門 |

大日本思想研究會
國粹大衆黨

大正十四・一

高須芳次郎
笹川良一

村野金七

同志會
新國會

大正十二・十

井筒調策

皇國義團

昭和二・八

丸山鏗次郎

戊甲農民協會

昭和三，五

杉山慶之助

大日本帝國振武會

大正十五・八

砂原留吉

正義同志會

昭和四・一〇

富岡彦造

立憲維新黨

大正十五・一

大和茂樹

紫雲莊

大正十三・三

橋本徹馬

聖日本學會

大正十三・七

澤田五郎

大日本武德會

明治二八，四

鈴木莊六

立憲安國黨

昭和三・四

勝沼藤助

國策樹立協會

岡節次

辛未同志會
國士同盟會
愛國青年社
議事會
原理日本軍
原理日本社
舊邦社
風雲俱樂部
政教社
對外同志會
國防聯盟
大日本皇政會
東亞聯盟義會
大日本奉公團

昭和三・九

大正十二・二
明治四三・八
大正十・十
大正八・

井上清純男
內藤順太郎
岩谷直次郎
中山忠次
鬼倉重次郎
葵田胸喜
友野直三
千千波敬太郎
松林亮
小林順一郎
望月義人
今泉定介
松林亮
蓮井澤太郎

- | | | |
|------------|--------|-------|
| 大日本青年護國聯盟 | 昭和四・三 | 河野龜芳 |
| 日本第一義團 | 昭和六・十二 | 中川吉太郎 |
| 大日本國民思想善導會 | 大正十三・一 | 武智德平 |
| 滿鮮問題解決同盟 | 昭和六・七 | 頭山滿 |
| 滿洲問題解決同盟 | 昭和六・三 | 池田弘 |
| 東亞振興會 | 昭和六・二 | 稻富士松 |
| 對外同志會 | 昭和六・二 | 小林順一郎 |
| 相愛會 | 大正十・ | 朴春琴 |
| 內治外交存振同盟 | 昭和三・ | 內田良平 |
| 全國愛國青年聯盟 | 昭和七・三 | 大澤武三郎 |
| 救國學生同盟 | 昭和六・五 | 藤田修郎 |
| 國民解放社 | 昭和六・五 | 宮越信一郎 |
| 洛北青年同盟 | | 中川裕 |
| 日本青年學生革正聯盟 | 昭和五・一 | 長谷川實 |

日本疏與學生協會

社會自由黨

大阪借家大組合

昭和七・三

協山良雄

小田孝

矢野義雄

第三節 大白色恐怖及其政變

(一) 恐怖國的橫行

——暗殺——暴動——

日本法西斯運動既如怒潮高漲與財閥及其代表的政黨發生正面衝突。法西斯採取暗殺及暴動的直接行動而白色恐怖遂蔓延於全日本。在民政黨內閣倒後，議會解散，實行第三次普通選舉。民政黨的中心人物，井上華之助于本年二月九日被刺身死。距離民政黨領袖濱口雄幸的被刺僅一年耳。誰想到三月五日，三井財閥的三井合名理事長關琢磨又被刺身死。又誰想到五月十五日，首相犬養毅在官邸又被狙擊身死。據說主持暗殺團體名叫血盟團，預備暗殺的人尚不儘這幾位。其名單如下：

公府 西園寺公望——○○○○○

公府 德川家達——○○○○○

伯爵 牧野伸顯——○○○○

犬養毅——未定

床次竹二郎——○○○○

男爵 若槻禮次郎——○○○○

男爵 幣原喜重郎——○○○○

井上準之助——小沼正(既遂)

池田成彬——○○○○

男爵 團琢磨——菱沼五郎(既遂)

男爵 鄉誠之助——○○○○

在暗殺之外並且還暴動。五月十五日這一天，一部份陸海軍軍官在刺殺犬養毅的同時侵入牧野內府官邸，襲擊警察廳，政友會本部當日晚又襲擊東京等處的變電所，一時陷於大恐怖狀態。

直到最近，道法量斯的恐怖仍在進行之中。據說大川高明所組織的神武會陰謀暗殺齋藤首相，高橋藏相，及山本內相等政府要人，事機不密，被警察當局發覺，捕獲首魁四人

(二)恐怖中總選舉

—政友會空前大勝利—

日本第四次選舉及最近政變

在這大恐怖的法西斯怒濤中，本年二月二十日，舉行第二次普通選舉。結果，政友歷創的大勝利，獲得三百零四名的絕對多數，成爲第一黨，民政黨僅得一百四十七名退而爲第二黨。在選舉前政友會僅有一百七十一名，而民政黨有二百四十六名。這次政友會的勝利可以說是破天荒。在原敬內閣政友會全勝時代議員總額共四百六十四名政友會不過佔二百八十三名，仍然不及這一次。政友會可謂打破記錄了。第三次普通選舉日本各黨的成績如下：

第一七〇表—日本第三次普通選各黨派成績表

| 政黨別 | 候補者 | 當選者 |
|-------|-----|-----|
| 政友會 | 三五二 | 三〇四 |
| 民政黨 | 二八一 | 一四七 |
| 社會民衆黨 | 一五 | 三 |

| 政黨名 | 當選者 | 候補者數 | 得票總數 |
|-------|-----|------|------|
| 勞農大衆黨 | 一三 | 二 | 二 |
| 安達派 | 一一 | 五 | 五 |
| 革新黨 | 三 | 二 | 二 |
| 國民社會黨 | 二 | 〇 | 〇 |
| 養正會 | 二 | 〇 | 〇 |
| 大日生產黨 | 一 | 〇 | 〇 |
| 地方無產黨 | 四 | 〇 | 〇 |
| 地方政黨 | 二 | 〇 | 〇 |
| 中立 | 二九 | 三 | 三 |
| 合計 | 七五 | 四六六 | |

無產政黨方面所選候選人既少，得票也不多，可以說是慘敗。不過當選人數當然和選舉以前仍相等十五名。無產政黨在這次選舉中的成績如下：

第一七一表—日本第三次普選無產諸黨戰績表

政黨名 當選者 候補者數 得票總數

| | | | |
|---------|---|----|---------|
| 全國勞農大衆黨 | 二 | 一三 | 一三四・三六四 |
| 社會民衆黨 | 三 | 一六 | 一二二・二八二 |
| 地方無產黨 | 〇 | 六 | 一八・六六七 |
| 計 | 五 | 三六 | 二七五・三二三 |

(當選者)全國勞農大衆黨—松谷與二郎(東京第六區)杉山元治郎(大阪第四區)社會民衆黨—安部磯雄(東京第二區)龜井貫二郎(福岡第二區)小池四郎(福岡第四區)

(三)齋藤舉國一致的内閣

—政黨政治的破壞—

犬養毅被刺之後，法西斯的恐怖動搖了資本主義的政黨政治的舊形態。西寺園公望于事變後的第四天五月十九日，到東京，與所謂重臣開會議的結果，舉薩派軍人齋藤實組織所謂非常時舉國一致的内閣。閣員內容如下：

第一七二表—齋藤内閣分析表

| | |
|--------|------------|
| 内閣總理大臣 | 海軍大將子爵 齋藤實 |
| 外務大臣 | 伯爵 内田康哉 |
| 一時首相兼藏 | |

內務部大臣(後)

大藏大臣

陸軍大臣

海軍大臣

司法大臣

文部大臣

農林大臣

商工大臣

逓信大臣

鐵道大臣

拓務大臣

男爵 山本達雄(民政黨)

大藏大臣高橋是清(政友會)

陸軍中將荒木貞夫

海軍大將岡田啟介

檢事總長小山松吉

文部大臣鳩山一郎(政友會)

元台灣總務長官 後藤文夫(政友系)

男爵中島久高吉(公正會)

台灣總督 南弘(政友系)

逓信大臣 三土忠造(政友會)

民政黨幹事長 永井柳太郎(民政黨)

前大阪府知事 柴田善三郎

拓務次官 堀切善次郎

內閣書記官長(現任待遇)
法制局長官(現任待遇)

在齋藤內閣中，內部不必說政友民政兩黨爭奪很厲害，並且外部法西斯的襲擊仍然不

曾停止。齋藤內閣甚不安定。齋藤內閣倒後，既成政黨即與法西斯作最力的決鬥，日本資本主義及其天皇政治便完全走入死途之中，而日本政治的另一新頁便開始。中日問題以及世界問題在那時方可完全解決。這時間的長短便在全世界的無產階級勤勞大眾的努力，奮鬥，與血戰，中日兩大民族的無產階級及勤勞大眾的努力，奮鬥，與血戰而已！

(四) 恐怖的一年

——一九一八以來日本大事記——

最後我們看看日本這一年的大事記，可以看出來恐怖一年的真實恐怖情形。

昭和六年

九月十八日，午後十時半，本莊關東軍司令官出動佔領瀋陽。

九月十九日，國際聯盟理事會為東北事件中日兩國代表各條聲明。

九月二十一日，中國向國際聯盟正式提訴。

九月二十二日，朝鮮軍向東北出動。

十一月二十六日，天津事變。日本利用中國便衣隊，攻擊河北省府及天津市府。

十二月十一日，若槻民政黨內閣總辭職。

十二月十二日，犬養毅受組閣命。

十二月十三日，犬養政友會單獨內閣成立，同時，犬藏省令公布金輸出再禁止。

十二月二十三日，閑院宮就任參謀總長。

昭和七年

一月三日，日軍入錦州。

一月八日，朝鮮人李奉昌，在櫻田門謀刺日皇。同日犬養內閣提辭職書。

一月九日，犬養首相受命留任。

一月二十二日，第六十次議會開會，午後三時二十三分下令解散衆議院。

一月二十八日，上海事變，日軍攻殺華軍，與第十九路軍起戰事。

二月三日，伏見宮就任海軍軍令部長。

二月七日，日本派遣第十二師團混成旅團海軍陸戰隊到上海。

二月八日，前藏相井上準之助被小沼正暗殺。

二月十六日，日本第九師團上海上陸。

二月二十日，第三次普選舉行。

二月二十五日，所謂「滿洲國」出現。

三月三日上海停戰。

三月五日，團琢磨男爵被麥沼五郎暗殺。

三月九日，所謂「滿洲國」建國典禮舉行，溥儀就任執政。

三月十六日，內務大臣中橋德五郎辭職，犬養首相兼任內相。

三月十八日，第六十一次臨時議會召集。

三月十八日，臨時議會開幕式。

三月二十五日，井上日昭氏等血盟團十二名正式起訴。臨時議會開幕犬養內閣改選：

鈴木法相調內相。川村竹治任法相。

四月一日，空閑少佐自殺。

四月十六日，赤松克麿退出社會民衆黨。

四月二十九日，天長節上海祝賀會場朝鮮擲彈，白川軍司令官，野村司令長官，重光

公使，村井總領事，植田師團長等俱受重傷。

五月五日，上海停戰協定成立。

五月十一日，第十四師團由上海移東北。

五月十五日，犬養首相，被青年將校暗殺。同時內府官邸，警視廳，政友會本部亦被

襲襲。東京方內外，變電所投手榴彈破壞。

五月十六日，犬養內閣總辭職。

五月二十日，鈴木喜三郎就任政友會總裁。

五月二十二日，齋藤實受命組閣。

五月二十六日，白川軍司令官傷重身死。

五月二十六日齋藤內閣親任式舉行。

六月一日，第六十二次臨時議會開幕式。

六月十五日，臨時議會閉幕式。

八月二十二日，第六十三次臨時議會開幕式。

九月一日，臨時議會閉幕式。

九月十五日，日本承認「滿洲國」。

變政近載及動運折西法本日

附 錄 一

日本度量衡

(中國對照)

(一)日本長度表

里 町 丈 間 餘尺 尺 寸

$$1 = 36 = 1296 = 2160 = 10368 = 12960 = 129600$$

$$1 = 36 = 60 = 288 = 360 = 3600$$

$$1 = 1\frac{2}{3} = 8 = 10 = 100$$

$$1 = 8\frac{4}{5} = 6 = 60$$

$$1 = 1.25 = 12.5$$

$$1 = 10$$

日本1尺=0.30303公尺

=0.9459697中國尺

日本1里=3.9272公里

=6.832中國里

(二)日本面積表

方丈 方間 方尺 方寸

$$1 = 2\frac{7}{9} = 100 = 10000$$

一 錄 附

$$1 = 36 = 3600$$

$$1 = 100$$

$$\text{日本1方尺} = 0.0918274 \text{方公尺}$$

$$= 0.89675 \text{中國方尺}$$

(三) 日本地積表

町 段或反 畝 步或坪 合 勺

$$1 = 10 = 100 = 3,000 = 3,0000 = 300,000$$

$$1 = 10 = 300 = 4,000 = 30,000$$

$$1 = 30 = 300 = 3,000$$

$$1 = 10 = 100$$

$$1 = 10$$

1步或1坪=1方間

$$\text{日本1步或1坪} = 0.0330579 \text{公畝}$$

$$= 0.0053805 \text{中國畝}$$

$$\text{日本1町或1町步} = 16.140 \text{中國畝}$$

(四) 日本體積表

立方坪 立方尺 立方寸

$$1 = 216 = 216000$$

$$1 = 1000$$

日 本 政 治 經 濟 研 究

日本1立方尺=0.0278265立方公尺

=吾國0.849195中國立方尺

(五)日本量制表

石 斗 升 合 勺

1=10=100=1000=10000

1=10=100=1000

1=10=100

1=10

日本1升=1.803907公升

=1.7421中國升

日本1石=174.195中國升

=47.654美加侖

=39.680英加侖

(六)日本衡度表

貫 斤 兩 分 釐 毫

1=6.25=1000=10,000=100,000=1,000,000

1=160=1,600=16,000=160,000

1=10=100=1,000

1=10=100

一 錄 附

I= 10

日本1斤=0.6公斤

=16.085359中國兩

日本1貫=3.75公斤

=100.5中國兩

=8.2673磅

日本1擔=100日本斤

=100.53公斤

=132.275磅

附 錄 二

西洋度量衡

(中國日本對照)

(一)西洋長度表

1 公里(Kilometer)=1000公尺=0.62137英里=0.2546 日本里
=1.736中國里

1 英里(Mile)(英·美)=1.6093公里=0.4097日本里=2.796中
國里

1 碼(Yard)(英·美)=3英尺=3.0175日本尺=2.8572中國尺

1 英尺(Foot)(英·美)=1.0054日本尺=0.9524中國尺

1 海里(Nautical Mile)(英)=1.852公里 = 0.4718 日本里=
5791.10中國尺

(二)西洋量度表

1 公升(Liter)=0.002641美加侖=0.002199 英加侖=0.005543
日本石=.9657中國升

1 加侖(Gallon)(美)=3.7854公升=2.0984日本升=3.6554 中
國升

1 加侖(Gallon)(英)=4.5460公升=2.5201日本升=4.3900中國

二 錄 附

升

- I Quartter(英)=8Bushel=1.6128日本石=230.96中國升
I Bushel(英)=8英加侖=2.0161日本斗=35.12中國升
I Bushel(美)=1.95350日本斗=34.0302中國升
I 立方英尺=0.0283立方公尺=15.6975日本升=0.8641中國立方尺

(三)西洋衡度表

- I 法噸(Metric ton)=1000公斤=0.42英噸=1666.667日本斤=1675.5524中國斤
I Quintal(多用於穀物)=1/10法噸=166.667日本斤=167.5552中國斤
 米1 Quintal=121.9365中國升
 麥1 Quintal=129.6462中國升
I 英噸=2240磅=1.0160法噸=1693.4117日本斤=170.23661中國斤
I 磅(Pound)(英·美)=0.4535公斤=120.958日本兩=中國0.76斤
I 溫司(Ounce)(英·美)=1/16磅=16 Dram=28.350公分=7.5598日本兩=0.76中國兩

日 本 經 濟 研 究

- 1 輕溫司(英·美) ≈ 8.2943 日本兩 ≈ 0.8294 中國兩
1 Grain(英·美) $\approx 1/700$ 磅 ≈ 0.0172 日本兩 ≈ 0.0017 中國兩
1 Carral(寶石之重量) ≈ 0.2 公分 ≈ 0.0533 日本兩 ≈ 0.0053 中國兩

兩

(四)西洋幾種特殊單位表

棉花 1俄 \approx 美國棉約230公斤，印度棉約 180 公斤，埃及棉約 340 公斤，其他棉約135公斤。

棉紗支數 \approx 1 綫長840碼，重量1磅之紗，謂一支紗，十綫僅 1 磅者謂之十支紗，其餘準此。

生絲 1領 \approx 在日本內地，平均重量為 9 貫內外(中國56斤內外)，輸出品平均重量為100斤(日)內外。

蠶絲 1Denier \approx 以長 450 公尺重 0.05 公分為單位。例如 20 Denier之絲，即長450公尺重 1公分(0.05公分之20倍)是也。

1 桶(Barrel)(煤油量) ≈ 42 美加侖 ≈ 35 英加侖 ≈ 159 公升 ≈ 153.549 中國升

1 石(木材單位) \approx (日)1尺方，10 尺長 ≈ 0.9469 中國尺方 9.469尺長。

1 基羅瓦特(Kilowatt)(電力單位) ≈ 1000 Watt ≈ 13.405 馬力。

二 錄 附

1 基羅之電力，可點16燭光燈50盞，1基羅之電力，繼續點一時間，其電氣之量，謂之「基羅華脫時」。

商船噸數—船之體積為100立方英尺，謂之1噸。

所謂總噸數乃船舶全體之體積。

所謂淨噸數乃由總噸中減去船艙室，機關室，水艙等之體積後之噸數。

所謂積載噸數或運貨噸數乃指可以積載之貨物噸數而言，此種噸數之1噸，在英美為40立方尺，日本為40立方尺。

軍艦噸數—乃排水之重量，海水1立方尺之重量為64磅，故35立方英尺(即2240磅)為1噸。

1 百公畝(Hectare)=10000平方公尺=2.4711英畝=1.0083日本町步=16.2750中國畝

1 英畝(Acre)=4840平方碼=40.46公畝4080日本町步=6.5864中國畝

1 方公里=0.3861方英里=100.833日本町步=1627.44中國畝

1 方英里=2.5899方公里=261.075日本町步=4213.75中國畝

附 錄 三

近百年來中西日年代對照表

| 日 本 年 代 | | 中 國 年 代 | | 西 曆 年 代 | |
|---------|----|---------|-----|---------|--|
| 天保 | 元年 | 道光 | 十年 | 一八三〇 | |
| 天保 | 二年 | 道光 | 十一年 | 一八三一 | |
| 天保 | 三年 | 道光 | 十二年 | 一八三二 | |
| 天保 | 四年 | 道光 | 十三年 | 一八三三 | |
| 天保 | 五年 | 道光 | 十四年 | 一八三四 | |
| 天保 | 六年 | 道光 | 十五年 | 一八三五 | |
| 天保 | 七年 | 道光 | 十六年 | 一八三六 | |
| 天保 | 八年 | 道光 | 十七年 | 一八三七 | |
| 天保 | 九年 | 道光 | 十八年 | 一八三八 | |
| 天保 | 十年 | 道光 | 十九年 | 一八三九 | |

三 錄 冊

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 天保 | 天保 | 天保 | 天保 | 嘉永 | 嘉永 | 嘉永 | 嘉永 | 嘉永 | 嘉永 | 弘化 | 弘化 | 弘化 | 弘化 | 天保 | 天保 | 天保 | 天保 |
| 十一年 | 十二年 | 十三年 | 十四年 | 元年 | 二年 | 三年 | 四年 | 五年 | 六年 | 元年 | 二年 | 三年 | 四年 | 元年 | 二年 | 三年 | 四年 |
| 道光 |
| 二十年 | 二十一年 | 二十二年 | 二十三年 | 二十四年 | 二十五年 | 二十六年 | 二十七年 | 二十八年 | 二十九年 | 三十年 | 元年 | 二年 | 三年 | 元年 | 二年 | 三年 | 四年 |
| 一八四〇 | 一八四一 | 一八四二 | 一八四三 | 一八四四 | 一八四五 | 一八四六 | 一八四七 | 一八四八 | 一八四九 | 一八五〇 | 一八五一 | 一八五二 | 一八五三 | 一八四四 | 一八四五 | 一八四六 | 一八四七 |

究 研 濟 經 治 政 本 日

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 慶應 | 慶應 | 慶應 | 元治 | 文久 | 文久 | 文久 | 萬延 | 安政 | 安政 | 安政 | 安政 | 安政 | 安政 |
| 三年 | 二年 | 元年 | 元年 | 三年 | 二年 | 元年 | 元年 | 六年 | 五年 | 四年 | 三年 | 二年 | 元年 |
| 同治 | 同治 | 同治 | 同治 | 同治 | 同治 | 咸豐 |
| 六年 | 五年 | 四年 | 三年 | 二年 | 元年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 | 七年 | 六年 | 五年 | 四年 |
| 一八六七 | 一八六六 | 一八六五 | 一八六四 | 一八六三 | 一八六二 | 一八六一 | 一八六〇 | 一八五九 | 一八五八 | 一八五七 | 一八五六 | 一八五五 | 一八五四 |

三 錄 附

| | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 明治 |
| 十四年 | 十三年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 | 七年 | 六年 | 五年 | 四年 | 三年 | 二年 |
| | | | | | | | | | | | | 元年 |
| 光緒 | 光緒 | 光緒 | 光緒 | 光緒 | 光緒 | 同治 |
| 七年 | 六年 | 五年 | 四年 | 三年 | 二年 | 元年 | 十三年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 | 八年 |
| | | | | | | | | | | | | 七年 |
| 一八八一 | 一八八〇 | 一八七九 | 一八七八 | 一八七七 | 一八七六 | 一八七五 | 一八七四 | 一八七三 | 一八七二 | 一八七一 | 一八七〇 | 一八六九 |
| | | | | | | | | | | | | 一八六八 |

究 研 濟 經 治 政 本 日

| | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 明治 |
| 二十八年 | 二十七年 | 二十六年 | 二十五年 | 二十四年 | 二十三年 | 二十二年 | 二十一年 | 二十年 | 十九年 | 十八年 | 十七年 | 十六年 |
| 光緒 |
| 二十一年 | 二十年 | 十九年 | 十八年 | 十七年 | 十六年 | 十五年 | 十四年 | 十三年 | 十二年 | 十一年 | 十年 | 九年 |
| 一八九五 | 一八九四 | 一八九三 | 一八九二 | 一八九一 | 一八九〇 | 一八八九 | 一八八八 | 一八八七 | 一八八六 | 一八八五 | 一八八四 | 一八八三 |
| | | | | | | | | | | | | 一八八二 |

三 錄 目

| | | | | |
|----|------|----|------|------|
| 明治 | 二十九年 | 光緒 | 二十二年 | 一八九六 |
| 明治 | 三十年 | 光緒 | 二十三年 | 一八九七 |
| 明治 | 三十一年 | 光緒 | 二十四年 | 一八九八 |
| 明治 | 三十二年 | 光緒 | 二十五年 | 一八九九 |
| 明治 | 三十三年 | 光緒 | 二十六年 | 一九〇〇 |
| 明治 | 三十四年 | 光緒 | 二十七年 | 一九〇一 |
| 明治 | 三十五年 | 光緒 | 二十八年 | 一九〇二 |
| 明治 | 三十六年 | 光緒 | 二十九年 | 一九〇三 |
| 明治 | 三十七年 | 光緒 | 三十年 | 一九〇四 |
| 明治 | 三十八年 | 光緒 | 三十一年 | 一九〇五 |
| 明治 | 三十九年 | 光緒 | 三十二年 | 一九〇六 |
| 明治 | 四十年 | 光緒 | 三十三年 | 一九〇七 |
| 明治 | 四十一年 | 光緒 | 三十四年 | 一九〇八 |
| 明治 | 四十二年 | 宣統 | 元年 | 一九〇九 |

三 終 册

| | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|
| 昭和 七年 | 昭和 六年 | 昭和 五年 | 昭和 四年 | 昭和 三年 | 昭和 二年 | 昭和 元年 | 大正 十四年 | 大正 十三年 |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|

| | | | | | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 民國 二十一年 | 民國 二十年 | 民國 十九年 | 民國 十八年 | 民國 十七年 | 民國 十六年 | 民國 十五年 | 民國 十四年 | 民國 十三年 |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|

| | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 一九三二 | 一九三一 | 一九三〇 | 一九二九 | 一九二八 | 一九二七 | 一九二六 | 一九二五 | 一九二四 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|



百城書局出版新書

初師 初教本 語法與國音 汪從編 合編

定價五角

初中 初教本 初中英文法 王述達編 溫世昌編

上冊四角五
下冊四角

全一冊定價八角

初中 初教本 英文法圖解 楊景蔭編

一冊定價二角

橫範英文選 上冊四版 溫世昌 尹全智 徐弼光
下冊四版 趙子珊 楊雨人 邵亞琴 合選

上冊八角
下冊九角

全一冊定價七角

初中 初教本 初中標準英文選 本局編輯部選

“Short Essays” (selected)
by James Sydhall

一冊定價二角

初師 初教本 中國史 (四版) 孟世傑編

二冊每冊八角

初師 初教本 本國史 孟世傑編

上冊三角八分

中國史研究問題解答 孟世傑

全一冊六角

初師 初教本 中國地理 (再版) 賈逸君

上冊六角五分

初師 初教本 代數學

(印中)

初師 初教本 化學 閔玉振

一元

初師 初教本 化學 高同恩 薄善保 合編

八角

初師 初教本 植物學 (三版) 張國瓌編

全一冊定價八角

初師 初教本 動物學 (再版) 蕭述宗編

全一冊定價七角

初師 初教本 生理衛生 成士傑編

七角

版權所有
翻印不准

日本政治經濟研究

二十一年十月初版

每冊定價大洋一元四角

(外埠酌加郵費)

編輯者 許與
出版者 亞
印刷者 百城書局
發行者 百城書局

天津法租界二十九號路三十六號
北平分局四長安街一百零一號

百城書局之分發行處及經售處

- ◎北平——海王商店
- ◎天津——直隸書局
- ◎保定——聚玉山房
- ◎上海——南京書局
- ◎南京——南京書局
- ◎蘇州——嶺新書社
- ◎長春——中華書局
- ◎太原——晉新書社
- ◎濟南——東方書社
- ◎開封——真美書社
- ◎漢口——真美書社
- ◎重慶——平民書局
- ◎成都——北新書局
- ◎廈門——新民書社
- ◎廣州——開明書局
- ◎新加坡——新學社
- ◎香港——東亞書局
- ◎廣州——東亞書局
- ◎上海——大公
- ◎天津——博古書局
- ◎天津——天祥書
- ◎天津——豐源書
- ◎天津——新華書局
- ◎天津——現代書局
- ◎天津——大公
- ◎天津——文化書社
- ◎天津——李遠章書局

第一欄

10

10

10



10